

Annual Report 2013

年 報 2013年(平成25年)度



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital

Annual Report 2013

年 報 2013年(平成25年)度

Contents

巻頭言	病院長の言葉	4
-----	--------	---

トピックス

脊椎脊髄センターについて	6
内視鏡センター	8
外来がん治療認定薬剤師 3名合格!!!	10
市民公開講座	12
第4回 オープンホスピタル開催	14
第23回 院内バレーボール大会開催	15
第3回 広島西部高校生外科セミナー開催	15

病院の概要

病院概況	18
JA 広島総合病院のあゆみ	19

活動報告

呼吸器内科	22
循環器内科	23
腎臓内科	24
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	25
消化器内科	26
小児科	28
外科	29
乳腺外科	30
整形外科	31
脳神経外科	32
呼吸器外科	34
心臓血管外科	35
皮膚科	36
泌尿器科	37
産婦人科	38
眼科	39
耳鼻咽喉科	40
放射線治療科	41
画像診断部	42
麻酔科	43
歯科口腔外科	45
救急・集中治療科	46
緩和ケア科	48
健康管理センター	49
形成外科	51
病理研究検査科	52
研修医室	53
看護科	54
外来	55
地域救命救急センター	56
ICU・西3階病棟	57
西4階病棟	58
西5階病棟	59
西6階病棟	60
西7階病棟	61
西8階病棟	62
東3階病棟	63
東4階病棟	64
東5階病棟	65

東 6 階病棟	66
東 7 階病棟	67
東 8 階病棟	68
手術室	69
居宅介護支援事務所	70
訪問看護ステーション	71
薬剤部	72
臨床研究検査科	73
中央放射線科	74
臨床工学科	75
リハビリテーション科	76
栄養科	77
診療情報管理科	78
医療安全管理室	79
感染防止対策室	80
地域医療連携室	81
総合医療相談室	83
教育研修課	84
施設資材課	85
緩和ケアチーム	86
栄養サポートチーム (NST)	87
心臓リハビリテーションチーム	88
DMAT	89
がん化学療法チーム	90
RST	91
ICT	92
災害対策ワーキングチーム	93
「膵がん・胆道がん教室」運営チーム	95
PEG チーム	96
各種委員会	97
出張記	109

実績

著書・論文	116
書籍・雑誌編集	118
学会発表	119
学会での座長	133
研究会講演・発表	134
研究会座長	144
地域活動	149
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	153
合同カンファレンス	155

クラブ活動

華道部	158
ソフトバレー部	158
野球部	159
テニス部	160
伯友会 (ゴルフ同好会)	161
サッカー部	162
バスケットボール部	163

資料

統計資料	166
------	-----



巻 頭 言

JA 広島総合病院の2013年度年報が完成しました。

年報を発刊する目的のひとつは、病院各部門の個人あるいはチームによる医療活動と臨床実績を院内だけでなく院外に向けて広くアピールすることです。地元の先生方は、是非、年報を診療机の上に置いていただき、日常の診療で困ったときは本書を広げてください。年報は患者さんを紹介していただくための病院案内の役目を果たします。大学あるいは各種専門学校などの教育機関に配布された年報は、学生にとって初期研修病院を選択するための貴重なガイドであり、さらには当院へ就職するための重要な参考資料になります。今回の年報には、華道、ソフトバレー、野球、テニス、ゴルフ、サッカー、バスケットボールなどの部活動が活発に行われている様子が記載されています。病院は単に仕事だけをするところではありません。和気藹々とした人間関係を作り出す場所でもあります。

『脊椎脊髄センター』、『内視鏡センター』、『外来がん治療認定薬剤師3名合格』をトピックスとして取り上げました。脊椎脊髄センターで行われている脊椎脊髄疾患の手術件数は日本のトップ10にランクされています。内視鏡センターでは、消化器がんの早期発見と先進的治療が行われており、スタッフは体に優しい医療をモットーとしています。当院はがん診療連携拠点病院として、年間約1,300人のがん患者さんの治療を行っています。外来化学療法治療室における専門スタッフの充実は、がん診療における重要な課題です。ひとつの病院で外来がん治療認定薬剤師が3名誕生したことは、県下でも大きなトピックとなっています。

さて、2014年10月、廿日市市、広島厚生連とJA 広島総合病院の間で三者協定が締結されました。病院西隣にある約7,500㎡の土地を廿日市市は巨額の税を投入し購入してくれました。このことに対し、JA 広島総合病院は市の期待に応えるべく基幹病院としての機能に加え、市民病院としての機能を果たさなければならないと自覚しています。市民病院としての機能とは、市民のニーズに応える医療です。市民がわが町の病院としてJA 広島総合病院を選択してくれるためには、引き続きアクティブでアットホームな職場環境の構築を行っていきましょう。

本年報は、新バージョンの第2版となります。辻山委員長をはじめ年報編集委員会の方々の取材力と編集力に敬意を表します。

2015年3月

広島県厚生農業協同組合連合会

広島総合病院

病院長 藤本 吉範

■ Annual Report 2013 2013年(平成25年)度 年報 ■

TOPICS



脊椎脊髄センターについて

平成 25 年 4 月に新たに脊椎脊髄センターが発足致しました。

当院整形外科では以前より脊椎・脊髄疾患の治療を中心に行っていました。整形外科をはじめ、各部署の専門家がそれぞれの部門で診療に携わってきました。しかし、高齢化に伴い様々な既往症のある患者さんが多くなり、また、脊椎脊髄疾患の病態もより複雑化してきたため、より高度な医療技術が必要となってきました。そこで、集学的な治療を行う目的で脊椎脊髄センターが設立されました。

当センターは、脊椎・脊髄疾患の診療に特化した部門で、脊椎・脊髄疾患に関する専門的知識を持っている医師・スタッフが所属しています。日本整形外科学会・日本脊椎脊髄病学会認定の脊椎脊髄外科指導医が 3 名所属し、画像診断医・放射線技師、麻酔科医、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士など、各分野の専門のスタッフによる集学的な治療を行っています。

国内有数の治療実績があり、小児から高齢者まで幅広く診療を行っています。手術療法を中心に行っており、顕微鏡下椎弓形成術、経皮的後弯矯正術、経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術などの身体に優しい低侵襲手術が特徴です。一方、特発性脊柱側弯症に対する側弯矯正手術や、椎体骨折などに対する脊柱再建術なども行い、多様な疾患を積極的に診療しています。

当センターでは身体に優しい治療を信条に、近隣の病院、診療所と連携し、患者さん一人一人に合ったオーダーメイドの治療を行っています。脊椎脊髄疾患でお困りの患者さんは是非当センターへいらしてください。また、見学や研修も随時受け付けています。ご希望の方はいつでもご連絡ください。



脊椎脊髄センター スタッフ

脊椎脊髄センターの手術療法について

〈顕微鏡下手術〉

脊髄や馬尾、神経根などに対する除圧術や脊髄腫瘍摘出術では、全例に手術用顕微鏡を用いた手術を行っています。頸椎高位では片開き式椎弓形成術、椎間孔拡大術（Keyhole Foraminotomy）等を行い、腰椎では棘突起縦割進入椎弓形成術、髄核摘出術、外側開窓術等を行っています。

手術用顕微鏡では明るく拡大された視野を三次元的に得ることで、小さな侵襲で安全な手術を行うことができます。身体への負担が少ない手術であるため、手術翌日に離床することができ 2 週間程度の入院期間で治療が可能です。

また助手も術者と同じ視野で手術を行うことが可能であるため、若手医師の技術向上にも有益です。



手術用顕微鏡下手術

〈経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術〉

経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術（Percutaneous Endoscopic Discectomy：PED）は腰椎椎間板ヘルニアに対する手術方法の一つです。局所麻酔で行い、約 1cm の皮膚切開での手術が可能です。手術適応となる椎間板ヘルニアに制限がありますが、筋肉などの腰椎後方支持組織への侵襲が極めて少なく、若年者やスポーツ選手に適した手術療法です。



経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術（PED）

〈経皮的後弯矯正術〉

経皮的後弯矯正術（Balloon Kyphoplasty：BKP）は骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術術式で早期の除痛と社会復帰が目的です。従来、骨粗鬆症による脊椎椎体骨折は安静加療、ギプスやコルセット固定など寝かせて治すことが主流でしたが、高齢者ではADLの低下が問題となっていました。本法は全身麻酔下に手術を行います。経皮的に骨折椎体内に骨セメントを充填する極めて低侵襲な手術術式です。手術翌日から歩行でき、術後1週間程度で退院することが可能です。当施設は日本有数の手術実績があり、医師に対するトレーニング施設となっています。



経皮的後弯矯正術（BKP）

〈術中脊髄機能モニタリング〉

脊髄腫瘍を含め頸髄症や胸髄症などの脊髄高位の手術では、より安全で確実な手術を行うため全例に術中脊髄機能モニタリングを行っています。経頭蓋電気刺激による運動誘発電位（MEP）、末梢神経刺激による体性感覚誘発電位（SEP）、free-running EMGなどを測定しています。手術中に脊髄が正常に機能しているか、障害を受けていないかをリアルタイムで検査することで、手術中に脊髄が障害されていないことを確認することができます。専門のスタッフが行っており、年間約130例の実績があります。



術中脊髄機能モニタリング（Endeavor CR, 16ch）

脊椎脊髄手術件数（2011年～2013年）

		2011年	2012年	2013年
脊椎脊髄手術件数		653	707	730
頭頸椎移行部	除圧	0	1	1
	固定	5	3	5
頸椎前方	除圧	0	0	0
	固定	2	2	2
頸椎後方	除圧	64	90	104
	固定	7	3	6
胸椎前方	除圧	0	0	0
	固定	0	1	0
胸椎後方	除圧	6	6	6
	固定	11	9	9
腰仙椎前方	除圧	0	0	0
	固定	3	4	9
腰仙椎後方	除圧	330	337	350
	固定	18	40	33
脊髄腫瘍摘出	髄外	5	7	10
	髄内	2	0	2
側彎症手術		2	1	3
経皮的後弯矯正術		193	195	180
その他		5	8	10



内視鏡センター

平成25年10月、JA広島総合病院では医療機器整備計画の一環として、内視鏡機器・超音波機器の新規機器整備および内視鏡室の改修整備を遂行いたしました。さらに平成26年1月には新電子カルテシステムと新内視鏡画像サーバーが稼働しました。これらの改修整備により、これまで以上に高度な専門的診療の提供が可能となりました。また、更衣室の増設や検査結果説明室の設置など患者さんの利便性向上もはかりました。内視鏡洗浄機の別室集約などの再構築に加え、医師や看護師、臨床工学技士など各職種の増員補強もおこなわれました。

これをもちまして、従来の「内視鏡室」改め「内視鏡センター」としリニューアル開設となりました。



内視鏡センターとは？

内視鏡センターは光学医療機器（内視鏡や超音波機器等）を用いた診断と治療を専門に行う部門です。通常の内視鏡検査・超音波検査に加え、さまざまな特殊な内視鏡検査・超音波検査を行います。食道癌・胃潰瘍・大腸ポリープ・大腸癌などの消化管の疾患、胆石・膵臓癌などの胆道・膵臓の疾患に対する内視鏡診療、肝臓癌などへの超音波下治療などを内視鏡センターで行っています。

JA広島総合病院 消化器内科 内視鏡センターには次の三つの特徴があります。

○負担の少ない内視鏡

嘔吐反射の少ない経鼻内視鏡や沈静麻酔下の大腸内視鏡検査などを推進しています。お腹の張りにくい方法として、二酸化炭素を使用した内視鏡処置も行っています。

○信頼できる内視鏡技術

日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本胆道学会、日本肝臓学会などの関連学会の専門医や指導医が卓越した技術で検査治療を行っています。

○新しい高度専門医療

JA広島総合病院消化器内科は、それぞれの分野の高度専門医療を実施することで、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本胆道学会認定施設などに指定されています。



内視鏡センターでの具体的な診療内容

- 1) NBI 特殊光観察・拡大観察内視鏡検査により、咽喉頭部の悪性腫瘍の発見率向上
- 2) 上部および下部消化管 ESD（粘膜下層剥離術）による癌治療
- 3) 経鼻内視鏡による負担の少ない上部消化管内視鏡検査
- 4) 細径超音波探触子に加えて、超音波内視鏡専用機器による膵・胆道系の精査
- 5) 超音波内視鏡ガイド下の狙撃細胞診をオンサイトで施行



- 6) 希望者への沈静麻酔下での安楽な下部内視鏡検査
 - 7) 二酸化炭素送気によるお腹の張りの少ない検査治療
 - 8) 細径下部内視鏡による小児等への下部消化管検査
 - 9) 最大5台の検査室により希望期日へ検査予約対応可能
 - 10) 緊急検査等の当日のオーダーに全て対応
 - 11) デジタル透視による充実した透視下検査処置 (ERCP / EST / PTCD 等)
 - 12) 最新画像サーバーと HM ネットを連結し、診療所等で内視鏡画像を閲覧可能
- 内視鏡センターは質の良い高度医療を提供し、地域に貢献してまいります。



内視鏡センター 主要機器一覧

平成25年10月1日現在

スコープ	オリンパス	上部ハイビジョンスコープ	GIF-H260	2
		上部拡大スコープ	GIF-H260Z	3
		上部細径スコープ (経鼻)	GIF-XP260N	2
		十二指腸スコープ	JF-260V	2
		下部拡大スコープ	CF-H260AZI	3
	下部拡大スコープ	CF-H260AZL	1	
	下部細径スコープ	PCF-Q260JI	1	
	超音波ガストロスコープ	GF-UC240P-AL5	1	
	フジノン	上部消化管用スコープ	EG-590WG	4
		上部消化管用スコープ極細用 (経鼻)	EG-530N	2
上部消化管用スコープ (処置用)		EG-450RD5	1	
下部消化管用スコープ (光学拡大)		EC-590ZW	4	
EVIS LUSERA SPECTRUM 一式			2	
システム本体	オリンパス	ビデオシステムセンター	CV-260	
		光源装置	CVL-260	
		FTS 電子内視鏡 4400 システム		2
ファイリング	ネクサス	FTS プロセッサー (光源・制御装置)	XL-4400・VP-4400	
		ネクサスファイリングシステム (一式)		
超音波内視鏡	フジノン	SONO PROBE SYSTEM (細径)	SP701UB	1
		上部 15MHZ・20MHZ	SP-501	2
		下部 15MHZ・20MHZ	SP-501	2
		十二指腸 20MHZ	SP-501	2
	オリンパス	Universal Endoscopic Ultrasound Center	EU-ME1	1
内視鏡洗浄機	J&J	エンドクレンザー D・エンドクレンザー S		4
超音波診断装置	GE 横河メディカル		LOGIQSPro・500Pro	2
RFA システム	ボストン	RF3000 GENERATOR		1

外来がん治療認定薬剤師 3名合格!!!

【外来がん治療認定薬剤師とは】

現在のがん治療において、分子標的薬や経口抗がん剤の使用は増加の一途を辿っており、外来化学療法は今後、さらに増加していくと予想されます。

「外来がん治療認定薬剤師」は、増加し続ける外来化学療法患者に、より良質の医療を提供するという社会的ニーズに応えるため、日本臨床腫瘍薬学会が2013年に創設した認定制度です。この認定制度は薬物療法に対する知識・技術や患者サポート能力を備えた薬剤師を養成し、国民の保健・医療・福祉に貢献することを目的としており、2014年3月に初代認定薬剤師47名が誕生しました。そのうち3名が当院薬剤部のがん化学療法担当薬剤師であることは広島県下でも大きなトピックとなりました。

当院の外来がん治療認定薬剤師は以下の3名です。



數田 ゆみ 埋橋 賢吾 白井 敦史

3名とも当院のがん化学療法において主軸を担っており、がん化学療法運営委員会事務局のメンバーとしてレジメン作成・管理・情報収集を担当し、また、医師・看護師・病棟薬剤師への情報提供や処方提案、患者への服薬指導を積極的に行っています。

【がん患者管理指導料】

平成26年度診療報酬改訂では、「がん患者指導管理料」が新設されました。外来がん化学療法に対する管理の評価は「がん患者指導管理料3」に該当します。その算定要件は、「がんと診断された患者であって継続して抗悪性腫瘍剤の投薬または注射を実施あるいは予定されているものに対して、当該患者の同意を得て、当該保険医療機関の保険医または医師の指示に基づき薬剤師が抗悪性腫瘍剤の投薬または注射の必要性等について文書により説明等を行った場合に、6回に限り算定する」と定められています。点数は1回200点で、病院薬剤師の外来患者への指導に対して初めて診療報酬が算定されるという点でも、重要なマイルストーンとなりました。

現在、当院では外来がん治療認定薬剤師の3名のみが、薬剤部でのがん患者指導料3の算定可能です。マンパワーの問題より、現在は主に外来患者の経口抗がん剤初回導入時に絞り込み、薬剤部窓口の服薬相談コーナーにて服薬指導を行っています。



これまで、初回の内服抗がん剤導入時には、プロトコル、用法用量を確認のうえ、薬局窓口で服薬指導を行っていましたが、患者さんそれぞれの病態・治療内容・治療方針・理解度などに対して、細やかに充実した指導が可能となりました。

【がん化学療法に関わるリスク管理への取り組み】

がん治療に携わる薬剤師にとって、がん治療を「安全に」「安心して」行うことこそが、不可欠な姿勢であると私たちは考えています。「安全に」行うためには、適切なレジメンに基づいた対応、薬剤師による正確な抗がん剤調製、きめ細やかな副作用モニタリング、適切な副作用対策がなされなければなりません。そして、患者が「安心して」がん治療を行うために、患者が理解しやすいように平明な説明を行い、期待される効果を下げることなく、かつ副作用を軽減あるいは回避できるように正しい指導を行うことが薬剤師に求められているのです。

「安全に」がん化学療法を施行するために、院内のがん化学療法のマニュアル改訂も準備中です。また、抗がん剤を取り扱う看護師や薬剤師への抗がん剤曝露防止の取り組みも、抗がん剤調製時に使用する曝露対策閉鎖式調製器具の採用を含め始めており、患者のみならず、がん化学療法に携わるすべてのスタッフの安全管理を継続して行っています。



抗がん剤曝露対策閉鎖式調製器具



安全キャビネットでの抗がん剤調製

市民公開講座

第7回 市民公開講座

日時：平成25年6月16日（日曜日）13：00～15：30

場所：はつかいち文化ホールさくらびあ（大ホール）

趣旨：知らないうちに発症するCOPD（慢性閉塞性肺疾患）や肺がんなどの疾患を理解し最新の治療・診療活動について正しく理解して頂く事を目的に市民公開講座を開催します。

テーマ：息が苦しい、ハイ広総へ

～COPD（慢性閉塞性肺疾患）から肺がんまでチーム医療で支えます～

〈演題〉

1. 「肺がん、COPDの内科的治療について」
呼吸器内科主任部長 近藤 丈博
2. 「肺がんの外科的治療」
呼吸器外科主任部長 渡 正伸
3. チーム医療の取り組み
「食べて鍛えてのりきろう」
管理栄養士 八幡 謙吾
「COPDをみつけよう」
臨床検査技師 嶋田 恵美
「禁煙できない人へ」
内科外来看護師 高橋 志保
「ちょっとひといきエクササイズ」
健康管理センター健康運動療法士 東 千穂
4. 「健診で早期発見」
健康管理センター 碓井 裕史

■会場風景



■参加者：506人

■参加者の感想：

- ・チーム医療が整っていることを知った。
- ・COPD・肺がんに対する予防の改善について非常に参考になった。
- ・COPDの検査を受けてみようと思った。
- ・健診に行こうと思った。
- ・加齢と思いがちだがCOPDの検査を受けることも重要だと感じた。

（上記感想は、アンケートを配布して回収率66%の中の個々の感想の中から一部抜粋した意見です。）



第8回 市民公開講座

日時：平成26年1月26日（日曜日）13：00～15：30

場所：はつかいち文化ホールさくらびあ（大ホール）

趣旨：めまい・頭痛はさまざまな原因によって起こります。そのメカニズムから見分け方、治療法について正しく理解して頂くことを目的に市民公開講座を開催します。

テーマ：めまい・頭痛について学びましょう

〈演題〉

1. 「廿日市市健康なまちづくり宣言」
廿日市市市長 眞野 勝弘
 2. 「緊急性の低いめまいについて」
耳鼻咽喉科主任部長 兼見 良典
 3. 「命の危険を伴うめまいについて」
脳血管内治療科主任部長 渋川 正顕
 4. 「外科的治療が必要な治療」
脳神経外科主任部長 黒木 一彦
- ちょっとひといきエクササイズ
健康管理センター健康運動療法士 東 千穂

■参加者：633人

■参加者の感想：

- ・めまいと頭痛について、怖いものとそうでないものの比較がよく理解できた。黒木医師の手術の様子など普段目にしないことで衝撃的だったが手術の大変さが理解できた。
- ・めまいや頭痛になった時は病院に行くべきか否かを決めるために判断する際に講演が役にたった。
- ・めまいには、いろいろな原因があり、脳からくるものは死を伴うものが多く、定期的に検査が必要だと実感した。

（上記感想は、アンケートを配布して回収率77%の中の個々の感想の中から一部抜粋した意見です。）

■会場風景



第4回 オープンホスピタル開催

平成25年11月24日（日）、当院西館及び東館1階フロアにおいて、第4回 JA 広島総合病院オープンホスピタルを開催しました。当日の来場者は、約250人でした。

オープニングセレモニーに続いての廿日市混声合唱団のコンサートでは、その美しい歌声が聴衆を魅了しました。続いて、地御前町内会の皆さんのご協力で餅つき大会が行われ、つくたてのお餅が来場者にふるまわれました。

イベントブースでは、医師や薬剤師による医療相談、健診コーナー、骨密度測定のほか体験型のイベントもあり、内視鏡シミュレーター体験コーナー、AED体験コーナー、院内探検も好評でした。小さな子供さんも楽しめるバルーンアートコーナー、ナース服を着て写真撮影を行う“ちびっ子ナース”、おもちゃすくいやJA佐伯中央の即売会、ポップコーン・綿菓子コーナー等もあり、どれも大変好評でした。

病院ロビーには、オープンホスピタル開催約1ヶ月前から各部署が日頃の取り組みを紹介するために工夫して作ったポスター42点が展示されていました。来場者には、優秀な作品を選考する投票にご協力いただき、地域住民の方々と院内の選考メンバーでの投票による厳正な審査の結果、最優秀賞、優秀賞を決定しました。

最優秀賞

部署	作品名
東7階病棟	見逃すとコワイ血管の話 ～おなかに爆弾がかえてませんか～



優秀賞

部門	部署	作品名
医局部門	眼科	緑内障の六割が正常眼圧って知ってますか？
看護部門	内視鏡センター	リニューアル！内視鏡センター!!
コメディカル部門	栄養科	知って得する！食品栄養表示の気になる話
チーム活動部門	I C T	消毒の基本を知ろう！
住民投票部門	災害対策ワーキングチーム	減災への道 Part2

来場者のアンケートからは、“楽しかった”“これからも続けてほしい”との声が多数寄せられました。

今後もこのイベントが、当院と地域住民の皆様との情報交換の場、交流の場となることを願っています。



第23回 院内バレーボール大会開催

平成25年6月22日（土）、廿日市市スポーツセンター サンチェリーにおいて、第23回院内バレーボール大会が開催されました。

当日は、各部署ごとに結成された20チーム（選手と応援合わせて約460人）が参加して、熱戦が繰り広げられました。各チームはお揃いのユニフォームを着用し、心を一つにして優勝を目指しました。

頑張る選手を全力でサポートする応援団、団結力が高まるイベントとして年々参加者も増加しており、大変盛り上がりました。

各チームの成績は、

Aブロック 優勝；地域救命救急センター
準優勝；東5階

Bブロック 優勝；リハビリテーション科
準優勝；事務



第3回 広島西部高校生 外科セミナー開催

平成25年8月21日（水）、第3回外科セミナーが開催されました。当日は、近隣の高校生29名が参加されました。セミナーでは、外科系医師、手術室ナースらが手術室の見学や外科テクニクの体験実習指導にあたり、手術の模擬体験を楽しみながら外科医に対する関心、理解を深めてもらいました。

参加した高校生は、グループごとに分かれて6つの外科テクニクを体験しました。セミナーへの参加が、高校生たちのモチベーションとなり、将来の職業選択の一助となることを期待しています。



■ Annual Report 2013 2013年(平成25年)度 年報 ■

病院の概要

病院概況

病院基本理念 私たちは人間愛に基づいた医療を実践し地域社会に貢献します

- 基本方針
- 1 地域の医療機関と密接に連携した医療を提供します
 - 2 医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します
 - 3 最新の知識と技術を習得し質の高い医療を提供します
 - 4 説明と同意に基づき人権を尊重した医療を提供します

病院の概要

病院名	広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院				
所在地	〒738-8503 広島県廿日市市地御前1丁目3番3号 TEL (0829)36-3111 FAX (0829)36-5573				
開設年月日	1947年12月23日				
許可病床数	561床(一般)				
開設者	広島県厚生農業協同組合連合会 代表理事 石原照彦				
病院長	藤本吉範				
土地・建物の状況	区分	敷地面積	建物延面積		
	病院	12,825.33㎡	32,123.09㎡		
	住宅地	3,967.47㎡	3,632.41㎡		
	計	16,792.8㎡	34,815.15㎡		
診療科目(計37科)	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科				
病棟別許可病床数(一般561床)					
	西棟	階	東棟		
	内(呼消)・放射線治療科	55床	8	内(内分泌・腎・透析)	44床
	内(消化器)・画像診断部	55床	7	内(呼)・整・呼吸器外科(脳)	43床
	外・(泌)	54床	6	泌・外・皮・精・心療内科	51床
	整形外科	55床	5	脳外・歯科口腔外科	52床
	産婦・外科系(小)・ドック	46床	4	小・耳・眼	43床
	地域救命救急センター	19床	3	内(循環器)・心外・麻酔	44床
	計	284床		計	277床
	計561床				
指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・病院群輪番制病院 ・災害拠点病院 ・脳死臓器提供病院 ・救急指定病院(救急告示番号第374号) ・臨床研修指定病院 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・DPC対象病院 ・地域救命救急センター ・へき地医療拠点病院 				
併設事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所 				

施設基準	<p>■基本診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般病棟入院基本料(7対1) ・総合入院体制加算2 ・臨床研修病院入院診療加算 ・救急医療管理加算 ・超急性期脳卒中加算 ・妊産婦緊急搬送入院加算 ・診療録管理体制加算2 ・医師事務作業補助体制加算2(15対1) ・急性期看護補助体制加算(50対1) ・療養環境加算 ・重傷者等療養環境特別加算 ・がん診療連携拠点病院加算 ・栄養サポートチーム加算 ・医療安全対策加算1 ・感染防止対策加算1 ・患者サポート体制充実加算 ・ハイリスク妊娠管理加算 ・ハイリスク分娩管理加算 ・退院調整加算 ・救急搬送患者地域連携紹介加算 ・救急搬送患者地域連携受入加算 ・呼吸ケアチーム加算 ・病棟薬剤業務実施加算 ・データ提出加算2 ・救命救急入院料1 ・ハイケアユニット入院医療管理料1 ・小児入院医療管理料4 ・短期滞在手術基本料2 <p>■特掲診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病合併症管理料 ・がん性疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料1 ・がん患者指導管理料2 ・がん患者指導管理料3 ・糖尿病透析予防指導管理料 ・外来リハビリテーション診療料 ・外来放射線照射診療料 ・ニコチン依存症管理料 ・開放型病院共同指導料(1) ・地域連携診療計画管理料 ・がん治療連携計画策定料 ・がん治療連携管理料 ・肝炎インターフェロン治療計画料 ・薬剤管理指導料 ・医療機器安全管理料1 ・医療機器安全管理料2 ・歯科治療総合医療管理料 ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・検体検査管理料(IV) ・時間内歩行試験 ・ヘッドアップティルト試験 ・小児食物アレルギー負荷検査 ・内服点滴誘発試験 ・画像診断管理加算1 ・CT撮影及びMRI撮影 ・冠動脈CT撮影加算 ・心臓MRI撮影加算 ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 ・外来化学療法加算1 ・無菌製剤処理料 ・心大血管疾患リハビリテーション料(1) ・脳血管疾患リハビリテーション料(1) ・運動器リハビリテーション(1) ・呼吸器リハビリテーション(1) ・がん患者リハビリテーション料 ・エタノールの局所注入(甲状腺) ・透析液水質確保加算1 ・脊髄刺激装置挿入術及び脊髄刺激装置交換術 ・乳がんセンチネルリンパ節加算 ・経皮的冠動脈形成術 ・経皮的冠動脈ステント留置術 ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 ・大動脈バルーンパンピング法(IABP法) ・経皮的冠動脈遮断術 ・ダメージコントロール手術 ・腹腔鏡下肝切除術 ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 ・体外衝撃波胆石破砕術 ・体外衝撃波腎尿管結石破砕術 ・体外衝撃波膀胱石破砕術 ・膀胱水圧拡張術 ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 ・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む)に掲げる手術 ・輸血管理料II ・人口肛門・人口膀胱造設術前処置加算 ・麻酔管理料(1)(II) ・放射線治療専任加算 ・外来放射線治療加算 ・高エネルギー放射線治療 ・1回線量増加加算 ・強度変調放射線治療(IMRT) ・直線加速器による定位放射線治療 ・病理診断管理加算1 ・口腔病理診断管理加算1
	認定	日本医療機能評価機構(区分4 Ver.6.0) DMAT指定医療機関(災害派遣医療チーム)

平成26年4月1日現在

JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により地域の中核的病院の性格を持つに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベッドに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベッドに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター
平成25年	4月	脊椎脊髄センター
平成25年	10月	内視鏡センター

■ Annual Report 2013 2013年(平成25年)度 年報 ■

活動報告

呼吸器内科

■ スタッフ

主任部長	近藤 丈博 (1998年卒)
	日本呼吸器学会専門医 日本内科学会認定医
部長	河野 秀和 (1999年卒)
	日本呼吸器学会専門医 日本内科学会認定医
医員	若林 優 (2010年卒)
医員	徳毛 健太郎 (2011年卒)

■ 診療科紹介

当院呼吸器内科では肺がんによって代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきました。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この10年余りでICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990年代半ばから非侵襲陽圧換気療法(NPPV)の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択がNPPVとなり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のように入導されるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

【肺がん】

2011年度 肺がん	件数	77例
	化学療法	71例
2012年度 肺がん	件数	105例
	化学療法	103例
2013年度 肺がん	件数	77例
	化学療法	65例

例えば初診から治療まで当院では呼吸器外科と放射線治療部と連携し最速で2週間程で診断後治療に入れます。市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにもかかわらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われます。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方方を診てあげることができればと思います。

【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり最近では治療に難渋する傾向があります。また肺結核を早期診断し、外来加療を行ったり結核病棟のある病院への紹介も行っています。また最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10年前と比べ喘息死は半数以下となっていますがまだまだ吸入ステロイドは普及していないように思います。大学などと連携し、この地域の喘息患者さんに良い治療があることを知ってもらうことが大事だと思っています。

【COPD (慢性閉塞性肺疾患): 肺気腫、慢性気管支炎など】

マスコミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別するのが大事ですが当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近では徐々にされる開業医の先生方も増えて来られたので逆紹介も行いたいと思っています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携をはかり、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

循環器内科

■診療科の紹介

平成26年3月現在、当科は、表1に示すように総勢7名の科です（有資格者数は、日本循環器学会専門医4名・日本心血管インターベンション治療学会指導医1名・日本高血圧学会高血圧専門医1名）。また日本循環器学会認定循環器専門医研修施設です。

表1 循環器内科メンバー

氏名(卒年)	役職	資格
藤井 隆 (昭和57年)	診療部長 循環器・呼吸器疾患センター長	日本内科学会認定医 日本循環器学会専門医 など
辻山 修司 (昭和62年)	心臓血管内治療科主任部長	日本内科学会認定医 医学博士 など
前田 幸治 (平成2年)	主任部長	日本循環器学会専門医 日本インターベンション学会指導医
荘川 知己 (平成6年)	部長	日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医 など
久留島秀治 (平成10年)	部長	日本内科学会認定医 日本循環器学会専門医
赤澤 良太 (平成21年)	医員	
久保祐美子 (平成22年)	医員	

対象とする主な疾患は、心筋梗塞・狭心症などの冠動脈疾患、心不全、弁膜症、心筋炎、心筋症、先天性心疾患、高血圧、高脂血症、不整脈（徐脈・頻脈）などの循環器疾患の診断と治療を行っています。

バイパス術、弁置換術など外科的治療が必要な場合、循環器内科医と心臓血管外科医との合同カンファレンスで治療方針が検討され、最終的な治療方針が決定されます。また開業医の先生方との病診連携に重点を置き、この15年間、年2回の病診連携の会を開催し、その連携を深めています。また地域に貢献出来るよう急性期循環器疾患に対して夜間も待機体制をとり、地域救急救命センターの循環器領域を担っています。

■診療実績

平成25年度までの3年間の当科の実績を表2に示します。平成25年度は、心臓カテーテル検査（診断を含）：622例を施行し、そのうち経皮的冠動脈カテーテルインターベンション（PCI）症例：262例で、急性冠症候群症例も79件含まれています。またPCI時には狭窄部の形態・プラーク性状分析、適切なステント留置のため血管内超音波（IVUS）をほぼ全症例で使用しています。

高度の冠動脈石灰化病変に対して Rotablator も施行しています。大動脈内バルーンパンピング（IABP）、

経皮的心臓補助装置（PCPS）も重症例には施行しています。

表2 循環器内科実績

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
年間延べ外来患者数	14,039	14,019	14,339
年間延べ入院患者数	1,096	1,021	924
急性心筋梗塞患者数	75	97	79
【生理学的検査】			
運動負荷試験（トレッドミル）	97	69	44
ホルター心電図	390	506	280
経胸壁心エコー図	4,851	5,157	4,948
経食道心エコー図	10	21	37
【心臓カテーテル検査】			
心臓カテーテル検査総数	714	661	622
緊急PCI（急性冠症候群の治療）	117	94	85
待機的PCI	159	158	177
PCI総数	289	262	262
診断造影のみ	425	385	360
【末梢血管カテーテル治療】			
経皮的末梢血管形成術（PTA）	35	19	31
経皮的動脈形成術（PTR）	7	5	2
【不整脈関係】			
ペースメーカー植込	31	34	27
電気生理学的検査	21	16	14
【非侵襲的冠動脈検査】			
心臓核医学（RI）検査	420	450	479
冠動脈CT件数	709	671	647
【心臓リハビリ】循環器科のみ			
急性心筋梗塞後/心不全	*	*	57/40

末梢血管に関しても重症難治性潰瘍などの下肢虚血を含む閉塞性動脈硬化症に関して心臓血管外科との協力の下、血管内治療を積極的に行っています。徐脈に関して電気生理学的検査やペースメーカーの植込も施行しています。

また非侵襲的検査も多数実施しています。画像診断部と中央放射線科の協力の下に64列心臓CT検査（カテーテル検査数に匹敵する647例）、心臓核医学検査（479例）を施行し、カテーテル検査の補助診断として活用しています。生理機能検査科の協力の下に4948件を越える心臓超音波検査や37例の経食道心エコー検査、ホルター心電図の検査も280例施行しています。

またリハビリ科・検査科（生理機能）部門と循環器科・心臓血管外科との医師により心臓リハビリ（心不全/心筋梗塞後）を積極的に進め、57/40例の実績でした。

■将来展望

地域救命救急センターが平成23年4月1日より開設され、現在も循環器領域の救急患者に対応しており、今後も適切かつ積極的な医療活動を行ってまいります。

腎臓内科

■ スタッフ

主任部長 荒川 哲次 (1998年広島大学卒業)

医学博士
日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医
臨床研修指導医

医員 下田 大紀 (2009年関西医科大学卒業)

日本内科学会認定内科医

医員 眞田 亜季 (2010年大分大学卒業)

日本内科学会認定内科医

医員 田村 亮 (2011年広島大学卒業)

■ 診療科紹介

当院腎臓内科は2013、4月より広島大学病院より田村医師が新たに着任し、先任の荒川医師、下田医師、眞田医師と合わせ現在4人体制で診療を行っております。

当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会専門医制度認定施設に認定されております。

また当院腎臓内科は地域の各医療機関の先生方から多くの患者さんを紹介して頂いており、外来および入院患者数は県内有数となっております。

近年、慢性腎臓病という疾患概念が提唱されております。慢性腎臓病はchronic kidney disease、略してCKDともよばれ、腎臓の障害あるいは機能低下が慢性的に続く病気のことをいいます。慢性腎臓病は、放置したままにしておくと、末期腎不全となって、人工透析や腎移植を受けなければ生きられなくなってしまうことがあります。現在、日本には約1,330万人の慢性腎臓病患者さんがいるといわれており、これは成人の約8人に1人に相当する人数となります。また、人工透析を受けている患者さんも、毎年数千～1万人程度ずつ増え続け、2011年末には30万人を突破し、国民400人に1人が人工透析を受けているという計算となります。さらに、慢性腎臓病は人工透析の予備軍であるばかりでなく、その一方

で心臓病や脳卒中などの心血管疾患にもなりやすいたことが明らかになっています。そこで、透析回避および心血管疾患の予防の観点から、慢性腎臓病をいかに治療していくかが現在大きな問題となっております。

当科では、原発性糸球体・尿細管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性腎疾患、急性腎障害、高血圧、電解質異常など、あらゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たっています。腎炎に対しては腎生検を中心とした診断とその診断結果の基づいた集学的な治療を、また腎不全に対しては食事・薬物療法などによる保存的加療および透析療法を実施しています。

透析療法に関しては積極的に腹膜透析(PD)導入を推進しているのが当院の特徴であり、また、血液透析(HD)、各種疾患に対するアフェレシス療法も積極的に行っています。

■ 診療実績

2013 実績

腎生検数	38例
血液透析患者数(入院)	220名
血液透析患者数(外来)	20名
腹膜透析患者数	16名

■ 教育・研修活動

当科では、研究会および学会への参加および発表などを積極的に行っています。また、若手に対するセミナーなどへの積極的な参加を奨励しています。

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

■スタッフ

主任部長 石田 和 史 (1986年卒 昭和63年～)
日本糖尿病学会研修指導医、日本糖尿病学会専門医

部長 浅生 貴子 (2002年卒 平成24年4月～)
日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医

医 員 木ノ原 周 平 (2007年卒 平成25年4月～)
内科認定医

医 員 堀 江 正 和 (2011年卒 平成25年4月～)

■診療状況

症例数：定期通院外来患者数 約2,550名

糖尿病 外来定期通院患者 計約2,350名
(平均年齢69歳、平均罹病期間17年)

(1型糖尿病 6%、2型糖尿病 93%、その他 1%)
糖尿病入院患者 129名

2008年8月に開始した広島県西部地区糖尿病連携パス紹介患者総数350名(うち65%が継続中)

★インスリン治療(経口血糖薬併用を含む)
30%以下に内訳を示す

1型(SPIDDMを含む)：5回法8%、4回法65%、3回法21%、2回法6%

2型：4回法9%、3回法20%、2回法63%、1回法8%

★2型糖尿病における治療内容内訳(全患者に占める割合を示す、重複あり)

SU薬35%、グリニド薬7%、BG薬54%、チアゾリジン20%、 α GI薬10%、DPP-4阻害薬34%

GLP-1受容体作動薬4%、インスリン治療29%、食事・運動療法のみ14%

★定期通院患者のHbA1c(NGSP値)年間平均値(2014年3月時点)1型:7.78% 2型:7.39%

★定期通院患者の合併症の状況

1) 神経障害(当院オリジナルのCPTによる病期分類)

- ▶ 0期(なし) 46%
- ▶ 1期(知覚過敏期) 15%
- ▶ 2期(知覚概ね正常&アキレス腱反射低下) 19%
- ▶ 3期(軽度知覚鈍麻期) 12%

▶ 4期(中等度知覚鈍麻期) 6%

▶ 5期(高度知覚鈍麻期) 2%

2) 網膜症

▶ なし 68%

▶ 単純網膜症 25%

▶ 増殖前網膜症 1%

▶ 増殖網膜症 6%

3) 腎症

▶ 1期 73%

▶ 2期 17%

▶ 3期 4%

▶ 4期 4%

▶ 5期 2%

4) 大血管障害(動脈硬化症)

▶ 脳血管障害 9%

▶ 冠動脈疾患 10%

▶ 閉塞性動脈硬化症 8%

甲状腺疾患 約200名

(バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ)

※甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

下垂体機能低下症および副腎機能低下症 若干名

■研究活動

治験

1) 腎機能障害を伴う2型糖尿病患者を対象としたTS-071(SGLT-2阻害薬)第III相試験

2) AS-3201の糖尿病性末梢神経障害患者を対象としたプラセボ対照二重盲検群間比較試験(第III相試験)

受託研究

1) 糖尿病網膜症合併高コレステロール血症患者を対象としたスタチンによるLDL-C低下療法(通常治療/強化治療)の比較研究(EMPATHY試験)

研究テーマ

1) 電流知覚閾値検査(CPT)を用いた糖尿病神経障害の評価・長期成績(治療戦略を視野に入れた病期分類確立とその応用、インクレチン関連薬の神経障害進展阻止に関する有用性の検討)

2) 諸種インスリンアナログ製剤の臨床効果の比較研究(リスプロmix25とアスパルト30mixの相違、リスプロmix25とリスプロmix50のテーラーメイド的使い分けへの試み、デグルデクと他の持効型インスリンアナログの相違)

3) 各種DPP-4阻害薬の臨床効果の比較

消化器内科

■ スタッフ

氏名	役職	専門分野
石田 邦夫 (Kunio Ishida)	参与	肝疾患 肝炎インターフェロン 治療
徳毛 宏則 (Hironori Tokumo)	副院長 消化器内科主任部長 医療安全管理室長 内視鏡センター長	肝・胆道疾患 内視鏡下処置 超音波下処置 NASH、胃腸関連手技
小松 弘尚 (Hironao Komatsu)	内視鏡科主任部長 緩和ケア科主任部長	上部下部消化管疾患 内視鏡下処置 消化器癌治療 緩和ケア
藤本 佳史 (Yoshifumi Fujimoto)	膵胆道内科主任部長 消化器内科部長	膵胆道疾患の内視鏡診 断治療 膵臓胆道癌の化学療法
古土井 明 (Akira Furudoi)	食道胃腸内科主任部長 消化器内科部長	上部下部消化管疾患 内視鏡診断治療
野中 裕広 (Michihiro Nonaka)	消化器内科部長	肝胆膵領域 内視鏡的診断治療 超音波診断 超音波下処置
富永 明子 (Akiko Tominaga)	平成 24 年 4 月より 消化器内科医員	消化器疾患全般
宮森 純子 (Junko Miyamori)	平成 24 年 4 月より 消化器内科医員	消化器疾患全般
若井 雅貴 (Masaki Wakai)	平成 25 年 4 月より 消化器内科医員	消化器疾患全般

■ 診療科紹介とトピックス

消化器内科の診療スタッフは総勢 9 名となっています。平成 25 年 4 月からは当院生え抜きの若手医師である若井がスタッフに加わりました。今までにも増して充実した診療を提供して参ります。一口に消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。JA 広島総合病院消化器内科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

平成 25 年 10 月、装いも新たに内視鏡センターがオープンいたしました。検査処置件数の増加とともに、また診療内容のさらなる充実のために「内視鏡センター」へとバージョンアップいたしました。経鼻内視鏡など人に優しい内視鏡機器の充実、同じく画像を取り扱う画像診断部（CT・MRI）との受付の

共有簡素化、更衣室の増設など、患者さんの利便性向上をはかりました。説明室の設置、内視鏡洗浄機の別室集約などの検査室再構築に加え、医師や看護師など各職種の増員補強もおこないました。また、安楽な内視鏡検査を旗印に二酸化炭素送気による検査や、安全な鎮静麻酔下での内視鏡処置を行っています。平成 26 年 1 月には新電子カルテシステムと新内視鏡画像サーバーが稼働し、本センターでの診療がさらに拡充しております。



〈消化管出血に対する緊急内視鏡止血の一場面〉

食道や胃腸といった消化管の分野では、指導責任医師を学会指導医でもある古土井とし専門性の強化をはかりました。早期癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という侵襲の少ない方法で内視鏡治療での完治をはかります。下部消化管内視鏡でのポリープ切除術（EMR など）から一歩進んで、先進的医療技術である大腸における内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）も多数の症例で実践しています。

肝臓領域では石田と野中を中心に体制を固め、ウイルス性肝炎に対しての PEG インターフェロンや核酸アナログ製剤など最新の治療に加え、最近話題の非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）に対しても積極的に臨床研究をすすめ、専門学会への発表も続けています。肝臓癌に対してはさまざまな治療方法がありますが、各患者さんの病状を十分に検討した上で、内科的な治療法であるラジオ派焼灼療法

(RFA)、当院の肝胆膵外科と連携しての肝切除手術なども実施しています。

膵・胆道領域では、藤本を責任指導医として活発な診療を行っています。内視鏡センターでは十二指腸内視鏡を使っての診断（ERCP）や各種治療（ESTやERBD）など、症例に応じた最適な治療法を選択し実施しています。膵臓癌などの最新診断手技のひとつである超音波内視鏡を使った細胞診検査（EUS－FNAB）も活発におこなっており診断成績が向上しました。治療においては新たな抗がん剤も使用可能となり選択肢が広がりました。膵癌・胆道癌の患者さんやご家族に対して、その病態や治療への理解を深めていただいたり精神的な支えやサポートをするために開始した「膵がん胆道がん教室」は軌道に乗り、全国から注目され高い評価を受けています。

当科は以前よりこれらの診療実績が認められており、関連する各学会から認定施設として指定されています。日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本胆道学会認定施設、PEG在宅医療研究会認定施設管理施設などです。

地域のかかりつけの先生との連携を充実させ患者さんを中心に地域で診療していくという理念を実現するために始めたRIGID Net（地域相互消化器医師ネットワーク）は定期的開催され、すでに10回の講演会や症例検討会をおこないました。当院はがん診療連携拠点病院です。院内で毎週開催しております「Cancer Board（多科連携消化器癌診療検討会）」を地域の先生方とも共有できる形を目指して「Cancer Board Open Conference（西部地区がん診療オープンカンファレンス）」を年に2回定期的開催し地域連携を深めています。

広島総合病院消化器内科は、患者さん本意の診療をモットーに最先端の医療を提供し地域に貢献してまいります。

■ 研究活動

広島総合病院消化器内科は、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い本誌別記のごとく多数の学会発表や論文での報告を行っています。

■ 検査実績

消化器内科・内視鏡科検査処置件数（2013年度）	
上部消化管内視鏡検査（含小腸内視鏡）	4,403
上部消化管内視鏡処置（含EUS）	750
十二指腸内視鏡検査処置（ERCP等）	495
小計	5,648
下部消化管内視鏡検査	1,350
下部消化管内視鏡処置治療	713
小計	2,063
全消化管検査処置合計	7,711
腹部超音波検査（含造影US）	4,984
腹部超音波下処置	95
超音波関連検査処置合計	5,079
その他（造影等）	169
消化器内科検査処置合計	12,959

小児科

■ スタッフ

- 主任部長 岡 島 宏 易 (1979年卒)
資格 日本アレルギー学会指導医、日本小児科学会専門医
専門 小児アレルギー (喘息、食物アレルギー)
- 部長 藤 井 寛 (1996年卒)
資格 日本小児科学会専門医、医学博士、
日本腎臓病学会腎臓病専門医、
日本腎移植学会認定医、臨床研修指導医
専門 小児腎臓
- 医員 田 邊 真奈美 (2005年卒)
資格 小児科専門医
専門 小児アレルギー、新生児
- 医員 樋 口 公 章 (2006年卒)
資格 小児科専門医、新生児蘇生法インストラクター
専門 新生児 (新生児集中治療)
- 嘱託医師 中 島 千恵子 (1980年卒)
資格 小児科専門医、心の相談医、産業医、臨床研修指導医
専門 小児神経 (てんかん)、小児内分泌 (成長ホルモン)

■ 診療科紹介

小児科では、2013年4月より、岡島 (主任部長)、藤井 (部長)、田辺、樋口、中島 (嘱託) の5名体制で小児科医療をおこなっています。

2013年3月に中島千恵子が退職し、嘱託医師として小児神経疾患、内分泌疾患を中心とした小児科診療の継続をお願いしています。同年4月に庄原赤十字病院小児科から田邊真奈美が着任し、小児アレルギーの研修を開始しました。また、樋口公章とともに新生児の診療にも力を発揮しています。藤井寛はその得意とする小児腎疾患医療とともに、小児科医療における広範な知識を基とした小児科診療を展開しています。岡島は、当科が日本アレルギー学会の (研修) 認定施設に認定されていることを受け、小児アレルギー疾患の広島県西部の中核となるべく、アレルギー疾患についての各種検査体制整備と県内県外での啓発活動を行っています。

当科の特色は以下の3点です。

- ①二次医療機関として、入院患者受け入れ機関であること。
- ②小児領域専門診療が可能であること。(特に小

児神経、小児アレルギー、小児腎臓)

- ③ NICUは設置していないが、院内出生の病的新生児への迅速な対応ができること。

常勤スタッフが4名のため、時間外小児救急には対応しておりませんが、重症児の救急車で搬送受け入れは救急センタースタッフと連携して行っています。

■ 診療実績

成長ホルモン負荷試験 09年35件、10年23件、11年35件、12年27件、13年34件

脳波 09年530件、10年517件、11年528件、12年540件、13年545件

予防接種 09年444件、10年590件、11年530件、12年550件、13年477件

シナジス接種 09年度延べ109件、10年度135件、11年度164件、12年度112件、13年63件

エピペン (アドレナリン自己注射薬) 処方件数 09年4件、10年7件、11年6件、12年14件、13年30件

食物アレルギー傾向負荷試験
09年 外来19件、入院27件
10年 外来40件、入院11件
11年 外来44件、入院6件
12年 外来70件、入院7件
13年 外来255件、入院12件

心エコー 09年355件、10年362件、11年282件、12年234件、13年190件

外科

■ スタッフ

- 診療部長、一般外科治療センター長
中光 篤志 (1982 年卒)
日本消化器外科学会認定医、広島大学臨床教授
- 消化管外科主任部長
今村 祐司 (1983 年卒)
日本外科学会外科専門医、
日本消化器外科学会消化器外科専門医
- 肝・胆・膵外科主任部長
佐々木 秀 (1991 年卒)
日本消化器外科学会消化器外科専門医、
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
- 腹部救急治療科主任部長、消化管外科部長
香山 茂平 (1993 年卒)
日本消化器外科学会消化器外科専門医、
日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)
- 臨床研修科主任部長、肝・胆・膵外科部長
大下 彰彦 (1994 年卒)
日本消化器外科学会消化器外科専門医、
日本肝臓学会専門医
- 消化管外科部長
田崎 達也 (1997 年卒)
日本消化器外科学会消化器外科専門医、
日本消化器病学会専門医
- 消化管外科部長
杉山 陽一 (1997 年卒)
日本外科学会外科専門医、
日本消化器外科学会消化器外科専門医
- 消化管外科部長
中村 浩之 (2000 年卒)
日本外科学会外科専門医、
日本消化器外科学会消化器外科専門医
- 医員 山口 拓朗 (2009 年卒)
- 医員 黒尾 優太 (2010 年卒)
- 医員 井上 聡 (2011 年卒)

■ 診療科紹介

当科はスタッフ 8 名、後期レジデント 3 名の計 11 名で消化器外科・一般外科領域の診療、手術に当たっております。スタッフは中光センター長を統括とし、上部消化管 (今村、杉山)、下部消化管 (香山、田崎)、肝胆膵 (佐々木、大下) の臓器別チームに分かれて

より専門性の高い診療を行っております。また、手術が必要な急性腹症については 24 時間対応しております。カンファレンスとしては、術後症例検討会 (月)、術前症例検討会 (火)、カンサーボード (水、関連各科合同)、病棟総合回診 (水)、抄読会 (木) を行っております。

■ 診療実績

2013 年の総手術件数は 990 例で、悪性腫瘍切除症例は、食道癌 3 例、胃癌 74 例、大腸癌 145 例、肝臓癌 18 例、胆道・膵臓癌 30 例でした。当科では、手術侵襲軽減のため、腹腔鏡手術に力を入れておりますが、悪性腫瘍に対しても適応を考慮しつつ積極的に行っております。良性疾患については、特に 2013 年は単径ヘルニアに対する腹腔鏡手術を導入し、第一選択の術式としております。直視下での手術に比べて痛みが少ないだけでなく、ヘルニアの診断・修復がより確実に出来る有用な術式です。急性胆嚢炎、急性虫垂炎、イレウス等の緊急手術においても腹腔鏡手術を積極的に行っております。



図. 腹腔的腹膜前腔修復術 (Transabdominal preperitoneal repair ; TAPP)。腹腔鏡下に腹腔内から腹膜前腔にメッシュを挿入している様子

■ 研究活動

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、日本胃癌学会、日本肝胆膵外科学会、日本内視鏡外科学会等の全国学会を始め、国際学会での発表も積極的に行っております。全国学会の主題演題にも採用されています。

乳腺外科

■ スタッフ

主任部長 川 渕 義 治 (1994 年卒)

取得資格：日本外科学会専門医
日本乳癌学会専門医

医員 吉 村 紀 子 (2008 年卒)

取得資格：日本外科学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

■ 診療科紹介

乳癌の治療方針が決まるまでには、検診による早期発見から始まり、画像・病理による的確な臨床診断のもとで、患者さんのお気持ちを組み入れた繊細かつ適切なプロセスが求められます。外科療法や放射線療法といった局所治療や、内分泌療法・化学療法・分子標的療法といった全身療法の中から、必要な治療を選び最適な順序で治療を行っていきます。また、初診時から、緩和ケアの観点に立ったサポートの提供が必要です。まさに、個々の力・チームの力が求められています。

外科療法におきましては、癌の根治性と術後の整容性のバランスのもと術式を選択しております。現在も、胸筋温存乳房切除術や乳房部分切除術が標準術式です。2013 年度、当院では 65.7% に乳房温存手術を施行いたしました。2013. 7. 1 から乳房再建術が保険適応となり、高額療養費制度も利用できるようになりました。治療選択肢が増え、より多くのニーズに応えられるようになるものと考えます。腋窩リンパ節郭清につきましては、以前より、上肢のしびれ・リンパ浮腫が懸案でございますが、2013 年度は、乳癌手術のうち腋窩リンパ節郭清は 25% にとどまっています。放射線療法や薬物療法の併用に、新たな知見も加わり、今後も郭清率は減少していくものと考えます。

外来化学療法も乳癌治療の大きな柱の一つです。外来化学療法室のサポートにより、2013 年度は、76 名の方に施行いたしました。

今後も、院外の地域連携・院内のチームのご支援

をいただきながら、広島県西部の乳腺疾患をお持ちの患者さん・ご家族の“happy”の向上を目指した取り組みを継続してまいります。

■ 診療実績

〈手術〉

乳腺悪性腫瘍手術

胸筋温存乳房切除術	34
皮膚温存乳房切除術	2
乳頭温存乳房切除術	1
乳房部分切除術	69
腫瘍摘出術	2
小計 (件)	108
腋窩リンパ節郭清	13
センチネルリンパ節生検 →腋窩リンパ節郭清	14
センチネルリンパ節生検	58

乳房再建

組織拡張器	2
腹直筋皮弁	1

乳腺良性手術

小計 (件)	14
--------	----

その他

小計 (件)	6
--------	---

合計 (件)	128
--------	-----

〈外来化学療法〉

術前化学療法	11
術後化学療法	33
進行再発化学療法	32
合計 (件)	76

■ 研究活動

日本国内で展開中の臨床試験に参加しています。

CSPOR

JBCRG

ACTG – breast

整形外科

■ スタッフ

病院長	藤本吉範 (1979年卒)
	日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 日本整形外科学会整形外科専門医
主任部長	鈴木修身 (1990年卒)
	日本整形外科学会整形外科専門医 日本手外科学会手外科専門医
部長	山田清貴 (1999年卒)
	日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 日本整形外科学会整形外科専門医
部長	橋本貴士 (2000年卒)
	日本整形外科学会専門医
部長	中前稔生 (2001年卒)
	日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 日本整形外科学会専門医
医員	松浦正己 (2009年卒)
医員	森迫泰貴 (2011年卒)

以下の如く各スタッフが専門領域を担当しています。

脊椎・脊髄疾患：藤本、山田、中前
手外科・微小外科・リウマチ外科：鈴木
関節外科：橋本
外傷：松浦、森迫

■ 診療状況

整形外科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2013年度の初診患者数は1,629名で地域医療支援病院紹介率は100%です。また当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいています。

2013年度の手術件数は1318例で、毎年継続して増えています。そのうち頸椎手術が120例、腰椎手術が550例と脊椎・脊髄疾患の手術が多いのが当科の特徴です。広島県内のみならず、中・四国地方、関西、関東からも藤本病院長のもとに紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

脊椎の手術では手術用顕微鏡を用いて、正確で低侵襲な手術を行っています。また術中に電気生理学的モニタリングを行い、手術の安全性を確保しています。症例によっては新しい手術方法である経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術も行っており、2012年度から2013年度にかけて27例の経験があります。

また当科では脊椎椎体骨折後長期の安静臥床により活動性が下がり要介護になることを予防するた

め、経皮的椎体形成術を、先進医療として中四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行ってきました。2011年からは経皮的後弯矯正術として保険診療が可能となり、継続して多く行っています。2013年度の後弯矯正手術例は168例です。

2013年度の当科の出来事で特筆すべきは、4月から病院内に脊椎・脊髄センター（センター長：山田清貴、副センター長：中前稔生）が新しく開設されたことです。当センターの目的は脊椎・脊髄疾患の治療を、医師とコメディカルが密接な連携を取りながらチームとしてより集学的に行うことです。この体制を充実させ、脊髄損傷など重篤な障害の治療も、高いレベルで行うことを目指しています。

2013年4月には3名の新しい医師が着任致しました。

主任部長の鈴木は前任の高田治彦先生の専門であった手外科、リウマチ外科の診療を引き継ぐとともに、微小外科の領域でも診療しており、外傷では切断指再接着や皮膚欠損に対する遊離皮弁術を行っています。また地域の先生方から骨壊死の患者さんを紹介して頂き、血管柄付き骨移植を行うことも増えています。同時に着任した医員の松浦、森迫は2011年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの外傷患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身状態のチェックを受けた上で、整形外科的外傷に対しても、質の高い治療を行うよう心がけています。

また整形外科診療の大きな柱のひとつである人工関節置換術についても、橋本部長が中心となり股関節・膝関節の治療を積極的に行っています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただくことも多く、手術症例数は年々増加しています。

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っており、国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えています。当科の治療成績は良好なものと思われませんが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢をもち続けていきたいと考えています。

■ 治験

腰椎椎間板ヘルニア患者を対象としたS1-6603のプラセボに対する優越性検証試験（第III相試験）
治験実施計画書番号：6603 / 1031

脳神経外科

■ スタッフ

脳神経外科主任部長

急性期リハビリテーション主任部長

黒木 一彦 1991年広島大学卒
日本脳神経外科専門医、日本救急医学会専門医

脳血管内治療科主任部長

渋川 正顕 1992年広島大学卒
日本脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治療学会認定専門医

脳神経外科副部長

織田 祥至 2005年広島大学卒
日本脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治療学会認定専門医

医員

下 永 皓 司 2008年 順天堂大学卒

以上4人のスタッフで市民の脳を24時間体制で守っています。

■ 活動報告

当院脳神経外科では脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2013年度では674人の入院があり、脳梗塞が221人、脳出血が75人、くも膜下出血29人、脳腫瘍が24人でした。手術数も年々増加傾向にあり、2013年度は204例；クリッピング手術13例、コイル塞栓術23例、頸動脈ステント留置術（CAS）16例、脳腫瘍摘出術19例、AVM摘出2例、開頭血腫除去20例でした。代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

【脳梗塞】

大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死的になることが多く、高齢化社会を迎えるにあたり予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事制限が必要なく、飲みやすくなっています。

また脳梗塞発症4時間30分以内で条件を満たせば遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ（tPA）を点滴投与することができます。8時間以内であればカテーテル治療による血栓除去術も可能です。



Tervoによる血栓除去の模式図

脳血栓症にはアテローム血栓とラクナ梗塞とに細別できます。生活の欧米化に伴い、高血圧・高脂血症が主原因である頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下の原因となります。頸部を切開し、アテロームを切除する頸動脈内膜剥離術（CEA）という治療にかわり、当院ではほぼ全例にCASを行っています。血管拡張時にアテローム血栓が遊離し、脳梗塞を生じる危険性がありますが、protection deviceの発達により危険率は低減しています。13年度は16例施行し、合併症なく良好な治療成績を収めています。

【脳出血】

高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療がほとんどです。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的な治療、つまり血圧管理、生活習慣の是正がなにより重要だと考えています。

【くも膜下出血】

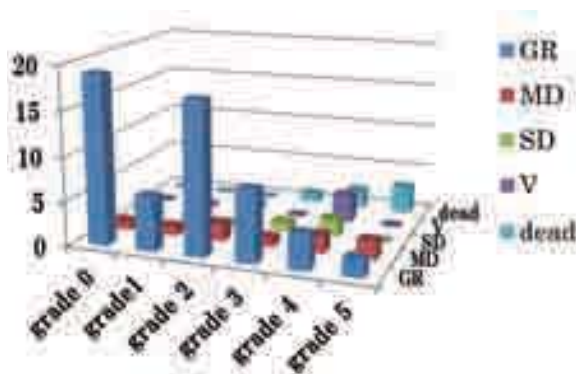
脳動脈瘤が破裂をおこすことで生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死までその症状は多岐にわたります。治療の目的は再出血予

防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。椎骨脳底瘤や前床突起近傍動脈瘤はコイル塞栓術のよい適応です。以前は wide neck 動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近ではステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。



ステントアシストコイルの模式図

開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤や wide neck、血腫を伴うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。



開頭クリッピング術治療成績 (grade 0；無症状、grade V は昏睡状態です。)

【脳腫瘍】

脳腫瘍の発生率は1年間に10万人あたり10人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類

も細別すると100種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため、②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療する、③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、ひろがりや神経機能を総合評価し、個々に治療方針をたてます。当科における2006年以降に行った88例の脳腫瘍手術中3例の術後悪化を認めました。1例は肺塞栓症、2例は術後出血による症状の悪化を生じています。それ以外は手術操作による神経症状の悪化は認めていません。85例は術前の症状を悪化させることなく治療をおこなうことができます。脳内に発生する神経膠腫は grade I - IV までありますが、浸潤性に発育するため治療が困難であり、特に grade IV においては30年以上にわたり治療成績の目立った改善がみられない難治腫瘍です。



手術風景



顕微鏡手術で使用する器具の一部

呼吸器外科

■ スタッフ

主任部長 渡 正伸 (1986年卒)
 日本呼吸器外科学会専門医、日本外科学会指導医
 医員 熊 田 高 志 (2010年卒)

■ 当科の紹介

呼吸器外科は2001年10月、新設された比較的新しい診療科です。近年増加の一途である肺癌は日本人の癌死亡の1位となっています。一昔前までは肺癌の手術は大きく開胸して行うものでしたが、昨今は胸腔鏡を用いた小さい創で行います。故に、より専門性の高い技術が要求され、呼吸器外科専門医による専門的な診療が行われています。

最近の年間手術症例は130 - 150例、そのうち肺癌根治術は50 - 70例行っています。手術侵襲を最小限とするために胸腔鏡を多用していますが、一方、拡大手術が必要とされる進行肺癌においては、高い技術と術後管理能力が問われます。中でも胸骨正中経路による両側縦隔リンパ節郭清術については県下で唯一行える呼吸器外科施設と言えます。また肺疾患(COPDなど)や低栄養、低体力、高齢の肺癌患者さんなど、手術のハイリスク患者では栄養科、リハビリテーション科と連携し術前から患者さんに関わり、肺疾患治療、栄養改善、体力改善などを行い耐術能力が向上した状態で手術を行うチーム医療を2009年より、いち早く導入して良好な成績をあげています。

また肺癌をより早期で発見するために胸部CT検診も2002年より人間ドックのオプションとして行っています。胸部CT検診の有用性は2011年の米国の報告(NLST)で証明され、県内でも実施する施設が増えてきました。しかし被曝線量を考慮し低線量CTで行う必要があります。

■ 診療実績

2013年度までの手術件数を図1に示します。術前のチーム医療を行うようになり、術後合併症は激減しています。

また2012年7月より開始した術前肺機能外来(図2)による潜在COPD患者の診断治療については、国内外の数多くの学会で発表してきました。潜在COPD患者の発見とより良い周術期管理が期待でき

る新たな取り組みです。

肺癌根治術件数と内視鏡手術の割合

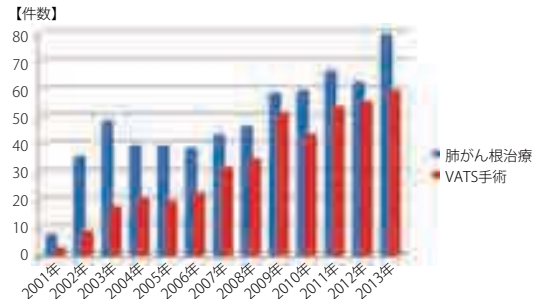


図1



図2

2013/6/16 さくらびあで第7回市民公開講座が開催されました。テーマは肺癌とCOPDで、呼吸器内科、健康管理センター、臨床検査科、栄養科、看護科とともに疾患の説明や当院の取り組みについて発表しました。当科の肺癌術後の生存曲線を図3に示しますが国立がんセンターと比較してもかなり良好な結果が示されました。

当科手術症例の生存曲線

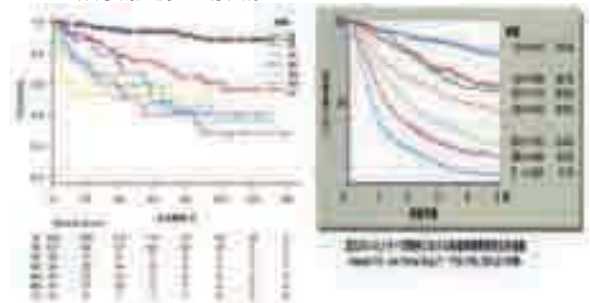


図3 当科の術後5年生存率は良好と言える。

■ 研究活動

ハイリスク肺癌手術における工夫
 術前から開始する総合的周術期管理
 術前肺機能検査によるCOPDスクリーニング

心臓血管外科

■ スタッフ

主任部長	濱 本 正 樹 (1995 年卒)
	心臓血管外科専門医、修練指導医、 外科学会専門医、指導医
部長	小 林 平 (1999 年卒)
	心臓血管外科専門医、脈管専門医
部長	小 澤 優 道 (2001 年卒)
	胸部ステントグラフト実施医、 腹部ステントグラフト指導医
医員	児 玉 裕 司 (2009 年卒)

■ 診療科紹介

心臓血管外科とは文字通り心臓と血管に対する治療を行う科です。心臓や胸部の大血管などの開心術（心臓を一時的に止め、人工心臓が必要）、胸部大動脈以下の腹部大動脈や下肢の動脈手術、下肢静脈瘤、透析に必要な内シャント造設術などの手術を行っております。JA広島総合病院心臓血管外科では、地方都市の一病院であります、先進的な手術を行っております。

最近では、若年者への僧帽弁置換術を可及的に避けるため積極的な僧帽弁形成術（人工腱索やリング）を施行して良好な結果を残しています。高齢者の弁膜症手術では可能な限りすべての弁を治療するようにしております。

また高齢者には、抗凝固療法が少なくすむ、生体弁による人工弁置換術をおこなっており、良好な成績を得ております。

胸部、腹部ともにステントグラフト（血管内治療）の実施設として認定され、胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療を開始しております。2014年2月よりステントグラフト専門医の小澤が赴任し、低侵襲なステントグラフト手術の症例数も増加しております。

重症下肢虚血は今まで難治性と言われ、下肢切断に陥る場合が多い疾患でした。当院では2009年より弁切除刀を使用したinsituバイパスで、下腿、足部を中心に血行再建を施行しております。この分野では西日本有数の施設であり、8割以上の症例で下肢を救うことができるようになっております。

■ 診療実績

2013年度の手術総数は377例であり、うち心臓大血管手術（腹部大動脈を除く）は86例でした。そのうち35例（41%）が冠動脈バイパス術、29例（34%）が弁膜症手術であり、僧帽弁形成術を主にを行っています。平均手術時間は315分でした。

ステントグラフト治療は2014年2月より本格的に始動、2ヶ月間で胸部ステントグラフト4例、腹部ステントグラフト1例を実施しました。

難治性潰瘍などの重症下肢虚血を含む閉塞性動脈硬化症に関しては個々の症例で循環器内科と協議を行い、血管内治療またはバイパス術を選択しています。血行再建術は年々増加傾向にあり、2013年は141例に施行、うち重症下肢虚血に対する下腿へのバイパスは53例に施行しています。



ステントグラフト治療風景

手術室で血管造影を行いながら、大腿部より血管内にステントグラフトを挿入する血管内治療を行っています。



術前

術後

重症下肢虚血肢に対する大伏在静脈を用いた後脛骨動脈へのバイパス術の造影：左バイパス前、右バイパス後、踵の部分で明らかに血流増加しているのがわかります。

皮膚科

■ スタッフ紹介

主任部長 森 川 博 文 (1993 年卒)

資格；皮膚科専門医
専門；皮膚科一般

医員 梅 田 直 樹 (2007 年卒)

専門；皮膚科一般

医員 森 脇 昌 哉 (2010 年卒)

専門；皮膚科一般

非常勤医師 吉 屋 直 美 (2001 年卒)

資格；皮膚科専門医
専門；皮膚科一般

■ 診療科紹介

2013 年 3 月末で秋本医師が転勤、梅田医師が 2 番目に上がり、4 月に新たに森脇医師が赴任しました。相変わらず、常勤医は男性 3 人ですが、女医さんである吉屋医師が非常勤として、週 3 回ほど勤務してくれています。そのほか、スタッフは看護師が 3 名、医療事務が 2 名、医療秘書が 1 名です。合計 10 名で診療にあたっております。

		月	火	水	木	金
外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	1 診	森川	森川	森川	森川	森川
	2 診	梅田	梅田	梅田	梅田	梅田
	3 診	森脇	森脇	森脇	森脇	森脇
	4 診	吉屋		吉屋		吉屋
午後		手術室手術	小手術	小手術	小手術	手術室手術
		病棟処置および他科の患者さんの往診				
	15:30				午後外来	
		病棟回診				

■ 皮膚科の診療内容

外来診療においては湿疹・皮膚炎群や白癬などのポピュラーなものから、難治性の皮膚疾患、薬疹に対する診療、各種皮膚の腫瘍性疾患に対し、手術なども行っております。また、入院が必要な各種皮膚疾患の患者さんに対しても、必要性に応じて随時対応をしていきます。一方、寝たきりの患者さんの生じた褥瘡に対しても、外来での加療や各病棟への往診など対応を行っています。

■ 診療実績

平成 25 年度の入院患者さんの内訳度下記に記します。

病 名	人 数
湿疹・皮膚炎群	1
蕁麻疹・痒疹	2
紅斑・紅皮症	5
中毒疹・薬疹	1
血管炎・紫斑	6
その他の脈管疾患	5
膠原病および類猿疾患	1
物理・化学的障害	32
水疱症・膿疱症	6
角化症	2
代謝異常症	0
付属器疾患	3
皮膚良性腫瘍	25
皮膚悪性腫瘍	28
細菌性皮膚疾患	47
ウイルス性皮膚疾患	33
真菌症	0
昆虫・原虫などによる皮膚疾患	0

泌尿器科

■ スタッフ

病院長代行、医療福祉支援センター長、医療秘書室長

小深田 義 勝 (1979年卒)

日本泌尿器科学会専門医

日本がん治療認定医機構暫定教育医

主任部長

丸 山 聡 (1988年卒)

日本泌尿器科学会専門医

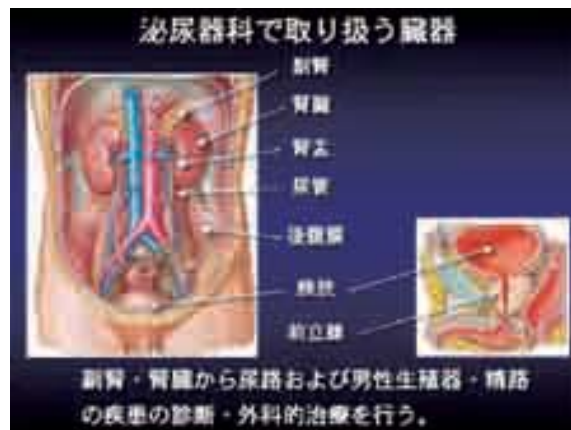
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

医員

定 秀 孝 介 (2010年卒)

■ 診療科紹介

当科では日本泌尿器科学会において認定された泌尿器科専門医らによるプロフェッショナルなチーム医療を目指しています。特に手術の低侵襲性を追求し、ほぼ全ての術式を負担の少ない腹腔鏡下手術・内視鏡外科手術に変更し、治療成績の向上とともに患者さんにやさしく満足していただける医療の両立を目指しています。



対象臓器は腎、尿管、膀胱、尿道などの尿路（尿の通り道）および前立腺、精巣、陰茎などの男性生殖器（精路）、内分泌臓器の副腎、さらに後腹膜（腹膜に包まれた腸の裏にある場所）に発生する疾患です。具体的には副腎腫瘍、腎臓がん、腎盂・尿管癌、膀胱癌などの尿路がん、前立腺癌などの悪性腫瘍や前立腺肥大症、尿路奇形、尿失禁（尿漏れ）などの

さまざまな疾患に対してプライマリーケアから先端医療まで外科的治療、放射線療法、化学療法、内科的治療などを単独もしくは組み合わせた治療を行っています。

■ 診療実績

手術統計（前立腺：110件）

TUR-P	40
恥骨後式前立腺全摘	65
LRP	5

手術統計（腎尿管副腎：33件）

腹腔鏡下腎摘除術	10
腹腔鏡下腎尿管摘除術	15
腎摘出術	1
腎尿管摘出術	1
腎部分切除術	3
逆行性腎盂造形	3

手術統計（膀胱：156件）

TUR-BT	142
膀胱全摘術回腸導管造設術	1
膀胱部分切除術	2
膀胱生検	1
膀胱脱	1
膀胱内凝血除去術	4
TUF	1
TUR-BN	4

手術統計（結石：153件）

TUL	2
TUL（レーザー使用）	7
PNL	5
膀胱結石摘出術（高位切開）	4
ESWL	135

手術統計（陰茎・陰囊：23件）

精巣摘出術	2
陰囊水腫手術	10
精液瘤根治術	2
精巣上体摘出術	1
包茎手術	6
停留精巣固定術	2

産婦人科

■ スタッフ

主任部長 中西 慶喜 (1984年卒)

医学博士
日本産科婦人科学会専門医

部長 中前 里香子 (1998年卒)

日本産科婦人科学会専門医

部長 佐野 祥子 (2001年卒)

日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医師

副部長 佐々木 美砂 (2005年卒)

日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医師

医員 佐々木 充 (2007年卒)

日本産科婦人科学会専攻医

医員 楠本 真也 (2010年卒)

日本産科婦人科学会専攻医

■ 診療科紹介

今年のトピックは分娩制限解除です。助産師不足のため夜勤態勢などが整わなくなり、2007年2月から里帰り分娩を制限してきましたが、行政の助成などにより助産師が増員となり2013年7月から里帰り分娩の受付を再開しました。分娩制限解除により徐々に里帰り分娩が増えています。

スタッフは2013年3月末で藤本医師と濱崎医師が退職し、4月から佐々木美砂医師と楠本真也医師が赴任しました。産婦人科の診療スタッフは総勢6名と変わりありません。その内3名が女性医師です。

外来での診療内容は平日午前中に妊婦健診や良性・悪性腫瘍の診断・治療を主に行っています。火・木曜日の午後には子宮鏡や子宮卵管造影などの検査や小手術などを行っています。また、助産師による母乳外来を週3回しており、産後の乳房のトラブルの相談を受け付けています。

手術は月・水・金曜日の午後から行っています。1日3～4例あり、毎年増加傾向です。悪性腫瘍の

根治手術を始め、帝王切開術、良性疾患に対しては入院期間の短く、侵襲の少ない腹腔鏡下手術や膣式手術、今後妊娠を希望される方には子宮、卵巣を温存する手術にも積極的に取り組んでいます。

病棟では上記以外に悪性腫瘍の化学療法や放射線療法などの集学的治療、分娩、異常妊娠、切迫流早産の治療などを行っています。ただし、当院には未熟児センターがなく、妊娠35週未満での早産に関しては他院に母体搬送や新生児搬送をしています。逆に母体搬送は年間約100件を受け入れており、36週まで管理できれば紹介元に逆紹介し病診連携に努めています。

■ 診療実績

手術数 505 件 (うち悪性腫瘍手術 73 件)

分娩数 566 件

■ 研究活動

2012年1月から広島大学病院産科婦人科との共同研究として「子宮内膜症術後再発抑制に対するディナゲストとGnRH製剤の有効性と安全性に関するランダム化並行群間比較試験」を行っています。

眼科

■ スタッフ

主任部長 二井 宏 紀 (1986年卒)

資格 眼科専門医

専門 緑内障、白内障

医員 井上 千 絵 (2007年卒)

専門 眼科一般

■ 診療科紹介

眼科スタッフは昨年同様、当院が16年目の私(二井)と3年目の末岡(旧姓井上)千絵先生です。他は、看護師が2名、視能訓練士が3名(うち1名病休中)で、他に事務1名(OMAの有資格者)です。

■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週3回午後から行っており、概ね一日5例行っており、毎年増加傾向です。

2013年度の手術実績は、白内障427例、緑内障44例(緑内障単独手術29例、緑内障・白内障同時手術15例)、その他82例の計553例です。緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が9例、線維柱帯切除術が20例、白内障手術併用線維柱帯切開術が10例、白内障手術併用線維柱帯切除術が2例、白内障手術併用隅角癒着解離術が3例、と例年同様でした。白内障手術は昨年同様全例に極小切開白内障手術(切開幅が2.0~2.3mm)を行っています。

新たな治療として、従来から加齢黄斑変性症治療薬として認可されていた抗VEGF薬が網膜静脈閉塞症・糖尿病黄斑症への適応追加となったことから今年3月から採用し硝子体内注射を開始しました。

■ 研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。また、緑内障新薬の治験も行っています。



手術中写真

耳鼻咽喉科

■ スタッフ

主任部長 兼 見 良 典 (1988年 広島大学卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医、広島大学医学部臨床教授

主任部長代理 高 本 宗 男 (1992年 広島大学卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医、気管食道科学会専門医

部長 水 野 一 志 (1995年 広島大学卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医
平成25年10月に退職し開業

医員 岡 林 大 (2010年 広島大学卒)
平成25年9月より赴任

■ 診療科紹介

2013年9月で水野医師が退職され、宮内串戸前に耳鼻咽喉科医院を開業されました。入院治療や手術を必要とする患者さんを多数紹介してもらっています。水野医師に代わり9月より県立広島病院から岡林医師が赴任しました。耳鼻咽喉科医としては年数が浅いですが、バイタリティーがあり新卒後研修制度を経てきているので、全身管理にも明るく当科に新風を吹き込んでいます。彼が赴任してからは、外来の診療机まわりが整理整頓され、スタッフの控え室もすっきりしました。また富士通の新電子カルテシステムの導入に当たり、使いやすいように耳鼻科セットの作成やセッティングも手がけてくれています。

当科は耳鼻咽喉科領域の全般の一般診療、手術並びに頭頸部外科として甲状腺腫瘍や頭頸部癌の診療をおこなっています。外来診療は月～金曜の午前中です。初診担当は兼見医師が月、水曜日、高本医師が火、金曜日、岡林医師が木曜日です。月曜午後には甲状腺エコー外来を、水曜、金曜午後は外来手術や嚥下内視鏡検査など行っています。手術日は火曜、木曜の午後（全身麻酔）と水曜の午後（局所麻酔）となっています。

■ 診療実績

手術室での手術件数は例年250件前後ですが、本年度は若干少なく216件でした。外来手術を含めると300件程度となり例年と大きく変わっておりません。頭頸部癌の新規治療患者は23例、甲状腺外科手術は15件と増加傾向にあります。

頭頸部癌に対する新薬として期待されている、分子標的抗がん剤セツキシマブが2012年12月に頭頸部癌に対する適応となり、2013年2月に薬価収載され当科でも使用できるようになりました。本年度の使用実績は16例で、広島県では広島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に次いで2番目に多い症例数です。これは当院が癌化学療法委員会など通して、薬剤部をはじめとする各科の連携が非常にうまくいっている成果だと思えます。

また2014年1月26日の廿日市市民公開講座で兼見医師が脳神経外科の黒木医師、渋川医師とともにめまいについて講演しました。

■ 研究活動

前年に続き味覚障害に対する治験（Z-103）を継続しています。

放射線治療科

■ スタッフ

主任部長

桐生 浩 司 昭和 61 年広島大学卒

日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定治療専門医、
日本癌治療認定医機構認定癌治療認定医

放射線治療科医師

竹内 有 樹 平成 21 年鳥取大学卒

(平成 25 年 9 月 30 日まで 広島市民病院に転勤)

放射線治療科医師

廣川 淳 一 平成 22 年広島大学卒

(広島大学病院より、平成 25 年 10 月 1 日赴任)

■ 診療状況

平成 25 年 9 月 30 日に竹内有樹が広島市民病院に転勤し、10 月 1 日新たに広島大学病院より廣川淳一が赴任しました。

診療放射線技師は 3 名体制で、中村哲之（放射線治療専門技師）、海老谷京子（放射線治療品質管理士）が常勤で、砂田研二、高橋昌史（8 月よりは重田祐輔）が交替となっています。

看護師は河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）、受付は奥田志帆です。

以上 8 名で診療に当たっています。

■ 診療実績

1) 脳・脊髄	3
2) 頭頸部	13
3) 食道	10
4) 肺・気管・縦隔	42
4) のうち肺	41
5) 乳腺	68
6) 肝・胆・膵	8
7) 胃・小腸・大腸	12
8) 婦人科	6
9) 泌尿器系	56
9) のうち前立腺	41
10) 造血器・リンパ系	2
11) 皮膚・骨軟部	2

2013 年度の新患数は 222 名、のべ治療患者数は 259 名です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。高精度放射線治療としては、前立腺癌の IMRT を 17 名に、体幹部定位照射（肺）を 3 名に施行しています。

■ 診療科紹介・当科の特徴

放射線治療は手術、抗がん剤とならぶ、癌治療の 3 本柱です。

メスを入れずに癌を治療する、したがって体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴です。また、臓器を残す（温存する）ため、機能・形態が温存可能というメリットがあります。

また、（治癒をめざした）根治照射から、（症状軽減のための）緩和照射まで、その役割は多岐にわたります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので

水曜日；cancer board（消化器内科・外科・画像診断部・当科）

水曜日；呼吸器カンファレンス（呼吸器内科・呼吸器外科・当科）

水曜日；乳腺カンファレンス（乳腺外科・当科）

木曜日；緩和ケアカンファレンス（消化器内科・麻酔科・外科・呼吸器内科・心療内科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科）

と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には

① IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療をおこなっている一般病院

② 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限にいかすよう時間調整している。

③ 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行うようとりくんでいる。

④ 病棟を持ち、とくに化学放射線療法の患者・緩和照射の患者の主治医となっている。

などが、当科の特徴といえるかと思います。

また、がん拠点病院の要件ともなる、（医療従事者向を対象とした）放射線治療講習会を年 1 回開催することとなりました（2013 年 9 月 10 日に開催；桐生浩司・河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）が担当）。

今後も、がん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

画像診断部

■ スタッフ

主任部長 西原 礼介 (1994年卒)

放射線診断専門医

PET 核医学認定医

部長 太刀掛 俊治 (1998年卒)

放射線診断専門医

■ 診療科紹介

- CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、造影検査（胃透視、注腸）を施行しています。
 - IVR は、肝細胞癌に対する TACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
 - 肝切除前に残肝部分を肥大させるため、経皮経肝門脈塞栓術（PEPE）を外科医と協力して施行しています。
 - Nonvascular IVR として、CT を利用した生検（CT ガイド下生検）や膿瘍ドレナージ（CT ガイド下ドレナージ）を行っています。
 - 検診センターからの脳ドック施行と画像診断を行っています。
 - 開業医の先生から CT、MRI や骨塩定量、マンモグラフィなどの検査依頼を受け、その検査や画像診断を行っています。
 - 救急外来などからの時間外の読影依頼を在宅で行えるようなシステムが構築されています。
 - 遠隔読影は3月31日に終了いたしました。
- 〈今年度新たに始めたこと〉
- 脳ドック受診者のうち、希望者に結果説明を行うことにしました。
 - 本院にて検診胃透視の読影を行うようにしました。
 - 1月1日の新電子カルテシステム稼動に伴い、RIS（横河メディカル）、検像機（iRad - QA）を導入し、検査が円滑に施行できるようになりました。



■ 診療実績

2013年度画像診断件数（2013.4.1～2013.12.31）

CT	8917
MRI	5065
胃透視	59
注腸	46
核医学	391
血管造影	86

麻酔科

■ スタッフ

副院長

中尾 正和 (山口大学 1979 卒)
麻酔科主任部長、臨床研修プログラム責任者、臨床研修指導医、医学博士、麻酔科学会麻酔指導医、ICLS インストラクター、JPTEC CMD、査読者；Journal of Anesthesia、日本臨床麻酔学会雑誌、麻酔と蘇生

手術室中材主任部長

松本 千香子 (長崎大学 1979 卒)
麻酔科学会麻酔指導医、臨床研修指導医

地域救命救急センター長

吉田 研一 (広島大学 1984 卒)
救急・集中治療部門責任者、医学博士、臨床研修指導医

救急麻酔治療科主任部長

新澤 正秀 (島根医科大学 1993 卒)
麻酔科学会麻酔指導医、心臓血管麻酔認定医、臨床研修指導医

部長

本多 亮子 (愛媛大学 1998 卒)
麻酔科学会麻酔指導医、米国心臓学会認定 ACLS インストラクター、集中治療医学会認定医、臨床研修指導医

部長

檜高 育宏 (広島大学 1999 卒)
麻酔科学会麻酔指導医、ペインクリニック学会認定医

医員

梅田 絢子 (愛媛大学 2007 卒)
麻酔科学会認定医、(2013 年度に専門医合格)

医員

片岡 宏子 (広島大学 2009 卒)
麻酔科後期研修中 (2012 / 9 -)



■ 診療実績

2013 年度の手術件数は 5,215 例で、うち麻酔科管理は 3,611 例で、中央部門として大きな役割を果たしています。(前週木曜日の計画締め切り後に申し

込まれた追加手術が 1,021 例 (19.6%)、当日申し込みの緊急手術が 753 例 (14.4%) と計画外手術が多いのが特徴です)

麻酔管理の診療科別内訳は外科 978、整形外科 1101、泌尿器科 353、産婦人科 386、耳鼻科 206、心臓血管外科 222、呼吸器外科 136、口腔外科 76、脳外科 77、皮膚科 36、形成外科 30 眼科 6 など newborn を除く多岐にわたっています。

ペインクリニック；平日午前のみですが、外来で痛みをもつ患者の治療を担っています。ペインクリニック学会認定医の檜高が赴任しました。松本が緩和ケアチームの一員です。

救急・集中治療 (地域救命救急センター、ICU のセクション参照)

■ 麻酔科の機器

麻酔ワークステーション；ドレーゲル社全身麻酔器 Fabius GS をベースに、フィリップス社インテリビューモニターを統合し、安全で信頼性の高いシステムを構築しています。

自動麻酔記録システム；PaperChart を神戸海星病院の越川正嗣 Dr と共同開発したもので、静脈麻酔薬を投与するポンプもオンライン接続して活用しています。

高次脳波モニター BIS の全室配備；患者さんの術中覚醒防止と麻酔薬の調整に有用な BIS モデル A2000 を全手術室に配備し全身麻酔患者さんに利用しています。当院のように手術室が 9 室あるような大きめの一般病院では全国で数番目と早期から導入されています。実際の麻酔の品質管理にも役立っています。

筋弛緩モニタリング TOFwatchSx monitor を全手術室に配置し、PC に取り込み客観的な筋弛緩レベルを確認しています。

■ 基本活動

- 麻酔科学会認定指導病院 (No 421)
 - 初期研修医の医師としての基本的手技を含めた基礎教育
 - 1 年次必須ローテーション 10 名 8wk
 - 2 年次選択ローテーション 1 名 8wk
 - 後期研修医の麻酔科医への養成指導
 - ガイドラインによる歯科医師の医科麻酔研修施設
 - 広島大学医学部生に対する学外教育
 - 救急救命士の就業前研修、就業後研修、気管挿管などの実習病院
 - 女性麻酔科医師復帰支援機構の協力病院
- など、多くの役割を果たしています。



■ 研究活動

- 臨床治験；ペインクリニックでの、1 日貼り替え型フェンタニルテープの良性疾患への適応拡大
- GlideScope、AirwayScope ビデオ喉頭鏡による安全で速やかな気管挿管に関する研究
- ビデオ喉頭鏡を利用した、気管挿管技術習得の品質管理

■ その他活動内容

- 救急蘇生の講習会 日本救急医学会認定 ICLS 認定コース 開催
- 外傷のプレホスピタルケア JPTEC 認定コース 開催 CMD (中尾)
- 院内職員向け AED 講習会 講師 (中尾)
- 院外 AHA 認定 ACLS コース インストラクターとして指導 (本多)

歯科口腔外科

■ スタッフ

主任部長 原 田 直
 歯科医師 安 田 雅 美
 臨床研修医 加 藤 大 喜
 歯科衛生士 石 井 真 弓・野 坂 優 子
 歯科助手 大 野 陽 子

■ 診療科紹介

口腔外科では、歯・口腔・顎（あご）・顔面領域に生じる種々の病気に対して、外科治療および周術期の口腔管理を中心に行っています。その専門性から、広島佐伯区歯科医師会、佐伯歯科医師会、広島西部地区の医療施設から紹介された患者様の診療（当科は予約診療）を行っており、外来での小手術から入院下での手術などを行っています。また当院での各診療科の治療成績の向上、治療時のリスクの除外など医科診療科の診療を優先することを心がけて周術期（化学療法、放射線療法、BMA の使用を含む）の口腔管理を行っています。

■ 診療実績

年間新患約 1,800 人で内、歯科医師会より 6 割、医師会より 4 割の紹介を受けています。顎口腔領域に生じる腫瘍や外傷、炎症などを対照に年間、全身麻酔入院下の手術を約 100 例、局所麻酔下の外来小手術は約 400 例を行っており、咬合咀嚼機能の回復を第一にしています。加えて、他科の癌患者、心臓血管手術前、化学療法、放射線照射前の周術期口腔管理、口腔衛生は約 150 例行っており、さらに体内人工物埋入例の手術前後の口腔衛生管理も行い、顎骨壊死や体内人工物感染の防止に対し好成績をあげています。

口腔外科受診症例（2013 年）		件数
先天異常	小帯異常	20
外 傷	骨折	13
	軟組織創傷	25
炎 症	膿瘍	34
	その他	48
睡眠時無呼吸症候群	マウスピース作成	7
口腔粘膜疾患		284
良性腫瘍		126
悪性腫瘍		14
唾液腺疾患		12
智歯抜歯		450
神経性疾患		10
歯周疾患		745
顎関節疾患		650

救急・集中治療科

■ スタッフ

平成25年度、当科は、表1に示すように総勢6名（専属スタッフは5名）で救急・集中治療の診療行為を施行しました。また日本救急医学会認定救急専門医研修施設でもあります。

表1 救急・集中治療科メンバー

氏名（卒年）	役職	資格	専門分野
吉田 研一 （昭59年卒業）	地域救命救急センター長 救急・集中治療科主任 部長	医学博士 日本救急医学会専門医 臨床教授（広島大学 救急医学）	集中治療・ 救急医療
櫻谷 正明 （平18年卒業）	医員	日本救急医学会専門 医	集中治療・ 救急医療
河村 夏生 （平22年卒業）	医員		集中治療・ 救急医療
平田 旭 （平23年卒業）	医員		集中治療・ 救急医療
高場 章宏 （平23年卒業）	医員		集中治療・ 救急医療
加藤 楽 （平10年卒業）	医員	外科専門医	外科

■ 診療科の紹介

救急・集中治療科は、「内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する」部門です。

このたび、平成23年4月から地域救命救急センターとして組織変更し、より患者さんへもわかりやすい救急体制が認可されました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしく申し上げます。

■ 診療実績

平成25年度

年間救急搬送患者数 3,376 台

年間救急来院患者数 6,686 人

平成25年度の年間重篤患者数を表2に示します。

表2 救急・集中治療科実績（厚生労働省報告）^(人)

番号	疾病名	患者数	退院・転院	死亡
1	病院外心停止	142	8	134
2	重症急性冠症候群	98	94	4
3	重症大動脈疾患	39	34	5
4	重症脳血管疾患	133	128	5
5	重症外傷	82	74	8
6	重症熱傷	4	4	0
7	重症急性中毒	59	59	0
8	重症消化管出血	49	47	2
9	重症敗血症	37	30	7
10	重症体温異常	17	16	1
11	特殊感染症	7	7	0
12	重症呼吸不全	42	38	4
13	重症急性心不全	44	41	3
14	重症出血性ショック	11	7	4
15	重症意識障害	19	18	1
16	重篤な肝不全	4	2	2
17	重篤な急性腎不全	19	19	0
18	その他の重症病態	12	12	0
合計		818	638	180

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

■ 研究活動

①重症感染症（敗血症）患者の救命率の向上

重症感染症（敗血症）は、細菌によって引き起こされた全身性炎症反応症候群（SIRS）です。細菌感染症の全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、無治療ではショック、DIC、多臓器不全などから早晚死に至ります。もともとの体力低下を背景としていることが多く、治療成績も決して良好ではありません。当院でもその死亡率は高く、28 - 35%（2008 - 2013年）の患者さんが亡くなられています。

Surviving Sepsis Campaign Guideline 2012 では循環管理だけではなく感染対策、続発する臓器不全や周辺病態に対しての集中治療が示されています。当院では特に初期蘇生の循環管理について early goal - direct therapy（EGDT）を積極的に推し進めています。

なおEGDTを行う場合は大量輸液によって肺の酸素化が障害される場合があり、人工呼吸器管理となることがあります。当院では高頻度振動換気法を導入し、その治療成績を検討しています。

②低温療法の導入

脳低温療法とは、脳が障害を受けた際に脳の障害がそれ以上進行することを防止するため、体温を低く保つ治療法です。通常、脳が重大な障害を受けた際には脳組織に浮腫が起こるほか、カテコールアミンやフリーラジカルなどが放出され、進行的に組織が破壊されていきます。救急の脳障害においては、この進行的な脳組織の破壊を抑制することで救命率・機能予後の向上が見込まれ、またそれを抑制する事が重要な課題となっています。

蘇生ガイドライン 2010 (ACLS 2010) でも脳低温療法が新たに加えられたことを契機に、当院でも水冷式ブランケットを用いて患者の体温を 34℃程度に下げること、代謝機能を低下させて、脳内での有害な反応の進行速度を抑え、蘇生後脳症の治療成績の向上に努めています。

③オートプシー・イメージングの検討

オートプシー・イメージング (Autopsy imaging、Ai) とは、狭義では死亡時画像診断のことです。コンピュータ断層撮影 (CT) や核磁気共鳴画像法 (MRI) などによって撮影された死後画像により、死体にどのような器質的病変を生じているのかを診断することによって、死亡時の病態把握、死因の究明を目的とします。

当院では 2007 年よりオートプシー・イメージングを導入し画像診断部の支援のもとに、Ai 認定施設 (クラス A) となっています。救急搬送された患者のうち、290 例近くの Ai 施行にて、約 4 割の患者の死亡原因の診断・推定に役立ちました。

救急搬送される症例には、自宅での服毒自殺や幼児虐待などの外因死の可能性がある症例が含まれます。体表の情報からこれらを判断するには限界があり、Ai を取り入れることにより正確な判断が可能になる可能性があります。外因死などが疑われる場合には、所轄の警察署へ検視依頼を行っています。

緩和ケア科

緩和ケア科は2007年に発足した緩和ケアチームを母体として2010年に創設されました。コンサルト型の緩和ケアチームによる病棟入院患者様の緩和ケアと2012年7月に緩和ケア病床を西8階病棟の一角に5床を開床し緩和ケア科を主科としての専門的緩和ケアを提供しております。現在は院内のプライマリー科から病床依頼があれば緩和ケア科へ転科しチームで方向性を共有し専門的な緩和治療の実践を行っています。

また、地域に対して、県から依頼された地域在宅緩和ケア推進事業の取り組みを始めました。五師士会の連携を用いて連絡協議会、現状調査を行い、在宅緩和ケア連携の運用方法を作成しました。在宅緩和ケア支援組み入れ件数は13件です。

■ 医師・スタッフ紹介

主任部長

小松 弘 尚 (1985年 広島大学卒)

日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医)、緩和ケアチーム各員(略)

看護科主任

高原 さおり (緩和ケア認定看護師)

臨床心理士

南 佳 織

病棟スタッフ

科長 鶴谷 理 恵

主任 岡田 恵美子 (緩和ケア認定看護師)

■ 診療実績

(ア) 緩和ケア外来：2/週 水・木曜日午後診：原則として罹患がんの主科との併診により緩和ケアを提供。2013年度 延べ外来受診患者数563件です。

(イ) 緩和ケア病床(西8階7床)：チーム業績(別記)とは別に、緩和ケア科を主科・プライマリー科医師を副主治医として診療。診療総数91件。

図1に示します。平均在院日数は22日です。

緩和ケア外来・緩和ケア病床において、がん患者・家族に対して全人的ケアを提供しています。

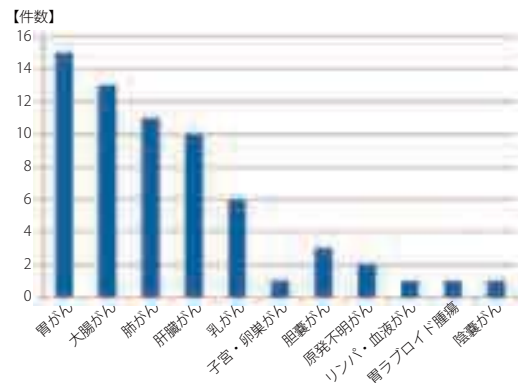


図1 疾患総数91件疾患別

■ 各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき過不足ないように主治医と連携し調節します。症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

【がん患者リハビリテーション】

外来では加算の算定が出来ない背景もあり、主には入院患者が対象です。がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

【がん患者カウンセリング】

各科主治医(緩和ケアに関わる医師に対する研修会を終了している)と緩和ケア認定看護師等が協力して患者の病状説明、その後の意思決定支援にあたります。

2013年度35件のカウンセリング実施。

【リンパ浮腫相談】

主治医の指示のもと、リンパ浮腫を患う患者に対して相談、指導、バンテージや弾性着衣の調整を行います。

リンパ浮腫に対するリハビリの処方がある場合、外来で施術も行います。

■ 研修会実績

- ・ 院内外医療従事者対象緩和ケア研修会開催
- ・ 地域のがんを診療する医師に対する研修会開催

健康管理センター

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JAグループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域のJA組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

■スタッフ

診療部長・センター長

主任部長

臨床研究検査科部長

碓井裕史 (1977年)

日本人間ドック学会

認定医・産業医

課長 (保健師)

久保知子

課長補佐 (事務)

馬場 諭

主任 (保健師)

野村 恵美

保健師 5名

事務 5名

委託 (受付・予約) 4名

(車両業務) 1名

臨時職員

(医師2名、看護師8名、助手2名、

臨床検査技師2名、)

【取得資格】

人間ドックアドバイザー3名、禁煙専門看護師1名

健康運動指導士1名、心理相談員1名

【所属学会】

日本人間ドック学会、日本癌学会、日本農村医学会

日本乳癌検診学会、日本禁煙学会

【各種所属委員】

JAグループメンタルヘルス協議会

廿日市市国保ヘルスアップ運営委員会

【担当事務局】

広島県農村医学研究所

JA広島厚生連医学会

日本農村医学会

■活動内容

○施設内健診は、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託ドック、各種がん検診を中心に実施しています。新企画としてJA佐伯中央ふ

れあい課と共に「JA佐伯中央ピンクリボン検診」や当院消化器内科と画像診断部と共に「すい臓がんMR検診」を開始しました。また、胸部CT検診の利用推進を図るためご案内(写真)を作成しました。10月第3日曜日のJMSマンモグラフィーサンデーは女性放射線技師の協力のもと3年目を迎え、毎年好評です。



○巡回健診はJAグループ、廿日市市、佐伯地区医師会等の委託健診を中心に実施しています。健診の種類はJA組合員健診、職員健診、胃がん検診、学生健診などをおこなっています。

○保健師の活動は、施設内健診、巡回健診、健康教育、学術研究まで多岐にわたります。人間ドックでは受診者の不安の軽減や事後指導まできめ細かい対応を心掛けています。また、JA健康まつり、JA健康教室、JA広報誌の執筆活動、安心・安全な健診を提供するための研修会なども開催しています。



■平成 25 年度活動実績

○施設内健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
入院ドック	32	32
外来ドック	234	2,686
協会けんぽ健診	195	1,268
原爆一般・がん検診	66	80
原爆2世健診	70	97
個別子宮がん検診	114	129
個別乳がん検診	59	199
健康診断	130	1,598
特定保健指導	109	117
その他	241	1,203
計	1,250	7,409

*特定保健指導はのべ人数を計上

○巡回健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
生活習慣病予防健診	25	697
肝炎検診	4	19
胃がん検診	19	475
職員健診	57	3,761
大腸がん検診	4	415
特定・後期高齢者健診	4	523
その他	8	938
計	121	6,828

■平成 25 年度がん検診部位別精密検査受診状況

○施設内検診

		受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率 (%)	がん発見数(人)	がん発見率 (%)
胃部	バリウム	1,443	52	3.6	35	67.3	0	0
	カメラ	1,942	192	9.9	158	82.3	7	0.36
胸部	レントゲン	4,861	85	1.7	67	78.8	0	0.00
	CT	177	8	4.5	6	75.0	1	0.56
大腸 (便潜血反応)		3,828	184	4.8	109	59.2	1	0.03
乳部		1,183	90	7.6	80	88.9	2	0.17
子宮頸部		1,195	53	4.4	37	69.8	1	0.08
前立腺 (PSA)		1,068	27	2.5	17	63.0	6	0.56

○巡回検診

	受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率 (%)	がん発見数(人)	がん発見率 (%)
胃部間接レントゲン	475	4	0.8	1	25.0	0	0
胸部間接レントゲン	4,844	35	0.7	18	51.4	1	0.02
大腸 (便潜血反応)	1,724	84	4.9	26	31.0	1	0.06
前立腺 (PSA)	396	5	1.3	1	20.0	1	0.25

形成外科

■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003年広島大学卒業)
資格 日本形成外科学会専門医、医学博士
専門 形成外科一般

■ 診療科紹介

2012年4月より再開し、早くも一年が経過いたしました。紹介患者を送ってくださる科や医院が増え、手術症例は昨年度に比べて約1.5倍に増えました。当院では乳腺外科、心臓血管外科、脳外科、消化器外科、皮膚科との共同手術が実現しましたし、眼科からは多くの眼瞼下垂、睫毛内反の症例をご紹介いただきました。皆さんのお力添えのお陰で、形成外科診療の体制が整ってきたと感じております。

当科の入院患者は基本的に西5病棟に受け入れて頂いていますが、下肢虚血は東7、東8病棟に、また乳癌関係の患者さんは東6病棟にお世話になっています。感染創では日々の洗浄が欠かせませんので、看護師サイドで対応して頂く事も多いのですが、この一年でずいぶんと手技に慣れていただき、傷の管理がとてよくなったと思っております。多病棟に顔を出すのも当科の特徴の一つですので、今後も病院全体の創傷処置の底上げに繋げていきたいと思っております。

■ 診療実績

初診患者数	242例
手術症例数	計139件
内訳 全身麻酔	49件
腰麻・伝達麻酔	18件
局所麻酔	72件



■トピックス1：保険適応外の診療で対応できるものが増えました。

外傷後色素沈着の治療：

擦過傷のような真皮浅層にとどまる創傷は瘢痕を残さずに治癒しますが、外傷時に伴った炎症によりメラノサイトが活性化しメラニン色素が過剰に産生され色素沈着を残します。年単位の長い時間をかければ、徐々に薄くなることが期待できますが、その期間をできるだけ短くしたいと望まれる患者さんは多くいらっしゃいます。そこで、この度、メラニン色素の排泄を促進する成分（パルミチン酸レチノール）とメラニン色素の合成を抑制する成分（アスコルビン酸、ハイドロキノン）が配合された外用剤を用いた治療を炎症後色素沈着の症例に限って提供する保険外診療を始めました。

■トピックス2：保険診療でできるようになりました。

乳癌術後の乳房再建手術：

乳房再建を目的としたブレストインプラントおよびティッシュエキスパンダーに関して、2012年9月28日に新医療機器として導入されることが厚生労働省により承認され、2013年7月に保険適用となりました。しかし、ブレスト・インプラントは合併症などにおいて国内外においていろいろ経緯のあるものなので、安易な使用は厳に慎む必要があります。そこで最初から全ての施設で使用することを目指すのではなく、実施体制の整った施設から順次使用を拡大して行くことが重要視されました。手術実施医は予め講習会を受け、実施医、実施施設の審査・認定を受けて初めて使用が許されます。当院では、乳腺外科医、形成外科医ともに実施医の資格をいち早く取得し、保険診療でインプラントによる乳房再建が患者さんに提供できるよう体制を整えました。

病理研究検査科

■ スタッフ

主任部長 台 丸 裕

科長 水 野 誠 士

臨床検査技師 6名

事務 1名

業環境管理が適切であるとされる第1管理区分になりました。

■ 取得資格

病理専門医 1名

細胞診専門医 1名

病理解剖資格 1名

細胞検査士 4名

国際細胞検査士 2名

二級甲類臨床病理技術士 3名

(病理学 3)

診療情報管理士 1名

■ 所属学会

日本病理学会

日本臨床細胞学会

日本臨床衛生検査技師会

■ 業務内容

病理組織・細胞診検査・病理解剖

検査件数 (2013年度)

組織検査 5454件 (前年より108件増)

術中迅速検査 378件 (// 73件減)

細胞診検査 6834件 (// 17件増)

術中迅速細胞診 77件 (// 35件減)

病理解剖 7件 (// 3件増)

■ トピックス

〈解剖室への局所換気装置の設置〉

年2回行われる作業環境測定で、解剖室のホルムアルデヒドの第2管理区分が続いており、作業環境管理に改善の余地があるとされる状態でしたが、病理解剖後の測定で第3管理区分：作業環境管理が適切でないとする状態という結果が出たため、局所換気装置の導入をしました。導入後の測定では、作

研修医室

■ スタッフ

研修医

〈2年目〉

下地 清史、馬場 健太、田口 慧、本田 寛和
宮本 俊輔、石田 大史、藤野 修、天野愛純
香林 晴奈

〈1年目〉

筒井 徹、児玉 亮也、永島慎太郎、中野 貴之
棚橋 弘貴、田妻 昌、末廣 洋介、山口 哲司
白石 剛章、田中 晶康

歯科研修医

加藤 大喜

■ 概要

- 臨床研修医室には研修医、歯科研修医あわせて20名のスタッフがおり、それぞれ、定められたプログラムに則り、研修生活を送っています。
- 研修医は1年目に内科系6ヶ月、麻酔科2ヶ月、救急・集中治療科2ヶ月、産婦人科・外科系1ヶ月をローテーションし、2年目は小児科・地域医療・精神科で1ヶ月、健康管理センターで0.5ヶ月ずつ研修し、残りは希望する科で研修することができます。

■ 活動内容

- 研修医の重要な業務に、休日・夜間の日当直業務があります。救急・集中治療科と一般当直、2人の上級医の先生とともに、主に救急車で搬送されてくる患者さんの診療に当たっています。救急患者さんの診療はとても緊張感のある時間ですが、頭を働かせ、手を動かし、実臨床に当たることで、我々研修医が大きく成長できる現場だと思います。また、1年目研修医と2年目研修医がペアで仕事にあたるため、1年目にとっては最も身近な2年目に気軽に質問できる環境であり、2年目にとっては初めて後輩指導に当たる大切な時間です。日当直の時間に経験した症例に関しては、毎週月曜日の早朝に行われるEarly Bird Lecture (EBL)で発表し合い、研修医同士で症例を共有することができます。
- 当院では、研修医教育に熱心な上級医の先生方のもと、あらゆる検査や処置に、研修医が積極的に

参加しています。患者さんに不利益をもたらすことの無いよう、模型を使った練習に加え、研修医同士で手技の練習をし合いながら、確実な手技を実行できるように訓練しております。

- 当院の臨床研修医は夏・冬に開催されるER-updateという救急の研修会に参加する機会があります。講義だけでなく実践形式の研修もあるので様々な手技を学ぶ貴重なイベントです。また、全国の初期・後期研修医が参加する場なので、彼らと交流することで研修医としての自分の達成度を知ることができます。
- BLS・ACLS・JPTEC・JATEC・FCCS・TNTなど、様々な講座を受講し、資格を取得するための補助を受けることができます。若手医師のためのセミナーや勉強会などにも数多く参加でき、対外面としては中四国の地方レベルから、場合によっては海外の学会まで、上級医の指導を仰ぎながら学会発表をする機会もあります。
- 当院は後期研修医として3年目にも、初期研修医から継続して当院での研修を希望する先輩方が多いのが特徴です。それは、初期研修で慣れ親しんだ環境であるのは勿論、3年目以降も研修をしたいと思えるような素晴らしい上級医の先生方、スタッフの皆さん、意欲あふれる同期や後輩の存在があるからだと思っています。



平成25年度 臨床研修医



研修医室にて

看護科

■看護科の理念と目標

□看護科の理念

病院基本理念に則り地域の中核病院として看護の果たすべき役割を自覚して実践し、患者の安全と生活の質を守り地域社会から信頼される看護を目指します。

■2013年看護科目標

心と心の通い合うハート♡ふるナーシング
～看護をもっと見えるかたちに～

1. チーム医療の中で看護の役割を遂行して、患者さんに選んでもらえる病院にしよう！
 - 1) 看護の専門性が見える化し、アピールする
 - 2) 患者・家族に一番近い代弁者として、医療者とのコーディネーター役を担う
2. 専門職として知識・技術・態度を磨き、自律した看護師をめざそう
 - 1) クリニカルリーダーなどをツールにしてキャリアアップをはかる
 - 2) 自分で考えて行動できる看護師をめざす
3. 人財・設備・資金・時間・情報を有効に活用し、働きやすい職場環境をつくろう！
 - 1) 相手を認め支えあう職場をめざす
 - 2) 安全性や効率性を考えて、看護に専念できる仕組みを整える

■2013年度看護科の活動

地域社会に知ってもらうための活動を紹介します。

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲール生誕を記念して毎年5月12日を看護の日としています。この日を中心に全国で様々な事業が行われています。ふれあい看護体験は“看護の心をみんなのところに”のテーマのもとに地域の多くの方に看護のことを知って頂くために始まった取り組みです。広島県では看護協会が主体となり、県内の96か所の病院が参加して行われています。当院も地域から信頼される病院作りと看護に親しみ、将来の職業選択に活かしてほしいと多くの高校生を受け入れています。

目的は、医療関係者との交流を通して看護や医療について考える機会とする。そして、患者さんとのふれあいを通して看護や命について理解と関心を深めるです。今年は平成25年8月1日（木）に高校生36名が参加して開催することができました。



参加した高校生の感想です。

・今日のふれあい看護体験を今までとても楽しみにしていました。私は将来医療系の仕事に就くことを目指しているのもとても意味のあるものになりました。特に印象に残っていることは看護師さんと患者さんが会話していた場面です。患者さんは高齢の方で会話が困難な方が多かったです。普通では何を行っているのかわからない言葉でも看護師さんはきちんと気持ちを読み取ってすごいと思いました。(中略) 私は人とふれあう仕事に就きたいと思っていますがコミュニケーションをとることは上手ではありません。だから今日の経験の看護師さんの姿を目標にしてコミュニケーション力を伸ばしていきたいです。(高校2年女子)

こんな嬉しい感想を頂き、お迎えした私たちも嬉しく元気が出た一日となりました。多くの方に看護のこころを体験してもらえるように、また、高校生の夢の応援をしていける一日にしたいと思います。

外 来

■スタッフ

科長	石 崎 淳 子・坂 尻 明 美
	中 元 美 恵・野 田 明 美
主任	野 村 昌 代・高 原 さおり
	実 平 明 美・平 舛 仁 美
他	65名 看護助手 4名
	認定看護師：がん化学療法 1名
	緩和ケア 1名
	がん放射線療法 1名

■外来の概要

診療科は18科、外来患者数は1日平均約1,044名です。初診患者さん・再診患者さんをはじめ、紹介患者さん・救急患者さんの検査・治療等を行っています。患者さんの容態や救急患者さんの対応・検査等、また、受診される患者さんの人数によって診察の待ち時間が超過することは、外来全体の課題になっています。

平成25年度は、内視鏡室が内視鏡センターにリニューアルし、よりいっそう専門的な検査・治療がスムーズにできるようになりました。

私達外来看護師は、患者さんの気持ちに寄り添った医療・看護の提供ができるように日々努力しています。

■看護

私達は、各科の専門性を持った看護に努め、他部署との連携にも努めています。また、外来は子育て中の看護師が多く、急なスタッフの休みに対応ができるように応援体制を構築し、患者さんの診療の介助・看護がスムーズにできるよう努めています。

■教育

今年度スタートした、ラダーⅡに20名認定されました。

ラダーⅡの到達目標は、

- ①所属する部署の標準的な経過をたどる対象の看護ができる
- ②組織の一員として、役割と責任を遂行できる
- ③日勤リーダーとしての業務を遂行できる
- ④課題達成に向けた自己教育活動を展開することができる

となっており、子育て奮闘中の看護師や中堅看護師はこの目標に向かって自主的に研修参加の計画を行い、限りある時間を調整しながら積極的に自己研鑽に取り組んできました。

■院内における研究・発表

市民公開講座では、内科外来の禁煙担当看護師が「禁煙の必要性」について講演しました。2009年に禁煙外来を開設し、医師・薬剤師・看護師で連携をとり、禁煙の成功に繋がるように援助を行っています。禁煙治療を受けられる方に、医師が診察および薬を処方し、薬剤師より服薬指導を行い、看護師は生活習慣等に合わせた禁煙方法のアドバイス・カウンセリングを行っています。私達は、受診される方が全員禁煙を成功させ、受診を終える日を目指して頑張っています。

第4回ポスター展では、眼科外来が優秀賞を「緑内障の六割が正常眼圧って知っていますか？」のテーマで獲得しました。

院内看護研究発表会

当医院におけるエンゼルケア見直しについて～葬祭業者への質問紙調査及び、葬祭業者との直接面談から見えてきた現状と課題～ 高原さおり



地域救命救急センター

■ スタッフ紹介

科長 西村 留美
 主任 前田 智子
 主任 竹野 香織 (救急認定看護師)
 他 看護師 35名 看護助手 1名

■ 病棟の概要

当地域救命救急センターは、平成23年4月に開設し、3年目を迎えます。

1階の救急外来では救急車の受け入れ、他院からの紹介、直接来院など全科の救急患者の対応を行っています。2階には8床(個室1床)のベッドを有し、集中治療を必要としない全科にわたる夜間帯の救急患者(小児・産科を除く)を中心に受け入れを行っています。



図 救急車台数とHCU入室者数

■ 看護

日勤、夜勤ともに、外来リーダーと病棟リーダーが連携をとり、急患の受け入れ対応を行っています。

外来部門は、検査科や放射線科などの他部門との連携を密にし、重症患者や急変時に素早く的確な対応を心がけています。

救命センターに入院された患者は、状態に応じ、各専門科に振り分けられ、翌日一般病棟に転床するケースや、退院することもあります。必要時にはHCUに幾日間か滞在することもあります。そのため満足度の高い看護が提供できるよう日々努力しています。

平成25年より、定期心臓カテーテル検査介助も救命救急センターに移行しています。そのため看護業務も多岐にわたりより高度なものを求められています。

■ 教育

- BLS、ICLS、JPTEC、ACLSに参加し、スタッフのレベルアップを図っています。
- センター内で新人教育とともにスタッフ全員で勉強会を行っています。
- 救命救急センターとICU合同の勉強会を週1回行っています。
- 心臓カテーテル検査移行につき、循環器医師による勉強会も開催しています。

■ 院内における研究・発表

院内研究発表会

救命救急センター初療室におけるストレッチャーでの滞在時間と褥瘡発生の関係性

山下元未



ICU・西3階病棟

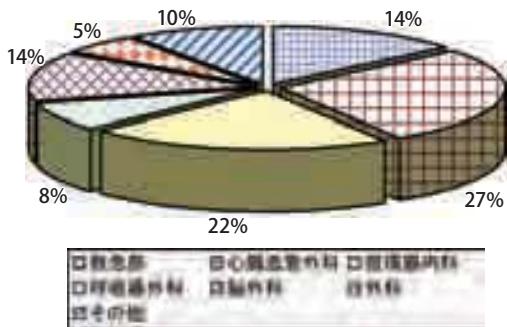
■スタッフ

科長 村中好美
 主任 尾崎直美・坂本佳奈江
 他看護師 28名、看護助手2名

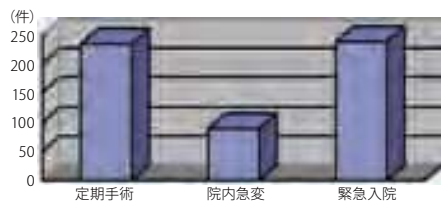
■病棟の概要

西3階病棟は、ハイケアユニット加算を算定し集中治療を必要とする患者さんを収容しています。病床数は11床（個室4床含む）ですが、対応する診療科は全科にわたり、院外・院内問わず対象患者を受け入れ集中監視・集中治療を行っています。勤務体制は、重症患者を看護し常に緊張が強いられる環境での長時間勤務の導入は困難なため、院内唯一の三交代勤務です。

2013年度の入室患者数は561人であり、診療科別の入室患者数を以下に示します。



また、入室理由を定期手術・院内急変（緊急手術含む）・緊急入院（緊急手術含む）に分類し提示します。



■看護

今年度は「メディカルスタッフと協働し、信頼される医療を提供する」「個々の専門的知識を高め、よりよい看護の提供に努める」を病棟目標として取り組みました。

目標1では、多職種でのカンファレンスの機会を

もち、栄養サポートカンファレンスに関しては経管栄養の投与時間の検討・経管栄養専用ポンプの導入など成果が見えてきています。また、言語的コミュニケーションが困難な患者さんには、iPadなどを用いて思いをくみ取る努力をし、患者さんとその家族に寄り添う医療を実践するよう努めています。

目標2として、専門的知識を高めよりよい看護の提供につなげるべく、部署内で鎮痛評価の方法を統一し、鎮痛薬の使用量の調整につなげる努力も行っています。以下は、活用を始めた「鎮痛スケール」です。



■教育

救命センター勉強会として毎週木曜日に医師等が講師となり勉強会が開催され、スタッフの教育の機会となっています。また、本年度は2名の新人看護師が配属となり、新人教育計画に沿ってICUの基礎実践能力の向上を中心に勉強会を行いました。

院外研修に関しては、担当する疾患が幅広く個人により必要と感じる知識は異なります。そのため、一人一人が自己の課題を明確にし、研修等に参加し救急医療や集中治療領域の新たな知識習得に努めています。

■院内における研究・発表

院内看護研究発表会
 鎮静スケールの導入～統一した鎮痛管理を目指して～

○伊藤美奈 岡田明子

西 4 階病棟

■ スタッフ

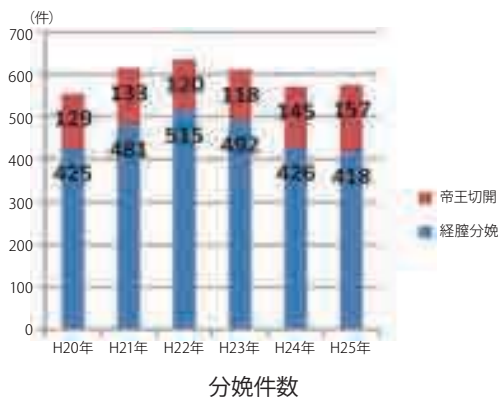
科長 田尾由美子

主任 竹村 美鈴・杉中 知子・植野 祐子

他 助産師 24 名 看護師 6 名 看護助手 3 名

■ 病棟の概要

西 4 階病棟は産婦人科を主とした外科系混合病棟で、病床は 41 床です。7 月より分娩制限を解除し、里帰り出産が徐々に増えてはいますが、今年度の分娩件数は 575 件でした。年間分娩件数 700 件を目標に頑張っており、西部地区における近隣施設からのハイリスク分娩も受け入れています。高血圧や糖尿病など合併症を有する妊婦さんも増加傾向にあり、帝王切開率は 27.3% でした。



■ 看護

産科では、参加型マタニティークラスを導入し、妊婦さん同士の意見交換やミニゲームなどで楽しく交流でき、妊婦さんに好評です。4 年目となる外来保健指導も定着してきており、妊娠中から妊婦さんの不安に寄り添い、出産、産後の生活や育児につながるよう支援しています。入院期間が 5 日間と短いため、母乳外来による退院後の支援もおこなっています。また保健センターと連携し、継続した支援を行なうことで育児不安の軽減、乳児虐待防止に努めています。

婦人科では婦人科周手術期の看護や悪性腫瘍患者の化学療法、放射線療法、終末期看護をおこなって

います。

また、切迫早産で長期入院中の妊婦さんに、筋力低下が起こることが懸念されることから、リハビリテーション科の協力を得て下肢のトレーニングを導入しました。筋力低下を最小限にとどめることで、退院後の生活や産後の生活に円滑に移れるよう、理学療法士と連携を取りながらおこなっています。



リハビリパンフレット

■ 教育

9 月に小児科医師に新生児蘇生法 A コースを開催していただきました。11 月からは、産科医師とともに胎児心拍モニタリング異常の勉強会をおこなっており、看護実践に役立てています。各委員さんを中心に、感染、褥瘡ケア、医療安全、急変対応の勉強会をおこないました。

■ 院内における研究・発表

院内看護研究発表会

切迫早産妊婦の下肢筋力トレーニング導入の効果

西 5 階病棟

■ スタッフ紹介

科長 馬場崎喜美子
主任 龍 敬子、村中 昌美、中村 希
他 看護師 29 名、看護助手 3 名

■ 病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の外傷患者の看護を行っています。病棟スタッフは、看護師 29 名、看護助手 3 名で構成されており、勤務体制は 2 交代勤務です。

平成 25 年度の整形外科手術件数：1100 件 病床稼働率：85%・平均在院日数：14 日。

■ 看護

患者・家族から選ばれる病棟を目指し、安心・安楽な医療を受けることができるよう情報マネジメントと合併症予防を目標に取り組んでいます。

(各チームの紹介)

- ・急患受け入れチーム
- ・入院・退院チーム
- ・固定チーム
- ・受け持ち看護師カードチーム
- ・カンファレンスチーム
- ・患者参画型看護チーム
- ・在宅支援チーム
- ・クリニカルパス バリエーションチーム
- ・病棟勉強会チーム

■ 教育

個人の興味・関心に基づいた課題を明らかにし、研修会に参加し、個々の知識を深めるとともに病棟全体のレベルアップを図っています。必要な知識・技術を明確にし、シミュレーション教育を充実させ、看護技術習得を支援しています。1 年生のローテーション研修後は他病棟での学びを発表します。他病棟のいいところを取り入れ、また西 5 階病棟の良さを再発見できる機会となっています。1 年生の成長を形にし、モチベーションを高めるとともに、一緒

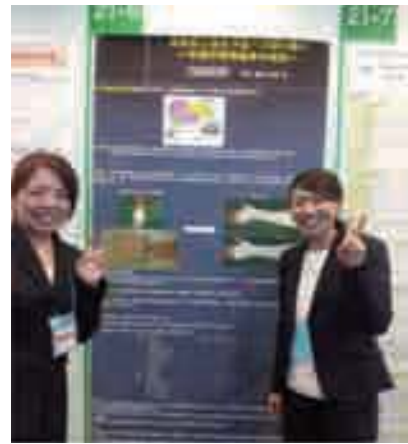
に成長を喜ぶ機会としています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すとともに、リーダーや実習指導者を育成し、スタッフがさらに成長できるよう支援を続けています。

■ 研究発表

1. 院外研究発表

自己抜針予防の自作手袋の研究を行い、第 44 回日本看護協会老年看護にて発表を行いました。(H25 年 7 月) 現在特許申請中です。



入院前から病棟看護師が行う入院オリエンテーションが患者に与える影響について研究し、マネジメント学会で発表を行いました。(H25 年 6 月)



2. 院内研究発表

入院前から病棟看護師が行う入院オリエンテーションが患者に与える影響～患者の思いに沿ったオリエンテーションを目指して～

○中村希 西村留美 馬場崎喜美子

西 6 階病棟

■ スタッフ

科長 藤本七津美
 主任 平野 有紀・藤村 雅子・島津加奈子
 他 看護師 29名 看護助手 2名

■ 病棟の概要

西 6 階病棟は、病床数 54 床の消化器外科病棟です。平成 25 年度は、外科手術 70% を占める 736 件の周術期看護を実践しました。(前年度比 5.7% 増) クリニカルパス使用率は 75% となっています。



【図 1】手術件数推移



【図 2】平成 25 年度手術件数内訳

【表 1】平成 25 年度病棟概要

病床数	54 床
年間手術件数	736 件
在院日数	17.7 日
病床利用率	75%
勤務体制	2 交代勤務 (平均夜勤回数：9 回)
看護体制	固定チームナーシング
看護必要度	22.7%

■ 看護

「外科手術に特化した専門的看護技術を提供できる病棟」を目標に取り組みを行っています。外科外来と協力し、入院が決定した時点で、待ち時間で入

院前オリエンテーションを実践し、手術が安心して受けられる精神的サポートを試みました。

また専門的知識向上のため「一人、一研修、参加」を目標としました。スタッフが、感染・外科看護・リスク管理・看護管理など多岐にわたる分野に分かれて研修参加し、参加後は病棟で伝達講習を行い、知識共有を図りました。(参加研修は教育の表 2 に示す)

■ 教育

【表 2】平成 25 年度参加研修

分野	研修名
看護管理	認定管理者ファーストレベル研修会
感染管理	感染管理者要請講習会
栄養管理	静脈経腸栄養学会
外科看護	消化器外科看護セミナー
災害看護	災害看護支援ナース育成セミナー
皮膚創傷管理	日本褥瘡学会学術集会

■ 院内における研究発表

当院におけるストーマセルフケア確率の現状と課題
 藤村 雅子

西 7 階病棟

■ スタッフ

科長 松下 理恵
主任 本山 敏恵・上田 美紀
他 看護師 31 名、看護助手 2 名

■ 病棟の概要

西 7 階病棟は病床数 55 床の消化器内科・画像診断部の病棟です。

さまざまな消化器疾患に対しての内視鏡検査・治療を積極的に行っており、またそのなかでも食道・胃・大腸・胆膵系の疾患の患者が多いのが特徴です。特に胆・膵系の検査数が増加傾向にあり、消化管出血などの救急受診患者も多く、24 時間体制での緊急内視鏡に対応し、緊急入院も多くあります。2013 年度の治療件数とその内訳を図 1 に、病棟運営状況を表 1 に示します。

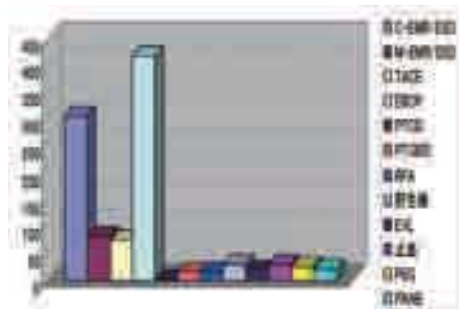


図 1 2013 年度の治療件数とその内訳

表 1 病棟運営状況

病床稼働率	在院日数	1 日患者数	入院患者総数
85.5%	14.8 日	47.0 人	1,157 人

■ 看護

看護方式は固定チームナーシング制をとっており、2 チーム、2 交代制をとっており、夜勤は 4 人体制でおこなっています。受け持ち看護師の責任とチームでの深い関わりが果たせるよう、一人一人が意識し、カンファレンスを日々おこなっています。

内視鏡治療にはリスクの高い検査も多く、患者や家族が検査の必要性やリスク・安全性を理解した上での同意が必要です。そのため、インフォームド・コンセントには医師のみならず看護師も同席するこ

とが重要であると考えます。特に看護の立場からは、医師の説明のあと患者・家族の不安や理解度を確認しながらクリニカルパスを使用し、オリエンテーション等も追加しておこなっています。また、2013 年度の治療件数にもあるように胆・膵系の検査が非常に多く、検査・治療に対してより理解が得られるようにと ENBD チューブ留置患者に対するオリエンテーションブックを作成し、今後、活用を考えています。

■ 教育

月に一度「消化器内科懇話会」を開催しています(表 2)

講師は主に消化器内科医師が担当し、参加者は関連部署の医師・看護師、他部門のメディカルスタッフなど多数参加しています。基礎的なことはもちろん、消化器内科でのトピックスや専門的な治療についてわかりやすく学べる良い機会となっています。

また、病棟においても毎月チーム会で担当者を決め、勉強会や研修報告会を開催しています。自分の学んだことを報告する機会が作れており、情報が共有できる場にもなっています。

表 2 消化器内科懇話会の内容

EUS - FNA の展望
黄疸の鑑別と治療の進め方
急性肝炎のすべて
食道静脈瘤の基礎知識
膵内分泌腫瘍について
学会報告：中東～東欧
炎症性腸疾患治療の最近の動向
誤嚥性肺炎の予防～嚥下内視鏡検査、胃瘻、成分栄養剤の利用法～

また、東京で行われた「膵がん教室ワークショップ in 2014」に参加し、他施設の膵がん患者さんへの取り組みについて学ぶことができました。

■ 院内における研究・発表

院内研究発表会

内視鏡的経鼻胆道ドレナージチューブ留置患者の体験から～ENBD チューブ留置患者に対するオリエンテーションブックを作成して～

○南浦美樹 森田範子 本山敏恵 松下理恵
藤本佳史

西 8 階病棟

■ スタッフ

科長 鶴谷理恵

主任 岡田恵美子・竹市美加

他 看護師 33名 看護助手 3名

■ 病棟の概要

西 8 階病棟は呼吸器内科、放射線治療科、緩和ケア科の混合病棟です。病床数は 55 床で、個室 7 部屋（うち重症個室 2 部屋）、4 人部屋 11 部屋、緩和ケア科用の 2 人部屋 1 部屋あります。

■ 看護

看護方式は固定チームナーシングで呼吸器ケアを中心としたチームと緩和ケアを中心としたチームの 2 チーム制をとっています。

呼吸器ケアを中心としたチームでは排痰援助法、栄養管理、誤嚥リスク・嚥下リハビリについて他職種カンファレンスを毎週火曜日に行っています。スマートベストを使用した排痰援助や体位変換用クッションを用いた体位ドレナージ・ポジショニングで誤嚥予防ケアに努めています。



チームカンファレンス

緩和ケアを中心としたチームでは疼痛コントロール、患者・家族ケア、情報の共有など医師、看護師（緩和ケア認定看護師を含む）、臨床心理士で毎日カンファレンスを行っています。平成 24 年 7 月に緩和ケア科が開設するに当たり緩和ケア病床とした 2 人部屋の中央にパーテーションを設置しました。カーテン隔離よりもプライバシーの保護に努めることができるようになりました。



緩和ケア病床

■ 教育

看護の質を向上させるために主任、各チームリーダーを中心に勉強会を行っています。講師は看護師だけでなく医師、臨床工学技士、事務など他職種の方にも協力をいただいています。

■ 院内における研究・発表

院内研究発表会

遺族による緩和ケア病床のケアの評価
～緩和ケア病床開床から 1 年経過して～
○藤本優香 岡田加奈子 岡田恵美子

東 3 階病棟

■ スタッフ

科長 丸澤 葉志子
主任 山口 瑞穂・益田 尚恵
他 看護師 30名 看護助手 2名

■ 病棟の概要

診療科：循環器内科・心臓血管外科
病床数：44床
病床稼働率 87.6%
平均在院日数 15.5日
急性心筋梗塞・重症心不全・開心術術後等、ICUからの転床も多く、重症度の高い患者が多いのが特徴です。

看護方式：固定チームナーシング（2チーム）
一部機能別

■ 看護

病棟目標

1. 看護力を向上させ質の高いケアの提供ができる。
2. チームの力を強化し、各個人の役割の遂行ができる。
3. 個々の実践能力を向上し自分で考えて行動できる看護師をめざす。

目標 1 に対して

心疾患は、生活習慣の改善が重要です。心臓血管外科では、週 1 回多職種合同カンファレンスを行い、情報共有し個別性のあるケア提供が実施できるようにしています。来年度は循環器内科の多職種合同カンファレンスが行えるよう準備しています。

多職種で統一したケアが実践できるようパンフレット指導をしています。2013 年 10 月から、心不全患者に対する、包括的心臓リハビリテーションを開始しました。指導パンフレットを多職種共同で作成し、使用しています。

目標 2 に対して

固定チーム 2 チーム制のチームリーダーを中心に、毎月チーム会を開催しました。日々の問題を出し合

い、チームリーダーを中心に問題解決でき活性化につながりました。

■ 教育

循環器看護に必要な知識の向上と技術の習得のため、新人教育はプリセプターが中心となり、スタッフ教育は教育担当主任が中心となり指導計画を立て、医師に協力してもらい勉強会を開催し、学びを深めています。

リーダー育成は 3 年目後半から見習いに入り、病院主催のリーダー研修などに参加し、先輩が精神的なサポートもしながら、まず日勤のリーダーから独り立ちしていきます。

勤務異動者には、教育係がつき、経験年数などを考慮した独自の計画を立て、精神的にも技術的にもサポートする体制をとっています。

スタッフ間の教育・サポートを病棟全体で行う環境が整ってきています。

■ 院内における研究・発表

第 19 回 日本心臓リハビリテーション学会
AMI 患者に対する包括的心臓リハビリテーションの効果



東 4 階病棟

■ スタッフ

科長 川 村 洋 子
 主任 辻 幸 枝・ 畝 小百合
 他 看護師 24 名、看護助手 2 名

■ 病棟の概要

当病棟は小児科・眼科・耳鼻咽喉科の混合病棟、病床数は 42 床です。個室 10 室(うち重症個室 1 室)、2 人部屋 6 室、4 人部屋 5 室です。

入院患者の多くは廿日市市、広島市佐伯区、大竹市の方です。広島県西部地区における小児の入院の受け入れ可能施設は当院のみのため、小児の入院は多方面より受け入れています。

■ 看護

病棟では、小児科・耳鼻咽喉科・眼科別に看護チームを作り、日々課題をもって取り組んでいます。

耳鼻咽喉科看護チームでは、口蓋扁桃腺摘出術を受ける学童期の患児向けにリーフレットを作成しました。患児の不安や恐怖感を予防し緩和できるように、表現や図を工夫しました。患児が潜在的に持っている対処能力を引き出せるような看護を実践しています。



また、化学療法・放射線療法を受ける患者の口腔ケアについて看護研究に取り組みました。放射線・化学療法を行うとがん細胞を攻撃するだけでなく周囲のよい細胞にもダメージを与えます。そのため、

口内炎や疼痛・口渇などの症状があり食事摂取が難しくなります。口腔ケアを適切に行うことで口内炎や疼痛を予防することを目指して患者向けのパンフレットを作成しました。



■ 教育

看護の質を向上させるため、病棟内で月 1 回以上の勉強会を行っています。講師には、医師、言語聴覚士、薬剤師など多くの職種の方に協力をいただいています。

平成 25 年度 勉強会 内容

- ・抗がん剤について
- ・化学療法と看護
- ・化学療法、放射線治療を受ける方への口腔ケア
- ・気管切開について
- ・嚥下障害の概要と合併症予防について

等

■ 院内における研究・発表

院内研究発表会

「口腔内の有害事象に対する看護師の取り組みが患者に与える影響 ～化学療法・放射線療法を受ける頭頸部がん患者の関わりを通して～」

下前 敦子

東 5 階病棟

■ スタッフ

科長 松村 鶴代
主任 坂本 真由子・岩崎 文江
他 看護師 31名 看護助手 4名

■ 病棟の概要

定床 51 床で、一般病室 7 部屋と混合病室 3 部屋、一般個室 10 床、重症個室 1 床の病棟です。主に脳神経外科・口腔外科患者を対象とする混合病棟です。平成 25 年度の平均在院日数は脳外科 17 日、口腔外科 14 日です。

■ 看護

看護師の勤務形態は、2 交代制が定着して、それに合わせたワークライフスタイルがとれています。

・清潔ケアは協働で

当病棟の特徴は就寝患者さんの割合が 40% を占めており、疾患の特徴からも日常生活に介助を要する患者さんが多く、清潔面でのケアの質の担保に力を入れています。清潔援助の必要な患者さんをリストアップし、一覧表に介助項目のチェックを行い、介護士、ヘルパーと協働して清潔ケアが行えるようにしています。特に週 2 回の機械浴、シャワー浴日には、フリー業務看護師を配置し病棟ヘルパーと二人で入浴担当とし実施しています。その結果患者さん、家族からも良い評価をうけています。

・カンファレンスが定着

看護の方法は固定チームナーシングです。今年はチーム毎に、スタッフで情報共有して看護が提供出来るようカンファレンスに力を入れました。チームリーダーが中心となって看護上の問題、家族への対応、今後の方向性など積極的に話し合いを行っています。また、脳外科患者さんの ADL や今後の方向性を検討するリハビリカンファレンスや意識レベルや嚥下の状態に基づいて食事形態、食事メニューについてのカンファレンスを病棟栄養士と病棟 NST 委員が毎週行っており、他職種との連携を看護に活かしています。また、日常の看護の中では、忙しい中、終末期の看護について、患者さんへの関わり、家族看護やグリーフケアなどがスタッフから自然に出来るようになり緩和ケアナースにも介入してもらい看取りの看護についても考えて実践出来るようになりました。デスクカンファレンスも行って、その内容が院内の関連部署にも報告され、院内全体での改善項目に取り上げられました。

・業務改善

医療者間の連携では、毎週木曜日の定期処方日に

は病棟薬剤師の指導の下に看護師も協力し入院患者さん全員の内服薬をセットし、内服管理が安全に正しく出来る様になりました。

また、血管内手術件数も増しており、これらのパスも毎回改善を重ね、新人が担当しても安心して使えるものになりました。

毎月の病棟会では、業務改善の議題提案が多くあり、担当がアンケートや事前調査を行い、充実した病棟会となり、積極的に業務改善がなされるようになり、看護に活かされています。

・地域連携

脳神経外科では、脳卒中の患者さん、家族に対して入院初期から「脳卒中地域連携パス」の説明を行い脳卒中の患者さんが病棟での急性期の治療が終了するとパスを使用し、回復期リハビリ病院へ転院され継続してリハビリが行えるように支援しています。更に地域の回復期病院と地域連携パス会議を 4 回/年行い、地域との連携強化も行っています。

■ 教育

今年度は、医師から入院患者さんの疾患、病態、画像についての勉強会を 1 回/2 ヶ月、定期的に行ってもらい、スタッフで知識の向上をはかり、それを日々の患者さんの観察、アセスメントに活かしています。

また、学習効果の高いシミュレーション教育を今年度も行いました。病棟急変対応委員が中心になり、病棟患者の急変時対応についてメンバー、リーダー、応援ナースに分かれ本番さながらのシミュレーションを行いました。救急の認定看護師にも最後に助言を貰い、効果的な勉強会となりました。

看護師は 8 チームに分かれ勉強会を担当し疾患に関すること、ケアに関することとそれぞれでテーマを決め、病棟内で発表して行きました。

今年度は、看護科のキャリア開発支援としてクリニカルラダーが導入され、当病棟では、ラダーⅠに 3 名、ラダーⅡに 8 名の看護師が認定されました。

看護実践能力、組織の中での役割は十分出来ていましたが、ラダー認定に向けて、それぞれの看護観をレポートで振り返り、話し合いを行い看護を深める良い機会となりました。又、認定を受けた看護師の自信にも繋がりました。

■ 院内における研究発表

院内研究発表

脳神経外科病棟に勤務する看護師の家族への対応における心理ストレスの要因

○佐々木美紗 林葉子 松村鶴代

東 6 階病棟

■ スタッフ

科長 尾 神 正 子
主任 広 瀬 敏 子・水 村 めぐみ
スタッフ：27名 看護助手：2名

■ 病棟の概要

主たる診療科：泌尿器科・乳腺外科・皮膚科
泌尿器科の主たる疾患：前立腺癌・前立腺肥大
前立腺炎・膀胱癌・腎臓癌・尿管結石
乳腺外科の主たる疾患：乳癌・乳腺腫
皮膚科の主たる疾患：带状疱疹・良性、悪性腫瘍
蜂窩織炎・熱傷・褥瘡
病床数：49床 個室8室・4人部屋10室
看護体制：2チームでの固定チームナーシング
受け持ち制
病床稼働率：平均76.7%
平均在院日数：10日
年間入院総数：1,411人 退院総数：1,405人
東6階年間手術件数：590件

H25年度病床稼働率



■ 看護

医師・コメディカルとの連携をとり、患者カンファレンス実施を継続・充実させていく目標をあげて行っています。

Aチームは栄養・緩和チームの参加によるカンファレンスを2回実施・疼痛コントロール及び栄養管理について話し合いを行い、患者さんの苦痛の緩和・栄養状態の改善に努めています。Bチームはプライマリーのあり方の見直しを行い、その後、2人の患者デス・カンファレンスにて振り返りを行うことができます。

乳腺カンファレンスは4月から毎週木曜日15時から30分間で翌週の入院患者のカンファレンスを実施しています。

泌尿器科は月・水曜日の7時40分より医師と科長・主任とでカンファレンスを行い、主に治療方針・今後の方向性について話し合いを行っています。

皮膚科は毎週水曜日の15時半より、医師の治療方針に基づいて、治療・看護について話し合いを行っています。

今後の方向性として看護師から働きかけて他の医療従事者を交えたものを行う事により、更により看護が提供できるように努力していきます。そして、カンファレンスを効果的に活用して、早期退院・改善ができるように協力して医療を提供していくようにカンファレンスの充実をはかっていくことが必要と思います。

■ 教育

看護力（基礎知識・アセスメント能力・判断力）を高め、業務の中で発揮できる目標を立てて取り組んでいます。新人を対象にした泌尿器科・皮膚科についての勉強会を、昨年までは医師により行いましたが、今年度は看護師2～3年目を講師にして勉強会を実施しています。このことにより講師側の学習につながる・看護師の目線での内容により、わかりやすくなることを目的で行い、成果が見られています。

また、Bチームは口腔ケア・マンマ・ストーマ個人の研修会参加後の伝達講習・Aチームは乳腺の研修会参加後、伝達講習を行うことができます。今後の方向性としてラダーIIの受講・電子カルテの更新も落ち着いてきたため、今後も計画的に実施して、新人教育も先輩看護師による講師を行い、学習の場面として活用してさらに教育を進めていくことが必要と思います。

看護助手を交えて安全で効率的な環境を整えていく目標をあげて、助手の教育に努めています。助手を交えた病棟会を実施し、その後、助手同士の関係を良くするために、1回目はラベルワークを行い、現在の問題を明らかにしていきます。2回目は仕事上での関係を保つように各々の助手との話し合いを行い、協力体制は見られるようになって来ています。助手の色々な問題に対して助言を行い、少しでも助手の関係をよくしていくことができるように努めたこと、そして、看護師には助手の状況を伝え協力していくこと・助手への伝達の方法を工夫して実施してもらうことにより病棟の効率的な環境ができてきていると思います。今後も看護師と助手が話し合いの場を持ち、業務調整を行って行くことが必要です。

東 7 階病棟

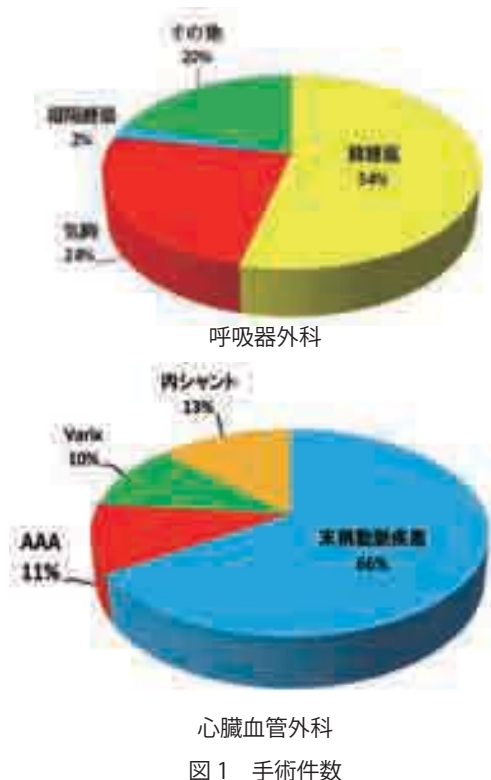
■ スタッフ

科長 村 中 ひろみ
 主任 伊 藤 昭 範・小松野 明 美
 他看護師 25 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

東 7 階病棟の主な診療科は、呼吸器外科・心臓血管外科・循環器内科・呼吸器内科です。看護師は急性期の患者から終末期の患者まで看護を幅広く行っています。

呼吸器外科の主な疾患：肺がん、縦隔腫瘍、気胸、膿胸
 心臓血管外科の主な疾患：末梢動脈疾患、
 腹部大動脈瘤、下肢静脈瘤
 循環器内科の主な疾患：慢性心不全
 呼吸器内科の主な疾患：肺炎、睡眠時無呼吸症候群
 2013 年度の手術件数の内訳は図 1 に示します。



■ 看護

看護方式はチームナーシングをとっています。二交代制で日勤 14 名、夜勤 3 名で看護をしています。患者の年齢層や疾患は幅広く、それぞれに求めら

れる看護の内容は様々です。主な患者さんは手術を受ける人が多いため、術前から教育的に関わり術後は早期離床を促し患者の状態に応じた看護の提供をしています。

毎週金曜日に医師・コメディカルとカンファレンスを実施し患者情報の共有を行い、治療の方向性を検討・統一し、看護ケアに活かしています。また、2013 年 11 月より RCT チーム（呼吸ケアチーム）を立ち上げ、呼吸器外科・呼吸器内科・栄養科・リハビリテーション科と合同でカンファレンスを行っています。ここでは全身状態を評価し呼吸機能の改善を図り術後合併症の予防や誤嚥性肺炎の早期回復を目指し頑張っています。

月一度病棟会を行い病棟業務の見直しやその他の事案の検討・情報の伝達を行い病棟の活性化を図っています。



カンファレンスの様子

■ 教育

専門知識を習得し看護の質を向上させるため、また自己の成長を促し個々のレベルアップを図るために病棟内で勉強会を行っています。

〈2013 年度に施行した勉強会〉

- 7 月 急変対応シミュレーション
- 10 月 人工呼吸の仕組み、呼吸器外科治療
- 11 月 心電図
- 1 月 静脈

■ 院内における研究・発表

閉塞性動脈硬化症（PAD）患者に対する入院中のフットケア指導による行動変化

○向井智里 松田沙織

東 8 階病棟

■ スタッフ

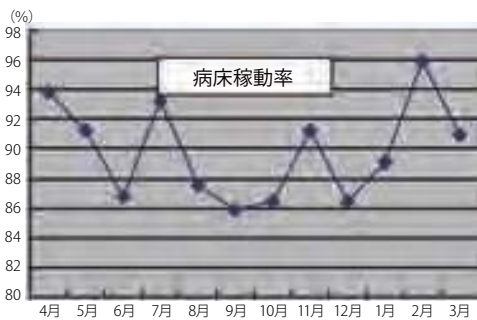
科長 槌谷 滋 乃
 主任 新田 克己・山本 時生子
 他看護師 24名、透析室看護師 4名、看護助手 2名

■ 病棟の概要

【診療科】糖尿病・代謝内科 腎臓病内科
 透析室
 【病床数】34床（個室11室 4人部屋6室）
 透析室 15床

【看護体制】

日勤看護師：10～14名
 夜勤看護師：3名
 病棟稼働率：89.8%
 平均在院日数：23.2日



■ 看護

【病棟看護目標】

- I. ベッド稼働率 85%を目標し、質の高い看護を提供する。
 - ・計画的な患者指導を充実させ、在院日数の短縮を図る
 - ・1回/2ヶ月業務の見直しを図る
 - II. 専門分野の知識を高め、互いに研鑽しあえる職場環境をつくる。
 - ・参加型のミニ勉強会を含めた計画的な病棟勉強会の開催
 - ・院内外の積極的な研修会参加と院外研修はスタッフによる伝達講習を行う（100%を目指す）
 - ・看護研究への取り組み
- 各科共に看護師は医師、メディカルスタッフとの連携をとり、1回/週に糖尿病及び腎臓病のカンファレンス

スを行い、方向性を統一しています。透析室は主に入院患者の透析を担当しています。入院患者の透析は連携面で混乱することが多くありますが、全病棟への伝達や統一に様々な方法で工夫を行っています。病棟においては、糖尿病・腎臓病共に教育入院患者が増加し、特に指導面に関しては力をいれており、主として糖尿病患者のインスリン療法や運動・栄養療法の指導、腎臓病患者の日常生活指導や腎代替療法の選択、透析患者さんのケアに深く関わっています。



腎カンファレンス

■ 教育

病棟内で勉強会委員を設定し、計画的に勉強会を行い、看護師の知識・技術の向上に取り組んでいます。また院外の研修や学会にも積極的に参加し、最新の動向や看護治療の取得に努め、専門性を高め、患者指導に力を入れています。

■ 院内における研究・発表

研究発表
 シャント管理に関する看護師の意識調査
 安藤知佳

■ 院外活動

あいプラザまつりへの参加



あいプラザまつりの様子

手術室

■ スタッフ

科長 村田美智子
主任 松浦美由紀・上田 順子・生田佑子
他 看護師 29名 看護助手 15名

■ 概要

当院手術室は13診療科の手術を行っており、平成25年度の年間手術件数は5,215件（うち麻酔科管理3,611件）でした。緊急手術は753件（昨年617件）と年々増加傾向にあります。地域救命救急センターを有する急性期病院としての役割遂行のため、手術室稼働率を上げて緊急手術にも柔軟に対応しています。

また、平成26年1月1日からの電子カルテ更新に伴い、今回初めて電子カルテへの参入をしました。各部署との調整を行いながら大きなトラブルなく新システムを導入することができています。



■ 看護

看護師2名で待機制をとり、365日24時間緊急手術に対応できる勤務体制をとっています。

1. 予定手術に対しては専任制による術前訪問を行い、術前オリエンテーションに力を入れています。患者様・家族の緊張不安軽減に努め、その患者様にあった看護計画を立案し実践しています。
2. 手術管理システムの修正・整理や、スタッフによる器械管理・器材物品管理などの役割分担により、手術室業務のスムーズな実施と安心な手術環境の提供に努めています。
3. 安全・安心な医療・看護の提供を目指しマニュアルを作成し、看護の統一に努めています。
4. 医療機器の管理・看護行為を臨床工学技士と連携・協働し、より安全な手術環境が提供できるように

努めています。



■ 教育

新人看護師教育は、1年目・2年目ともプリセプターを中心に立案した教育計画をラダーで提示し、プログラムに沿って実施しています。毎月プリセプター会議・リーダー会議を行い、各科指導チームとも連携を図り各科手術に対応できる幅広い知識・技術の習得、スタッフ育成に力をいれています。また、2校の看護実習の受け入れも行っており、看護学生への指導・育成にも力を注いでいます。

■ 院内における研究・発表

院内看護研究発表会

手術室におけるチーム制に分かれた指導法に対する新人看護師の思い

田中 猛



居宅介護支援事業所

■ スタッフ

介護支援専門員（基礎資格：看護師）常勤 2名

■ 事業の目的

利用者の方が可能な限り家庭で自立した生活ができるように介護保険法に従って利用者の方の能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、適切な居宅支援を提供することを目的としています。

■ 事業の概要と特徴

2000年4月、介護保険制度開始とともに訪問看護ステーションと兼務体制で開始しました。2008年4月からは、居宅介護支援事業所として専従体制で活動中です。

当事業所は、急性期病院（癌拠点病院）・訪問看護ステーションに併設し、がん終末期の方や医療依存度の高い方を中心に、看護の視点を活かし、丁寧な観察と状況予測に努め、医療と介護の連携を図り、利用者とその家族の意向を尊重したサービス計画作成を行っています。

■ 業務内容

- ① ケース相談
- ② 要支援・要介護認定（新規・更新・変更）申請の代行
- ③ 居宅サービス計画（ケアプラン）作成
- ④ サービス調整（関連機関・サービス事業者と連絡調整）
- ⑤ サービス担当者会議の開催（新規・更新・変更時）
- ⑥ モニタリング訪問（月1回以上）
- ⑦ 給付管理（毎月10日までに）
- ⑧ その他

■ H25年度介護度別利用者数



図1

■ 実利用者数3年間推移（図2）



図2

■ H25年度 利用前経緯（図3）



■ H25年度 利用後経緯（図4）



■ その他

H26 / 3 / 25：指定居宅介護支援事業者の指定更新
〈有効期間 H26 / 4 / 1 ～ H32 / 3 / 31〉

H25 / 12 / 24：介護サービスの情報の公表 調査提出

H25年度 介護支援専門員主任ケアマネ研修終了

〈研修期間：H25 / 7 / 25～H26 / 3 / 21 11日間〉



介護支援専門員 2名

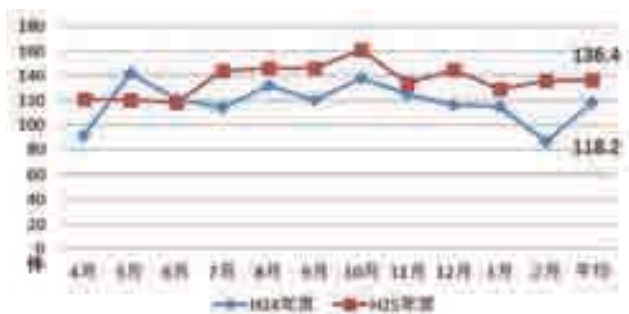
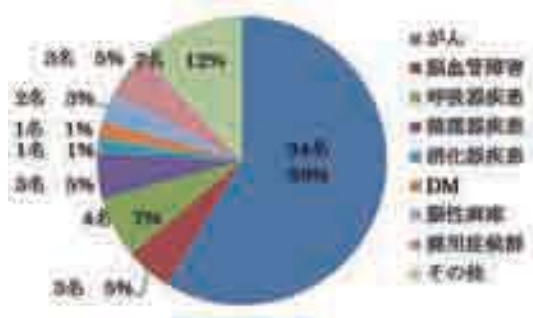
訪問看護ステーション

■ スタッフ

科長 古本直子
 (緩和ケア認定看護師、介護支援専門員)
 主任 奥元直美
 他看護師 2名

■ 利用者の概要

- ・利用者年齢：9歳～105歳
- ・月間利用者数：22～30人程度
- ・月間のべ訪問件数：120～160件
- ・主治医の割合：JA広総：開業医+他病院=5：5
- ・介護保険：医療保険 6：4
 介護保険利用者の7割が要介護3,4,5
 医療保険利用者の6割が寝たきりランクC
- ・主な疾患 (N=58)



月間訪問件数
 在宅看取り 8人

2013年度地区別訪問利用者数

- ・廿日市地域 38件
- ・大野地域 11件
- ・広島市 11件

■ 活動内容

1) 広島西医療圏訪問看護推進協議会を3回開催
 廿日市市・大竹市内の訪問看護ステーション13カ所で、災害マニュアルの作成と交流会を通して顔の見える関係を構築中です。

2) HST (在宅RST) との共同

院内臨床工学科と人工呼吸器装着患者の支援を行っています。現在利用者Aさんは会話もできるようになり、人工呼吸器の離脱訓練も行い、QOLが向上しています。

3) 皮膚・排泄ケア認定看護師との連携

院内WOCナースに、褥瘡患者の相談を行い処置方法のアドバイスを受け、悪化防止に努めています。

■ 教育

日本赤十字広島看護大学、厚生連尾道看護専門学校、日本医療学園付属東亜看護学院の実習を受け入れ、後進の指導を行っています。各自、院内・院外の研修にも積極的に参加し、最新の動向や看護技術を習得し個々のレベルアップに努めています。

■ 今後の課題

事業規模拡大のために、訪問看護を知り、活用していただくための広報活動を積極的に行うことが必要です。



利用者さんに送った誕生日メッセージ

薬剤部

■ スタッフ

部長 大田博子
 科長 寺澤千佳子
 科長補佐 中村浩之
 科長補佐 只佐正嗣
 主任 高先邦子
 主任 古月雅子
 主任 磯貝明彦
 主任 松本里恵
 主任 中島恵子

薬剤師 計 35 名 (役職者含む) 事務 5 名

[人員配置]

西 4 階、西 5 階、西 6 階、西 7 階、西 8 階、
 東 3 階、東 4 階、東 5 階、東 6 階、東 7 階、東 8 階、
 HCU、ICU に病棟薬剤師
 がん化学療法専任 3 名 ICT 専任 1 名
 NST 専任 2 名 緩和ケア専任 1 名
 DI 専従 1 名

[取得資格 (認定、所属学会、世話人等)]

日本糖尿病療養指導士 6 名
 NST 専門療法士 2 名
 緩和薬物療法認定薬剤師 1 名
 感染制御認定薬剤師 2 名
 抗菌化学療法認定薬剤師 1 名
 日本臨床腫瘍学会外来癌治療認定薬剤師 3 名
 公認スポーツファーマシスト 2 名
 日本薬剤師研修センター認定
 実務実習指導薬剤師 2 名
 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 2 名
 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 27 名
 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 7 名
 日本 DMAT 隊員 1 名
 ICES インストラクター 2 名
 危険物取扱者 1 名
 NR・サプリメントアドバイザー 1 名
 日本糖尿病学会 1 名・日本臨床薬理学会 1 名
 日本 TDM 学会 2 名・日本化学療法学会 2 名
 日本医療薬学会 4 名・日本緩和医療学会 1 名
 日本緩和医療薬学会 3 名・日本臨床腫瘍薬学会 3 名
 日本環境感染学会 1 名・日本臨床救急医学会 1 名
 日本静脈経腸栄養学会 2 名

日本腎臓病薬物療法学会 3 名
 日本厚生連病院薬剤師長会議理事・監事 1 名
 廿日市市薬剤師会理事・副会長 1 名
 広島県病院薬剤師会理事 1 名
 広島県病院薬剤師会委員会 (DI 委員 1 名、
 薬剤業務・プレアボイド委員 1 名)

■ 業務内容

調剤業務: 外来 500 枚/日 (院外処方箋発行率 0%)
 入院 200 枚/日
 注射調剤 650 件/日、院内製剤 50 品目
 TDM (VCM・TEIC・ABK) 25 件/月
 抗がん剤無菌調製: 外来 17 件/日 入院 9 件/日
 抗がん剤レジメン構築・管理
 薬剤管理指導算定件数 1100 件/月、
 持参薬鑑別 150 件/月
 薬品管理 (採用薬: 内服薬 733、注射薬 526、
 外用薬 315、RI 111、用時購入 80)
 医薬品情報 (DI)、ICT、NST、医療安全管理、
 後発医薬品選定、糖尿病教室、隣がん教室
 治験 13 件/年、実務実習 12 名/年

■ その他活動内容

プレアボイド、各委員会、がん化学療法運営委員
 会事務局、薬事委員会事務局、治験委員会事務局

■ 管理機器一覧

錠剤分包機、散剤分包機、散剤バーコードシス
 テム、高圧蒸気滅菌器、乾熱滅菌器、RO 純水製造装置、
 クリーンベンチ、安全キャビネット

■ 部内の研修会

2 回/月 薬剤部定期勉強会・症例検討会
 すべての病棟に薬剤師を配置し、2013 年 4 月より
 薬剤管理指導業務加算とは別に、病棟薬剤業務加算
 の算定を開始しました。病棟での薬物療法すべてに
 関わり、その安全管理と適正化を実現していると考え
 ています。また、2014 年 1 月富士通システム移行
 まで多くの WG に参加し、薬剤に関わるマスター作
 成、システム構築を担当することで病院に大きく貢
 献しています。

臨床研究検査科

■ スタッフ

主任部長	石田 和史 (兼務)	
部長	碓井 裕史 (兼務)	
精度管理部長	山田 一夫	
科長	水野 誠士	
科長補佐	三舛 正志	
主任	笹谷 真奈美	
主任	横山 富子	
主任	山下 美香	
主任	小松 浩基	
臨床検査技師 (役職者含む)		38名
助手		1名

■ 取得資格

認定管理検査技師	1名
認定輸血検査技師	2名
認定一般検査技師	1名
認定血液検査技師	1名
認定心電検査技師	1名
認定管理検査技師	1名
細胞検査士	1名
超音波検査士	5名
(循環器 2、消化器 2、体表臓器 1)	
二級甲類臨床病理技術士	10名
(血液学 6、循環器 2、脳神経 1、病理学 2)	
DMAT 隊員	1名
消化器内視鏡技師	1名
一般毒物劇物取扱者	2名
医療情報技師	2名
医療廃棄物管理責任者	1名
特化物四アルキル鉛等作業主任者	1名
健康食品管理士	4名
危険物取扱者	1名

■ 施設基準

日本臨床衛生検査技師会	
認証精度保証施設	
標準化事業 基準基幹施設	

■ 部門研修会

- ・みんなで考えてみよう！
平成 24 年度生理検査フォトサーベイ
- ・網状赤血球と CHr
- ・当院で行っている神経障害の検査
- ・免疫・化学の注意点 コールドアグチベーション
- ・尿定性検査について
- ・CKD 診療ガイドと尿検査
- ・心電図をきれいに取る方法
- ・平成 25 年度日臨技一般フォトサーベイから

■ トピックス

- 5月
輸血後感染症検査の実施について
- 6月
プロカルシトニン測定法の変更
- 8月
尿中ヘリコバクター・ピロリ抗体検査キットの変更
風疹抗体価の判断基準の見直し
- 12月
UIBC の院内測定開始
LDL - C の試薬変更
血液培養ボトルの変更
- 1月
検査システムの更新
- 3月
HBs 抗原測定試薬の変更
ミオグロビン測定機器の変更
トロポニン I 測定機器の変更

■ 外部精度管理成績

- ・平成 24 年度日臨技臨床検査精度管理調査結果報告
100 点 (204 / 204)
- ・日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告
97.3 点 (623 / 640)
- ・広島県医師会臨床検査精度管理調査結果報告
99.8 点 (574 / 575)

■ 今年度更新検査機器

- LoopampEXIA (20013.11.20)
- LIS Suisei Phoenix (2014.1.1)

中央放射線科

■ スタッフ

中央放射線科主任部長

西原 礼介

科長 小濱 千幸

主任 山口 裕之

主任 本山 貴志

主任 高畑 明

主任 海老谷 京子

主任 砂田 研二

診療放射線技師 25名 (科長、主任含む)

▶ 人員配置

中央放射線 (一般撮影、マンモグラフィ、骨密度測定、泌尿器科撮影室、破碎装置、ポータブル撮影、手術室、核医学、心臓カテーテル室、歯科撮影) 13名

CT (CT2台、ドック検診胃透視、汎用血管造影、救命センターを含む) 5名

MR 3名

治療 2名 (科長以外は診断からのローテーション)

▶ 取得資格

検診マンモグラフィ撮影認定技師 7名

JABTS 乳腺超音波検査認定試験 A判定 1名

放射線治療専門放射線技師 1名

放射線治療品質管理士 1名

第1種放射線取扱主任者 4名

エックス線作業主任者 2名

ガンマ線透過写真撮影作業主任者 2名

第一種作業環境測定士 1名

日本核医学技師認定機構認定 核医学専門技師 1名

日本救急撮影技師認定機構認定 救急撮影認定技師 1名

日本X線CT専門技師認定機構 X線CT認定技師 3名

日本医療情報学会認定 医療情報技師 2名

日本放射線技師会認定 MRI検査技能検定3級 4名

日本放射線技師会認定 放射線管理士 4名

日本放射線技師会認定 放射線機器管理士 5名

日本放射線技師会認定一般撮影技能検定3級 1名

日本放射線技師会認定 医用画像情報管理士 3名

日本放射線技師会認定 臨床実習指導教員 1名

肺がんCT検診認定技師 1名

Ai認定診療放射線技師 1名

■ 所属学会

公益法人 日本放射線技師会 12名

公益法人 日本放射線技術学会 21名

NPO 日本乳癌検診学会 2名

日本消化器集団検診学会 1名

日本医用画像管理学会 1名

日本核医学技術学会 1名

日本核医学会中四国部会 1名

日本磁気共鳴医学会 1名

オートプシーイメージング学会 1名

■ 業務内容 (トピックス)

2014年1月の電子カルテのベンダー変更(ユニシスから富士通)に伴い、放射線科情報システム(Radiology Information System)を新規導入いたしました。

放射線部門における診療放射線技師の撮影業務支援はもちろん、オーダ情報、患者情報、実績情報、進捗情報などを連携することで、患者様の動線を把握することが可能になり、患者待ち時間短縮に大きく貢献することができました。同時に、医用画像情報/DICOM画像/患者紹介ディスク作成デュプリケーターも導入し、HIS.RISとの連携をすることで、院外への患者紹介等において、無人でのCD/DVD作成が可能となりました。

臨床工学科

■ スタッフ

主任部長 吉田 研一

主任部長代理 小深田 義勝

科長 瀬尾 憲由

主任 曾我 嘉博

主任 荒田 晋二

臨床工学技士 13名（科長・主任含む） 助手 1名

【認定資格取得】

- ・体外循環技術認定士：2名
- ・3学会合同呼吸療法認定士：6名
- ・透析技術認定士：1名
- ・不整脈治療専門臨床工学技士：1名
- ・呼吸治療専門臨床工学技士：1名

【所属学会】

- ・日本臨床工学技士会・日本体外循環技術医学会
- ・日本アフェレーシス学会・日本呼吸療法医学会
- ・日本人工臓器学会・日本高気圧環境医学会
- ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会
- ・日本透析医学会・日本消化器内視鏡技師学会

■ 部門紹介

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在13名でさまざまな業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡室・一般病棟など院内のさまざまな分野で活躍しています。

■ 業務内容

『手術室業務』

- ・人工心肺装置・自己血回収装置の操作・管理
- ・整形外科手術でのインプラント介助
- ・電気メス、麻酔器などのME機器の保守管理
- ・腹腔鏡下手術での内視鏡装置の保守管理

『救急・集中治療室業務』

- ・急性血液浄化療法
CHDF、血漿交換、血液吸着、血液透析など
- ・補助循環装置（VA－ECMO、VV－ECMO）、IABP
- ・人工呼吸器などの酸素療法に関連する機器操作
挿管・抜管介助、Weaningプロトコルの運用
医師の指示下での人工呼吸器設定調整
NPPV管理・物品管理
- ・各種生体情報モニターの管理

『慢性期・在宅医療支援業務』

- ・慢性期人工呼吸器患者管理（RST活動）
- ・一般病棟でのNPPV管理
- ・人工呼吸器やNPPV（NIP、ASV）などの在宅医療支援（HST）活動としての在宅訪問

『循環器業務』

- ・心臓カテーテル検査室
ポリグラフ・IVUS・ローター操作、物品管理
- ・不整脈デバイス関連
ペースメーカー・ICD・CRTDの患者情報管理
埋め込み時や電池交換時のPSA操作
埋め込みデバイスの機種選定
EPS時のポリグラフ・スティムレーター操作

『血液浄化業務』

- ・透析室
シャント穿針・血液透析の開始・終了
良質な透析液水質の維持
透析装置・水処理装置の保守管理
- ・アフェレーシス
白血球除去療法（LCAP、GCAP、遠心分離）

『高気圧酸素療法業務』

- ・火気厳禁のため、火の元（マッチ、懐炉など）の持ち込みの観察を厳重に行います。
- ・治療中に異常が無い場合に常に観察しています。

『内視鏡業務』

- ・内視鏡スコープとトランス（本体）の保守管理
- ・治療後のスコープの洗浄管理、洗浄機管理
- ・ESD・EMR・ERCPなどの介助、物品管理
- ・高周波装置・RFAなどのME機器の保守点検・操作

『ME機器管理業務』

- ・シリンジポンプ・輸液ポンプ・モニターだけでなく、複雑化する院内ME機器を保守管理
- ・適切な機種選定、台数の確保、データベース管理
- ・院内修理を行うことで、素早い対応が可能

■ トピックス

多種多様な業務を円滑に進めるために、主に3チームに業務分担して活動しております。これにより全体として幅広い業務に対しても専門性（スペシャリティー）を持って、より質の高いCE業務を提供でき、チーム間で連携をとりながら業務を施行することができます。

リハビリテーション科

■ スタッフ

センター長 黒木 一彦 (兼務)

部長 渋川 正顕 (兼務)

部長 小林 平 (兼務)

部長 山田 清貴 (兼務)

科長 上野 忠活

科長補佐 金羽木 敏治

主任 寺迫 正広

理学療法士 11名 (役職者含む)

言語聴覚士 3名、作業療法士 3名

・取得資格

呼吸療法認定士 8名

心臓リハビリテーション指導士 2名

住環境福祉コーディネーター2級 3名

社会福祉士 1名

介護支援専門員 1名

がんリハビリテーション研修修了者 6名

認知症ケア専門士 1名

・所属学会

日本理学療法士協会

日本作業療法士協会

日本言語聴覚士協会

広島県理学療法士会

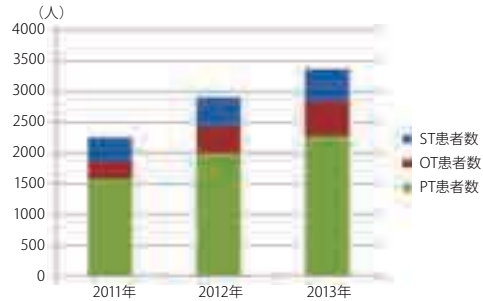
広島県言語聴覚士会

日本心臓リハビリテーション学会

日本摂食嚥下リハビリテーション学会

■ 部門紹介

当科では入院患者さん中心に院内全科からのリハビリテーション依頼を受けており、様々な疾患をもたらした患者さんのリハビリを行っております。リハビリ処方件数は年々増加しており、各疾患別リハビリテーションも充実してきております。入院直後や手術後早期から、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かしながら他職種と連携して介入することで、患者さんがより早く退院出来るように支援しております。



■ 認定施設基準

運動器リハビリテーション科 (1)

呼吸器リハビリテーション科 (1)

脳血管疾患等リハビリテーション科 (1)

心大血管リハビリテーション科 (1)

がん患者リハビリテーション科

■ 所有管理機器

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・CPM・低周波・スパイロメーター

■ トピックス

2013年2月4日に糖尿病センターが開設しました。それに伴い4月1日よりリハビリテーション科も糖尿病教室への介入を開始しています。

糖尿病に対する運動療法では出来るだけ全身の筋肉を使うように動かす事が大切です。運動は、有酸素運動だけでなく、筋力トレーニングを併用して行った方が効果的であるといわれています。糖尿病教室では運動療法をどのように行えば良いか、腕や脚の筋力トレーニング方法を患者さんと一緒に行いながら説明しております。

糖尿病における運動療法は継続して行うことが重要となるため、継続して行えるような運動の方法や、日常生活に取り入れられるような運動の方法を提案しております。



栄養科

■スタッフ

主任部長 香山 茂平 医師
 科長 河本 良美
 主任 三浦 満美子
 主任 要田 裕子
 管理栄養士 10名 (科長、主任含む)
 委託 (調理部門) (株) 日米クック

[人員配置]

外来指導担当 常時3名
 病棟担当 各1名
 NST専従 1名 (八幡 謙吾)

[取得資格]

病態栄養専門師 5名
 日本糖尿病療養指導士 3名
 NST専門療法士 2名

[所属学会]

日本病態栄養学会 8名
 日本静脈経腸栄養学会 6名
 日本糖尿病学会 1名
 日本臨床栄養協会 1名

■業務内容

[給食]

栄養科では、調理部門の協力のもと、安全で安心な食事の提供を心がけています。



食事時間を少しでも楽しんでいただけるよう、食器もスタッフ一同で検討しています。

[栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や、集団指導を実施しています。

〈2013年度実績〉

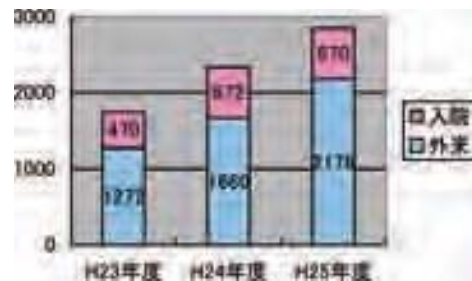
・個別指導

外来	2,178件	入院	670件
糖尿病	1,527件	心疾患	288件
腎臓病	294件	糖尿病	123件
その他	357件	その他	259件

・集団指導 144件

糖尿病昼食会 1回/週 (毎週 火曜日)
 腎臓病調理実習 1回/月 (毎月第3木曜日)

〈個人栄養指導件数の推移〉



■施設基準

入院時食事療養 (I)

■その他活動内容

患者サービス：行事食、退院食

集団栄養教育：妊産婦教室、膵がん胆道がん教室

参加チーム活動：NST、褥瘡、緩和ケア、PEG、RST

その他：あいプラザまつり (糖尿病グループ)、腎臓病市民公開講座のスタッフとして参加

■トピックス

ふれあいポスター展で優秀賞を受賞しました (3年連続の受賞です)。毎日の生活に栄養表示をうまく活用していただければと思います。



診療情報管理科

■ スタッフ

科長 佃 真 由 美

係長 井 本 真 美

他 6 名

〔資格取得〕

診療情報管理士 6 名 (科長、係長含む)

院内がん登録実施中級者修了者 2 名

院内がん登録実施初級者修了者 3 名

医師事務作業補助者認定 1 名

医療秘書 1 名

DPC コース認定 2 名

〔所属学会〕

日本診療情報管理士会

持していただくよう働きかけております。

平成 25 年度 病名トップ 15

順位	病名	入院件数
1	前立腺癌 (疑い含む)	417
2	白内障	382
3	狭心症、慢性虚血性心疾患	373
4	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	366
5	小腸大腸の良性疾患 (良性腫瘍を含む)	355
6	肺癌	342
7	脳梗塞	314
8	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む)	260
9	胃癌	253
10	心不全	225
11	脊椎骨粗鬆症	212
12	胆管 (肝内外) 結石、胆管炎	212
13	膀胱癌	181
14	下肢閉塞性動脈硬化症	167
15	慢性腎不全、慢性腎炎症候群、慢性間質性腎炎	166

平成 25 年度 手術トップ 15

(重複を含む)

順位	手術名称	手術件数
1	水晶体再建術 (眼内レンズを挿入する場合) (その他)	395
2	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術 (多椎間又は多椎弓の場合を含む。) 椎弓形成	342
3	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 (長径 2 cm 未満)	328
4	経皮的冠動脈ステント留置術	212
5	経皮的椎体形成術	174
6	内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	149
7	椎間板摘出術 (後方摘出術)	148
8	腹腔鏡下胆嚢摘出術	137
9	膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術) (その他)	128
10	内視鏡的消化管止血術	125
11	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	116
12	内視鏡的胆道ステント留置術	115
13	鼠径ヘルニア手術	108
14	内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術 (ENBD)	99
15	帝王切開術 (選択帝王切開)	83

■ 活動報告

診療情報管理科では、情報の管理と物の管理を行っております。

情報の管理として、医師の退院時サマリーを基に国際疾病分類 ICD - 10 コードや ICD - 9 コードを用いて統計を作成するためのデータの構築を行い、医師・看護師・コメディカルからのデータ抽出依頼に対応しております。

がん診療連携拠点病院として、国際疾病分類 ICD - O - 3 や UICC TNM 分類を用いて院内がん登録を行い、地域がん登録にもデータを提出しております。

物の管理として、同意書 (バーコードのあるもの) の不備の点検を行ったものを統一したルールで文書種別ごとにスキャンし、院内の端末で確認できるよう管理をしております。

また、紙カルテは 1 患者 1 カルテとし、保管・管理を行い、必要なときに迅速にカルテを提供できるようにしております。

『医療と診療記載の量の向上』を図るため、電子カルテ内の量的点検を行い、結果を対象部署へ提出しております。

医師の退院時サマリー 2 週間以内記載率ならびに 1 ヶ月以内記載率を作成・報告し、高い記載率を保

医療安全管理室

■ スタッフ

室長 徳毛 宏 則 (兼務)

次長 鈴木 修身 (兼務)

科長 吾郷 志津枝

〈専従スタッフ〉

吾郷 志津枝

専従リスクマネージャー、医療安全責任者

認定：医療メディエーター (医療対話推進者)

■ 平成 25 年度 活動テーマ

『職員の医療安全管理活動への自主的参加を支援する』

■ 委員会内容

1. 院内リスクマネージャー管理部会

(毎週月曜日 16:10～17:00)

各部署より提出されたヒヤリ・ハット報告書を元に、現場で起きている医療安全上の問題を速やかに把握し、介入していく医療安全活動の中心的役割を担っています。

レベル 3b 以上の報告・患者誤認・転倒・転落についての事例討議を行い、対応策を検討しています。今年度は、転倒・転落による頭部打撲時のフローシートを作成し運用を開始しました。

〈メンバー〉

徳毛医師 (副院長・医療安全管理室長)

鈴木医師 (整形外科主任部長・医療安全管理室次長)

吾郷専従リスクマネージャー (医療安全管理室科長)

嘉屋事務次長 (総務課長兼務)

今本科長 (感染防止対策室科長)

三舛科長補佐 (臨床研究検査科)

本山主任 (中央放射線科)

生田主任 (看護科手術室)

曾我主任 (臨床工学科)

角井薬剤師 (薬剤師・医療安全研修 40 時間修了者)

2. 医療事故防止対策委員会

(毎月第 3 木曜日 17:00～)

医療安全管理室より出された提案事項の検討、医療事故防止対策に関連した事項の対応策の検討、ヒ

ヤリ・ハット報告書の集計報告、医療安全研修会の計画実施、委員会の伝達を担うほか、ラウンドを行っています。

〈メンバー〉

各部門管理者および院内リスクマネージャー

3. 部門別小委員会

*看護科安全対策委員会 (毎月第 4 水曜日)

オブザーバーとして出席

*看護科急変対応委員会 (毎月第 3 火曜日)

オブザーバーとして出席

*DMPP 委員会 (会議年 8 回・研修会年 1 回)

医療事故防止対策委員会の下部組織

*医療ガス安全管理委員会 (会議・研修会年 1 回)

*放射線安全管理委員会 (会議年 1 回・研修会年 2 回)

*透析機器安全管理委員会 (会議年 1 回)

■ 認定施設基準

医療安全対策加算 1

■ 主な活動報告

*新採用者研修 (4 月入職時)

*事務部門・委託職員に AED 研修会の実施 (2 回)

*看護助手・日米クック (調理者) に出前研修会の実施

*院内医療安全研修会 (集合研修) 年 10 回実施

*RRT 活動 (3 部署) の定着 適宜会議を開催

RRT を起動させてくれた部署へ「サンキューカード」の配布を実施しました。



今後も安心・安全な医療の提供を支援していきけるよう取り組んでまいります。

感染防止対策室

■ スタッフ

室長 渡 正 伸 (兼務)
 科長 今 本 紀 生

■ 取得資格・所属学会

[取得資格]

感染管理認定看護師

[所属学会]

日本環境感染学会

■ 部門紹介 (概要)

今年度より、渡医師が室長に就任され、新たな体制で感染管理活動に取り組んでいます。感染防止対策室は患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会や ICT、看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。

また、医師会・看護協会・保健所等で企画される研修会や各施設で行われる研修会での講演（指導）をはじめ、広島県西部の中核病院として、地域における感染対策の質向上を目指した活動にも積極的に取り組んでいます。

■ 業務内容

1. 感染拡大の早期発見、感染症発生時の対応
2. ICT ミーティング (毎週金曜日 16:00～)
 院内感染症 (細菌) サーベイランス分析、抗菌薬長期使用例への介入、その他
3. ICT ラウンド (毎週火曜日 15:00～)
4. ICT 委員会 (1回/月)
 院内感染症 (細菌) サーベイランス報告、抗菌薬使用状況報告、ICT 活動報告、看護科感染対策委員会活動報告、その他検討事項
5. 各種サーベイランス
6. 院内感染対策研修会 (5回/年)
7. 感染管理に関する業務・設備・器材改善の企画
8. 保健所検査、厚生局適時調査 等への対応
9. 関連委員会、他部門との連携

10. 院内感染対策広報活動
11. 院内感染対策マニュアルの新規作成・改訂
12. 院内外の講義 (指導) の支援

■ 研修会実績

[院内研修]

開催日	内 容
2013 / 4 / 3.5	新採用者研修会 (血液体液曝露、標準予防策など)
2013 / 8 / 10	新採用 Ns フォローアップ研修会 (空気感染対策)
2013 / 9 / 30	看護補助者 (日本ステリ) 研修会 (感染対策の基本)

[院外研修 支援 (講師)]

研修内容	回 数
近隣施設 院内研修会	6
近隣医師会企画 研修会	4
看護協会企画 研修会	1
看護専門学校 講義	1
保健所企画 研修会	1
JA 関連事業所 研修会	1

■ 認定施設基準

- 感染防止対策加算 1
- 感染防止対策地域連携加算

■ 2013 年度 Topics

2010 年から開始した、MRSA 遺伝子解析結果による部署内 MRSA 伝播疑い事例数



2013 年度は過去 2 年間と比べ、MRSA 伝播を疑う事例が著明に減少しました。関連委員会、現場スタッフの努力によって当院の感染対策の質が向上した結果が現れたものと信じています。

地域医療連携室

■ スタッフ

室長 佐藤 澄香
他 事務 1名

■ 部門紹介

地域医療連携室は、その名の通り地域との医療連携を目的としています。

紹介率等の地域医療連携にかかる実態調査及び管理をはじめ、近隣の医療機関との連携業務や広報活動、顔の見える連携を目的とした、近隣の医師会との「医師懇話会」も開催しています。平成25年度は西部地区の医療の架け橋になれたらと、初の佐伯地区・大竹市両医師会との合同開催を行いました。

また、当院は地域医療支援病院の認定を受けており、その役割の一環として、近隣の医師会・自治体・町内会等の代表者で構成される「地域医療支援病院諮問委員会」や、地域の医療技術充実のため、近隣の医療従事者を対象とした「地域医療従事者研修会」も行っています。

その他にも、地域住民との関係を密にすることを目的として、町内会連合会やJA女性部会等の病院視察、地域住民向けの病気・医療に関する研修会の窓口もっており、地域に密着した病院となるよう、尽力しています。

■ 医師会との医師懇話会

○佐伯地区医師会・大竹市医師会

日時：平成25年7月4日（木）18時30分～

場所：安芸グランドホテル

出席者：佐伯地区医師会 37名

大竹市医師会 11名

JA広島総合病院 80名

○佐伯区医師会

日時：平成26年2月26日（水）19時30分～

場所：安芸グランドホテル

出席者：佐伯区医師会 21名

JA広島総合病院 67名



■ 地域医療支援病院諮問委員会

○第18回

日時：平成25年7月2日（水）

場所：JA広島総合病院 大会議室

○第19回

日時：平成26年2月27日（木）

場所：JA広島総合病院 大会議室



■ 地域医療従事者研修会

開催日	テーマ	講師
平成25年 6月11日（火）	糖尿病のフットケアの実際 第2弾	糖尿病看護認定 看護師 中元 美恵
平成25年 9月10日（火）	医療従事者に対する「放射 線治療」について	放射線治療科 桐生 浩司 がん放射線療法看護認定看護師 河野 佐代子
平成25年 12月10日（火）	肺がんについて	呼吸器内科 近藤 文博 がん化学療法看護認定看護師 野村 昌代 薬剤師 白井 敦史
平成26年 2月20日（火）	地域在宅緩和ケアを考えよ う ～事例を通じて～	緩和ケア科 小松 弘尚 訪問看護ステーション 管理者 古本 直子 社会福祉士 正島 忠貴

■ 病院視察

平成 25 年度はオープンホスピタルの日に合わせて、町内会連合会の病院視察を行いました。救命救急センターのような外来部門や、栄養科・検査科などの通常では見ることのない病院の裏側を見ていただきました。

日時：平成 25 年 11 月 24 日（日）

対象者：廿日市市の町内会役員等

参加人数：21 名



■ 市民公開講座

年に 2 回、地域住民を対象として行います。前回のアンケート結果を参考にテーマを確定し、医療の専門的な内容を、如何に一般の方にも分かりやすく講演するかをモットーに開催しております。

○第 7 回市民公開講座

日時：平成 25 年 6 月 16 日（日）

13 時 00 分～15 時 30 分

テーマ：息が苦しい、ハイ広総へ
～ COPD から肺がんまで
チーム医療で支えます～

出席者：506 名



■ 住民向け研修会

○地御前地区の健康講演会

地御前地区の住民を対象とし、ミニ市民公開講座を行いました。

日時：平成 25 年 7 月 22 日（月）

場所：場所地御前地区コミュニティーセンター

参加者：約 50 名



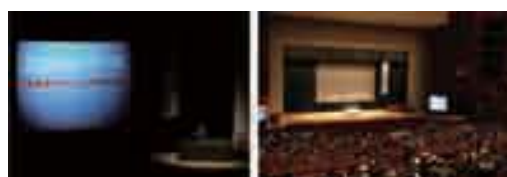
○第 8 回市民公開講座

日時：平成 26 年 1 月 26 日（日）

13 時 00 分～15 時 30 分

テーマ：めまいと頭痛について学びましょう

参加者：633 名



○JA 呉 人生元気塾

JA 呉の女性部を対象として、がんについての講演を行いました。

総合医療相談室

■ スタッフ

室長 佐藤 澄香 (看護副部長兼務)
主任 桐山 葉子
他 看護師 2名、社会福祉士 4名
計 7人

[所属学会]

広島県看護協会
日本社会福祉士会
広島県社会福祉士会
広島県医療ソーシャルワーカー協会
公益社団法人 日本医療社会福祉協会
日本医療メディエーター協会

■ 部門紹介

2013年4月1日 医療福祉支援センター設立に伴い、地域医療連携室内の相談支援業務は総合医療相談室となりました。

総合医療相談室の業務は、患者・家族からの相談窓口として、病気に伴うさまざまな医療・福祉相談です。

本年度、患者・家族への相談窓口周知・利用促進のため小冊子を作成し、入院時に配布しています。



当院が地域がん診療拠点病院であるため、がん患者の相談窓口として「がん相談支援センター」も設置されています。専門の研修を受講した専従・専任職員2名を配置しています。

■ 活動実績

(相談件数)

2011年度 相談件数 5,823件 (内、がん相談 1,144件)
2012年度 相談件数 6,066件 (内、がん相談 753件)
2013年度 相談件数 7,382件 (内、がん相談 266件)

(相談内容内訳) 転院・入所に関する相談
在宅ケアに関する相談
療養に関する相談
医療費等に関する相談等
退院支援実件数 1,166人

がん患者サロン (2009年7月21日開設)

月2回開催

第2月曜日 交流会

第4月曜日 交流会とミニレクチャー

平成25年度実績

開催回数 20回 延べ参加人数 120人



教育研修課

■ スタッフ……………

課長 砂田 朋子
他 1名

■ 業務概要……………

- ・ 職員研修に関する事項
- ・ 臨床研修に関する事項
- ・ 資格取得に関する事項
- ・ 実習受入、講師派遣に関する事項
- ・ 奨学金制度に関する事項
- 他

■ 活動内容……………

教育研修課は、職員教育体制の充実と臨床研修に関する業務の遂行を目的として、平成24年4月に新設された部署です。

毎年4月に新採用職員を対象とした研修を行っています。例年80～90名の新入職員が参加する大人数での行事ですが、医師、看護師、コメディカル等多職種の方の協力をいただいております。

当院は臨床研修指定病院として、年間を通じて医学生の見学受入れを行っています。可能な限り見学者の希望に沿う内容となるよう各診療科と連携をとりながら、年間延べ約60名の受入れを行っています。

併せて研修医の募集活動も行っており、広島県内外で行われる求人説明会に参加したり、情報発信を行い人員確保に努めています。指導医や研修医他病院の皆様のおかげで、今年度のマッチングはフルマッチとなりました。

また、研修医の相談窓口として、連絡や調整業務を行っています。初期研修がスムーズに行えるよう努めています。

院内で開催されるポスター展や論文・学会発表等学術分野での表彰も行っています。いずれも多くの出展、応募があり、院内ではアカデミック活動が活発に行われています。

教育機関等からの実習受入れや外部への講師派遣に関する手続きなども当課の業務です。中学生による職場体験や“高校生外科セミナー”の対応を医師、看護師と協力しながら行っています。中高校生に医療現場を知ってもらうことにより、医療職への関心・理解を深めてもらえるよう継続的な取り組みを行っています。



新採用職員研修（ソフトバレー大会）



研修医求人説明会

施設資材課

■ スタッフ

施設資材課長 新宅 幸司
 他施設資材担当 3名
 営繕担当 2名
 エネルギーセンター
 係長 石原 忠 他6名 (内、4名派遣)
 洗濯場 2名 (内、1名派遣)
 リネン庫 1名
 中央材料室 3名委託

■ 業務概要

施設資材課は、病院の運営に必要な機器や物品等の購入、保守管理、廃棄を行う窓口を主な業務としています。

必要な機器の購入は、毎年、病院の投資計画に基づき、各診療科等の長から必要な医療機器等の整備申請を受け、病院長等とヒアリングを行いながら、年間の整備品目を定めます。整備予定となった医療機器等は順次整備（購入）手続きをしております。

医療機器の他に、病院運営に必要な消耗品も各部署からの要望をとりまとめ、調達しております。アイテム数は概ね900品目にのぼります。

中央材料室には、SPD（材料物流管理）システムが導入されており、520品目の医療材料の入出庫を管理しております。



〈SPDセンター〉

物品の保守管理部門として2名の営繕担当者があり、院内のあらゆる施設の立付けから小物、備品を修理しております。なんでも修理してしまう不思議で欠かせない担当者です。

洗濯場、リネン庫の運営を施設資材課が担当しております。洗濯場では、院内の手術着を週に2,800

枚、大型洗濯機で洗濯しております。リネン庫では病棟で使われる布団やシーツを管理しています。毎日、130組のシーツ、パット、枕を各病棟へ配っています。また、新採用看護職員の白衣の準備やマシンによる修繕を行っております。ほつれたシーツ等を繕うこともお手のものです。

エネルギーセンターは、病院の心臓部で、電気系統の制御、ボイラー、中央管理の冷温水器（冷房、暖房）を24時間体制で見守っています。

地震等発生時は、まっ先に駆けつけ、病院全体の保全に万全を期しています。



〈ボイラー室〉

■ トピックス

平成25年度は、12億4千万円の整備を行いました。

- ・病院情報システム整備更新 11億円
- ・リアックUPグレード 7,600万円
- ・画像診断・内視鏡センター改修工事 1,400万円
- ・その他 5,000万円



〈サーバー室〉

緩和ケアチーム

■ 緩和ケアチーム

緩和ケアチームは院内入院患者へ対応しています。

緩和ケアチームは、患者・家族のQOLを向上させるために、緩和ケアに関する専門的な臨床知識・技術を用いて患者・家族へのケアや、病院内外の医療従事者への教育・支援を行います。

■ メンバー紹介

小松 弘尚 チームリーダー（消化器内科医師）

松本千香子（麻酔科医師）

香山 茂平（外科医師）

桐生 浩司（放射線治療科医師）

河野 秀和（呼吸器内科）

撰 香織（精神科・心療内科医師）

鶴谷 理恵（病棟看護科長）

高原さおり 岡田恵美子 古本直子

（緩和ケア認定看護師）

野村 昌代（がん化学療法看護認定看護師）

磯貝 明彦（薬剤師）

小林 恭子（理学療法士）

南 佳織（臨床心理士）

要田 裕子（管理栄養士）

益村 勇子（看護師・がん相談員）

林 理恵（社会福祉士・がん相談員）

以上の職種で構成しています。

■ 活動内容

毎日～隔日で緩和ケア認定看護師と臨床心理士が入院患者の元に訪れ困っておられることに対応します。

週一回緩和担当医師と薬剤師、緩和ケア認定看護師、臨床心理士、社会福祉士とで依頼されている患者さんの元に回診に伺います。毎週木曜日カンファ



レンス（参加はオープン）を行い、その結果を主治医、病棟、患者・家族へ返していきます。

■ 各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき過不足ないように主治医と連携し調節します。症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

【がん患者リハビリテーション】

がんを抱える患者に対して手術前後のケア、日常生活動作の維持、気分転換等を目的として関わります。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を行います。

【がんサロン】

がんサロンを隔週月曜日に開催します。

【がん相談】

療養場所の相談、在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。

■ 院内実績

・総依頼件数：172件

依頼内容：疼痛・疼痛以外身体症状

精神症状・家族ケア・病状説明

・院内外対象緩和ケア研修会開催

地域がんを診療する医師に対する研修会開催

■ 院外活動

日本緩和医療学会 発表：吉川麻里子

「顎骨壊死部の悪臭にメトロニダゾールワセリン1%軟膏とクリンダマイシン注が著効した症例」

・第7回日本緩和医療薬学会 発表：磯貝明彦

「がんの進行に伴う神経麻痺により大量オピオイドの減量が必要となった1例」

・日本死の臨床研究会 発表：岡田恵美子

「緩和ケア病床開設における看護師の不安の検討」

栄養サポートチーム (NST)

■ チーム概要

栄養サポートチーム (NST) は、患者さんの治療が円滑に進むよう、栄養面からサポートを行うチームです。

様々な職種のメディカルスタッフが、専門的な立場から最善の栄養管理を検討しています。

■ 専従・専任メンバー



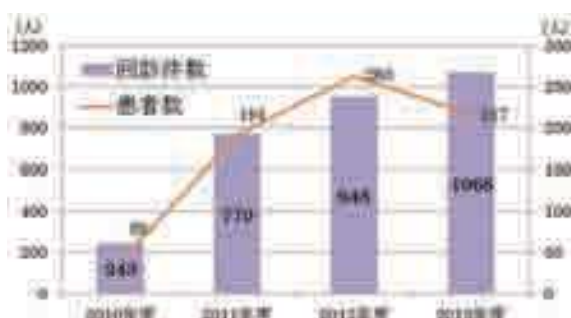
- ・ 医師：香山 茂平、櫻谷 正明 (ICU)
- ・ 管理栄養士：八幡 謙吾 (専従)
- ・ 看護師：藤田 寿賀、石崎 淳子、藤本七津美
- ・ 薬剤師：中島 恵子、山崎 貴司
- ・ 臨床検査技師：横山 富子、山下 美香
- ・ 理学療法士：金羽木敏治
- ・ 言語聴覚士：上田 雅美

■ 活動内容

- ・ NST ラウンド：毎週木曜日 14:30 ~ 16:00 頃
 - ・ NST カンファレンス：毎週木曜日 16:00 頃~
 - ・ 院内 NST 研修会：6 回/年
 - ・ 栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日
 - ・ 看護科栄養管理推進委員会：毎月第 2 月曜日
- ※看護科委員会ではミニレクチャーを開催

■ NST 回診件数・加算算定件数

- ・ 回診件数：延べ 1068 件/年 (前年 999 件/年)



■ 2013 年の Topics

- ・ 新規経腸栄養剤の採用
 - ①ペプタメン AF
 - …集中治療領域での栄養管理に使用
 - 栄養剤のオキシパからの切り替え
 - ②ペプチーノ
 - …医薬品経腸栄養剤の適正使用に向けた取り組みの一環で、消化吸収不良時の成分栄養剤の代替として、食品の消化態栄養剤の採用
 - ③アイソカル 2K
 - …2kcal / mL の RTH 製品を採用
- ・ 経腸栄養ポンプの採用
 - …新規に 8 台購入 (今後増台予定)
- ・ 電子カルテの更新
 - …入院時 MNA - SF、栄養管理計画書、NST 依頼、栄養治療実施計画 兼 実施報告書等の電子化

■ 学会・研究会発表など

- ・ 第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会
 - 「当院の TPN 処方の現状と今後の課題についての検討」
演者 中島 恵子 他
 - 「当院 ICU における NST 活動の成果と現状」
演者 八幡 謙吾 他

■ 栄養サポートチーム加算診療科別算定件数 (患者数)

診療科	2011 年度		2012 年度		2013 年度	
呼吸器内科	106	(29)	76	(23)	99	(18)
腎臓内科	20	(2)	19	(5)	47	(11)
糖尿病代謝内科	52	(7)	7	(2)	4	(2)
消化器内科	153	(63)	150	(70)	179	(54)
循環器科	55	(8)	77	(9)	76	(12)
心臓血管外科	47	(4)	12	(4)	68	(9)
呼吸器外科	19	(11)	41	(11)	30	(4)
外科・乳腺外科	99	(18)	190	(23)	169	(22)
脳神経外科	15	(5)	75	(15)	84	(15)
整形・形成外科	13	(9)	140	(66)	44	(23)
皮膚科	13	(4)	46	(7)	40	(6)
泌尿器科	58	(12)	41	(11)	35	(11)
放射線治療科	9	(1)	6	(1)	2	(1)
耳鼻咽喉科	27	(2)	5	(3)	27	(7)
小児科	0	-	8	(1)	0	-
歯科口腔外科	0	-	8	(1)	20	(2)
救急麻酔科	84	(16)	45	(10)	133	(19)
産婦人科	0	-	1	(1)	6	(2)
計	770	(191)	947	(263)	1063	(218)

単位：人

心臓リハビリテーションチーム

■ 設立趣旨

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さまに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に設立しました。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さまにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

■ メンバー紹介

医師：小林 平、久留島 秀治
 理学療法士：本間 智明、西谷 喜子、小島 輝久
 看護師：丸澤葉志子、益田 尚恵、石川 恵子
 伊藤 昭範、松田 沙織、向井 智里
 薬剤師：向井 一樹、大原由希子、實光 智美
 角井 碧
 栄養士：松下 有紀、渡壁 史那
 その他：形成外科、臨床検査科、義肢装具士

■ 活動内容

□開心術後心リハ 75件(2012年度94件)
 □急性心筋梗塞後心リハ 63件(2012年度48件)
 □腹部大血管手術後心リハ 24件(2012年度23件)
 □心肺運動負荷試験 44件(2012年度19件)
 □末梢動脈疾患手術後リハ 85件(2012年度24件)
 □下肢外来 22件(2012年度6件)
 □心不全心リハ 50件
 □日本心臓リハビリテーション学会発表

9演題(2012年度7演題)

—末梢動脈疾患手術後の外来指導“下肢外来”—

2012年度より運営を開始した“下肢外来”を2013年度も引き続いて行っています。入院中に行った心リハを自宅でも継続できているか、チームで介入しながら確認しています。また、この取り組みを利用して2012年度以前に手術をされた患者さまにも改めて指導をしています。



下肢外来の様子

—慢性心不全患者さまへの心リハを開始—

2013年度の新たな試みとして、9月より慢性心不全患者さまへの心リハを行っています。急性増悪によって入院された患者さまに対して、日常生活動作能力や運動能力の向上、疾病を理解してもらうことを目的にチームでアプローチしています。加療後、病状が落ち着いた患者さまに、薬物療法や食事療法、運動療法などの重要性についてパンフレットを使用して説明しています。生活習慣を改善し、再入院を予防することを目標としています。2013年9月から2014年3月までに心リハを施行した患者さまは50名でした。慢性心不全患者さまはご高齢の方も多いため、治療後できるだけ早くご自宅に退院できるようサポートを続けていきたいと思っております。



心不全患者さま用パンフレット

DMAT

1995年の阪神・淡路大震災以来、集団・災害医療への関心が年々高まってきています。医療体制が確保されていれば、防ぎ得た死が相当数あったとの教訓から平成8年厚生労働省は「災害時に初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関」である災害拠点病院を構想し、当院も1997年に認定をうけています。災害拠点病院は24時間災害に対応でき、被災地内の傷病者の受け入れ・搬出が可能である、十分な資機材を備えた医療救護班（DMAT：disaster medical assistance team）を派遣できる、などの要件を満たさなければなりません。DMATの活動の目的は災害や大事故の際に多数の患者を限りある医療資源で診療し、防ぎ得た死をなくすよう活動することです。その任務は災害現場のトリアージや災害拠点病院での治療、患者の広域搬送を主な業務とします。チーム活動の際食料、水、寝床などは自給することが求められるため、2泊3日が活動の限度といわれています。DMATの出動要請や出動待機となる状況は次のとおりです。自然・人的災害における被災地の都道府県や厚労省、文部科学省からの要請があった場合、また東京23区で震度5強以上、その他地域で震度6弱以上の地震発生時、津波警報発令、東海地震注意情報発令、大規模航空機墜落事故発生時は要請がなくとも待機状態であることを期待されています。

2006年9月に2泊3日の集中的な缶詰研修にて資格を得ました。下記のメンバーが活動しています。

黒木 一彦；脳神経外科医師
 杉山 陽一；一般外科医師
 青木 晴美；事務長
 寺田 英子；看護部副部長
 大田 博子；薬剤部長
 竹野 香織；看護師
 阿部 伸也；看護師
 生田 佑子；看護師
 後藤 友美；看護師
 三舛 正志；臨床検査技師
 高畑 明；診療放射線技師

■活動内容

2011年3月11日 14：46 東日本大震災 発生

2011年3月11日 22：00 呉より自衛隊輸送艦にて被災地に向かい、災害拠点病院で救助活動を行いました。

その後DMATが実際の災害など出動する機会はありませんが、いつでも出動できるようにチーム、個人で研修会や技能維持訓練に参加しています。

また災害マニュアルを見直し夜間・休日に災害が生じたときでも誰でもがリーダーとして指揮できるようなマニュアル・アクションカード作成に取り組んでいます。

2013.8.24、25 DMAT 技能維持研修

2013.11.9、10 広島県集団災害医療救護訓練

2013.11.24

オープンホスピタル 市民トリアージ、一次救命講習
 災害医療についての講義・授業

広島市医師会看護専門学校 17時間

山陽看護専門学校 15時間

厚生連尾道看護専門学校 10時間



がん化学療法チーム

■ チーム概要

がん患者のQOL向上、新しい治療法の開発など化学療法によるがん治療を安全・確実・安楽に行われることを目的としています。他職種の専門性を持って、適正な治療が選択実践されるように患者ケア・副作用対策・アドヒアランスの向上に寄与しています。

■ 専従・専任スタッフ

がん化学療法委員長：佐々木 秀
(肝・胆・膵外科主任部長)

がん化学療法看護認定看護師：野村 昌代

薬剤部科長補佐： 只佐 正嗣

薬剤部主任： 中島 恵子

外来がん治療認定薬剤師：藪田 ゆみ

〃 : 白井 敦史

〃 : 埋橋 賢吾

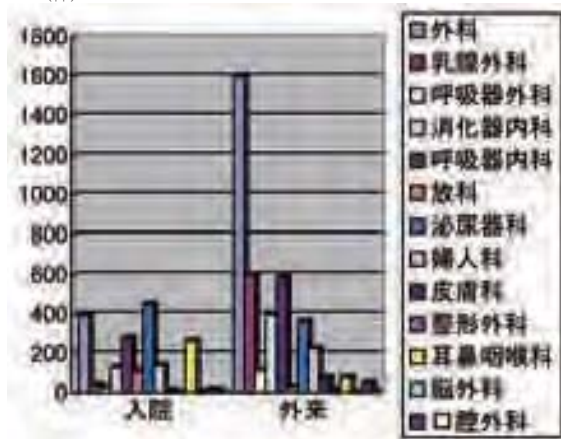
■ 外来化学療法治療室スタッフ

看護師：土井 美幸・岡田加奈子
吉川 咲子・増田 香

■ 実績

2013年度外来治療件数 4,151件
1日平均 17.0件
入院治療件数 1,872件

(件)



■ 活動報告

1. プロトコル審査WG…6回開催
承認：17レジメン、削除4レジメン
更新：1レジメン
現行：269レジメン登録中
2. 院内運用WG…2回開催
・電子カルテシステム変更による運用変更に伴う簡易マニュアル作成
・診療報酬改定に伴う協議
3. がん化学療法運営委員会…3回開催
4. その他
・毎週水曜日 消化器がんカンファレンス参加
・〃 乳腺術後カンファレンス参加
・毎月第1・3水曜日 膵胆道がん教室開催

■ トピックス

- ・がん患者指導管理の充実
外来がん治療認定薬剤師3名誕生に伴い、次年度よりがん服薬指導開始予定
- ・シスプラチン・パクリタキセルの2剤をジェネリック導入。

■ 教育

[院内]

- ・新人看護師ローテーション研修
- ・新人看護師研修講義
- ・看護ラダーII研修講義

[院外]

- ・第38回リザーバー研究会 in kagawa シンポジウム参加
- ・地域医療従事者研修発表

RST

■ RST とは

RSTとは呼吸療法サポートチーム（Respiratory Support Team）の略称で、呼吸療法が安全で効果的に行われるようにサポートするチームのことです。

■ 設立趣旨

集中治療室・救命救急センターに入院した患者さんが呼吸の補助を必要とする際に、非侵襲的陽圧換気（NPPV）や人工呼吸器を装着することがあります。一般病棟でも呼吸の補助が必要な場合には、引き続き呼吸の補助を継続することがあります。

私たちRSTは多職種からなるチームで構成されており、人工呼吸からの離脱管理やNPPVの適正使用に向けて、合併症予防や安全管理を総合的に行い、主治医または病棟看護師へのサポートを行うことを目的として活動しています。

■ 構成メンバー

医師	： 櫻谷 正明、平田 旭
臨床工学技士	： 荒田 晋二、田中 恵子
看護師	： 村中 好美
理学療法士	： 小山 明子
歯科衛生士	： 石井 真弓
薬剤師	： 吉廣 尚大
栄養士	： 八幡 謙吾

■ 活動内容

1) 病棟ラウンド

1週間に1度、人工呼吸器やNPPVが装着されている患者さんのベットサイドでラウンドシートをもとに、人工呼吸器のチェック項目や周辺環境を確認するだけでなく、各専門職種それぞれの目線で呼吸療法の管理について評価させていただきます。その結果を踏まえ適宜主治医や病棟看護師などの関連スタッフへの助言や提言を行います。また、人工呼吸器からの離脱の支援やNPPVマスクフィッティングの評価を行っています。



ラウンドの風景

2) 教育

RSTラウンドは定期的に参加します。ラウンドシートをもとに呼吸器設定の確認



人工呼吸セミナーの風景

方法や、周辺環境の点検方法を学習し、知識の向上に取り組んでいただきます。また、当院の医師に対して定期的に人工呼吸器のセミナーを行い、人工呼吸器に関する技術の向上に努めています。

3) チーム内での薬剤師の活動

ラウンドでベットサイドに訪れる患者さんの中には、耐性菌を保菌している患者さんがいます。ラウンドメンバーによる耐性菌の伝播を防ぐことができるように巡る順番を決定します。

RSTに参加することで、一般病棟の人工呼吸管理中の患者さんに介入することができるようになりました。患者さんの状態を把握した上で、必要な薬物治療・検査を提案することで、人工呼吸の早期離脱に繋がるよう心がけています。また、急性期を脱した患者さんの薬物療法が漫然と継続されている場合には、不要な薬物療法を中止できるように注意しています。



ラウンドの風景

■ 今後の課題

今後、他のチーム間との連携を深め、人工呼吸療法を算定していきたいと思っております。薬剤師は病棟の専任薬剤師と連携しながら、薬剤管理指導料を算定していきたいと考えています。

ICT

■ ICT とは

ICTとは Infection control team (インフェクション コントロール チーム) の略称です。院内の感染症発生動向の監視や各種検査によるアウトブレイクの早期発見、抗菌薬の適正使用、職員教育などを通じて院内感染対策の質向上を目指し横断的に活動しています。

医師を中心とした多職種スタッフが、専門的知識・技術・経験を活かして活動しています。

■ メンバー紹介

- 渡 正伸 (呼吸器外科医師、感染防止対策室長)
- 田崎 達也 (消化器外科医師、感染制御医)
- 近藤 丈博 (呼吸器内科医師)
- 丸山 聡 (泌尿器科医師)
- 櫻谷 正明 (救急・集中治療科医師)
- 大田 博子 (薬剤部長)、吉廣 尚大 (薬剤師)
- 正島 和美、角井 碧 (感染制御認定薬剤師)
- 池部 晃司、山川 理奈、池田 光泰 (臨床検査技師)
- 今本 紀生 (感染管理認定看護師)
- 村田美智子 (手術室・中央材料室看護科長)
- 田尾由美子 (病棟看護科長)
- 水村めぐみ、坂本 佳奈江 (病棟看護主任)
- 平舛 仁美 (内視鏡室看護主任)
- 行廣 優 (事務職員)

■ 活動内容

〈ICT ミーティング・ラウンド〉

ICT コアメンバー (医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員 各1名) を中心に、週1回の



頻度で症例および環境チェックのチームラウンドやミーティングを行っています。

- ・ラウンド：火曜日 15:00～15:30 (64回)
- ・ミーティング：金曜日 16:00～17:00 (40回)

〈院内研修支援〉

2013.4.5	新採用職員研修「手洗い演習、その他」
計3回	看護科ラダーII 感染管理シリーズ研修



〈院内研修会実績〉 (5回開催)

開催日	内 容
2013.6.18	首都圏を中心に流行中の風疹について
2013.8.28	知って得する結核の話
2013.9.25	ノロウイルス対策
2013.12.3	ノロウイルス、インフルエンザ対策
2014.2.25	2013年度の血液体液曝露について

■ 2013年度の Topics

・近隣施設との連携

2012年度に引き続き、近隣医療施設(7施設)と「地域連携合同カンファレンス」を開催しました。また、広島西医療センター ICT との相互ラウンドを実施しました。

〈合同カンファレンス〉

開催日	主な内容	参加数
2013.5.16	昨年度開催した院内研修会	36名
2013.7.18	職業感染対策	35名
2013.9.5	MRSA 対策、サーベイランス	39名
2013.11.14	冬期感染症対策、MDRP	37名

・主な感染症対応

2013.4	鳥インフルエンザ H7N9 対応準備
2013.6	風疹流行への対応 (抗体価調査 等)
2013.9	重症熱性血小板減少症 (SFTS) 対応
2013.12	ノロウイルス、インフルエンザ対応

・取り組み (介入) 事項

2013.6	閉鎖式輸液回路の導入
2013.9	個人防護具ラックの整備
2013.10	病棟製氷機撤去・アイスノン使用を推奨

災害対策ワーキングチーム

■災害対策 Working Team 設立の趣意……

2011年3月11日、日本中を震撼させた東日本大震災の記憶は、今も色あせることはありません。しかし日本は次の大災害が迫ってきていることを知っています。南海トラフに関連した大地震です。今世紀前半の発生が予想されている南海トラフ大地震は、広島県においても多くの地域で震度6弱の揺れを観測し、津波の高さは廿日市市で4m、死者は800人と予測されています。

当院においては、東棟・管理棟・中棟の老朽化、沿岸部に立地していること、ライフラインコントロール設備が地下にあることなどから、地震や津波による倒壊、浸水の被害を受けるリスクが極めて高い環境にあります。しかし災害拠点病院であることから、この地域の災害医療を担うことが求められています。このような課題にどのように対応するのか考え、対策を推進するために始めた活動が「災害対策 Working Team」の活動です。

■構成メンバー……

DMATメンバーや看護協会登録災害支援ナースを中心として、職種・部門を問わず、防災・減災活動に参画したいという意思がある職員で構成されています。

医師：黒木 一彦、杉山 陽一
 看護師：寺田 英子、坂尻 明美、中元 美恵
 野田 明美、竹野 香織、上田 順子
 生田 佑子、米田 直美、長田 昌子
 阿部 伸也、早樋 芙美、小松 照尚、
 後藤 友美、山下 元美
 薬剤師：只佐 正嗣
 栄養士：河本 良美
 放射線技師：高畑 明
 臨床検査技師：三舛 正志
 臨床工学技士：瀬尾 憲由、黒木 宏泰
 事務：山根 保博、森藤 望、中司 貴子

■活動の概要……

活動日は毎月第1月曜日の夕方1時間程度とし、2012年度5月より活動を開始しました。今年度より、当院組織の「集団・災害医療救護体制委員会」の下部組織に位置づけられました。今年度の活動内容は以下の通りです。

- 1) 災害対応マニュアルの改訂に向けた問題点の抽出
- 2) 災害マニュアルの改訂とそれに基づいたアクションカードの作成
- 3) 地域住民との防災・減災にかかわる活動
地域の防災訓練に参加し、一般市民によるトリアージの方法を指導しました（写真）。また住民の方への防災意識調査では、どの地区でも日頃から気象情報や災害情報に関心がある方が多く、災害への関心が高いことがわかりました（表）。
- 4) オープンホスピタルへの参加
ポスター展では、「住民投票部門」で優勝しました。またAED体験ブースや市民トリアージブースを設け、地域住民の方々とふれあい防災への意識付けを推進しました。
- 5) 備蓄・ライフライン確保のための検討
- 6) チーム医療報告会への参加



『はい』と答えた質問 TOP 3		
A地区	1	日頃から気象情報や災害情報に関心がある
	2	日頃からの近所づきあいの必要性を理解している
	3	自分もいつかは被災するという意識がある
B地区	1	日頃から気象情報や災害情報に関心がある
	1	自分の健康状態を他人に説明できる
	3	日頃からの近所づきあいの必要性を理解している
	3	避難勧告が発令した際、隣近所へ声かけをする
C地区	1	日頃から気象情報や災害情報に関心がある
	1	自分の健康状態を他人に説明できる
	1	自宅に近い避難場所・避難経路を知っている

■ 学会発表等

□ 第 24 回佐伯医学会総会

「集団・災害医療救護体制委員会『災害対策ワーキングチーム』活動報告」山下元未（2013年11月3日）

□ 第 12 回広島西部救急研究会

「多職種協働でつくる『災害対策ワーキングチーム』の活動報告」小松照尚（2013年11月13日）

□ 第 19 回日本集団災害医学会総会

「多職種でつくる『災害対策ワーキングチームの活動』」

阿部伸也、寺田英子（2014年2月26日）

□ 平成 25 年度広島県農村医学研究会

「多職種でつくる『災害対策ワーキングチームの活動』」

阿部伸也、黒木一彦、竹野香織、寺田英子（2014年2月15日）

「膵がん・胆道がん教室」運営チーム

■はじめに

昨年の年報でご報告させていただきましたとおり、2012年から、院内に新たなチームとして「膵がん・胆道がん教室」を立ち上げさせていただきました。全国でも数えるほどしかない「教室」ですが、膵がんや胆道がんの患者様が比較的多い私たちの施設にとっては、特に大切な企画であると感じています。現在まで休むことなく継続できていますのも、院内の皆様のご協力のおかげと感謝しています。1年間の「教室」の活動内容につきまして、ご報告させていただきます。

■メンバー紹介

医師：藤本佳史

看護師：坂尻明美、野村昌代、吉川咲子、古本直子

緩和ケア科：高原さおり、南 佳織

薬剤師：藪田ゆみ、埋橋賢吾、白井敦史

管理栄養士：河本良美、松下有紀、長曾我部弘子

リハビリテーション科：上野忠活、小林恭子

MSW：正島忠貴、林 理恵

外部講師：木村泰博先生、小笠原英敬先生、長谷川健司先生、中丸光昭先生、坂本臨床心理士さん

■活動内容

2013年2月に、国立がんセンター中央病院で研修を受け、2月20日から本格的に開始しました。現在は隔週で開催し、4回を1クールとしています。

教室の内容は、1. 病気と治療、2. 薬と副作用、3. がんと栄養、4. がん暮らし、をテーマとして開始しましたが、現在はパンフレット〈Fig1〉の様に、在宅医療やホスピス、心をテーマとした話も取り入れています。在宅医療の話は、佐伯地区医師会の先生方に講師をお願いしています〈Fig2〉。また、心をテーマとした話は、廿日市記念病院（ホスピス）の臨床心理士さんに講師をお願いしています〈Fig3〉。

2013年11月には全国会である「ワークショップ」が東京で開催され、当院の取り組みを発表させていただきました。地域に密着した運営は皆様から興味

深く受け止められました〈Fig4〉。

「教室」を必要としている患者様やご家族は多く、皆様のご協力をお願いします。



〈Figure 1〉



〈Figure 2〉

〈Figure 3〉



〈Figure 4〉

PEG チーム

■ チーム概要

PEG チームは、院内での PEG ケアや知識の統一を目的として設立されました。PEG 造設患者は長期にわたるケアが必要であり、造施設である当院だけでなく在宅や施設で管理されることが多くなります。

そのため、院内だけでなく院外での研修会など活動の輪を拡大しています。

■ メンバー紹介

医師 徳毛 宏則（消化器内科医師）
★専門胃瘻造設者、専門胃瘻管理者

看護師 石崎 淳子（内視鏡技師）
★専門胃瘻管理者

松下 理恵（内視鏡技師）
藤本 奈津美
★摂食・嚥下障害認定看護師

植田 美奈
宮本 みい子

栄養管理士 八幡 謙吾
★NST 専従

■ 活動内容

① PEG 回診

- ・毎週水曜日の NST ラウンド時に連携してラウンドを実施しています。
- ・病棟や外来からの相談には常時対応しています。

② 研修

《院内》

- ・NST 研修会
PEG の知識とケア
- ・新人研修
経腸栄養、PEG ケアの実際

《院外》

- ・地域施設研修会

③ 広島ページェントとの連携

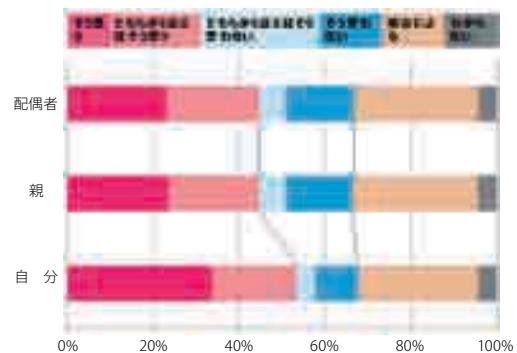
広島胃瘻と経腸栄養療法研究会（広島ページェント）とは、胃瘻と経腸栄養療法を考えていこうとする広島県を中心とした医療・介護関係者を中心の集まりで、今年も第 9 回が開催されました。

■ トピックス

第 8 回広島ページェント参加者 256 名（医療従事者・一般参加者）に胃瘻に対するアンケート調査を行いました。質問項目は 1) 胃瘻の現状認識、2) 胃瘻造設決定プロセスへの医療従事者の関わり、3) 本研究会前後で胃瘻に対する意識や考えに変化が出たか、の 3 項目で実施しました。

胃瘻の安全性や有用性への理解は進みつつありますが、十分とは言えない現状でした。また、医療従事者と一般市民の間では、胃瘻に関する認識に差がある可能性がありました。胃瘻造設の決定には、医療者からの話が影響を与えている可能性を自覚し、正しい情報提供をもとに患者・家族とともに決定していくことが重要であると思われました。

問) 胃瘻を自分や身内に造設してほしくないですか。



- 審査件数 1 件 (承認 1 件)
 - ・第 2 回 (2013 / 5 / 17)
審査件数 8 件 (承認 7 件、審査外 1 件)
 - ・第 3 回 (2013 / 6 / 21)
審査件数 7 件 (承認 7 件)
 - ・第 4 回 (2013 / 7 / 12)
審査件数 1 件 (承認 1 件)
 - ・第 5 回 (2013 / 8 / 23)
審査件数 12 件 (承認 12 件)
 - ・第 6 回 (2013 / 9 / 27)
審査件数 5 件 (承認 4 件、保留 1 件)
 - ・第 7 回 (2013 / 10 / 25)
審査件数 4 件 (承認 4 件)
 - ・第 8 回 (2013 / 11 / 22)
審査件数 5 件 (承認 5 件)
 - ・第 9 回 (2013 / 12 / 20)
審査件数 2 件 (承認 2 件)
 - ・第 10 回 (2014 / 1 / 24)
審査件数 2 件 (承認 2 件)
 - ・第 11 回 (2014 / 2 / 21)
審査件数 3 件 (承認 3 件)
 - ・第 12 回 (2014 / 3 / 14)
審査件数 1 件 (承認 1 件)
- 3) 2013 年度承認された研究の申請部署別内訳
- | | |
|------------|------|
| ・医局 | 29 件 |
| ・看護科 | 16 件 |
| ・臨床研究検査科 | 1 件 |
| ・放射線科 | 1 件 |
| ・広島赤十字看護大学 | 2 件 |
| 合計 | 49 件 |

臨床検査適正化委員会

委員長 石田 和史

本年度も、臨床検査に関する問題、ならびに適正な運用に関する議案を審議し、より一層診療支援となるよう活動を行いました。

◆構成メンバー

- 医師 7 名
- 看護師 3 名
- 臨床検査技師 6 名
- 事務部門 2 名

◆活動報告

【第 1 回】

- ・成長ホルモン (GH) の補正式について
- ・薬剤感受性カードの変更
- ・トロンボテスト (TT) 及びプラスミノゲン (PLG) の外注化
- ・ゴールデンウィークの輸血用血液の供給体制について

【第 2 回】

- ・プロカルシトニン (PCT) 測定機器・試薬の変更
- ・外注先、試薬変更に伴う検査内容の変更について

【第 3 回】

- ・尿中ヘリコバクター・ピロリ抗体検査キットの出荷停止に伴う対応→血清ヘリコバクター・ピロリ抗体定性検査 (ミニットリード)
- ・風疹抗体判断基準の変更

【第 4 回】

- ・平成 25 年度日本臨床衛生検査技師会臨床検査精度管理調査結果報告

【第 5 回】

- ・血液培養ボトルの変更
- ・広島県下での「臨床基準値 (範囲)」共有化への協力について
- ・UIBC の院内測定について
- ・LDL - C の試薬変更について
- ・検査項目名称の変更について
- ・年末年始の業務体制について

【第 6 回】

- ・抗利尿ホルモン (ADH) の試薬変更
- ・血液・尿以外の生化学・免疫検査項目について
- ・細菌検査の結果報告
- ・臨床検査依頼書の変更について

【第 7 回】

- ・外注項目の検査内容変更について
- ・HBs 抗原の測定試薬変更について
- ・ミオグロビン、トロポニンIの測定機器、試薬の変更について
- ・View アレルギー 36 について
- ・ホルター心電図解析結果報告について

平成 25 年度臨床検査外部精度管理報告

- ・日本臨床衛生検査技師会精度管理調査
評価 204 / 204 で 100 点を獲得
- ・日本医師会臨床検査精度管理調査
評価 623 / 640 で 97.3 点を獲得
- ・広島県医師会臨床検査精度管理調査結果報告
評価 574 / 575 で 99.8 点を獲得

衛生管理委員会

委員長 藤本吉範

労働安全衛生法第 17 条及び第 18 条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月 1 回の衛生管理委員会を開催しています。

〈衛生管理委員会構成メンバー〉

委員長：病院長

副委員長：健康管理センター長・産業医

委員：感染防止対策室長、診療部長、薬剤部長、放射線科長、臨床・病理研究検査科長、栄養科長、看護部副部長、看護科長、医療安全管理室科長、感染防止対策室科長、健康管理課長、事務次長、総務課長、人事課長、施設資材課長、放射線科主任、健康管理課主任、看護科主任、栄養科主任

オブザーバー：事務長

なお、委員の半数は従業員組合の推薦で選ばれています。

〈平成 25 年度の主な取り組み事項〉

1. 過重労働対策について

平成 18 年度から職員の超過勤務時間を毎月調査し、委員会で報告しています。また、平成 20 年度からは、月に 80 時間以上の超過勤務が 2 ヶ月連続

した職員、もしくはひと月の超過勤務が 100 時間を超えた職員に対し、産業医による面接指導の案内を文書で行っています。平成 25 年度は、医師 1 名、臨床検査技師 1 名、事務 3 名に対し文書を発布し、その内 3 名に対し面接指導を行いました。

2. 職員のメンタルヘルス対策について

心の健康づくり推進のひとつとして、平成 18 年度から毎年、夏期職員健康診断時期にメンタルヘルス調査を行っています。平成 25 年度も日本版 SDS (Zung's Self-rating Depression Scale) を全職員対象に実施しました。

3. 感染症検査及びワクチン接種等の状況

平成 21 年度より、職員の入職時検査に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、HBs 抗原・抗体検査を実施しています。B 型肝炎対策として、在職者および新入職者の中で、必要かつ希望する者にワクチン接種を行いました。さらに、平成 25 年度は風疹が流行したため、希望者に対し風疹抗体検査を行い、抗体陰性の者にワクチン接種を実施しました（ワクチンの入荷が限定的であったため、優先順位をつけ入荷次第順次接種）。

また例年どおり、インフルエンザの流行に備えて、職員・職員家族の内、希望者を対象に 10 月から 11 月にかけてインフルエンザワクチン接種を実施しました。職員の接種率は 91.6%となっています。

4. 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があるごとに、状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、感染防止対策室とも合同でミーティングを行い、結核患者接触のハイリスク部署の職員は、T スポット検査および年 2 回胸部 X 線検査を実施するよう対応を強化しました。

5. 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、また各部署の所属長への声かけを積極的に行っており、職員健康診断の受診率は昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、

事務職員に対し健康診断結果に応じて産業医が個別指導・説明を行いました。また、パソコンの使用頻度が高い事務職員および診療放射線技師に対しVDT (Visual Display Terminals) 健康診断を、フィルムバッチ着用者を対象に電離放射線健康診断を実施しました。

【年度別健診受診率】

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
夏期健診	94.9%	97.9%	97.2%
冬期健診	100.0%	98.2%	97.3%

6. 職場巡視

病理研究検査科、解剖室、洗濯場、手術室の4箇所を訪問し、職場環境をチェックしました。問題点や要望等を委員会で報告し、改善できるところはないか検討しています。洗濯場においては委員会での報告後、業務用洗濯機および大型スチームアイロンが設置され、部屋も以前より広く使えるようになり、職場環境の改善につながりました。

7. その他

作業環境測定（病理研究検査室・解剖室・滅菌保管室）を年に2回実施し、その結果を委員会で報告しています。平成25年度は、解剖室においてホルムアルデヒドの数値が「適切でない」と判定されたため、施設資材課により排気ダクトが設置され、その後の測定で「適切である」へ改善しました。

8. まとめ

平成25年度は職員の風疹感染予防や、B型肝炎やインフルエンザ、結核等の感染症対策に取り組んできましたが、職員の感染症検査のデータベース作成や、長期休職者に対する具体的な対応策の作成について、引き続き具体的な検討をしていく必要があると考えています。

診療録管理委員会

委員長 石田和史

1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理上および診療記録に関する事項を検討、討議す

ることも目的として、診療録管理委員会が設立されました。

診療録管理委員会の構成

オブザーバー：病院長、事務長

委員長：医師

委員：医師5名、薬剤師1名、看護師6名、

事務部門2名、診療情報管理士3名

計20名

2. 活動内容

【平成25年4月～平成26年3月】『医師同士による質的監査』について

医療と診療録記録の質の向上を図る目的で、医師同士による質的監査（オーディット）で、診療録内容のチェックを実施し、その結果・内容は各医師へ報告・還元しています。当委員会は、全医師の診療録の改善に役立ててもらおうよう働きかけています。

平成25年度 科別質的監査件数

監査対象科	件数	オーディット担当者	件数
呼吸器内科	4	呼吸器内科	2
循環器科	7	循環器科	7
腎臓内科	4	腎臓内科	2
糖尿病代謝内科	4	糖尿病代謝内科	3
消化器内科	9	消化器内科	5
小児科	4	小児科	5
外科	13	外科	13
整形外科	6	整形外科	5
形成外科	1	形成外科	2
脳神経外科	4	脳神経外科	5
呼吸器外科	2	呼吸器外科	2
心臓血管外科	3	心臓血管外科	2
皮膚科	3	皮膚科	2
泌尿器科	3	泌尿器科	2
産婦人科	6	産婦人科	7
眼科	2	眼科	3
耳鼻咽喉科	3	耳鼻咽喉科	3
口腔外科	2	放射線治療科	1
救急・集中治療科	5	画像診断部	2
		麻酔科	7
		口腔外科	3
		救急・集中治療科	2
総計	85	総計	85

『退院時サマリー2週間以内記載率ならびに1か月記載率』について

退院時サマリーは退院後の外来診療等を円滑に遂

行し、主治医以外の医師が診療情報を共有できるよう、記録として残し活用することを目的としています。

そのため、高い記載率を保って頂けるよう働きかけると共に記載率を公表しています。

診療科別退院時サマリー2週間以内記載率

平成25年4月～平成26年3月分

診療科	2週間以内記載率	診療科	2週間以内記載率
呼吸器内科	83.95%	心臓血管外科	97.16%
循環器科	77.91%	皮膚科	82.53%
腎臓内科	67.28%	泌尿器科	90.88%
糖尿病代謝内科	90.32%	産婦人科	84.69%
消化器内科	82.70%	眼科	78.74%
小児科	73.59%	耳鼻咽喉科	90.78%
外科	83.00%	放射線治療科	80.91%
整形外科	82.32%	麻酔科	100.00%
形成外科	90.69%	口腔外科	90.33%
脳神経外科	90.58%	緩和ケア科	93.75%
呼吸器外科	76.12%	救急麻酔科	100.00%
平均科別2週間以内記載率		85.83%	

診療科別退院時サマリー年間記載率

平成25年4月～平成26年3月退院分

診療科	登録状況			統計	科別記載率
	2週間以内	2週間越え	1か月越え		
呼吸器内科	625	83	22	730	100.00%
循環器科	723	130	71	924	100.00%
腎臓内科	220	94	10	324	100.00%
糖尿病代謝内科	128	13	1	142	100.00%
消化器内科	1363	203	64	1630	100.00%
小児科	611	131	113	855	100.00%
外科	1220	180	32	1432	100.00%
整形外科	1060	134	99	1293	100.00%
形成外科	41	4	0	45	100.00%
脳神経外科	626	56	7	689	100.00%
呼吸器外科	204	69	7	280	100.00%
心臓血管外科	298	5	0	303	100.00%
皮膚科	168	29	4	201	100.00%
泌尿器科	922	12	1	935	100.00%
産婦人科	967	162	20	1151	99.83%
眼科	417	22	1	440	100.00%
耳鼻咽喉科	502	0	0	502	100.00%
放射線治療科	52	6	0	58	100.00%
画像診断部	0	0	0	0	100.00%
麻酔科	1	0	0	1	100.00%
歯科口腔外科	85	11	3	99	100.00%
緩和ケア	57	0	0	57	100.00%
救急・集中治療科	1651	0	0	1651	100.00%
総計	11941	1344	455	13742	99.99%

地域医療連携推進委員会

委員長 小深田 義 勝

□設立の目的

当院が、地域の中核病院としての役割を發揮するために、院内の診療体制整備、強化を行うことを目的とし設立されました。また、委員会の活動により円滑な地域医療連携を推進し、地域から信頼される病院を目指します。

□所掌事務

- ①地域医療連携に係わる活動実績に関すること（紹介・逆紹介、退院支援、地域連携クリニカルパスなど）。
- ②地域医療連携に係わる院内の体制に関すること。
- ③地域医師会、関係機関との連携に関すること。
- ④地域医療連携に係わる地域住民への広報活動に関すること。
- ⑤その他、地域医療連携に関すること。

(2013年度 地域医療連携推進委員会構成員)

オブザーバー：病院長、事務長

委員長：病院長代行

委員：医師10名、薬剤師1名、保健師1名、

看護師7名、事務部門5名、診療情報管理士1名

□活動報告

2013年度は、平成25年8月30日及び平成26年3月24日の二回開催し関連事項について報告・検討を行いました。

輸血療法委員会

委員長 松本 千香子

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行いました。(6回開催)

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・アルブミン使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。輸血療法に伴うインシデント事例は昨年同様、医療安全管理室と連携し、内容・発生要因・改善策について

検討を行いました。電子カルテ変更に伴い緊急輸血手順を変更しました。昨年度の訪問相談での指摘改善事項の、輸血医療のIT化推進は、電子カルテ変更に伴い導入できました。輸血後感染症検査の推進については、各部門で関与（チーム医療）して患者説明を行い輸血後感染症の推進に努めるよう手順を検討しており、来年度も継続審議を行います。

【今年度の主な取り組み】

- ・製剤使用状況・廃棄報告
- ・輸血副作用報告
- ・抗D免疫グロブリン投与による抗D抗体報告について
- ・自己血採血の採血量について
- ・緊急輸血の対応 異型適合輸血について
- ・緊急輸血実施手順変更について（電子カルテ変更）
- ・輸血前後の感染症検査について
- ・アルブミン製剤使用状況調査

【院内合同研修会】

開催日 2013.10.17

演題 緊急成分輸血の安全管理 術中輸血を参考に

講師 東 俊晴

国立国際医療研究センター国府台病院 麻酔科医長
 来年度はアルブミン使用状況調査アンケートの集計分析と院内における安全・適切な使用運用の見直しを行いアルブミン使用に関する意識を高めていきたいと思えます。

25年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		合計	廃棄率
Ir-RCC-LR2	3972	124	RCC	3974	3%
Ir-RCC-LR1	2	0			
FFP-LR240	1310	48	FFP	1732.75	3.7%
FFP-LR480	224	0			
FFP-Ap5	198.75	18.75			
Ir-PC-LR5	30	0	PC	3020	1.3%
Ir-PC-LR10	2990	40			
Ir-PC-LR15	0	0			

25年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	86	81	5
心臓血管外科	8	8	0

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
泌尿器科	331	228	103
産婦人科	66	28	38
合計	491	345	146

25年度 特定生物由来製品使用状況

製 品	本 数
20%アルブミン	1260
ヴェノグロブリンIH 5g	7
グロベニンI 2.5g	69
グロベニンI 5g	79
5%日赤ポリグロビンN 5g	2
テタノブリン筋注 250国際単位	15
ハプトグロビン静注	61
抗D人免疫グロブリン筋注	6
乾燥HBグロブリン筋注	10
献血ノンスロン	222
フィブログアミンP	3
タコシール 3×2.5cm	74
タコシール 9.5×4.8cm	70
ボルヒール 1ml	51
ボルヒール 3ml	64
ボルヒール 5ml	73
アブラキサン点滴静注 100mg	41
5%アルブミンナー 250ml	

医療ガス安全・管理委員会

委員長 新澤正秀

□設立主旨

昭和63年7月15日付および平成5年10月5日付の厚生労働省通知にて、『医療ガス設備の保安管理』について、その重要性が位置づけられ、吸入麻酔器、人工呼吸器等を設置し、医療ガスを使用して診療を行う施設においては、「医療ガス安全・管理委員会」を設置し、医療ガス設備の保守点検、工事の施工監理を行うよう、危害防止に関する指導が行われているところです。

□構成メンバー

委員長：新澤正秀

副委員長：新宅幸司

委員：中尾正和、松本千香子、藤田寿賀、大田博子、瀬尾憲由、村田美智子、生田佑子、吾郷志津枝、松村英昭、石原忠、大久佑樹、藤木翔

オブザーバー：藤本吉範、青木晴美

□活動内容

- ・開催日：平成26年2月28日
- ・協議事項：医療ガス設備点検等の報告、院内酸素ボンベラウンドの結果報告

禁煙推進委員会

委員長 渡 正 伸

■設立主旨

病院施設内外における禁煙推進全般に関することについて協議し活動します。

■禁煙推進委員会の構成

オブザーバー：病院長、事務長

委員長：医師 渡 正伸 副委員長：医師 桐生 浩司

委員：医師2名、看護師3名、事務部門1名

■活動内容『平成25年4月1日～平成26年3月31日』

■委員会の開催（3回開催）

●平成25年11月11日

- ・イオン店舗横での喫煙に対する対応について
- ・施設内喫煙状況について
- ・職員の喫煙状況について
- ・職員に対する禁煙の推進について

●平成25年12月25日

- ・イオン店長との面談について（報告）
- ・患者入院時のオリエンテーション

●平成26年2月21日

- ・院内禁煙支援研修会の開催について
- ・敷地内喫煙状況について

■禁煙支援研修会の開催

- ・日時：平成26年2月28日（金）
- ・看護科禁煙プロジェクトチームからの報告
- ・講演「禁煙治療と当院の禁煙外来の現状」（渡医師）

■総括

施設内での喫煙は減少傾向にあるもの、隣接する店舗や電停付近での喫煙は後を絶たない状況である。

今後は、病院全体の取り組みとして、患者に対して入院時に治療上の禁煙の重要性を説明した上で、

入院中の喫煙に対する注意指導を行うシステム策定に向けた取り組みを行う。

臨床研修医支援委員会

委員長 大 下 彰 彦

臨床研修医支援委員会は、臨床研修医との情報共有を図り、充実した研修を行えるように支援することを目的として設立されました。研修医と指導医の中間的な立場で研修医を支援（臨床力の充実、学術活動、生活面・精神面のサポート）する役割を担っています。

今年度は、7回委員会を開催し、昨年に引き続きEarly Bird Lecture（毎週月曜朝7時～実施、MRによる説明、研修医によるプレゼン、上級医によるレクチャー）の内容や運営について、また研修医からでた意見や、よりよいセミナーを開催するための外部講師の招聘についても協議し、臨床研修の質の向上に努めました。

年に2度、研修医会を開催し、指導医と研修医の交流を深めています。

指導医の意見交換や研修医からのヒヤリング内容を報告し、より充実した研修が行えるよう取り組んでいます。



平成25年度 研修医集合写真

地域がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 佐々木 秀

1. 設立目的

地域住民が日常生活圏内で質の高い全人的がん医療を受けることができる体制整備について検討し、拠点病院としての機能強化と円滑な運営を図ることを目的としています。

2. 任務

- 1) 院内がん診療領域の改善活動に関すること。
- 2) 院内がん登録システムに関すること。
- 3) がん診療に係る研修及び公開カンファレンス等の開催に関すること
- 4) がん診療に係る情報提供及び相談支援に関すること。
- 5) がん診療に係る広報に関すること。
- 6) その他がん診療に関すること。

3. 委員

委員会の構成員は、病院長の指名により構成します。

委員長：肝・胆・膵外科、化学療法主任部長

副委員長：放射線治療科主任部長、内視鏡科主任部長、緩和ケア科主任部長、地域医療連携室長、総合医療相談室長

委員：病院長代行、診療部長、センター長、主任部長、薬剤科長補佐、放射線治療科長、栄養科長、看護科長、診療情報管理科長、地域医療連携室、事務次長、医事課長、施設資材課長、総務課長

書記：総務課係長

4. 開催状況

委員長の招集により定期的に開催します。今年度は3月28日（金）に開催し、がん診療連携拠点病院の指定更新等について協議しました。

広報委員会

委員長 辻山 修司

□設立の目的

院内における各部署の活動を院外に広く知って

いただくことを目的として設立されました。幅広い部署についての詳細な広報としては年報がありますが、よりリアルタイムにタイムリーな話題についての広報も必要です。そのための手段の一つがホームページであり、もう一つが広報誌「せと」です。この二つを作成・管理することが本委員会の目的です。

□委員会活動

委員会は年3回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、その際にホームページについての検討も行っています。

1. ホームページ

ホームページについては年に1回アクセス解析を行い、有益なサイトとの相互リンクを増やすことによりアクセス数の増加に努めております。

また、トップページにあるトピックスは、診療科及びメディカルスタッフによって作成された最新の情報や話題、イベントなどの情報を定期的に更新することで、常に最新の話題が掲載されるように努めております（下記）。

各部署の掲載記事については、最新の診療実績や活動内容など年に1回程度の更新が理想ではありますが、現実的には難しいケースもあるため、前年度の当院の実績などを取りまとめた活動レポートをホームページ上に掲載することで、最新情報の提供に努めております。

2. 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年3回（新年号・春夏号・秋号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことが出来るような小冊子で、新年号は年始の病院長挨拶に始まり、春夏号は新任医師の紹介、秋号は院内のトピックス等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

2013年度は、春夏号で在宅医療支援チーム、秋号で眼科、乳腺外科、感染対策チーム、新年号で皮膚科、

麻酔科、糖尿病チーム、胃瘻チームを紹介しました。

今後も、分かりやすくタイムリーな情報提供に努めます。

診療部門及び診療支援部門にて定期的に更新している、トピックスのアクセス数 TOP3 (2013.6.1～2014.6.1)

□診療部門

1. 『歯科口腔外科』

多発するビスホスホネート製剤による顎骨壊死の情報です。

2. 『循環器内科』

心筋梗塞と PCL / スtent 治療

3. 『循環器内科』

超悪玉コレステロール (small dense LDL - Cholesterol : sdLDL - C) に関して

□診療支援部門

1. 『中央放射線科』

心臓 CT 検査について

2. 『臨床工学科』

非侵襲的人工呼吸器 (NPPV) 専用機の増設

3. 『看護部』

今年度当院では、74 人のフレッシュな職員を迎えました！

アカデミック委員会

委員長 徳毛宏則

1. 設立趣旨

当院の医療および医療学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で平成 22 年に設立されました。

2. 活動内容

①学術奨励賞の設定 ②病院年報の充実 ③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動 ④他施設との情報交換、人的交流の促進と支援です。

今年度は委員会を 4 回開催し、下記の事項について協議しました。

(1) 第 4 回ふれあいポスター展

平成 25 年 11 月 11 日～12 月 27 日、各部署が趣向を凝らして作成したポスター 42 作品を院内に展示し、地域住民等から選出された 6 作品を表彰しました。

◆表彰作品

賞	部門	部署
最優秀賞		東 7 階病棟
優秀賞	医局部門	眼科
	看護部門	内視鏡センター
	コメディカル部門	栄養科
	チーム活動部門	ICT
	住民投票部門	災害対策ワーキングチーム

(2) 第 4 回アカデミー学術賞

学会・研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

◆最優秀賞受賞者

部門	診療科	氏名
内科系	消化器内科	瀧川 英彦
外科系	肝・胆・膵外科	大下 彰彦
コメディカル	看護科	石崎 淳子
研修医	臨床研修科	宮本 俊輔
研修医	臨床研修科	馬場 健太

(3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支給し、学術活動の支援を行っています。

◆各診療科への支援状況

部署	件数
呼吸器内科	2
腎臓内科	0
糖尿病・代謝内科	0
消化器内科	12
循環器内科	1
小児科	1
外科	16
乳腺外科	4
整形外科	20
脳神経外科	2
呼吸器外科	3
泌尿器科	0
産婦人科	1
眼科	2
麻酔科	6
救急・集中治療科	8
健康管理科	0

部署	件数
病理研究検査科	0
臨床研修医	5
耳鼻咽喉科	1
画像診断部	0
心臓・血管外科	2
形成外科	0
歯科口腔外科	0
皮膚科	0
放射線治療科	1

(4) ハワイ大学研修について

医学教育で有名なハワイ大学で医師としてのレベルアップを目指し、英語環境にも触れ、また、日頃の忙しい日常業務から開放され、鋭気を養ってもらうことを目的に、昨年度より短期海外研修を実施しました。

対象者は、初期研修から引き続き当院で3年目の勤務を続けた医師で、今年度は6名が参加しました。

救命救急センター運営委員会

委員長 吉田研一

1. 設立目的

救命救急センターの業務に関する諸問題を審議し、業務を安全かつ円滑に行うことを目的としています。

2. 任務

委員会は次の各号に掲げる事項を行います。

- (1) センターの運営状況の報告と分析
- (2) センターの効率的運営に関する事項
- (3) センターの治療方針等に関する事項
- (4) その他必要と思われる事項

3. 委員

委員会の構成員は、病院長の指名により構成します。

委員長：地域救命救急センター長

副委員長：副院長・麻酔科主任部長

委員：副院長、診療部長、センター長、主任部長、看護部長、看護副部長、看護科長、薬剤部長、薬剤科長、臨床研究検査科長、病理研究検査科長、放射線科長、臨床工学科長、地域医療連携室長、総合医

療相談室長、事務長、事務次長、施設資材課長、人事課長、医事課長、総務課長、診療情報管理科長、情報企画課長

書記：総務課係長

オブザーバー：病院長、病院長代行

4. 開催状況

毎月1回、定期的に開催をしております。主にセンターの運営状況の報告および分析、救急患者受入時の対応について協議しました。

個人情報保護対策委員会

委員長 青木晴美

1. 設立目的

情報公開及び個人情報保護の円滑な実施を審議することを目的としています。

2. 審議事項

- 1) 個人情報保護の実施体制に関すること。
- 2) 個人情報及び診療録の開示に関すること。
- 3) 個人情報の漏洩等の防止に関すること。
- 4) 個人情報の取扱いに係る苦情処理に関すること。
- 5) 従業員の個人情報保護に関すること。
- 6) 従業員の教育・研修に関すること。
- 7) その他保有個人情報の管理に関すること。

3. 委員

委員会の構成員は、病院長が委嘱します。

委員長：事務長

副院長：事務次長

委員：診療部長、センター長、主任部長、薬剤部長、看護部長、看護部副部長、放射線科長、リハビリテーション科長、看護科長、医療安全管理室科長、地域医療連携室長、診療情報管理科長、人事課長、医事課長、施設資材課長、健康管理課長

書記：総務課係長

オブザーバー：病院長、病院長代行

4. 運営

委員長の招集により定期的を開催します。ただし、必要がある場合は臨時に開催することもできます。

治験審査委員会

委員長 徳毛宏則

A、設立主旨

1) 治験審査委員会の責務

(1) 治験審査委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。

(2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

2) 治験審査委員会名簿（2013年度）

委員長：徳毛宏則、副委員長：小深田義勝

委員：碓井裕史、黒木一彦、大田博子、横山富子、佐藤澄香、嘉屋祥昭、松村英昭、友田裕康、角野正雄（外部委員）、松本明子（外部委員）

書記：寺澤千佳子

オブザーバー：藤本吉範、青木晴美

B、活動内容

1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

2) 2013年度治験審査委員会開催概要

- ・第1回（2013／4／19）：
審議事項11件（新規案件1件、継続審査10件）
- ・第2回（2013／5／17）：
審議事項9件（継続審査9件）
- ・第3回（2013／7／12）：
審議事項12件（新規案件1件、継続審査11件）
- ・第4回（2013／8／23）：
審議事項4件（継続審査4件）
- ・第5回（2013／9／27）：
審議事項12件（新規案件1件、継続審査11件）
報告事項1件（終了報告1件）
- ・第6回（2013／10／25）：
審議事項9件（継続審査9件）

報告事項1件（終了報告1件）

- ・第7回（2013／11／22）：
審議事項10件（継続審査10件）
 - ・第8回（2014／1／24）：
審議事項10件（継続審査10件）
 - ・第9回（2014／2／21）：
審議事項10件（新規案件1件、継続審査9件）
 - ・第10回（2014／3／14）：
審議事項9件（継続審査9件）
- 3) 2013年度の実施治験総件数：15件
- (1) 前年度からの継続治験（12件）。
- ①急性冠症候群患者を対象としたCS－747S
第Ⅲ相試験（第一三共）
 - ②虚血性脳血管障害患者を対象としたCS－747S
第Ⅲ相試験（第一三共）
 - ③DU－176b 第Ⅲ相試験（第一三共）
 - ④TAK－700 第Ⅱ相試験（武田バイオセンター）
 - ⑤AS－3201のプラセボ対照比較試験
（第Ⅲ相臨床試験）（大日本住友）
 - ⑥NS－24 第Ⅲ相試験（日本新薬）
 - ⑦Z－103 第Ⅲ相試験（ゼリア新薬）
 - ⑧CS－747S 第Ⅲ相試験～J304～（第一三共）
 - ⑨BMS－562247 第Ⅲ相試験（ファイザー）
 - ⑩ACZ－885 第Ⅲ相試験（ノバルティス）
 - ⑪SI－6603 第Ⅲ相試験（生化学工業）
 - ⑫TAK－438 第Ⅲ相二重盲検比較試験・
長期継続投与試験（武田薬品）
- (2) 2013年度の新規治験（3件）。
- ①DSP－1747の第Ⅱ相臨床試験（大日本住友）
 - ②2型糖尿病患者に対するインスリンリスプロ
Mix25とMix50の比較試験（第Ⅳ相比較試験）
（日本イーライリリー）
 - ③クローン病、潰瘍性大腸炎の治療における
MLN0002（300mg）の第Ⅲ相試験（武田薬品）
- (3) 2013年度の終了治験（4件）。
- ①NS－24 第Ⅲ相臨床試験（日本新薬）
 - ②2型糖尿病患者に対するインスリンリスプロ

Mix25 と Mix50 の比較試験（第Ⅳ相比較試験）
（日本イーライリリー）

- ③ SI - 6603 第Ⅲ相試験（生化学工業）
④ TAK - 438 第Ⅲ相二重盲検比較試験・
長期継続投与試験（武田薬品）

薬事委員会

委員長 徳毛宏則

1. 目的

当委員会は、院内で使用する医薬品に関わる諸問題の検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議し、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用
- 4) 医薬品情報の衆知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

3. 委員

委員長および委員は病院長が任命した者であり、病院幹部（病院長代行、副院長）、各診療科代表（センター長・主任部長）、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課長および薬剤部長等で構成されます。

4. 委員会の開催

委員会の開催は、原則として月1回となっています。（但し、8月と12月は委員会を休会しています。）

5. 新規医薬品

- 1) 医薬品の採用は、a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議が必要となります。
- 2) a) b) に関して、採用を希望する場合は、所属長の承認の元「新規医薬品購入申請書」に必要事項を記入し、事務局（薬剤部）に提出していただき当委員会で審議することとなります。

3) c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し、次回の委員会にて薬剤部長より報告されます。

4) 薬事委員会は、採用の可否を審議決定しますが、1増1減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。

6. 医薬品の安全性情報が新規に発布された場合は、全医師に連絡し注意喚起し必要な対策を講じています。

7. ジェネリック医薬品

当委員会では、当院の病院環境や薬剤使用状況を十分に考慮したうえでジェネリック医薬品の採用を検討、実施しています。

2013年度は17件を採用し約1100万円の収益効果をあげています。

8. 2013年度実績

・2014年3月31日現在の当院採用数

一般採用		特定患者限定	61
内服薬	731		
注射薬	527		
外用薬	316		
一般採用 計	1574		
用時購入	80	採用品数合計	1637
RI 医薬品	111		
	ジェネリック医薬品	125	

・2013年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品総新規採用件数	51
医薬品総削除件数	47

出張記

■アメリカ内視鏡外科学会議 (The Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons : SAGES) 2013に参加して

外科 大下 彰彦

2013年4月17日から20日までボルチモアで開催されたアメリカ内視鏡外科学会議（以下SAGES）2013に参加して参りましたのでご報告させていただきます。

SAGESは年に一度開催される学会で、アメリカ最大の内視鏡外科学会です。消化器外科をはじめ、消化器内科、産婦人科、泌尿器科など、内視鏡治療の専門家が集まります。今回筆者は当院で経験した症例を報告しようと演題を出したところ、ポスター発表の機会を頂きました。

ヨーロッパでの学会発表経験はありましたが、アメリカでの学会発表は初めての経験です。しかもボルチモアは全米での治安の悪い都市ランキングで堂々7位を誇る悪名高き街、渡航前は大変緊張しました。

最初のトラブルは、トランジットからでした。シカゴ空港の乗り換え時に予定されていた飛行機が出発1時間前に急遽欠航になりました。こんな経験は初めてで、みんながするように航空会社のカウンターに並んで代わりの飛行機を探してもらいました。10分後に出発する飛行機に乗るように指示されましたが、そんな短時間で預けたスーツケースやポスターと一緒に届くとは思えません。断固あとの便に変更するように頼みましたが、チケットを先に発券され、後ろの旅客の対応を始める始末。これがアメリカなのかと思い知らされました。しどろもどろワシントンDC行きの便に乗り込みました。ワシントンDCでは無事にスーツケースを受け取れたものの、ポスターが到着していませんでした。仕方なくロストバゲージカウンターで宿泊先を記入し、ホテルへと急ぎました。というのも夜中にホテルに到着したくなかったからです。陽が高いうちに逃げ込むようにホテルに駆け込み、夜間は外出を控えました。日中しか街中を散策しませんでした。意外と安全な場所も多く、学会場もそんな街の中心部にありました。あとはポスターを待つばかりです。ホテルから空港のカウンターに何度か電話でクレームを入れてもらい、発表前日に何とかポスターを受け取ることができました。いつもは安宿に泊まっているのですが、今回は治安の悪い街なので、安心できる学会公

認ホテルを予約したのが良かったようです。

学会は初日より教育講演的なセッションで構成されていました。あとから聞くと、ほとんどの講演は著名な教授たちにより行われ、一般演題はポスターしか採択されないとのことでした。しかし、肝胆膵分野の著名な先生方の討論を少し気後れしながらも拝聴し、その学会場の雰囲気を感じることができました。また自分のポスターにも質問してくれる外科医もおり、わざわざアメリカまで遠征した甲斐はあったと感じました。（図1、2）

ボルチモアには医学分野で全米1位（US News）にランキングされるJohns Hopkins大学があり、その附属病院を訪ねてみました。（図3）週末に訪問したため病院はひっそりとしていたのですが、全米1位を長い間継続する病院の重厚な雰囲気を味わってきました。また学会場の徒歩圏内にオリオールズの本拠地があり、当地出身の野球の神様「ベーブルース」の像を拝見しました。（図4）当時はマイナーリーグに所属していたチームから、メジャーのレッドソックス→ヤンキースへのアメリカンドリームはご存じの通りです。以上、公私にわたり充実した学会出張となりました。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さいました院長をはじめアカデミック委員会や関係者の方々、そして学会参加中ご迷惑をおかけした先生方やスタッフの方々には、この場を借りて深くお礼申し上げます。



図1 学会正面玄関

図2 ポスター発表する筆者



図3 Johns Hopkins Hospital

図4 ベーブルースの像

ヨーロッパ内視鏡外科学会議 (The European Association for Endoscopic Surgery : EAES) 2013 に参加して

外科 大下 彰彦

2013年6月19日から22日までウィーンで開催されたヨーロッパ内視鏡外科学会議（以下EAES）2013に参加して参りましたのでご報告させていただきます。

ヨーロッパ内視鏡外科学会議は年に一度開催される学会で、日本人の学会員も多い学会です。私も学会員の一人として、当院で行っている腹腔鏡下肝切除の周術期の工夫についてポスター発表の機会を得ました。前年は口演発表の機会を得ていたものの今年はポスター発表であり、多少悔しい思いを胸に発表準備をしました。

学会場では以前の学会で友人になった慶応大学出身の同級生と合流し、さらに同大学出身の著名な教授とご一緒させていただきました。（図1）ポスターはe-Posterで、事前登録したものが数分おきにモニターに表示される形式でした。（図2）すぐに論文投稿できるよう英文校正に加えてreferenceを入れたものの、会場では芳しい質問はありませんでした。改めて、口演発表を勝ち取れなかった悔しさがこみ上げてきました。とはいえ、折角来た国際学会です。気を取り直して、たくさん手術ビデオを観覧して学び、また手術手技についても友人や先輩たちと討論しました。日本の学会ではなかなか声がかかりにくいような高名な先生でも、海外の学会では外国人より相対的に話しかけやすくなります。多くの著名な肝胆膵外科の先生方と交流をはかることができました。

学会の合間には、好物の甘いもの「ザッハトルテ」を発祥のホテルで味わいました。（図3、4）一人で行列に並んだ時は多少気恥ずかしかったものの、本場のザッハトルテとウィーンナーコーヒーは格別であり並んだ価値は十分にありました。

さらにコンサートホールにも訪問できました。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のニューイヤーコンサート（独：Das Neujahrskonzert）が、毎年1月1日にウィーン楽友協会の大ホールで開催されます。（図5）一度で良いから大ホールでウィーン・フィルの演奏を聴きたいと思っていました。生憎滞在期間中に公演はなかったので次回訪問時の宿題となりましたが、毎日午後からホールの見学ツアーに参加できるとのことで、早速ホール見学に加わりました。夢の大ホールに入り、2002年にニューイヤーコンサートを指揮された小澤征爾さんに思いを馳せつつ見学ツアーを満喫しました。この間わずか3泊5日の弾丸ツアーでしたが、大変有意義な学会出張となりました。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さいました院長をはじめアカデミック委員会や関係者の方々、そして学会参加中ご迷惑をおかけした先生方やスタッフの方々には、この場を借りて深くお礼申し上げます。



図1 著名な教授と

図2 ポスター発表する筆者



図3 ザッハホテル



図4 ザッハトルテとコーヒー



図5 ウィーン楽友協会外観（左）と大ホール（右）

第10回 International Congress on Coronary Artery Disease に参加して

心臓血管外科 濱 本 正 樹

2013年10月13日から16日にイタリアのフィレンツェで開催された第10回 International Congress on Coronary Artery Disease (ICCAD 2013) に参加してきました。ICCAD では冠状動脈疾患に関する最新の治療法だけでなく、心臓再生医療の現状やカテーテルを用いた大動脈弁置換術 (TAVI) など冠状動脈疾患に偏らない幅広いテーマを掲げ、活発な討論が行われていました。

私は「Successful surgical removal of an entrapped intravascular ultrasonography catheter in the left circumflex coronary artery.」という演題名で poster presentation (Surgical session) を行いました。不安定狭心症に対するカテーテルインターベンション中に回旋枝にデバイス (IVUS) が引っかかって抜けなくなったため、緊急でデバイス抜去と冠状動脈バイパス術を行った、という趣旨の case report です。

この学会に演題発表を行うことになった経緯についてお話ししたいと思います。2012年に同じタイトル名の論文を General Thoracic and Cardiovascular Surgery 誌 (PubMed に収載されています) に投稿し publish されていました (Gen Thorac Cardiovasc Surg 2012; 60: 830-833)。同年10月に ICCAD 2013 の Congress Chairman である Basil S. Lewis 教授から、同論文を ICCAD 2013 の Surgical poster session に submit しませんか、との invitation mail を頂きました。Basil S. Lewis 教授とは全く面識がないので、PubMed に収載された論文をたまたま目にして corresponding author である私に mail を送ったのではないかと思います。早速、Abstract submission を行い、無事に poster presentation に採択されました。今回の経験から、学術論文は可能な限り英文で書くことが重要だ、と実感しました。投稿雑誌が PubMed に収載されていれば世界中の医療関係者の目に触れ、思いがけない機会 (国際学会での発表の招待、同じ手術法で治療が成功した感謝の mail など) を得ることができます。

ICCAD 2013 に参加する機会を利用して、フィレンツェ観光も楽しむことができました。フィレンツェは中世にルネッサンスが開花し、ダ・ヴィンチやミケラ

ンジェロの時代と変わらぬ歴史と文化の香りが今日まで色濃く残されている花の都です。ドゥオーモ (サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂)、ジョットの鐘楼、サン・ジョバンニ礼拝堂、ウフィッツィ美術館、ヴェッキオ橋を観光し、お昼は街角のピザ屋に立ち寄って美味しいピザ・マルガリータを味わいました。さらにフィレンツェからピサに足を伸ばし、ガリレオの落下実験でも有名なピサの斜塔も観光してきました。翌日はユーロスター・イタリアでローマに行き、スペイン広場、コロッセオ、ナヴォーナ広場、パンテオン、トレヴィの泉、サンタ・マリア・コスメディン教会内にある真実の口、などを観光しました。これら古代ローマの遺産に触れながら、一方でこれからの心臓血管外科学の未来を熟考する時間を味わうことができました。

今回久しぶりに国際学会に参加することで、その刺激が内在する医学への探究心を呼び起こし、さらなる飛躍を誓う良い機会になりました。忙しい日常臨床のすき間時間を寄せ集めてコツコツと論文を執筆し、海外発表の機会を増やしていきたいと思います。



Poster presentation



ピサの斜塔

IASGO2013 での発表を通して

期間 2013年9月13日～2013年9月22日
場所 ブカレスト（ルーマニア）

臨床研修医 馬場 健太

今回、我々は第23回国際外科消化器科腫瘍科学会議（IASGO 2013；23rd World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists）で発表させていただいたので、報告致します。メンバーは当院の消化器内科 藤本先生・野中先生、肝・胆・膵外科 大下先生、研修医の宮本先生・馬場の計5人で行かせていただきました。

この学会はヨーロッパにあるルーマニアの首都ブカレストで開催されたため、日本からの乗継が必要であり、トルコのイスタンブールを経由することとしました。その理由として、イスタンブールのフローレンスナイチンゲール病院を見学させていただくことができるようになったからです。その病院ではカンファレンスと回診に参加させていただきました。カンファレンスはほぼすべてトルコ語で行われたため、詳細は分かりませんが、内容や雰囲気は日本と同様のもので、盛んに意見が交換されていました。手術の様子も見学したかったのですが、その曜日はカンファレンスと回診の曜日であり、手術は全く残念でした。

イスタンブールで数日滞在した後、今回の目的地であるブカレストに移動し、さっそく学会会場に行きました。学会はまだルーマニアが社会主義であった頃に建てられた「国民の館（ルーマニア語で Casa Poporului）」という宮殿で開催され、まずその大きさに圧倒されました。宮殿の前には一直線に道路があるため遠くからでもその存在が目視可能なほど大きく、ペンタゴンに次ぐ世界第二位の延床面積ということでした。その宮殿の入り口にはアカデミー賞で見るようなレッドカーペットがひかれており、とうとう国際発表に来たんだなという気持ちで身が引き締まる思いと同時にようやく長かった発表準備が終わるのかという安堵した気持ちでした。

翌日から次々と発表が行われました。口頭発表以外の発表はe-Poster形式であり、前もってデータを送り、当日の会場で大画面に映し出されるものです。各国のPosterを見て世界中の先生が集まっているんだなと思う一方、日本の先生方の名前も多く、

日本も世界に向けてこんなに多く発表しているんだなと思いました。また、発表では各国で基準が違ったり、発表の見せ方も違っており海外発表ならではの面白さを感じました。さらに手術道具の展示も行われており、初めて「ダヴィンチ」のシミュレーションを経験させていただきました。

藤本先生・大下先生は会場で口頭発表をされており、身近な先生が世界とつながっていることを感じてとても刺激になりました。また、大下先生は学会に招待された発表ということで、今までの努力がにつながっている様子を感じました。

海外発表の利点として、他大学の有名な先生や世界的に有名な先生にお会いすることができるということが挙げられます。日本では話しかけることさえ難しい先生にでも、海外では同じ日本人ということと仲間意識が生まれ、少し話すことができるそうです。いろいろな先生と話す機会をいただき、このように刺激を受ける機会を増やしていくべきだと思います。

最後になりましたが、発表の基本からポスター作り、論文投稿まで熱心に教えていただいた大下先生、発表に同行させていただいた藤本先生・野中先生・宮本先生、海外発表を支援してくださった皆様方に感謝を述べて終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。



国民の館



e-Poster

■ APOA 2013に参加して

整形外科 中 前 稔 生

2013年8月29日から8月31日まで、マレーシアのクチンで開催されたAPOA 2013に参加しましたので報告させていただきます。APOAとはAsia Pacific Orthopaedic Associationの略で環太平洋地域の整形外科医が一同に集まる格式高い国際学会です。当院からは藤本病院長、整形外科の山田清貴先生と橋本貴士先生、中前稔生が参加しました。藤本院長は招待講演を行い、“Percutaneous Transpedicular Intervertebral Vacuum PMMA Injection Versus non-surgical Treatment for Low Back Pain Associated with Lumbar Degenerative Scoliosis in the Elderly”のタイトルで、当院で開発し行っている世界に先駆けた新しい治療法である腰椎変性側弯症に伴う腰痛に対する経皮的椎間板内セメント治療の有用性について大観衆を前にして講演され、聴衆からの厳しい英語の質問にも巧みな英語でそつなく回答されていました。山田先生と橋本先生、中前は環太平洋地域での最先端の整形外科領域の医療事情を、脊椎領域を中心に連日英語で学ぶという貴重な機会を得ました。

今回訪れたマレーシアのクチンという街はボルネオ島の北部に位置し古くから南シナ海航路の要地でありました。一時イギリスの植民地であったためイギリス色を強く残す（車の左側通行等）クチンですが、多民族都市であり華人、マレー人、20以上の先住民からなる人口約58万人の都市です。学会ポスターにもあるようにジャングルに隣接しておりオランウータンも近くに生息しているスリリングな街です。またクチンは猫の街としても有名で街中にかわゆい猫の像をよく見かけました。このようなアジアの街、クチンは古の街と近未来の街が共存しているエキゾチックな街で、日本での日常の生活で得ることができない新しい風を私の中に吹き込んでくれました。

このような国際学会への参加は、世界の空気を肌で直に触れることができる大変貴重な機会でした。英語に関してはまだまだですが、我々が行っている斬新な治療を世界に向けて発信できたことは非常に勇気となりました。また海外での人との触れ合いは私の人生にとっても大きな財産となりました。学会参加中ご迷惑をお掛けした先生方および関係者の方々にはこの場を借りて深謝いたします。



藤本院長による招待講演



学会ポスター

■ Balloon Kyphoplasty Physician Training に参加して

整形外科 中 前 稔 生

2013年10月18日から10月20日まで、韓国の水原（スウォン）で開催された Balloon Kyphoplasty Physician Training に整形外科の山田清貴先生と中前稔生が参加しましたのでご報告させていただきます。Balloon Kyphoplasty Physician Training とは脊椎椎体骨折に対する最小侵襲手術手技である経皮的椎体形成術（Balloon Kyphoplasty (BKP)）のトレーニングであり、実際に cadaver を用いて行いました。通常の手技（経椎弓根）のトレーニングは日本の主要施設（JA 広島総合病院もその1つです）で指導を行っていますが、今回のトレーニングは椎弓根外経路での BKP 手技取得のため必要なもので、また今回のトレーニングに参加することで BKP の指導資格を得ることができます。今回、中前は約 20 人の受講生の一人として参加し、山田先生はその受講生全てを統括する指導医として参加しました。Balloon Kyphoplasty Physician Training は 2 人に 1 体の cadaver と透視装置を用いて実際の手術と同様の雰囲気、緊張感で行われました。山田先生が受講生にお手本を示し、続いて受講生が各テーブルに分かれて手技の実技を行いました。その後、山田先生からの講義およびディスカッションが行われ、各受講生からのきわどい質問に対しても山田先生はそつなく答えられていました。

今回訪れた水原（スウォン）は韓国のソウルから南 35km に位置する、首都圏南部の中核都市です。水原カルビで有名な街で、サッカー元日本代表の高原選手が在籍した水原三星ブルーウィングスの本拠地としても知られています。また水原華城という李氏朝鮮時代の城塞遺跡が世界遺産に登録されており、多くの観光客が訪れる街でもあります。今回のトレーニングではこのカルビの街、水原において、日本各地から集まった他施設の医師と（ビール片手に）様々な意見交換ができるという貴重な経験がで

き、交友を深める場としても有意義でした。

このような海外でのトレーニングという経験は、勉学以外にも私の人生においても貴重な体験であり、世界を肌で直に触れることができるものでした。このような機会を与えてくださった藤本病院長、および学会参加中で迷惑をお掛けした先生方および関係者の方々にはこの場を借りて深謝いたします。



山田先生による実技指導



山田先生から中前への認定証の授与

■ Annual Report 2013 2013年(平成25年)度 年報 ■

実績

著書・論文

呼吸器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
高流量鼻カニューラの使用が有効であった COPD の 1 例	若林優 近藤丈博 山岡千尋 河野秀和	広島医学	66 巻 9 号 528 ～ 531	2013 年
ARDS 患者における喀痰中 KL-6 の検討	近藤丈博 徳毛健太郎 若林優 河野秀和	ICU と CCU 医学図書 出版	37 巻 12 号 939 ～ 942	2013 年

循環器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
入院を繰り返す症例への取り組み	辻山修司	医薬ジャーナル	Vol 50, No.2, pp163-168	2014 年

消化器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
後腹膜神経鞘腫の 1 例	藤本佳史 徳毛宏則 石田邦夫 大下彰彦 佐々木秀 中光篤志 臺丸裕	広島医学	66: 283-284	2013 年
第 3 章 当直時に役立つ！まず何を考え、何を 行うか？ 消化器症状の鑑別診断黄疸と腹痛を訴えて 来院した患者。まず行うべき診断・治療のポイント とは？	藤本佳史 瀧川英彦	レジデントノート、 羊土社	Vol.15 No.8	2013 年
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診が診断に有用で あった原発性腹膜癌胃転移の 1 例	瀧川英彦 古土井明 菅宏美 野中裕広 藤本佳史 小松弘尚 徳毛宏則 石田邦夫 臺丸裕	Gastroenterol Endosc	55: 3562-3567	2013 年

外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
MDCT により術前診断し得た腸回転異常症に伴う 急性虫垂炎の 1 例	田崎達也 津村裕昭 山岡裕明 日野裕史 金廣哲也 市川徹	日本腹部救急医学会 雑誌	33(7) : 1189- 1193	2013 年
鼠径ヘルニアに起因した続発性大網捻転症の 1 例	田崎達也 日野裕史 金廣哲也 山岡裕明 市川徹	日本腹部救急医学会 雑誌	33(8) : 1305- 1309	2013 年

乳腺外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
進行乳癌に対する bevacizumab 投与中に大動脈解 離を発生した 1 例	吉村紀子 川瀬義治 安井大介 黒尾優太 山口拓朗 中光篤志	日本臨床外科学会雑 誌	75(3):652-656	2014 年

整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Surgical treatment of high-grade dysplastic spondylolisthesis using intraoperative electrophysiological monitoring: report of two cases and review of the literature.	Nakamae T, Tanaka N, Nakanishi K, Kamei N, Hamasaki T, Izumi B, Fujioka Y, Ohta R, Ochi M.	European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology	23(1):121-127.	2013 年
Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic vertebral compression fracture with intravertebral cleft associated with delayed neurologic deficit.	Nakamae T, Fujimoto Y, Yamada K, Takata T, Shimbo T, Tsuchida T.	European Spine Journal	22(7):1624-1632.	2013 年
骨粗鬆性椎体偽関節に伴う遅発性神経障害に対す る経皮的椎体形成術	中前稔生 藤本吉範 高田治彦 山田清貴 橋本貴士 高澤篤士 中川寛顕	Journal of Spine Research	4(12):1793-1797	2013 年
椎弓形成術と術後上肢麻痺 一術中運動誘発電位モ ニタリングー	中前稔生 藤本吉範 田中信弘	メジカルビュー社 特集：頸椎症性脊髄 症の最新の知見	Vol.32 no.5	2013 年
アスリートにおける腰椎椎間板ヘルニアの保存的 治療	中前稔生 藤本吉範 山田清貴 奥田晃章 松原慶直 吉崎健	文光堂 臨床スポーツ医学	Vol.30, No.8 2013: 773-779	2013 年
掌側ロッキングプレート固定	鈴木修身	メジカルビュー社 橈骨遠位端骨折の治 療 私の治療法	11 巻 3 号 180-189.	2013 年

著書・論文

脳神経外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
出血で発症した篩骨部硬膜動静脈瘻の1手術例	黒木一彦 渋川正顕 織田祥至 下永皓司	広島医学	66:335-337	2013年
円蓋部髄膜腫摘出術後の脳内出血に関する注意点	黒木一彦 勇木清 井川房夫	脳神経外科速報	23:744-748	2013年
家族性 von Hippel Lindau 病に伴う多発性進行性中枢神経系血管芽腫の臨床的検討	黒木一彦 渋川正顕 織田祥至 下永皓司	広島医学	66:485-490	2013年
脳動脈瘤クリッピング手術における術中破裂の検討	黒木一彦 渋川正顕 織田祥至 下永皓司	広島医学	67:23-26,	2013年

心臓血管外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Aortic valve replacement for a patient with anomalous left coronary artery from the right sinus of Valsalva.	Masaki Hamamoto, Daisuke Futagami	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	61:46-50	2013年
Supraclavicular approach for repair of an axillary artery pseudoaneurysm after axillobifemoral bypass.	Masaki Hamamoto, Kiyohiko Morifuji	Annals of Vascular Diseases	6(2):230-233	2013年
Thrombosed type A acute aortic dissection: Quick overview of a variant of aortic dissection dissection.	Masaki Hamamoto	Journal of Vascular Medicine & Surgery	1:e106	2013年
Surgery for left ventricular pseudoaneurysm: thoracotomy or sternotomy.	Masaki Hamamoto	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals	21:602-604	2013年
Painless dissection of the ascending aorta after complete resolution of the thrombosed false lumen: A case report.	Masaki Hamamoto, Taira Kobayashi, Hiroshi Kodama	Annals of Vascular Diseases	6(4):745-747	2013年
Thrombectomy under cardiopulmonary bypass for inferior vena cava thrombosis induced by liver injury.	Masaki Hamamoto, Taira Kobayashi, Hiroshi Kodama	Annals of Vascular Diseases	6(4):751-755	2013年
慢性総大腿動脈閉塞性病変に施行した内膜摘除術—その評価と遠隔成績に関する検討—	小林平 川本純 前田和樹	広島医学	66:357-360	2013年

皮膚科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
HER2 蛋白の過剰発現を認めた急性進行型乳房外 Paget 病の1例	秋本成宏 森川博文 梅田直樹 吉屋直美 木矢絢子 中村史江 臺丸裕	臨床皮膚科・医学書院	67巻・11号・905-910	2013年
原爆後の熱傷瘢痕に生じた無色素性基底細胞癌の1例	木矢絢子 中村史江 森川博文 臺丸裕 北野雅朗	皮膚科の臨床・金原出版	55巻・10号・1221-1224	2013年

産婦人科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
ゾレドロン酸が骨転移に有効であった子宮癌の2例	濱崎晶 藤本英夫 中前里香子 中西慶喜	現代産婦人科	61・2・335-338	2012年

眼科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
視野障害が改善した網膜動脈分枝閉塞症の1例	井上千絵 二井宏紀	広島医学	66(8) 509-512	2013年

麻酔科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
自動麻酔記録システム paperChart とポンプの接続, 薬物動態シミュレーション実装の歴史, 麻酔・集中治療とテクノロジー 2013	中尾正和	北斗プリント 京都	37-40	2013年

書籍・雑誌編集

消化器内科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
徳毛宏則	Internal Medicine	査読者	unknown	The Japanese Society of Internal Medicine
徳毛宏則	在宅胃瘻と内視鏡治療	査読者	Vol17, No1	PEG・在宅医療研究会
徳毛宏則	在宅胃瘻と内視鏡治療	査読者	Not accepted	PEG・在宅医療研究会

心臓血管外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン
濱本正樹	Annals of Vascular Disease	査読者		Medical Tribune Inc.

麻酔科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
中尾正和	LISA	セクション巻頭言	20巻 11号	MEDSi
中尾正和	Journal of Anesthesia	査読者		日本麻酔科学会
中尾正和	日本臨床麻酔学会誌	査読者		日本臨床麻酔学会
中尾正和	麻酔と蘇生	査読者		麻酔と蘇生編集部

学会発表

呼吸器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
肺炎，膿胸からARDSの合併を来し，Low-Flow ECCO2Rにより救命できた1例	近藤丈博 若林優 櫻谷正明 吉田研一	第53回日本呼吸器学会学術講演会	2013年4月19～21日	東京都
fluconazole 耐性であった肺クリプトコックス症の1例	林晴奈 徳毛健太郎 山岡千尋 若林優 河野秀和 近藤丈博	第49回日本呼吸器学会中国・四国地方会	2013年7月19～20日	香川県高松市
Low-flow ECCO2Rを導入したARDS 8症例の検討	近藤丈博 徳毛健太郎 若林優 河野秀和 櫻谷正明 吉田研一	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014年2月27～3月1日	京都市

循環器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
巨大冠動脈周囲腫瘍の形成過程を観察し得たIgG4関連疾患の一例	久保祐美子 藤井隆 久留島秀治 佐倉拓朗 荘川知己 前田幸治 辻山修司	第102回日本循環器学会中国・四国地方会	2013年5月10日	高松市
治療抵抗性高血圧症に対するアジルサルタンの使用経験	辻山修司 久保祐美子 佐倉拓朗 久留島秀治 荘川知己 前田幸治 藤井隆	第102回日本循環器学会中国・四国地方会	2013年5月10日	高松市
左室収縮能の著明低下により長期間PCPS管理を必要とした劇症型心筋炎の1例	若井雅貴 ¹⁾ 前田幸治 ²⁾ 久保祐美子 ²⁾ 佐倉拓朗 ²⁾ 久留島秀治 ²⁾ 荘川知己 ²⁾ 辻山修司 ²⁾ 藤井隆 ²⁾ 1) 臨床研修医 2) 循環器内科	第108回日本内科学会中国地方会	2013年6月1日	岡山市
「これまで分かる！心筋梗塞の診断における造影CTによるAi (Autopsy Imaging 死亡時画像診断) の有用性」	平田旭 ¹⁾ 吉田研一 ¹⁾ 櫻谷正明 ¹⁾ 河村夏生 ¹⁾ 高場章宏 ¹⁾ 藤井隆 ²⁾ 1) 救急・集中治療科 2) 循環器内科	第41回日本救急医学総会学術総会	2013年10月21日	東京都
左室収縮能の著明低下により長期間PCPS管理を必要とした劇症型心筋炎の1例	前田幸治 久保祐美子 佐倉拓朗 久留島秀治 荘川知己 辻山修司 藤井隆	佐伯地区医学会総会	2013年11月3日	廿日市市
small dense LDL コレステロールの関与が考えられた積極的脂質低下療法中に新規冠動脈病変を発症した一症例	藤井隆 荘川知己 久保祐美子 赤澤良太 久留島秀治 前田幸治 辻山修司 (循環器内科) 碓井裕史 (健康管理センター) 福岡達仁 水野誠士 (臨床研究検査科)	第62回日本農村医学会学術総会	2013年11月7日	福島市
Torvaptan 長期使用の経験	辻山修司 久保祐美子 赤澤良太 久留島秀治 荘川知己 前田幸治 藤井隆	第62回日本農村医学会学術総会	2013年11月7日	福島市
Relationship among small dense LDL-cholesterol, other risk factors and detected non-calcified coronary plaque by iMAPTM-IVUS	Shuji Kurushima, Takashi Fujii, Tomoki Shokawa, Yumiko Kubo, Ryouta Akazawa, Koji Maeda, Shuji Tsujiyama	第78回日本循環器学会学術集会	2014年3月22日	東京都

腎臓内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
クレアチニン上昇を契機に発見したANCA関連腎炎の1例	眞田亜季 田村亮 下田大紀 荒川哲次	第109回日本内科学会中国地方会	2013年11月23日	岡山市

学会発表

糖尿病・代謝内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
インスリンリスプロ mix25 と mix50 の 1 日 2 回注射法における両製剤有効症例の背景因子の相異を探る	石田和史 浅生貴子 小川寛子 河本良美	第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会	2013 年 5 月 16 ~ 18 日	熊本市
混合比の異なるリスプロ混合型製剤に対するシタグリプチン併用効果の相異	小川寛子 浅生貴子 石田和史	第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会	2013 年 5 月 16 ~ 18 日	熊本市
2 型糖尿病患者の血糖コントロールに関連する心理・社会的要因 (第 4 報) : 抑うつが糖尿病関連 QOL および家族機能に及ぼす影響	佐伯俊成 高石美樹 石田和史 河面智之 田妻進 山脇成人	第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会	2013 年 5 月 16 ~ 18 日	熊本市
年齢別にみた糖負荷試験の血糖値およびインスリン値の推移 : ハワイ・ロサンゼルス・広島スタディより	門前裕子 中西修平 米田真康 栗屋智一 久保田益 平野雅俊 毛利麻衣子 志和麻美 志和亜華 前田修作 石田和史 碓井裕史	第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会	2013 年 5 月 16 ~ 18 日	熊本市
諸種合併症指標や臨床背景との相関からみた糖尿病患者におけるシスタチン C とクレアチニンによる GFR 推算式の有用性の比較	浅生貴子 小川寛子 石田和史	第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会	2013 年 5 月 16 ~ 18 日	熊本市
糖尿病地域連携バス、真に連携すべきものは何か? ~ チーム力を結集して糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み ~	石田和史	第 14 回日本クリニカルパス学会学術集会 (ランチョンセミナー)	2013 年 11 月 1 ~ 2 日	盛岡市
1 日 2 回注射法におけるインスリンリスプロ mix25 と mix50 の優位性鑑別チェック表作成の試み	石田和史 浅生貴子 木ノ原周平 堀江正和 河本良美	第 51 回日本糖尿病学会中国四国地方会	2013 年 11 月 15 ~ 16 日	岡山市
電流知覚閾値検査 (CPT) の代用となりうる糖尿病神経障害重症度評価法の提言	石田和史 浅生貴子 木ノ原周平 堀江正和	第 51 回日本糖尿病学会中国四国地方会	2013 年 11 月 15 ~ 16 日	岡山市
腎機能を加味したシタグリプチンとビルダグリプチンの臨床効果の比較	浅生貴子 堀江正和 木ノ原周平 石田和史	第 51 回日本糖尿病学会中国四国地方会	2013 年 11 月 15 ~ 16 日	岡山市
インスリン強化療法患者の基礎インスリン製剤切り替えで見えるデグルデクの臨床効果	木ノ原周平 堀江正和 浅生貴子 石田和史	第 51 回日本糖尿病学会中国四国地方会	2013 年 11 月 15 ~ 16 日	岡山市
CPT 経年観察を用いたシタグリプチンの血糖改善を介さない神経障害改善効果に関する検討	堀江正和 木ノ原周平 浅生貴子 石田和史	第 51 回日本糖尿病学会中国四国地方会	2013 年 11 月 15 ~ 16 日	岡山市

消化器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院での出血性胃潰瘍に対する止血ーバイポーラ止血鉗子とクリップの比較ー	富永明子 古土井明 宮森純子 瀧川英彦 野中裕広 藤本佳史 小松弘尚 徳毛宏則 石田邦夫	第 85 回日本消化器内視鏡学会総会	2013 年 5 月 10 日	京都市
当院における超音波内視鏡下穿刺吸引生検 (EUS-FNA) の現状	宮森純子 藤本佳史 富永明子 瀧川英彦 野中裕広 古土井明 小松弘尚 徳毛宏則 石田邦夫	第 85 回日本消化器内視鏡学会総会	2013 年 5 月 11 日	京都市
2cm 以上の大腸 LST に対する治療の現況	古土井明 瀧川英彦 富永明子 宮森純子 野中裕広 藤本佳史 小松弘尚 徳毛宏則 石田邦夫	第 85 回日本消化器内視鏡学会総会	2013 年 5 月 11 日	京都市
左室収縮能の著明低下により長期間 PCPS 管理を必要とした劇症型心筋症の 1 例	若井雅貴 前田幸治 久保祐美子 久留島秀治 荘川知己 辻山修司 藤井隆	第 108 回日本内科学会中国地方会	2013 年 6 月 1 日	岡山市
巨大肝嚢胞に対する経皮的塩酸ミノサイクリン注入療法の検討	富永明子 野中裕広 宮森純子 瀧川英彦 藤本佳史 古土井明 小松弘尚 徳毛宏則 石田邦夫	第 108 回日本内科学会中国地方会	2013 年 6 月 1 日	岡山市

学会発表

膵癌に対する S-1 隔日投与の治療経験	藤本佳史 宮森純子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	若井雅貴 富永明子 古土井明 徳毛宏則	第 99 回日本消化器病学会中国支部例会	2013 年 6 月 15 日	岡山市
幽門狭窄で発症した多発性肉芽腫を伴った胃炎の一例	馬場健太 若井雅貴 宮森純子 藤本佳史 徳毛宏則 臺丸裕	古土井明 富永明子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第 110 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2013 年 6 月 30 日	広島市
巨大な総胆管結石に対するレーザー砕石術	宮森純子 古土井明 富永明子 小松弘尚 石田邦夫	藤本佳史 若井雅貴 野中裕広 徳毛宏則 臺丸裕	第 110 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2013 年 6 月 30 日	広島市
膵癌を含む 4 重複癌の 1 例	藤本佳史 宮森純子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	富永明子 瀧川英彦 古土井明 徳毛宏則 臺丸裕	第 44 回日本膵臓学会大会	2013 年 7 月 26 日	仙台市
A huge pancreatic lipoma: case report and review of the literature	Yoshifumi Fujimoto, Akihiko Oshita, Masaru Sasaki, Atsushi Nakamitsu, Hironori Tokumo		23rd World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists	2013 年 9 月 18 日	Bucharest, Romania
Intrahepatic splenosis mimicking hepatocellular carcinoma in a patient with chronic hepatitis c	Michihiro Nonaka, Akihiko Oshita, Akiko Tominaga, Jyunko Miyamori, Yoshifumi Fujimoto, Akira Furudo, Hironao Komatsu, Hironori Tokumo, Kunio Ishida		23rd World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists	2013 年 9 月 18 日	Bucharest, Romania
当院における巨大肝嚢胞に対する経皮的塩酸ミノサイクリン注入療法の現況	富永明子 若井雅貴 瀧川英彦 古土井明 徳毛宏則	野中裕広 宮森純子 藤本佳史 小松弘尚 石田邦夫	第 55 回日本消化器病学会大会	2013 年 10 月 9 日	東京都
当院での急性胆嚢炎に対する trocar 法 PTGBD の有用性	宮森純子 若井雅貴 瀧川英彦 古土井明 徳毛宏則	藤本佳史 富永明子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第 55 回日本消化器病学会大会	2013 年 10 月 9 日	東京都
当院における大腸 sm 癌内視鏡的治療の現況	古土井明 富永明子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	瀧川英彦 宮森純子 藤本佳史 徳毛宏則	第 86 回日本消化器内視鏡学会総会	2013 年 10 月 11 日	東京都
合同シンポジウム「肥満と消化器病の関わり」肥満と脂肪肝、逆流性食道炎との関連性	野中裕広 小松弘尚 碓井裕史	徳毛宏則 石田邦夫	第 100 回日本消化器病学会中国支部例会	2013 年 11 月 30 日	米子市
合同シンポジウム「肥満と消化器病の関わり」糖尿病性 GERD (Diabetic GERD:DERD) の病態	小松弘尚 古土井明 石田邦夫	石田和史 徳毛宏則	第 100 回日本消化器病学会中国支部例会	2013 年 11 月 30 日	米子市
嚢胞変性を伴う膵内分泌腫瘍の術前診断に EUS-FNA が有用であった 1 例	末廣洋介 若井雅貴 富永明子 古土井明 徳毛宏則	藤本佳史 宮森純子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第 111 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2013 年 11 月 30 日	米子市
出血を来した胃異所性膵	田妻昌 藤本佳史 富永明子 古土井明 徳毛宏則 臺丸裕	若井雅貴 宮森純子 野中裕広 小松弘尚 石田邦夫	第 100 回日本消化器病学会中国支部例会	2013 年 11 月 30 日	米子市

学会発表

小児科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
2012年広島県小児喘息実態調査－JPACを用いた2008年調査との比較－	岡島宏易 他	第50回日本小児アレルギー学会	2013年10月19～20日	横浜市
2012年秋季広島県小児喘息実態調査について－JPACを用いた2008年調査との比較－	岡島宏易 他	第63回日本アレルギー学会秋季大会	2013年11月28～30日	東京都

外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
p130Cas(Crk-associated substrate) は肝類洞内皮細胞の有窓構造形成において重要な役割を果たす	田崎達也 山崎憲政 佐々木崇暁 本田浩章	第113回日本外科学会定期学術集会	2013年4月11日	福岡市
局所進行直腸癌に対する術前化学療法の成績と問題点	香山茂平 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 山口拓朗 中光篤志 佐々木秀 田崎達也 中村浩之 黒尾優太	第113回日本外科学会定期学術集会	2013年4月11日	福岡市
肝切除術前化学療法を行った大腸癌肝転移切除症例の検討	中村浩之 今村祐司 香山茂平 加納幹浩 埴越宏幸 熊田高志 中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 加藤崇 山口拓朗	第113回日本外科学会定期学術集会	2013年4月13日	福岡市
RIGHT ATRIUM MONITORING WITH TRANSESOPHAGEAL ECHOCARDIOGRAPHY COULD AVOID CRUCIAL CARBON DIOXIDE GAS EMBOLISM IN PURE LAPAROSCOPIC LIVER RESECTION.	Akihiko Oshita, Masahide Shinzawa, Masaru Sasaki, Takashi Kumada, Takuro Yamaguchi, Hiroyuki Taogoshi, Yasushi Kato, Hiroyuki Nakamura, Mikihiro Kanou, Mohei Kouyama, Yuji Imamura, Masakazu Nakao, Atsushi Nakamitsu	SAGES 2013 (Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons)	2013年4月19日	Baltimore, USA
完全腹腔鏡下肝右葉切除における Hanging maneuver をするための工夫－IVC前面の処理方法を中心に－	大下彰彦 熊田高志 埴越宏幸 中村浩之 香山茂平 中光篤志 佐々木秀 山口拓朗 加藤崇 加納幹浩 今村祐司	第67回手術手技研究会 サージカルフォーラム	2013年5月17日	札幌市
完全腹腔鏡下肝切除術における重篤な炭酸ガス塞栓予防のための工夫－経食道心エコーモニタリングの有用性－	大下彰彦 佐々木秀 加藤崇 香山茂平 中光篤志 新澤正秀 埴越宏幸 中村浩之 中尾正和	第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会 ビデオシンポジウム	2013年6月12日	宇都宮市
肝切除術前化学療法を行った大腸癌肝転移切除症例の検討	中村浩之 今村祐司 香山茂平 加納幹浩 埴越宏幸 熊田高志 中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 加藤崇 山口拓朗	第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会	2013年6月13日	宇都宮市
膵脂肪腫に対する脾温存膵体尾部切除	佐々木秀 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 山口拓朗 中光篤志 香山茂平 田崎達也 中村浩之 黒尾優太	第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会	2013年6月13日	宇都宮市
RIGHT ATRIUM MONITORING WITH TRANSESOPHAGEAL ECHOCARDIOGRAPHY COULD PREVENT FROM CRUCIAL CARBON DIOXIDE GAS EMBOLISM IN LAPAROSCOPIC HEPATECTOMY.	Akihiko Oshita, Masahide Shinzawa, Masaru Sasaki, Takashi Kumada, Takuro Yamaguchi, Hiroyuki Taogoshi, Yasushi Kato, Hiroyuki Nakamura, Mikihiro Kanou, Mohei Kouyama, Yuji Imamura, Masakazu Nakao, Atsushi Nakamitsu	21st International Congress of the EAES (European Association for Endoscopic Surgery)	2013年6月20日	Vienna, Austria

学会発表

当科における肝切除術前化学療法を行った大腸癌肝転移切除症例の治療成績および予後因子に関する検討	中村浩之 今村祐司 香山茂平 加納幹浩 山口拓朗	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 埜越宏幸 熊田高志	第 68 回日本消化器外科学会 総会	2013 年 7 月 17 日	宮崎市
十二指腸水平脚 GIST に対する腓温存十二指腸分節切除	佐々木秀 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 山口拓朗	中光篤志 香山茂平 田崎達也 中村浩之 黒尾優太	第 68 回日本消化器外科学会 総会	2013 年 7 月 17 日	宮崎市
単孔式腹腔鏡下手術を行った尿管管遺残症の 1 例	中村浩之 中光篤志 佐々木秀 田崎達也 山口拓朗	大下彰彦 今村祐司 香山茂平 杉山陽一 黒尾優太	2nd Reduced Port Surgery Forum	2013 年 8 月 3 日	盛岡市
単孔式腹腔鏡下肝切除の経験	大下彰彦 黒尾優太 中村浩之 田崎達也 今村祐司	佐々木秀 山口拓朗 杉山陽一 香山茂平 中光篤志	2nd Reduced Port Surgery Forum	2013 年 8 月 3 日	盛岡市
Right Atrium Monitoring Using Transesophageal Echocardiography Could Prevent Critical Carbon Dioxide Gas Embolism In Laparoscopic Liver Resection. (Invited Lecture)	Akihiko Oshita		23rd World Congress of IASGO (International Association of Surgeons, Gastroenterologists, and Oncologists)	2013 年 9 月 21 日	Bucharest, Romania
A SUCCESSFUL TREATMENT OF CONVERSION CHEMOTHERAPY BY FOLFOX PLUS CETUXIMAB COMBINED WITH PORTAL VEIN EMBOLIZATION FOR INITIALLY UNRESECTABLE SYNCHRONOUS COLORECTAL LIVER METASTASIS: A CASE REPORT	Kenta Baba, Akihiko Oshita, Mohei Kouyama, Takuro Yamaguchi, Hiroyuki Nakamura, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Yutaka Daimaru, Atsushi Nakamitsu		23rd World Congress of IASGO (International Association of Surgeons, Gastroenterologists, and Oncologists)	2013 年 9 月 21 日	Bucharest, Romania
A HEPATIC SCLEROSING HEMANGIOMA: CASE REPORT AND REVIEW OF THE LITERATURE.	Shunsuke Miyamoto, Akihiko Oshita, Yutaka Daimaru, Takashi Kumada, Takuro Yamaguchi, Hiroyuki Taogoshi, Hiroyuki Nakamura, Mikihiro Kanou, Mohei Kouyama, Masaru Sasaki, Atsushi Nakamitsu		23rd World Congress of IASGO (International Association of Surgeons, Gastroenterologists, and Oncologists)	2013 年 9 月 21 日	Bucharest, Romania
当科における肝切除術前化学療法を行った大腸癌肝転移切 除症例の治療成績および予後因子に関する検討	中村浩之 今村祐司 香山茂平 加納幹浩 山口拓朗	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 埜越宏幸 熊田高志	第 11 回日本消化器外科学会 大会 (JDDW2013)	2013 年 10 月 11 日	東京都
術前診断に難渋した肝硬変性血管腫の一例	大下彰彦 台丸裕 山口拓朗 中村浩之 加納幹浩 今村祐司	佐々木秀 熊田高志 埜越宏幸 加藤榮 香山茂平 中光篤志	第 11 回日本消化器外科学会 大会 (JDDW2013)	2013 年 10 月 11 日	東京都
鼠径ヘルニアに起因した続発性大網捻転症の 1 例	田崎達也 日野裕史 山岡裕明	津村裕昭 金廣哲也 市川徹	第 11 回日本消化器外科学会 大会 (JDDW2013)	2013 年 10 月 12 日	東京都
当院における腹腔鏡下肝切除術の現況	大下彰彦 井上聡 山口拓朗 杉山陽一 香山茂平 中光篤志	佐々木秀 黒尾優太 中村浩之 田崎達也 今村祐司	第 62 回日本農村医学会学術 総会	2013 年 11 月 7 日	福島市
Doripenem が原因と考えられた 高ビリルビン血症の 1 例	山口拓朗 井上聡 中村浩之 田崎達也 佐々木秀 中光篤志	大下彰彦 黒尾優太 杉山陽一 香山茂平 今村祐司	第 62 回日本農村医学会学術 総会	2013 年 11 月 7 日	福島市
特発性大網捻転症の 2 例	田崎達也 日野裕史 山岡裕明	津村裕昭 金廣哲也 市川徹	第 75 回日本臨床外科学会総 会	2013 年 11 月 12 日	名古屋

学会発表

高齢者切不能進行大腸癌に対する1次治療としての capecitabine+bevacizumab 療法	香山茂平 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 山口拓朗	中光篤志 佐々木秀 田崎達也 中村浩之 黒尾優太	第68回日本大腸肛門病学会 総会	2013年11 月15日	東京都
腹腔鏡(補助)下肝切除における重篤な炭酸ガス塞栓予防のための対策—経食道心エコーによる右心房モニタリングについて—	大下彰彦 佐々木秀 中光篤志	新澤正秀 中尾正和	第7回肝臓内視鏡外科研究会 ワークショップ	2013年11 月20日	名古屋市
肝切除術前化学療法を行った大腸癌肝転移切除症例の検討	中村浩之 中光篤志 佐々木秀 田崎達也 山口拓朗	大下彰彦 今村祐司 香山茂平 杉山陽一 黒尾優太	第75回日本臨床外科学会総 会 ワークショップ	2013年11 月21日	名古屋市
臍頭十二指腸切除後ドレーン管理に関する検討	佐々木秀 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 山口拓朗 井上聡	中光篤志 香山茂平 田崎達也 中村浩之 黒尾優太	第26回日本外科感染症学会 総会	2013年11 月24日	神戸市
赤痢アメーバ感染症の3例	田崎達也 日野裕史 山岡裕明	津村裕昭 金廣哲也 市川徹	第26回日本外科感染症学会 総会	2013年11 月25日	神戸市

乳腺外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Bebacizumab 投与中に大動脈解離を発症した進行乳癌患者の1例	吉村紀子 川瀨義治 安井大介 中光篤志	第10回日本乳癌学会中国四 国地方会	2013年9 月21日	宇部市
当科における乳房オンコプラスチックサージェリーの検討	川瀨義治 安井大介 桐生浩司	第24回佐伯医学会総会	2013年11 月3日	廿日市市
当科におけるオンコプラスチックサージェリーの検討	吉村紀子 船越真人 熊田高志 山口拓朗	第75回日本臨床外科学会総 会	2013年11 月21日～ 23日	名古屋市
当院での非浸潤性乳管癌に対するセンチネルリンパ節生検の検討	川瀨義治 黒尾優太 中光篤志 船越真人	第75回日本臨床外科学会総 会	2013年11 月21日～ 23日	名古屋市

整形外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市	
仙骨不全骨折の診断と治療	藤本吉範 山田清貴 高澤篤之	第120回中部日本整形外科災 害外科学会・学術集会	2013年4 月5～6 日	和歌山市	
橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレートを抜去する必要があるか	松浦正己 西川公一郎 中村光宏	石田治 曾田是則 山崎啓一郎	第120回中部日本整形外科災 害外科学会	2013年4 月5～6 日	和歌山市
橈骨遠位端掌側ロッキングプレート抜去例における超音波所見と屈筋腱の損傷状況の対比	鈴木修身 中島祐子 越智光夫	砂川融 四宮陸雄	第56回日本手外科学会	2013年4 月18～ 20日	神戸市
Heberden 結節に対する観血的治療	鈴木修身 中島祐子 越智光夫	砂川融 四宮陸雄	第56回日本手外科学会	2013年4 月18～ 20日	神戸市
高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛に対する経皮的椎間腔バキューム内PMMA注入療法と保存療法の比較検討	山田清貴 高田治彦 中前稔生 高澤篤之	藤本吉範 橋本真士 中川寛寛	第42回日本脊椎脊髄病学会	2013年4 月25～ 27日	沖縄県
骨粗鬆性椎体偽関節に対する骨セメントを用いた経皮的椎体形成術	中前稔生 高田治彦 橋本真士 中川寛寛	藤本吉範 山田清貴 高澤篤之	第42回日本脊椎脊髄病学会	2013年4 月25～ 27日	沖縄県
新しく開発したミニ創外固定システムの使用経験	鈴木修身 中島祐子 中林昭裕 越智光夫	砂川融 四宮陸雄 竹内実知子	第86回日本整形外科学会	2013年5 月23～ 26日	広島市

学会発表

椎体内クレストを有する骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術	山田清貴 高田治彦 中前稔生 高澤篤之	藤本吉範 橋本貴士 中川顕寛	第 86 回日本整形外科学会	2013 年 5 月 23 ~ 26 日	広島市
高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛に対する経皮的椎間腔バキューム内 PMMA 注入療法と保存療法の比較検討	山田清貴 高田治彦 中前稔生 高澤篤之	藤本吉範 橋本貴士 中川顕寛	第 86 回日本整形外科学会	2013 年 5 月 23 ~ 26 日	広島市
骨粗鬆性脊椎椎体骨折に対する経皮的椎体形成術の治療成績	中前稔生 高田治彦 橋本貴士 中川顕寛	藤本吉範 山田清貴 高澤篤之	第 86 回日本整形外科学会	2013 年 5 月 23 ~ 26 日	広島市
アスリートの腰椎椎間板ヘルニアに対する percutaneous endoscopic discectomy の治療成績 —腰痛に着目して—	中前稔生 高田治彦 橋本貴士 中川顕寛	藤本吉範 山田清貴 高澤篤之	第 79 回西日本脊椎研究会	2013 年 6 月 7 日	福岡市
Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic vertebral fracture associated with delayed neurologic deficit	Nakamae T, Fujimoto Y, Yamada K, Suzuki O, Hashimoto T, Matsuura M, Morisako T		ISMISS (International Society for Minimally Invasive Spinal Surgery),	2013 年 6 月 20 ~ 21 日	札幌市
Percutaneous vertebroplasty for delayed neurologic deficit due to osteoporotic vertebral pseudoarthrosis	松浦正己 鈴木修身 橋本貴士 森迫泰貴	藤本吉範 山田清貴 中前稔生	The 13th Annual Meeting of the Pacific and Asian Society of the Minimally Invasive Spine Surgery (PASMIS)	2013 年 8 月 1 ~ 3 日	宮崎市
Comparative study on percutaneous transpedicular Intervertebral vacuum PMMA injection procedure and non-surgical treatment for low back pain associated with lumbar degenerative scoliosis in the elderly	Yoshinori Fujimoto, Osami Suzuki, Kiyotaka Yamada, Takashi Hashimoto, Toshio Nakamae, Masaki Matsuura, Taiki Morisako		Asia Pacific Orthopaedic Association (APOA) 2013	2013 年 8 月 29 ~ 31 日	Kuching, Malaysia 招待講演
下肢骨髄炎に対する血管柄付き骨移植の成績と問題点	鈴木修身 中島祐子 竹内実知子	砂川融 四宮陸雄 越智光夫	第 40 回日本マイクロサージャリー学会	2013 年 9 月 26 ~ 28 日	岩手県盛岡市
骨粗鬆性椎体偽関節に対する骨セメントを用いた経皮的椎体形成術	松浦正己 鈴木修身 橋本貴士 森迫泰貴	藤本吉範 山田清貴 中前稔生	第 62 回日本農村医学会学術総会	2013 年 11 月 7 ~ 8 日	福島市
高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛に対する経皮的椎間腔バキューム内 PMMA 注入療法と保存療法の治療成績の比較検討	森迫泰貴 鈴木修身 橋本貴士 松浦正己	藤本吉範 山田清貴 中前稔生	第 62 回日本農村医学会学術総会	2013 年 11 月 7 ~ 8 日	福島市
Caprini Risk Assessment Model を用いた当科の人工膝関節置換術後静脈血栓塞栓症に対するリスク評価の検討	松浦正己 西川公一郎 中村光宏 村上弘明	石田治 曾田是則 山崎啓一郎 作田智彦	第 43 回日本人工関節学会	2014 年 2 月 22 ~ 23 日	京都市

脳神経外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
くも膜下出血で発症した両側解離性脳動脈瘤に対し、ステント併用で血管内塞栓術を施行した 1 例	下永皓司 渋川正顕	黒木一彦 織田祥至	第 75 回日本脳神経外科学会 支部会 (中国四国)	2013 年 4 月 6 日 下関市
コイル塞栓術中アンラベルしたコイルの 1 例	下永皓司 渋川正顕	黒木一彦 織田祥至	第 29 回日本脳神経血管内治療学会	2013 年 11 月 22 日 新潟市
くも膜下出血発症から 4 ヶ月後にステント併用コイル塞栓術を行った脳底動脈解離性脳動脈瘤の 1 症例	織田祥至 渋川正顕	黒木一彦 下永皓司	第 29 回日本脳神経血管内治療学会	2013 年 11 月 22 日 新潟市
眼窩内海綿状血管腫の 1 手術例	黒木一彦 織田祥至	渋川正顕 下永皓司	第 21 回広島頭蓋底外科研究会	2014 年 1 月 10 日 広島市

呼吸器外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
COPD 合併肺癌の術前管理から新たな展開へー潜在する COPD 患者の診断と治療のために	渡正伸 黒尾優太	第 30 回日本呼吸器外科学会	2013 年 5 月 9 ~ 10 日	名古屋市
術後気管支断端瘻から ARDS となった IP 合併肺癌の治療経験	渡正伸 黒尾優太	第 30 回日本呼吸器外科学会	2013 年 5 月 9 ~ 10 日	名古屋市

実績

学会発表

肺癌脳転移，癌性髄膜炎による水頭症に対して脳室腹腔シャントが有効であった一例	黒尾優太 渡正伸	第30回日本呼吸器外科学会	2013年5月9～10日	名古屋市
麻酔科医が救う日本の COPD	渡正伸 黒尾優太	第60回日本麻酔科学会	2013年5月23～25日	札幌市
Latent COPD patients should be discovered by preoperative spirometry.	Masanobu Watari, Yuta Kuroo, Takashi Kumada, Sanae Oda, Megumi Shimada, Atsushi Nagao	Chest 2013 (ACCP)	2013年10月26～31日	Chicago
耐術能不良の COPD 合併肺癌に対して術前包括的呼吸リハビリテーションを行い根治術に持ち込んだ1例	棚橋弘貴 渡正伸 熊田高志	第54回日本肺癌学会	2013年11月21～22日	東京都
COPD 合併肺癌に対する術前から開始する包括的呼吸リハビリテーションの効果 体成分分析結果の考察	熊田高志 渡正伸 八幡謙吾 河野裕美	第54回日本肺癌学会	2013年11月21～22日	東京都

心臓血管外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
PAD に対する包括的チームアプローチの意義	小林平 川本純 前田和樹	第41回日本血管外科学会学術集会	2013年5月29日～31日	大阪市
高度石灰化大腿動脈にバイパス中枢吻合を施行するために一新型キューサーによる内膜摘除術一	小林平 川本純 前田和樹	第41回日本血管外科学会学術集会	2013年5月29日～31日	大阪市
当院での Distal Bypass の工夫一末梢側吻合を確実に行うために一	小林平 川本純 前田和樹	第41回日本血管外科学会学術集会	2013年5月29日～31日	大阪市
弁切除した大伏在静脈を冠動脈バイパス術に利用する利点	小林平 川本純 前田和樹	第56回関西胸部外科学会学術集会	2013年6月13～14日	広島市
Successful surgical removal of an entrapped intravascular ultrasonography catheter in the left circumflex coronary artery.	Masaki Hamamoto, Kiyohiko Morifuji	10th International Congress on Coronary Artery Disease	2013年10月13～16日	Florence, Italy
重症虚血肢に対するチーム医療の意義一下肢虚血再発を未然に防ぎ，生命予後を改善する一	小林平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司	第44回日本心臓血管外科学会学術集会	2014年2月19日～21日	熊本市

皮膚科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
5%マルトース加乳酸リンゲル液（ポタコールR®）によると思われるアナフィラキシーの1例	梅田直樹 森脇昌哉 森川博文	第133回日本皮膚科学会広島地方会	2013年9月1日	広島市
当院におけるまだに症の検討	森脇昌哉 梅田直樹 森川博文	第133回日本皮膚科学会広島地方会	2013年9月1日	広島市
新生児に発生した水痘の1例	梅田直樹 森脇昌哉 森川博文 岡皇宏易（小児科）	第134回日本皮膚科学会広島地方会	2014年2月1日	広島市
集団発生した日本紅斑熱の親子例	森脇昌哉 梅田直樹 森川博文	第134回日本皮膚科学会広島地方会	2014年2月1日	広島市

産婦人科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
正常胎児における左房一下行大動脈間距離の推移	中前里香子	第49回日本周産期・新生児医学会学術集会	2013年7月14～16日	横浜市
尿管瘤と交通を認めた Wunderlich 症候群の1例	楠本真也 佐野祥子 佐々木充 佐々木美砂 中前里香子 藤本英夫 中西慶喜	第64回広島産科婦人科学会総会	2013年9月1日	広島市

学会発表

肺血栓塞栓症を合併した巨大子宮筋腫の1例	佐々木充 楠本真也 佐野祥子	中慶喜 佐々木美砂 中前里香子	第66回中国四国産科婦人科 学会総会・学術講演会	2013年9 月21～ 22日	高知市
----------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------------	-----------------------	-----

眼科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
11年後に再度の瞳孔形成術を行った麻痺性散瞳の1例	二井宏紀	第266回広島眼科症例検討会	2013年10 月10日	広島市
白内障手術経験数の差が角膜・網膜に与える影響	井上千絵 二井宏紀	第72回広島地方眼科学会	2013年12 月1日	広島市
極小切開白内障手術におけるKS-SP挿入後の創口幅拡大および惹起乱視の検討	二井宏紀 井上千絵	第37回日本眼科手術学会	2014年1 月17日	京都市
白内障手術経験数の差が角膜・網膜に与える影響	井上千絵 二井宏紀	第38回日本角膜学会	2014年1 月30日～ 2月1日	宜野湾市

耳鼻咽喉科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市	
鼻腔クリプトコッカス症の1例	兼見良典 水野一志	横江裕幸 高本宗男	第75回耳鼻咽喉科臨床学会	2013年7 月11～ 12日	神戸市

放射線治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市	
当院における膀胱癌に対する動注併用放射線治療について	竹内育樹 小深田義勝	桐生浩司 丸山聡	第120回日本医学放射線学会 中国四国地方会	2013年6 月15～ 16日	出雲市
膀胱癌に対する CDDP 併用動注併用放射線療法の治療成績	竹内育樹 小深田義勝	桐生浩司	第26回日本医学放射線腫瘍 学会	2013年10 月18～ 20日	青森市
II / III期 (not T4) 食道癌に対する術前化学放射線療法の検討	廣川淳一 今野伸樹 高橋一平 権丈雅浩 木村智樹 永田靖	村上祐司 勝田剛 土井歎子 兼安祐子 小澤修一	第26回日本医学放射線腫瘍 学会	2013年10 月18～ 20日	青森市
セツキシマブ併用放射線治療が有効であった喉頭癌の1例	廣川淳一 兼見良典	桐生浩司 高本宗男	第121回日本医学放射線学会 中国四国地方会	2013年12 月13～ 14日	高松市

麻酔科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市	
ロクロニウム使用時の筋弛緩モニター TOF-watch と薬物動態シミュレーションとの関連性の検討	西藤幸子 梅田絢子 新澤正秀	中尾正和 本多亮子 松本千香子	第60回日本麻酔科学会学術 集会	2013年5 月23～ 25日	札幌市
Balloon Kyphoplasty と Percutaneous vertebroplasty の術後1年後の追跡調査	松本千香子 西藤幸子 片岡宏子	中尾正和 梅田絢子 本多亮子	第60回日本麻酔科学会学術 集会	2013年5 月23～ 25日	札幌市
ガイド付き間接視認型ビデオ喉頭鏡での気管チューブ回旋での左右偏位範囲の違いの検討	片岡宏子 梅田絢子 檜高育宏 松本千香子	中尾正和 本多亮子 新沢正秀	日本臨床麻酔学会 第33回 大会	2013年11 月2日	金沢市

歯科口腔外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市	
口蓋に生じた扁平上皮癌と平滑筋肉腫の重複癌の症例	加藤大喜 安田雅美	原田直	第52回広島県歯科医学会・ 第97回広島大学歯学会	2013年11 月10日	広島市

学会発表

口底部に発生した舌下腺由来悪性筋上皮腫の一例	安田雅美 加藤大喜	原田直	第58回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会	2013年10月11～13日	福岡市
放射線治療後に下顎に発生した周辺性軟骨肉腫の1例	安田雅美 加藤大喜	原田直	第58回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会	2013年10月11～13日	福岡市

救急・集中治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
VA-ECMOとHFOVを使用した肺動脈血栓塞栓症の症例(HFOVフォーラム)	櫻谷正明	第35回日本呼吸療法医学会	2013年7月20日～21日	東京都
当院における院内CPA症例の検討	河村夏生	第41回日本救急医学会学会学術集会	2013年10月21～24日	東京都
ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)に対し、遺伝子組み換えトロンボモジュリン(rTM)を使用し良好な経過を得た1例	高場章宏	第41回日本救急医学会学会学術集会	2013年10月21～24日	東京都
心筋梗塞の診断における造影Autopsy Imagingの有用性	平田旭	第41回日本救急医学会学会学術集会	2013年10月21～24日	東京都
当院におけるRapid Response System(RRS)の仮稼働の経験	河村夏生	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014年2月27日～3月1日	京都市
ECCO2Rにより救命しえた気管支喘息重責発作の1例	下地清史	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014年2月27日～3月1日	京都市
挿管機能のない患者に対するNPPV使用症例の検討	高場章宏	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014年2月27日～3月1日	京都市
当院における敗血症初期診療の現状について	平田旭	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014年2月27日～3月1日	京都市
オープン型ICUでの栄養サポートチーム(NST)による介入の影響	櫻谷正明	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014年2月27日～3月1日	京都市

形成外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
形成外科新設1年目の現状と課題	中西美紗	第56回日本形成外科学会総会・学術集会	2013年4月3～5日	東京都

西3階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市	
鎮痛スケールの導入～統一した鎮痛管理を目指して～	伊藤美奈 村中好美 河村夏生 平田旭	岡田明子 櫻谷正明 高場章宏 吉田研一	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014年2月27～3月1日	京都市
当院ICUスタッフの鎮静評価の現状～Richmond Agitation sedation Scale(RASS)の評価差とその要因～	西村直子 村中好美 河村夏生 平田旭	坂本佳奈江 櫻谷正明 高場章宏 吉田研一	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014年2月27日～3月1日	京都市

西5階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市	
入院前から病棟看護師が行う入院オリエンテーションが患者に与える影響～患者の思いに沿ったオリエンテーションを目指して～	中村希 馬場崎喜美子	西村留美	第15回日本医療マネジメント学会 学術総会	2013年6月14日15日	岩手県盛岡市

学会発表

点滴自己抜針予防への取り組み～手袋の使用基準の検討～	沖野美幸 北岡瞳	第44回日本看護協会老年看護	2013年7月26日	鹿児島県
----------------------------	----------	----------------	------------	------

西7階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
「胃瘻という選択」医療者と一般市民との相違～広島胃瘻と経腸栄養療法研究会でのアンケート結果を分析して 第1報	松下理恵 石崎淳子 徳毛宏則	第62回日本農村医学会学術集会	2013年11月7～8日	福島市

東7階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
肺癌患者における入院中と退院後の術後不快症状の比較	榎由美 酒井優子 飛子由紀 古本直子	日本看護学会 成人看護Ⅰ学術集会	2013年10月24～25日	和歌山県

東8階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院におけるCAPD看護の統一を目指した取り組み～他科病棟に対してアプローチを行って～	岩川奈々枝 中田恵梨 槌谷滋乃	第19回腹膜透析医学会・学術集会	2013年9月28～29日	福岡市
当院における看護師のシャント管理・指導への取り組み～アンケート調査からみえたもの～	安藤知佳 川西麻衣子 槌谷滋乃	第22回中国腎不全研究会	2013年10月20日	広島市

地域救命救急センター

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
地域救命救急センターにおける外来看護記録の実情と変化～高エネルギー外傷用看護記録用紙を導入して～	西原壱 竹野香織 松本雅美 長上明子	第15回日本救急看護学会	2013年10月19日	福岡市

薬剤部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
多彩な投与パターンによるシタグリプチンの臨床効果の検証と作用機序に関する考察	得能千晶 角井碧 中島恵子 瀧口幸子 大田博子 小川寛子 浅生真子 石田和史	第56回日本糖尿病学会年次学術集会	2013年5月16～18日	熊本市
顎骨壊死部の悪臭にメトロニダゾールワセリン1%軟膏とクリンダマイシン注が著効した症例	吉川麻里子 磯貝明彦 中島恵子 大田博子 高原さおり 小松弘尚	第18回日本緩和医療学会学術大会	2013年6月20～21日	横浜市
当院のカンジダ血症の後ろ向き調査	吉廣尚大 櫻谷正明 吉田研一 大田博子	第16回日本臨床救急医学会学術集会	2013年7月12～13日	東京都
開心術後の服薬コンプライアンスの現状と今後の課題	向井一樹 大原由希子 大田博子	第19回日本心臓リハビリテーション学会学術総会	2013年7月13～14日	仙台市
がんの進行に伴う神経麻痺により大量オピオイドの減量が必要となった1例	磯貝明彦 吉川麻里子 大田博子 高原さおり 小松弘尚	第7回日本緩和医療薬学会年会	2013年9月15～16日	千葉市
当院における、血清クレアチニン値および血清スタチンC値による推定GFR値の検討	瀧口幸子 得能千晶 角井碧 大田博子	第7回日本腎臓病薬物療法学会集会・総会2013	2013年10月5～6日	広島市
がん化学療法における薬剤師の役割	大田博子 埋橋賢吾 白井敦史 敷田ゆみ 中島恵子 只佐正嗣	第62回日本農村医学会学術総会	2013年11月7～8日	福島市
当院におけるダブトマイシン使用状況調査	吉廣尚大 櫻谷正明 吉田研一 大田博子	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014年2月27～3月1日	京都市
当院におけるTPN使用状況と今後の課題	中島恵子 山崎貴司 八幡謙吾 香山茂平 大田博子	第29回日本静脈経腸栄養学会	2014年2月27～28日	横浜市

学会発表

臨床研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
血糖コントロールの推移や他の臨床指標との相関からみた電流知覚閾値検査（CPT）による神経障害病期分類案の妥当性の検証	藤岡朋子 嶋田恵美 長尾専 坂本知子 小松浩基 水野誠士 小川寛子 浅生貴子 石田和史	第56回日本糖尿病学会年次学術集会	2013年5月16～18日	熊本市
Small dense LDL と脂質関連項目との関係について	丸山恭平 福田幸恵 谷口実佳 川崎京子 横山富子 福岡達仁 水野誠士 山田和夫 碓井裕史	第62回日本農村医学会学術総会	2013年11月7～8日	福島市
ケルミル ADVIA CentaurXP を用いたプロカルシトニンの検討	川崎京子 福田幸恵 丸山恭平 谷口実佳 横山富子 水野誠士 山田一夫	第46回中国四国支部医学検査学会	2013年11月9～10日	広島市
腎機能マーカーとしてのシスタチンCの有用性	谷口実佳 福田幸恵 丸山恭平 川崎京子 横山富子 水野誠士 山田一夫	第46回中国四国支部医学検査学会	2013年11月9～10日	広島市
尿中有形成分分析装置 UF-1000i による赤血球形態情報の有用性について	山下美香 平田奈津美 中山沙織 森下未来依 本田愛 荒瀬美幸 三舛正志 水野誠士	第46回中国四国支部医学検査学会	2013年11月9～10日	広島市
生理検査室から発信する術前肺機能外来の取り組み	嶋田恵美 藤岡朋子 長尾専 坂本知子 小松浩基 水野誠士 渡正伸	第46回中国四国支部医学検査学会	2013年11月9～10日	広島市

放射線科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
心筋 SPECT 画像におけるトランケーションアーチファクトの影響	高畑 明 池田将敏 柳井 環 秋里恭平	日本核医学技術学会 第25回中国四国地方会	2013年6月29日	高松市
放射線技師のためのマンモグラフィを再考する	小濱千幸	第29回日本診療放射線技師学術大会	2013年9月21日	松江市
心筋 SPECT 融合画像における位置合わせ精度の影響	高畑 明 中河聖司 梶岡雄一 大和真一郎	第33回日本核医学技術会総会学術学会	2013年11月8日	福岡市
透視下検査（ERCP）での鉛カーテンを用いた被曝軽減の試み	池田将敏 高畑 明 小濱千幸	中四国放射線医療技術フォーラム 2013	2013年11月16～17日	下関市

臨床工学科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における NPPV 管理の現状	田中恵子 荒田晋二	第23回日本臨床工学技士会	2013年5月18日～19日	山形県
HighFO ネブライザーの供給酸素濃度の検討	荒田晋二 田中恵子	第6回広島県臨床工学会	2013年6月1日	広島県
ビデオセッション「当院における呼吸療法に関わり」	荒田晋二 田中恵子	第6回広島県臨床工学会	2013年6月1日	広島県
当院における消化器内視鏡業務立上げ	藤田雄樹 瀬尾憲由	第6回広島県臨床工学会	2013年6月1日	広島県
当院 ICU のリハビリテーションにおける臨床工学技士の役割	荒田晋二 田中恵子	第35回日本呼吸療法医学会学術集会	2013年7月20日～21日	東京都
心リハにおける臨床工学技士の役割	荒田晋二 田中恵子	第19回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2013年7月13日～15日	宮城県
人工呼吸器管理中の心疾患患者さんへのリハビリテーション～臨床工学技士の関わり～	田中恵子 荒田晋二	第19回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2013年7月13日～15日	宮城県

学会発表

RST 活動による当院の呼吸療法の変化	荒田晋二 田中恵子	第 23 回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会	2013 年 10 月 10 日～11 日	東京都
在宅人工呼吸器装着患者さんの「しゃべりたい」という想いに応えて	田中恵子 荒田晋二	第 23 回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会	2013 年 10 月 10 日～11 日	東京都
当院における臨床工学士の呼吸療法業務～日常業務からのアセスメント～	荒田晋二 田中恵子	第 41 回日本集中治療医学会学術集会	2014 年 2 月 27 日～3 月 1 日	京都府

リハビリテーション科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院におけるがんのリハビリテーション～終末期がん患者に対する食べることへの支援～	後藤優佳 上野雅美 池永佑佳 名井幸香 折手祐一 小林恭子 上野忠活	第 14 回日本言語聴覚学会	2013 年 6 月 28 日～29 日	札幌市
透析患者の開心術後心臓リハビリテーション	本間智明 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 河野裕美 小島輝久 飛鷹恵理 西谷喜子 小山明子 井場和敏 折手祐一 名井幸香 橋詰奈津美 上田雅美 後藤優佳 池永佑佳 小林平	第 19 回日本心臓リハビリテーション学会	2013 年 7 月 13 日～14 日	仙台市
重症下肢虚血に対する血行再建術後の血管リハビリテーション	本間智明 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 河野裕美 小島輝久 飛鷹恵理 西谷喜子 小山明子 井場和敏 小林平	第 19 回日本心臓リハビリテーション学会	2013 年 7 月 13 日～14 日	仙台市
AMI 心臓リハビリテーションの立ち上げから 1 年経過して～CPX を用いた検討～	西谷喜子 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 河野裕美 小島輝久 小山明子 井場和敏 本間智明 飛鷹恵理 小林平 丸澤葉志子 久留島秀治	第 19 回日本心臓リハビリテーション学会	2013 年 7 月 13 日～14 日	仙台市
開心術後の嚥下障害は遠隔期に残存するのか？	上田雅美 後藤優佳 池永佑佳 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 河野裕美 小島輝久 小山明子 井場和敏 本間智明 飛鷹恵理 下田喜子 小林平	第 19 回日本心臓リハビリテーション学会	2013 年 7 月 13 日～14 日	仙台市

栄養科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
よりよい糖尿病栄養指導をめざして	河本良美	第 9 回日本栄養改善学会中国支部学術総会 ランチョンシンポジウム	2013 年 6 月 29 日～30 日	倉敷市
心臓リハビリテーションにおける実行度向上のための個別栄養指導への試み	長曾我部弘子 松下有紀 河本良美 小林平	第 19 回心臓リハビリテーション学会学術集会	2013 年 7 月 13 日～14 日	仙台市
成人発症 II 型シトルリン血症患者における長期的な栄養管理の一症例	松下有紀 八幡謙吾 河本良美 香山茂平	第 6 回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会	2013 年 12 月 14 日～15 日	岡山市
当院 ICU における NST 活動の成果と現状	八幡謙吾 上田雅美 山崎貴司 山口瑞穂 山下美香 横山富子 中島恵子 河本良美 藤本七津美 石崎淳子 藤田寿賀 櫻谷正明 香山茂平 吉田研一	第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2014 年 2 月 27 日～28 日	横浜市

学会発表

感染防止対策室

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Bacillus cereus（セレウス菌）感染防止への取り組み	今本紀生 池部晃司	第62回日本農村医学会学術総会	2013年11月7～8日	福島市
Bacillus cereus（セレウス菌）感染防止対策の改善と成果	今本紀生 正畠和美	第29回日本環境感染学会総会	2014年2月14～15日	東京都

総合医療相談室

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における糖尿病地域連携について	岡村良太	第5回広島県医療ソーシャルワーカー学会	2014年2月2日	尾道市

教育研修課

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院で実施した高校生向け外科医体験実習 —広島西部高校生外科セミナーを開催して—	砂田朋子 中光篤志	第62回日本農村医学会学術総会	2013年11月7～8日	福島市

学会での座長

糖尿病・代謝内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第56回日本糖尿病学会年次学術集会	石田和史	糖尿病療養指導（自己注射2）	2013年5月18日	熊本市
第18回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	石田和史	ランチョンセミナー5	2013年9月22日	横浜市
第51回日本糖尿病学会中国四国地方会	石田和史	慢性合併症3（神経障害）	2013年11月15日	岡山市

消化器内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第110回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	コメンテーター 藤本佳史	症例検討：胆管疾患	2013年6月30日	広島市

外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会	大下彰彦	ポスターセッション肝臓：胆管細胞癌	2013年6月14日	宇都宮市

皮膚科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第133回日本皮膚科学会広島地方会	森川博文		2013年9月1日	広島市
第134回日本皮膚科学会広島地方会	森川博文		2014年2月1日	広島市

産婦人科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第64回広島産科婦人科学会総会	中西慶喜		2013年9月1日	広島市

麻酔科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第60回日本麻酔科学会学術集会	中尾正和	ポスターディスカッションPD2-16 麻酔科 関連デバイス	2013年5月24日	札幌市
第60回日本麻酔科学会学術集会	風間富栄 中尾正和	会長企画A05：TCI, Open-TCIの無理難題 をエキスパートに解決してもらおう	2013年5月24日	札幌市

薬剤部

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第7回日本腎臓病薬物療法学会集会・総会2013	大田博子	教育講演6	2013年10月5～6日	広島市

臨床研究検査科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第46回中四国支部医学検査学会	水野誠士	教育講演1	2013年11月9～10日	広島市
第46回中四国支部医学検査学会	池部晃司	一般演題	2013年11月9～10日	広島市
第31回広島県医学検査学会	荒瀬美幸	一般演題	2014年3月9日	東広島市

臨床工学科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第23回日本臨床工学技士会	荒田晋二		2013年5月18日～19日	山形県

総合医療相談室

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第5回広島県医療ソーシャルワーカー学会	正島忠貴	第2分科会	2014年2月2日	尾道市

研究会講演・発表

循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区高血圧フォーラム—アズルバ発売1周年記念—	治療抵抗性高血圧症患者に対するアズルサルタンの使用経験	辻山修司	2013年4月22日 廿日市市：安芸グランドホテル	武田薬品工業
第51回広島循環器病研究会	二次予防でLDL-Cが良好にコントロールされたにも関わらず新規冠動脈病変を発症した一症例	久保祐美子 藤井隆 佐倉拓朗 久留島秀治 荘川知己 前田幸治 辻山修司	2013年6月8日 広島市：エソール歯科医師会館	
西部循環器を考える会	動脈硬化学会ガイドラインを利用した脂質管理を考える～超悪玉コレステロール (sdLDL) と冠動脈リスク～	藤井隆	2013年6月12日 廿日市市：佐伯区民文化センター	
第3回WIC	ガイドワイヤーの基本	久留島秀治	2013年6月28日 広島市：NHK広島放送センタービル	アステラス製薬
循環器疾患をともに考える会	Tolvaptanと歩んできた道～カテ屋が“サムスカ”に出会ってから～	辻山修司	2013年8月1日 大阪市：リーガロイヤルホテル大阪	大塚製薬
サムスカ錠学術講演会	当院におけるトルバプタンの使用方法について	辻山修司	2013年8月2日 高松市：高松国際ホテル	大塚製薬
第10回冠動脈CTと脂質低下療法研究会	「動脈硬化学会ガイドラインを利用した脂質管理を考える」～超悪玉コレステロールと冠動脈疾患～	藤井隆	2013年9月7日 岡山	
第536回広島市内科医会学術講演会	心血管治療から TVC(total vascular control) を考える 超悪玉コレステロール (sdLDL-C) の概念を含めて	藤井隆	2013年12月2日 広島市：リーガロイヤルホテル	広島市内科医会 (アストラゼネカ共催)
第8回西せと循環器研究会	巨大冠動脈動脈瘤を合併し急性心筋梗塞を発症した SLE の一例	赤澤良太 久保祐美子 久留島秀治 荘川知己 前田幸治 辻山修司 藤井隆	2014年2月1日 岩国市：岩国国際ホテル	
広島動脈硬化治療を考える会	閉塞性動脈硬化症といかに付き合うか	辻山修司	2014年2月5日 広島市：広島サンブラザ	興和創薬
広島動脈硬化治療を考える会	浅大腿動脈起始部～近位部に対する EVT	久留島秀治	2014年2月5日 広島市：広島サンブラザ	興和創薬
宇部市医師会学術講演会	～超悪玉コレステロール (sdLDL-C) vs 冠動脈疾患～	藤井隆	2014年2月28日 宇部市：ANA クラウンホテル	

糖尿病・代謝内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
多摩糖尿病最新治療講演会	日常臨床の経験から見えてきたインスリン・インクレチン関連薬の相違～糖尿病患者さんにとって、より有益な治療をめざして～	石田和史	2013年4月5日 ザ・クレストホテル立川 (東京都立川市)	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
第15回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	第二弾！インスリン治療のケーススタディ～外来でのインスリン導入、インスリンと経口血糖降下薬の併用について～	石田和史	2013年4月10日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・MSD
糖尿病ケアカンファレンス	日常臨床の経験から見えてきたインスリン・インクレチン関連薬の相違～糖尿病患者さんにとって、より有益な治療をめざして～	石田和史	2013年4月19日 山陰労災病院 (鳥取県米子市)	日本イーライリリー・日本イーライリリー
若林ブロックインスリン治療学術講演会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2013年5月24日 仙台国際ホテル (宮城県仙台市)	日本イーライリリー
庄原地区糖尿病治療を考える会	日常臨床のデータが語るインスリンアナログ製剤の差異～患者さんの望むインスリン治療の実現をめざして～	石田和史	2013年5月31日 庄原赤十字病院 (広島県庄原市)	日本イーライリリー
第二回脳神経外科の会	多彩となった経口糖尿病薬をどう使い分けるか？～糖尿病専門医はどう考えているのか？～	石田和史	2013年6月27日 オリエンタルホテル広島 (広島市中区)	ノバルティスファーマ

研究会講演・発表

広島総合病院オープンカンファレンス	糖尿病患者におけるシスタチンCによるGFR推算式の有用性についての検討	浅生貴子	2013年7月17日 広島総合病院大会議室（広島県廿日市）	広島総合病院
第3回明日の糖尿病診療を考える会	糖尿病医療連携パスを用いた広島県西部地区糖尿病医療連携の取り組み～地域全体の糖尿病診療における質の向上・均一化をめざして～	石田和史	2013年7月19日 オリエンタルホテル広島（広島市中区）	ノバルティスファーマ
糖尿病重症化予防（フットケア）研修会	糖尿病患者の足病変～病態生理から治療まで～	石田和史	2013年7月26日 広島県看護協会（広島市中区）	広島県看護協会
第16回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	速報！新しい持効型インスリンアナログ製剤デグレルデクの使用経験	石田和史	2013年8月7日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・大塚製薬
第16回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	連携パスを用いた広島県西部地区糖尿病医療連携の現状と広島県初の糖尿病センター開設のご報告	浅生貴子	2013年8月7日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・大塚製薬
インスリン治療学術講演会	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテーラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2013年8月24日 三井ガーデンホテル（広島市中区）	日本イーライリリー
平成25年度第1回広島県市町保健福祉活動研修会	糖尿病の発生病機・最新の治療について	石田和史	2013年9月13日 国保会館（広島市中区）	広島県国民健康保険団体連合会
第7回島根糖尿病治療研究会	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテーラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2013年9月28日 ホテル一畑（島根県松江市）	日本イーライリリー
西新井鹿浜医療連携を深める会	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテーラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2013年10月4日 ホテルパークサイド上野（東京都台東区）	日本イーライリリー
福山インスリン治療を考える会	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテーラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2013年10月29日 福山ニューキャッスルホテル（広島県福山市）	日本イーライリリー
第17回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	高齢者糖尿病診療の留意点	石田和史	2013年12月11日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・大日本住友製薬
山陽女子短期大学 臨床検査学科 臨床病態学Ⅰ 特別講演	進化を続ける糖尿病臨床と臨床検査の関わり	石田和史	2013年12月20日 山陽女子短期大学（広島県廿日市市）	山陽女子短期大学
平成25年度第2回広島県市町保健福祉活動研修会	糖尿病の合併症及び重症化予防対策について	石田和史	2014年1月24日 国保会館（広島市中区）	広島県国民健康保険団体連合会
第3回広島糖尿病療養指導士受験者講習会	療養指導各論～薬物療法～	石田和史	2014年1月26日 広島国際会議場（広島市中区）	広島県糖尿病療養指導士認定機構
唐津糖尿病学術講演会	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテーラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2014年2月7日 唐津シーサイドホテル（佐賀県唐津市）	日本イーライリリー
DIABETES SKILL-UP SEMINAR	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテーラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2014年2月8日 ホテルメトロポリタン盛岡（岩手県盛岡市）	日本イーライリリー
最新の糖尿病治療を考える会	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテーラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2014年2月21日 スイスホテル南海大阪（大阪府大阪市）	日本イーライリリー
日医生涯教育協力講座 糖尿病診療の地域連携	糖尿病地域連携パス 真に連携すべきものは何か？～チーム力を結集して糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み～	石田和史	2014年2月22日 広島医師会館（広島市西区）	日本医師会・広島県医師会・田辺三菱製薬
広島プレホスピタルケア研究会	糖尿病患者さんの意識障害～そのとき、何を考え、何をしたらよいのか？～	石田和史	2014年3月1日 宮島コーラルホテル（広島県廿日市市）	広島プレホスピタルケア研究会
インスリン治療 UPDATE in 北九州	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテーラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2014年3月4日 リーガロイヤルホテル小倉（福岡県北九州市）	日本イーライリリー

研究会講演・発表

屋島地区糖尿病治療を考える会	患者さんに寄り添う糖尿病治療の実践～多彩になったインスリン・経口糖尿病薬をテラーメイドに使い分けるコツは？～	石田和史	2014年3月15日 厚生連屋島総合病院 (香川県高松市)	日本イーライリリー
周南糖尿病診療連携医会	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2014年3月18日 周南市立新南陽市民病院 (山口県周南市)	日本イーライリリー
串間地区学術講演会～Humalog Conference～	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常生活に思いをはせたテラーメイドなインスリン治療をめざして～	石田和史	2014年3月28日 串間市総合保険福祉センター (宮崎県串間市)	日本イーライリリー

消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第115回広島消化器病研究会	巨大な総胆管結石に対するレーザー砕石術	宮森純子	2013年4月6日 広島市	広島消化器病研究会
第115回広島消化器病研究会	巨大肝嚢胞にたいし経皮的塩酸ミノサイクリン注入療法を行った10例の検討	富永明子	2013年4月6日 広島市	広島消化器病研究会
第115回広島消化器病研究会	緩和ケアの視点から見た終末期消化器系がんの特徴	小松弘尚	2013年4月6日 広島市	広島消化器病研究会
第8回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	EUS-BDと十二指腸ステントが有効であった高齢者膵臓癌の1例	藤野修	2013年6月27日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network, アストラゼネカ, 第一三共
第151回佐伯区薬剤師会集合研修会	消化器癌の診断と治療について	古土井明	2013年9月11日 広島市	佐伯区薬剤師会, 杏林薬品
佐伯クリニシャンズグループ講演会	IBDとIBSー注意すべき腸管疾患ー	徳毛宏則	2013年9月26日 広島市	佐伯クリニシャンズグループ, アボット
第10回広島県消化器内視鏡技師研究会	ランチョンセミナー	小松弘尚	2013年9月29日 広島市	広島県消化器内視鏡技師会
第9回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	治療に難渋した大腸憩室出血の一例	若井雅貴	2013年10月23日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network, アストラゼネカ, 第一三共
第9回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	大腸軸捻転の1例	宮森純子	2013年10月23日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network, アストラゼネカ, 第一三共
第32回広島早期大腸癌研究会	パネルディスカッション「pit pattern 診断の基礎講座」	古土井明	2013年10月29日 広島市	広島早期大腸癌研究会, ゼリア新薬
膵がん患者支援ワークショップ in 2013	各施設活動報告, パネルディスカッション	藤本佳史	2013年11月2日 東京	国立がんセンター中央病院
第24回佐伯医学会総会	膵がん・胆道がん教室と地域連携	藤本佳史	2013年11月3日 廿日市市	佐伯地区医師会
佐伯クリニシャンズグループ講演会	機能的胃腸障害の病態と治療	小松弘尚	2013年11月6日 広島市	佐伯クリニシャンズグループ, アステラス, ゼリア新薬
膵胆道がん治療コンセンサスマーケティング in 広島	パネルディスカッション 疼痛栄養管理 膵がん教室 (患者教育)	藤本佳史	2013年11月8日 広島市	日本イーライリリー株式会社
広島県言語聴覚士会西部ブロック研修会	経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) の実際	徳毛宏則	2013年11月15日 広島市	広島県言語聴覚士会
アミティーザカプセル 2.4μg 発売1周年記念講演会 in 広島	オピオイド誘発性便秘に対するアミティーザの使用経験	小松弘尚	2013年11月26日 広島市	アボット
第9回広島胃瘻と経腸栄養療法研究会	第8回広島ページェント アンケートの結果報告	徳毛宏則	2014年1月25日 広島市	広島胃瘻と経腸栄養療法研究会
第5回西部地区がん診療オープンカンファレンス	腹腔鏡にて診断した肝内腫瘍の一例	野中裕広	2014年2月21日 廿日市市	大鵬薬品, 武田薬品工業
第60回日本消化器画像診断研究会	自己免疫性膵炎に合併した膵臓癌の1例	若井雅貴	2014年3月1日 東京	日本消化器画像診断研究会
第10回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	肥満と脂肪肝, 逆流性食道炎の関連についての検討	野中裕広	2014年3月12日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network, アストラゼネカ, 第一三共
第227回佐伯臨床研修会	診断に苦慮した総胆管結石の1例	藤本佳史	2014年3月25日 廿日市市	佐伯地区医師会

研究会講演・発表

小児科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西日本小児アレルギー研究会	2012年秋の広島県小児喘息実態調査について—JPACを用いた2008年調査との比較—	岡島宏易	2013年8月24～25日 福岡	西日本小児アレルギー研究会
呉小児科医会	広島県小児喘息調査からわかったことと、これから取り組むべき課題	岡島宏易	2014年2月8日 呉	呉小児科医会

外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社	
第6回広島腹腔鏡下手術手技研究会	腹腔鏡下S状結腸切除術	香山茂平	2013年6月8日 広島		
第10回佐伯地区医師会外科会総会	当院での鼠径ヘルニアに対する術式選択について	田崎達也 今村祐司 香山茂平 杉山陽一 山口拓朗	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 中村浩之 黒尾優太	2013年6月19日 広島	
第2回 summer seminar in OKINAWA	肝細胞癌破裂に対する腹腔鏡補助下肝部分切除の経験	大下彰彦 黒尾優太 中村浩之 田崎達也 今村祐司	佐々木秀 山口拓朗 杉山陽一 香山茂平 中光篤志	2013年6月29日 那覇	
第9回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network (RIGID-NET)	当院外科における大腸癌治療の現状	香山茂平 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 山口拓朗	中光篤志 佐々木秀 田崎達也 中村浩之 黒尾優太	2013年10月23日 廿日市	
第12回広島大学第一外科同門会研究報告会	外傷性肝損傷後の下大静脈血栓症, うっ血性肝不全に対して低体温循環停止か下大静脈血栓除去術を施行し, 救命し得た1例	黒尾優太 今村祐司 香山茂平 川淵義治 杉山陽一 吉村紀子 井上聡	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 田崎達也 中村浩之 山口拓朗	2013年10月26日 広島	
広島GISクラブ Young Surgeon's Award 受賞記念講演	Hepatic steatosis after pancreaticoduodenectomy: Association with nutritional status and evaluation of predictive factors	中村浩之		2013年11月7日 広島	
TAPPビデオカンファレンス	TAPP手術手技の確認	田崎達也		2013年11月30日 尾道	Covidien
第40回広島内視鏡下外科手術研究会	当院における腹腔鏡下ヘルニア修復術(TAPP)の導入について	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 山口拓朗 井上聡 中光篤志	佐々木秀 大下彰彦 中村浩之 黒尾優太 今村祐司	2014年1月31日 広島	
第1回 colorectal cancer conference	高齢者に対する腹腔鏡下大腸切除術の検討	香山茂平 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 山口拓朗	中光篤志 佐々木秀 田崎達也 中村浩之 黒尾優太	2014年1月24日 広島	
第55回広島肝疾患セミナー	Doripenemが原因と考えられた高ビリルビン血症の1例	山口拓朗 野中裕広 櫻谷正明 吉田研一 中光篤志	大下彰彦 河村夏生 佐々木秀 徳毛宏則	2014年2月15日 広島	
広島農村医学研究会	当科における急性胆のう炎治療成績の検討	黒尾優太 今村祐司 香山茂平 川淵義治 杉山陽一 吉村紀子 井上聡	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 田崎達也 中村浩之 山口拓朗	2014年2月15日 広島	
第5回西部地区がん診療オープンカンファレンス	当院における腹腔鏡下肝切除術の現状	大下彰彦 中光篤志	佐々木秀	2014年2月21日 廿日市	

研究会講演・発表

大腸癌フォーラム in Hiroshima	症例から見た大腸癌の治療戦略	香山茂平 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 山口拓朗	中光篤志 佐々木秀 田崎達也 中村浩之 黒尾優太	2014年2月21日 広島	
第10回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network (RIGID-NET)	当院における肝切術の現状	大下彰彦 中光篤志	佐々木秀 中光篤志	2014年3月12日 廿日市	
第227回佐伯臨床研修会	当科における急性胆のう炎治療の実際	黒尾優太 今村祐司 香山茂平 川淵義治 杉山陽一 吉村紀子 井上聡	中光篤志 佐々木秀 大下彰彦 田崎達也 中村浩之 山口拓朗	2014年3月25日 広島	
広島大腸癌症例検討会	セツキシマブ導入時に infusion reaction を発症した2例	香山茂平 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 山口拓朗	中光篤志 佐々木秀 田崎達也 中村浩之 黒尾優太	2014年3月29日 広島	

実績

乳腺外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第105回広島がん治療研究会	Bebacizumab 投与中に大動脈解離を発症した進行乳癌の1例	吉村紀子	2013年9月28日 広島大学医学部広仁会館	広島がん治療研究会
ランマーク学術講演会	BMA 治療の実際～継続か中止か～	川淵義治	2014年2月14日 リーガロイヤルホテル広島	第一三共株式会社
広島乳がん認定医・専門医育成研修プロジェクト	乳がん専門医試験受験者体験記	川淵義治	2014年2月24日 武田薬品工業広島営業所	広島県認定医等確保支援事業・広島大学・武田薬品工業株式会社
Breast Cancer Forum	当院における AVA+PTX 療法の現況	川淵義治	2014年3月19日 シェラトンホテル広島	JBCRG・中外製薬株式会社
第44回広島乳癌疾患研究会	BI-RADS-MRI 第2版に基づいた乳房 MRI 読影について	吉村紀子	2014年3月29日 広島国際会議場	広島乳癌疾患研究会・アストラゼネカ株式会社
平成25年度がん医療ネットワーク説明会	広島西部地域の乳がん医療連携について	川淵義治	2014年3月31日 佐伯地区医師会館	広島県地域保健対策協議会

整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社	
International Society for minimally intervention in spinal surgery JAPAN	Percutaneous transpedicular intervertebral vacuum PMMA injection for low back pain with lumbar degenerative scoliosis	山田清貴 鈴木修身 中前稔生 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士 松浦正己	2013年6月20～21日 札幌	
第6回関西・第2回中四国合同 MiSt 研究会	骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術の治療成績	山田清貴 鈴木修身 中前稔生 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士 松浦正己	2013年7月6日 大阪	
骨粗鬆症性椎体骨折の治療戦略～薬物治療と手術療法～	骨粗鬆症性椎体骨折に対する椎体形成術の治療成績	中前稔生 鈴木修身 橋本貴士 森迫泰貴	藤本吉範 山田清貴 松浦正己	2013年9月14日 広島	
第225回広島整形外科研究会	頸椎部 flexion myelopathy(平山病)の治療経験	森迫泰貴 鈴木修身 橋本貴士 松浦正己	藤本吉範 山田清貴 中前稔生 高田治彦	2013年9月21日 広島	
広島県臨床整形外科医会	骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体補強術—適応と限界, 病診連携—	藤本吉範		2013年10月26日 広島	招待講演
第80回西日本脊椎研究会	高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛に対する低侵襲手術と保存療法の比較検討	山田清貴 鈴木修身 中前稔生 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士 松浦正己	2013年11月8日 福岡	

研究会講演・発表

第2回倉敷腰痛セミナー	高齢者の腰痛に対する低侵襲手術—骨粗鬆症性椎体骨折、腰椎変性側弯症を中心に—	藤本吉範		2013年11月3日 倉敷	招待講演
第52回広島脊椎・脊髄セミナー	骨粗鬆症性椎体骨折に対する前方・後方固定術の治療成績	山田清貴 鈴木修身 中前稔生 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士 松浦正己	2013年11月16日 広島	
西部整形外科懇話会	化膿性脊椎炎に対する経椎弓根進入法による椎間板洗浄	松浦正己 鈴木修身 橋本貴士 森迫泰貴	藤本吉範 山田清貴 中前稔生	2013年11月22日 廿日市	
第2回骨粗鬆症性椎体骨折を考える会	骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術	山田清貴 鈴木修身 中前稔生 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士 松浦正己	2014年1月31日 広島市	
第31回中部手外科研究会	Heberden 結節に対する観血的治療	鈴木修身 中島祐子 越智光夫	砂川融 四宮陸雄	2014年2月8日 山口県下関市	
第4回岡山脊椎グループセミナー	ディベート 脊椎圧迫骨折について BKP の立場から	山田清貴 鈴木修身 中前稔生 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士 松浦正己	2014年2月8日 岡山市	
第226回広島整形外科研究会	「トッパスリートの頸椎障害に対する外科的治療」	松浦正己 鈴木修身 橋本貴士 森迫泰貴 菊川和彦	藤本吉範 山田清貴 中前稔生 (JA広島総合病院) (マツダ病院)	2014年3月22日 広島市	
第226回広島整形外科研究会	手関節部に障害を来した単発性骨軟骨腫の1例	森迫泰貴 山田清貴 中前稔生 藤本吉範	鈴木修身 橋本貴士 松浦正己	2014年3月22日 広島市	
The 2nd asian congress of minimally invasive spine surgery and techniques combined with the 6th MISS summit forum	Percutaneous transpedicular intervertebral vacuum PMMA injection for low back pain with degenerative lumbar scoliosis in the elderly	山田清貴 高田治彦 中前稔生 高澤篤之	藤本吉範 橋本貴士 中川顕寛	2014年3月29～ 30日 犬山	

脳神経外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第6回広島脳外手術・手技研究会	脳動脈瘤 clipping; 術中破裂についての検討	黒木一彦	2013年6月26日	
興和創薬 社内研修講演	“くも膜下出血”	黒木一彦	2013年10月23日 興和創薬	
第21回広島頭蓋底外科研究会	眼窩内海綿状血管腫の1手術例	黒木一彦	2014年1月10日 広仁会館	
院内カンファレンス	脳動脈瘤手術 術中破裂についての検討	黒木一彦	2014年2月19日 大会議室	
Round Table Discussion HIROSHIMA2013	くも膜下出血発症から4ヵ月後にステント併用コイル塞栓術を行った脳底動脈解離性脳動脈瘤の1症例	織田祥至	2013年9月21日 シェラトンホテル広島	
第18回広島老年脳神経外科研究会	80歳以上高齢者髄膜腫の手術経験	織田祥至	2013年9月27日 広島大学医学部保健学科棟	

呼吸器外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県栄養士会生涯学習研修会 (H25年度)	周術期の包括的呼吸リハビリ 慢性閉塞性肺疾患合併患者の対策	渡正伸	2013年9月8日 広島市	公益社団法人広島県栄養士会

研究会講演・発表

心臓血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島西部地区臨床工学技士会	シャントに対する PTA について	小林平	2013年4月4日 広島	
第51回広島循環器病研究会	重症下肢虚血に対する Distal Bypass の治療成績	小林平	2013年6月7日 広島	
広島動脈硬化治療を考える会	Distal Bypass 後、感染によりグラフト中間部が破綻した1例	小林平	2013年7月26日 広島	興和創薬株式会社
第3回透析患者のADL向上を目指して	足を救うこと、命を救うこと～立って歩いてこそ～	小林平	2013年7月28日 千葉	大塚製薬株式会社
第11回鳥取糖尿病治療を考える会	立って歩いてこそ Legs for Life	小林平	2013年7月31日 鳥取	興和創薬株式会社
豊見城中央病院院内講演会	立って歩いてこそ～PADにおけるチーム医療の実際～	小林平	2013年9月6日 沖縄	サノフィ株式会社
第2回広島 PAD フォーラム	当院における重症下肢虚血に対する取り組み	小林平	2013年10月23日 広島	大塚製薬株式会社
第16回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	明るく楽しくみんなで血管チーム医療	小林平	2013年11月16日 倉敷	日本メドトロニック株式会社
第13回広島心臓血管外科フォーラム	保存的治療を選択した偽腔閉塞型大動脈解離の3例	児玉裕司	2013年11月22日 広島	
第52回広島循環器病研究会	成人の心房中隔に発生した血液嚢胞の1例	児玉裕司	2013年12月7日 広島	
第17回広島西部地区糖尿病連携を進める会	糖尿病患者の下肢虚血を未然に防げ	小林平	2013年12月11日 広島	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会

皮膚科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第16回広島西部地区糖尿病連携を進める会	糖尿病性潰瘍について	森川博文	2013年8月7日 廿日市商工保健会館	
第320回呉皮膚科会講習会	当科で経験したリケッチア感染	森川博文	2014年3月11日 呉阪急ホテル	呉皮膚科会鳥居薬疹(株) 呉阪急ホテル

泌尿器科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島西部泌尿器科フォーラム	当院における PSA 低値の前立腺癌症例の検討	定秀孝介	2013年9月5日 広島	武田薬品
広島西部泌尿器科フォーラム	後腹膜鏡下前立腺全摘術について	丸山聡	2013年9月5日 広島	武田薬品
前立腺癌 Expert-Meeting	当院における PSA 低値の前立腺癌症例の検討	丸山聡	2013年12月14日 尾道	武田薬品
広島西部泌尿器科フォーラム	陰嚢内硬化性肉芽腫の一例	宮本俊輔	2014年3月27日 広島	武田薬品
広島西部泌尿器科フォーラム	前立腺癌全摘術後の臨床的検討	定秀孝介	2014年3月27日 広島	武田薬品

耳鼻咽喉科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯区耳鼻科会	JA 広島総合病院めまい疾患の動向	高本宗男	2013年9月7日 広島市	田辺三菱

放射線治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島総合病院オープンカンファレンス	乳房温存放射線治療後に経験した肺障害について	竹内有樹	2013年5月15日 広島総合病院	広島総合病院

研究会講演・発表

広島頭頸部癌放射線治療セミナー	セツキシマ併用放射線治療が有効であった声門上部癌の1例	桐生浩司	2013年11月28日 リーガロイヤルホテル広島	ブリストル・マイヤース株式会社・メルクセロー株式会社
-----------------	-----------------------------	------	-----------------------------	----------------------------

画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第133回広島放射線診断カンファレンス	左肩甲部から上肢のしびれ感を呈した頸椎病変の一例	太刀掛俊浩	2013年10月17日 広島大学	
第148回広島放射線診断カンファレンス	膵管癌以外の膵腫瘍、自験例を中心に	西原礼介	2014年2月6日 広島大学	
第148回広島放射線診断カンファレンス	膀胱腺筋症の一例	太刀掛俊浩	2014年2月6日 広島大学	

西7階病棟

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第10回広島県消化器内視鏡技師研究会	大腸内視鏡検査における腸管洗浄剤の検討～モビプレップを使用して～第1報	本山敏恵	2013年9月29日 アステールプラザ広島	広島県消化器内視鏡技師会
佐伯医学会総会	大腸内視鏡検査における腸管洗浄剤の検討～モビプレップを使用して～第2報	松下理恵	2013年11月3日 廿日市商工保健会館	佐伯地区医師会

薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島 MRSA 講演会	JA 広島総合病院 ICT の取り組み	正島和美	2013年5月10日 ホテルグランヴィア広島	MSD
第6回廿日市市薬業連携研修会	摂食・嚥下と薬剤	山崎貴司	2013年9月11日 あいプラザ	廿日市市薬剤師会
広島 DIC フォーラム 2013	当院におけるリコモジュリンの使用状況調査	吉廣尚大	2013年9月20日 三井ガーデンホテル	旭化成ファーマ
第34回広島感染症研究会	当院におけるダプトマイシン使用状況調査	吉廣尚大	2013年11月30日 エソール広島	広島感染症研究会
第8回循環器研究会	ヘパリン起因性血小板減少症を合併した急性血栓閉塞症の1例	吉廣尚大	2014年2月5日 広島市民病院大講堂	広島循環器研究会・広島病院薬剤師会

臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
形態部門講習会	尿沈渣	山下美香	2013年4月20日 山口市	一般社団法人山口県臨床検査技師会
第62回日本医学検査学会併設行列ができるスキルアップ研修会 Part IV	結晶なんて…とっていませんか？—結晶から考えよう—	山下美香	2013年5月17日 高松市	一般社団法人香川県臨床検査技師会
日本救急検査技師認定機構指定講習会	発熱と一般検査	山下美香	2013年6月23日 倉敷市	日本救急検査技師認定機構
血液研修会 講義と鏡検実習	症例報告	森下未来依	2013年7月13日 広島市	一般社団法人広島県臨床検査技師会
平成25年度一般検査部門研修会	円柱と尿管上皮細胞	山下美香	2013年7月14日 米子市	一般社団法人鳥取県臨床検査技師会
広島 COPD 周術期チーム医療フォーラム	生理検査室から発信する術前肺機能外来の取り組み	嶋田恵美	2013年8月10日 広島市	グラクソ・スミスクライン株式会社
R-PCP 血液研修会	～あなたはこの検査値が読めますか～	森下未来依	2013年9月28日 広島市	一般社団法人広島県臨床検査技師会
一般検査研修会	尿沈渣の形態鑑別の基本	山下美香	2013年10月13日 松江	一般社団法人島根県臨床検査技師会
一般検査セミナー 2013EIKEN	小児科の尿沈渣	山下美香	2013年11月23日 東京都	栄研化学株式会社
腎・泌尿器検査研究会セミナー 2013 in 兵庫	直観で観る尿沈渣検査	山下美香	2013年12月8日 神戸市	腎・泌尿器検査研究会

研究会講演・発表

一般検査セミナー in 西播	関節液検査・精液検査について	山下美香	2014年1月26日 姫路市	公益社団法人兵庫県臨床検査技師会
尿検査フォーラム東北2014	この尿から、なにば考えるが	山下美香	2014年3月8日 仙台市	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
講演会	尿検査のコツ！臨床に役立つための尿沈渣の見方	山下美香	2014年3月15日 名古屋市	一般社団法人愛知県臨床検査技師会
腎・泌尿器検査研究会 第10回学術集会・記念大会	尿検査がS状結腸癌・膀胱ろうの迅速診断に寄与した1例	山下美香	2014年3月21～22日 枚方市	腎・泌尿器検査研究会

放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県MRI勉強会 基礎講座24	k-space っておもしろい！	都築晋治	2013年9月5日 県立広島病院	バイエル薬品共催
広島県MRI勉強会 基礎講座24	頸椎・頸髄	松村祐輔	2013年9月5日 県立広島病院	バイエル薬品共催
第22回ひろしま核医学技術検討会	心筋 SPECT 画像の多施設間評価	高畑明	2013年9月28日 RCC文化センター	日本メジフィジックス共催
第29回広島臨床画像研修会	死亡時画像診断研修会に参加して	田丸隆行	2013年10月26日 広島インテス	
安芸RI倶楽部勉強会	循環器領域におけるMIBGシンチグラフィ	高畑明	2013年11月1日 広島県立病院	
第7回日本心臓核医学会中国四国地域別研修会	心筋 SPECT 画像の基礎（収集）	高畑明	2013年11月2日 JAL シティー広島	日本心臓核医学会
日本放射線技術学会 中国・四国部会	心筋 SPECT 画像の補正法	高畑明	2014年1月25日 岡山市勤労者福祉センター	

臨床工学科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第21回ME機器・呼吸器関連勉強会	呼吸療法の関わり	荒田晋二 田中恵子	2013年5月14日 広島県	
広島呼吸ケア研究会	当院RSTが関与することによる医療安全への寄与	荒田晋二 田中恵子	2013年6月22日 広島県	
第7回広島西部透析研究会	透析液浄化の取り組みについて	荒田晋二 田中恵子	2013年7月11日 広島県	
第2回呉市呼吸療法認定士連絡会	在宅に向けたNPPV管理	荒田晋二 田中恵子	2013年9月23日 広島県	
佐伯地区医師会	臨床工学技士の消化器内視鏡業務への介入	藤田雄樹 瀬尾憲由	2013年11月2日 広島県	
中国地区内視鏡技師研究会	臨床工学技士の消化器内視鏡業務への介入	藤田雄樹 瀬尾憲由	2013年11月10日 広島県	
第13回山口県呼吸セミナー	急性期から慢性期のNPPV管理	荒田晋二 田中恵子	2014年3月9日 山口県	

リハビリテーション科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第6回廿日市市薬業連携研修会	嚥下障害に対する対応方法	上田雅美	2013年9月11日 あいプラザ	廿日市市薬剤師会
広島西部地区心疾患を有する患者のリハビリテーションを考える会	当院における心臓リハビリテーションの現状報告	本間智明	2013年9月20日 JA広島総合病院	大塚製薬株式会社
広島西部地区心疾患を有する患者のリハビリテーションを考える会	当院におけるAMI心臓リハビリの立ち上げと今後の課題	西谷喜子	2013年9月20日 JA広島総合病院	大塚製薬株式会社

研究会講演・発表

栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第17回 NST を本音で語る会	当院 NST における 多職種連携の取り組み	八幡謙吾	2013年6月29日 中国新聞本社	共催：NST を本音で語る会、アボットジャパン株式会社、テルモ株式会社、株式会社クリニコ
第16回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	広島県西部地区糖尿病連携バス5周年を迎えて	河本良美	2013年8月7日 廿日市市商工保健会館	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会
第19回 NST を本音で語る会 秋期合宿	がん患者の栄養管理	八幡謙吾	2013年8月24日 安芸グランドホテル	共催：NST を本音で語る会、アボットジャパン株式会社、テルモ株式会社、株式会社クリニコ
広島 Practical セミナー(テルモ)	ICU における NST 活動の成果と現状	八幡謙吾	2014年2月8日 KKR ホテル広島	テルモ株式会社
第36回広島県農村医学研究会	地域連携における食形態の統一を目指して～広島西脳卒中対策地域連携協議会の栄養士部会の取り組み～	西田美穂	2014年2月15日 JA ビル	J A 広島厚生連

緩和ケアチーム

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
日本死の臨床研究会	緩和ケア病床開設における看護師の不安の検討	岡田恵美子 高原さおり 古本 直子	2013年11月2～3日 鳥取 くにびきメッセ	

総合医療相談室

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第24回佐伯医学会総会	糖尿病連携バスについて	岡村良太	2013年11月3日	佐伯地区医師会
第36回広島県農村医学研究会	JA 広島総合病院におけるボランティア活動報告	岡村良太	2014年2月15日 広島市	

研究会座長

循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区高血圧フォーラム	藤井隆	①『慢性血液透析患者に対するアジルサルタンの使用経験』②『治療抵抗性高血圧症患者に対するアジルサルタンの使用経験』	①一陽会原田病院 腎臓内科 西澤欣子先生 ②JA広島総合病院 心臓血管内治療科 主任部長 辻山修司先生	2013年4月22日 廿日市市；安芸グランドホテル	武田製薬
第23回広島循環器フォーラム21	辻山修司	腎動脈周囲交感神経焼灼術による高血圧治療	兵庫医科大学 循環器内科 講師 藤井健一先生	2013年10月30日 広島市：ホテルグランヴィア広島	広島循環器フォーラム21 パイエル薬品株式会社

糖尿病・代謝内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島西部地区トラゼンタ適応拡大記念講演会	石田和史	2型糖尿病治療薬の展望～新しいDPP-4阻害薬の可能性と期待～	陣内病院 陣内秀昭先生	2013年4月24日 廿日市商工会議所 (広島県廿日市市)	日本ベーリンガーインゲルハイム・日本イーライリリー
糖尿病エリアネットワーク座談会	石田和史	糖尿病の地域医療を考える	新南陽市民病院 松谷朗先生 岡山済生会病院 中塔辰明先生 中国中央病院 石井啓太先生	2013年6月28日 ホテルグランヴィア 広島 (広島市南区)	田辺三菱製薬
GLP-1と基礎インスリンの併用～リキスミア承認取得記念講演会～	石田和史	1) BOTの次の一手 2) エビデンスからみたインスリン治療のパラダイムシフト	1) 広島大学病院 内分泌・糖尿病内科 診療講師 中西修平先生 2) 信州大学医学部 糖尿病・内分泌代謝内科教授 駒津光久先生	2013年7月26日 リーガロイヤルホテル 広島 (広島市中区)	サノフィ
実臨床から考える2型糖尿病治療戦略	石田和史	併用治療も含めたグルベス配合錠の使用経験	グランドタワーメディカルコートライフケアクリニック 藤川るみ先生	2014年1月24日 シェラトンホテル 広島	キッセイ薬品工業
美波セミナー in 広島西部	石田和史	病態からみた2型糖尿病治療戦略	山口大学大学院医学系研究科病態制御内科学教授 谷澤幸生先生	2014年2月14日 広島サンプラザ	大日本住友製薬

消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第115回広島消化器病研究会	藤本佳史	I演題 1.2.		2013年4月6日 広島市	広島消化器病研究会
第8回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	藤本佳史	EUS-BDと十二指腸ステントが有効であった高齢者膵臓の1例	藤野修	2013年6月27日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network, アストラゼネカ, 第一三共
第8回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	徳毛宏則	早期慢性膵炎の診断	佐々木民人	2013年6月27日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network, アストラゼネカ, 第一三共
第276回広島胃と腸疾患研究会	小松弘尚	症例検討		2013年10月22日 広島市	広島胃と腸疾患研究会, エーザイ
第9回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	古土井明	治療に難渋した大腸憩室出血の一例 大腸軸捻転の一例	若井雅貴 宮森純子	2013年10月23日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network, アストラゼネカ, 第一三共
佐伯地区医師会学術講演会	石田邦夫	C型慢性肝炎治療の今後の展望	今村道雄	2013年12月20日 廿日市市	佐伯地区医師会
西部地区炎症性腸疾患講演会	徳毛宏則	炎症性腸疾患治療の最近の動向	上野文昭	2014年1月24日 廿日市市	エーザイ, アッヴィ

研究会座長

第9回広島胃瘻と経腸栄養療法研究会	徳毛宏則	パネルディスカッション「誰のための胃瘻—さまざまな視点から—」	小野川靖二	2014年1月25日 広島市	広島胃瘻と経腸栄養療法研究会
第5回西部地区がん診療オープンカンファレンス	徳毛宏則	腹腔鏡にて診断した肝内腫瘍の一例	野中裕広	2014年2月21日 廿日市市	大鵬薬品, 武田薬品工業
第10回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	徳毛宏則	肥満と脂肪肝, 逆流性食道炎の関連についての検討	野中裕広	2014年3月12日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network, アストラゼネカ, 第一三共
広島西部地区 栄養療法向上を考える会	徳毛宏則	誤嚥性肺炎の予防～嚥下内視鏡検査, 胃瘻, 成分栄養剤の利用法～	堀内朗	2014年3月20日 廿日市市	味の素製薬

小児科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第7回広島気道アレルギー研究会	岡島宏易	思春期喘息について	小田嶋博先生	2013年5月31日 広島	MSD 株式会社

外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第41回広島肝胆膵外科手術研究会	佐々木秀	①肝原発悪性リンパ腫に対して肝前区域切除を施行した一例 ② IPMB に対する肝右葉切除・術中胆道ファイバー ③食道癌根治術後の中部胆管癌に対する胃管血流温存脾頭十二指腸切除術	①大森一郎 ②日置勝義 ③小林剛	2013年6月25日 広島	
第4回西部地区がん診療オープンカンファレンス	佐々木秀	当科における胃癌治療に関して	杉山陽一	2013年7月26日 廿日市	
第42回広島肝胆膵外科手術研究会	大下彰彦	肝切除における SSI の危険因子の検討と我々の取り組み	辻田英司	2013年11月5日 広島	
clinical cancer symposium in Hiroshima	香山茂平	大腸癌術後補助化学療法の治療成績	塩澤学	2014年2月14日 広島	

脳神経外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島西脳卒中対策地域連携	黒木一彦	広島西脳卒中対策地域連携について	狹田純	2013年5月31日 あいプラザ	
廿日市てんかんセミナー	黒木一彦	脳挫傷による高次脳機能障害, 難治性てんかんについての考察		2013年7月29日	
Network Meeting	黒木一彦	ダビガトランの使用経験から学ぶ		2013年9月13日	
第18回広島老年脳神経外科研究会	黒木一彦			2013年9月27日 広島大学医学部保健学科棟	
第12回西部救急研究会	黒木一彦			2013年11月13日 さくらびあ	
佐伯地区医師会学術講演会	黒木一彦	脳卒中と高血圧 脳を守るにはまず血圧から	西野繁樹	2013年11月26日 交流センター	

心臓血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島動脈硬化治療を考える会	小林平	後の外科的血管再建に難渋した EVT 失敗例	群谷篤史	2013年7月26日 広島	興和創薬株式会社

泌尿器科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
前立腺癌 Expert-Meeting	小深田義勝	前立腺癌治療の最新の話	田邊徹行	2013年7月13日 広島	武田薬品

研究会座長

第3回広島西部泌尿器科懇話会	小深田義勝	前立腺がんの最近の話題	三田憲明	2013年7月26日 広島	アステラス
広島西部泌尿器科フォーラム	小深田義勝	当院におけるPSA低値の前立腺癌症例の検討	定秀孝介	2013年9月5日 広島	武田薬品
広島西部泌尿器科フォーラム	小深田義勝	後腹膜鏡下前立腺全摘術について	丸山聡	2013年9月5日 広島	武田薬品
前立腺癌 Expert-Meeting	小深田義勝	当院におけるPSA低値の前立腺癌症例の検討	丸山聡	2013年12月14日 尾道	武田薬品
第4回広島西部泌尿器科懇話会	小深田義勝	最近経験した前立腺癌症例	森山浩之	2014年1月17日 広島	アステラス
第2回広島西部泌尿器科懇話会	小深田義勝	前立腺生検前のMRI検査〈不要な針生検を減らすために〉	水谷雅巳	2014年1月18日 広島	アステラス
広島西部泌尿器科フォーラム	小深田義勝	陰嚢内硬化性肉芽腫の一例	宮本俊輔	2014年3月27日 広島	武田薬品
広島西部泌尿器科フォーラム	小深田義勝	前立腺癌全摘術後の臨床的検討	定秀孝介	2014年3月27日 広島	武田薬品

産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医会	中西慶喜	子宮内膜症治療 Update	谷口文紀	2013年7月11日 広島サンプラザ	
西部地区産婦人科医会	中西慶喜	更年期を迎える女性に対するホルモン療法～OCやHRTの選択について～	野崎雅裕	2013年10月3日 広島サンプラザ	
西部地区産婦人科医会	中西慶喜	閉経後女性の骨粗鬆症管理と最近のHRTに関する話題	真田光博	2013年11月21日 広島サンプラザ	

画像診断部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第52回広島IVR研究会	西原礼介			2014年2月7日 広島大学	バイエル

麻酔科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第12回広島西部救急研究会	中尾正和	災害時における病院の機能～地域住民の“いのち”を守る視点から～	新道幸恵	2013年11月13日 はつかいち文化ホール	広島西部救急研究会

薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第5回廿日市市薬業研修会 学術講演会	中島恵子	透析で除去される薬剤について	竹内邦夫	2013年4月25日 あいプラザ	廿日市市薬剤師会
第5回廿日市市薬業研修会 学術講演会	大田博子	CKD患者における薬剤師業務～はじめの一歩～	井上智博	2013年4月25日 あいプラザ	廿日市市薬剤師会
第6回廿日市市薬業研修会 学術講演会	大田博子	嚥下障害に対する対応法	上田雅美	2013年9月11日 あいプラザ	廿日市市薬剤師会
第6回廿日市市薬業研修会 学術講演会	大田博子	摂食・嚥下と薬剤	山崎貴司	2013年9月11日 あいプラザ	廿日市市薬剤師会
第6回廿日市市薬業研修会 学術講演会	大田博子	嚥下障害の病態とその検査	高本宗男	2013年9月11日 あいプラザ	廿日市市薬剤師会

臨床研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
アークレイ臨床検査セミナー 2013 岡山	山下美香	円柱の排出動態からCKD,CVDの抑制は可能か？	横山貴	2013年7月27日 岡山市	アークレイマーケティング株式会社

研究会座長

第2回一般検査研修会	山下美香	CKD 対策の理想と現実	下澤達雄	2013年8月10日 広島市	一般社団法人広島県 臨床検査技師会
認定一般検査技師研修会	山下美香	血尿ガイドライン 2013 から考える 血尿症例	加藤裕一	2013年8月25日 東京都	一般社団法人日本臨床 衛生検査技師会
栄研一般セミナー in 広島	水野誠士	大腸がんのすべて～予防, 検診から 治療まで～	西村元一	2013年10月19日 広島市	栄研化学株式会社
シスメックス広島ユリナリ シスセミナー	水野誠士	排尿と泌尿器科疾患の最近の話題	小澤秀夫	2013年11月23日 広島市	シスメックス株式会 社
シスメックス広島ユリナリ シスセミナー	水野誠士	血尿ガイドライン改正のポイント と尿沈渣分析装置の臨床応用	武藤智	2013年11月23日 広島市	シスメックス株式会 社
第4回一般研修会	山下美香	尿中赤血球から考える病態	横山貴	2014年1月18日 広島市	一般社団法人広島県 臨床検査技師会
第2回感染症診断フォーラム	池部晃司	3ステップアルゴリズムを用いた 精度の高い CDAD 診断への取り組み	平田直也	2014年2月8日 広島市	アーリアメディカル 株式会社
第2回感染症診断フォーラム	池部晃司	CDI 治療におけるリスク因子の検 討	奥田立子	2014年2月8日 広島市	アーリアメディカル 株式会社
第6回シーメンスセミナー in 広島	水野誠士	化学発光を理解する: 免疫機器の 使用経験	岡本愛	2014年3月15日 広島市	シーメンスヘルスケ ア・ダイアグノス ティクス株式会社
第6回シーメンスセミナー in 広島	水野誠士	心不全, 心筋梗塞, 心筋炎のガイ ドライン推奨バイオマーカーとそ の将来展望	佐藤幸人	2014年3月15日 広島市	シーメンスヘルスケ ア・ダイアグノス ティクス株式会社
第6回シーメンスセミナー in 広島	水野誠士	肝線維化と関連検査の課題と展望	浅野寛道	2014年3月15日 広島市	シーメンスヘルスケ ア・ダイアグノス ティクス株式会社
腎泌尿器検査研究会第10回 学術集会	山下美香	尿自動分析装置 US-2200, US- 3101R-plus におけるビリルビン試 験紙の性能評価と陰性化補正機能 について	松田砂希子	2014年3月21～ 22日 枚方市	腎泌尿器検査研究 会・栄研化学株式 会社
腎泌尿器検査研究会第10回 学術集会	山下美香	尿自動分析装置 US-2200, US- 3100R-plus におけるクレアチニ ン・アルブミン試験紙の性能評価 について	小林涉	2014年3月21～ 22日 枚方市	腎泌尿器検査研究 会・栄研化学株式 会社
腎泌尿器検査研究会第10回 学術集会	山下美香	尿試験紙ウロペーパー α III '栄研' を用いたアルブミンクレアチニン 比	石澤毅士	2014年3月21～ 22日 枚方市	腎泌尿器検査研究 会・栄研化学株式 会社

放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第15回CTテクノロジーセ ミナー	田丸隆行	外傷CT～WAZA「技」を活かす ためのスキル～	大保勇	2014年3月15日 エソール広島	共催: エーザイ株式 会社, CTテクノロ ジーセミナー 後 援: 広島CT技術研 究会, 広島県診療放 射線技師会
第8回中国四国医用画像カ ンファレンス	高畑明	脳血流検査	旭川赤十字病院 増田	2013年5月25日 岡山国際交流セン ター	
第38回広島県 MRI 勉強会	都築晋治			2013年12月7日 県立広島病院	バイエル薬品共催

リハビリテーション科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島西部地区 心疾患を有 する患者のリハビリテー ションを考える会	上野忠活	脳梗塞を合併した冠動脈バイパス 術後の症例～心電図モニターを活 用した一例～	川本直佳	2013年9月20日 JA 広島総合病院	大塚製薬株式会社
広島西部地区 心疾患を有 する患者のリハビリテー ションを考える会	上野忠活	当院におけるAMI心臓リハビリの 立ち上げと今後の課題	西谷喜子	2013年9月20日 JA 広島総合病院	大塚製薬株式会社

研究会座長

感染防止対策室

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第14回広島感染防止及び滅菌業務研究会	今本紀生	地域連携について	新田由美子	2013年4月21日 広島YMCA国際文化センター	広島感染防止及び滅菌業務研究会
シスメックス広島感染制御セミナー2013	今本紀生	県内で一番熱い地域連携	山根啓幸	2013年7月25日 アークホテル広島駅南	シスメックス株式会社

地域活動

呼吸器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第7回市民公開講座	近藤丈博	一般市民	2013年6月16日 はつかいち文化ホールさくらびあ	JA広島総合病院	549人

糖尿病・代謝内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
HbA1c 認知向上運動 in 広島	糖尿病診療に関わる広島県医療機関の各種スタッフ	一般市民	2013年6月16日 紙屋町シャレオ中央広場（広島市中区）	日本糖尿病協会・広島県糖尿病協会・広島県糖尿病療養指導士認定機構・広島ホームテレビ・サノフィ	約800人
第3回広島いちがたの会	石田和史	1型糖尿病患者&家族, 糖尿病医療従事者	2013年9月7日 中国新聞ビル（広島市中区）	日本イーライリリー	
あいプラザまつり「糖尿病テーマパーク～病診連携について～」	糖尿病診療に関わるスタッフ全員	一般市民	2013年11月10日 あいプラザ（廿日市市）	廿日市市	

消化器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
講演「潰瘍性大腸炎の内科的治療について」	徳毛宏則	潰瘍性大腸炎患者	2013年5月18日 広島市	すこぶる快腸倶楽部	15人

小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
食物アレルギーに対する対応について	岡島宏易	教職員	2013年5月9日 金剛寺小学校	金剛寺小学校	50人
食物アレルギーに対する対応について	岡島宏易	教職員	2013年8月7日 大野東小学校	大野東小学校	50人
食物アレルギーに対する対応について	岡島宏易	保育士	2013年10月29日 丸石保育所	丸石保育所	10人
食物アレルギーについて	岡島宏易	教職員	2013年11月6日 地御前小学校	地御前小学校	30人
食物アレルギーとその対応について	岡島宏易	教職員	2013年11月13日 大野西小学校	大野西小学校	35人
小児のアレルギー疾患	岡島宏易	一般市民, 保育士, 教員	2013年10月9日 あいプラザ	廿日市保健所	100人
子どもの腎臓病	藤井寛	一般市民, 保育士, 教員	2013年12月18日 広島市西区民文化センター	広島難病対策センター	100人

乳腺外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
講演「乳がんになって自分にできること」	川淵義治	乳がん患者・家族	2014年2月1日 ウエストプラザ（広島市）	まちなかりボンサロン運営委員会	100人

整形外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
腰痛にならない生活を送るために —腰痛の原因と対処法について—	中前稔生	呉近郊の勤労者	2013年11月27日 呉森沢ホテル	一般社団法人 広島労働会館	80人

地域活動

脳神経外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
DMAT 技能維持研修	DMAT		2013年6月8～9日 愛媛県立医療技術大学		
山陽看護専門学校講義	黒木一彦	看護学生	2013年9月2日～ 10月28日 山陽看護専門学校		
中国地区 DMAT 連絡協議会実働訓練	DMAT		2013年11月9～10日 広島県庁		
第8回市民公開講座	黒木一彦	一般市民	2014年1月26日 廿日市市	JA 広島総合病院	

呼吸器外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
地域小学校への喫煙防止授業	渡正伸	地域小学生		佐伯地区医師会	
第7回市民公開講座	渡正伸	一般市民	2013年6月16日 廿日市市	JA 広島総合病院	506人

耳鼻咽喉科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第8回市民公開講座	兼見 良典	一般市民	2014年1月26日 廿日市市	JA 広島総合病院	

麻酔科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第6回広島西 MC 外傷セミナー	中尾正和	研修医, 看護師, 救急隊員	2013年10月5日 廿日市市商工保健会館	広島西 MC 協議会	20人
広島西 MC 協議会症例研究会	中尾正和	救急隊, 医療関係者	2013年10月27日 廿日市消防署	広島西 MC 協議会	40人
広島県消防学校救急標準過程想定訓練総合評価	中尾正和	消防署救急隊	2013年12月5日 広島県消防学校	広島県消防学校	30人
広島西 MC 協議会症例研究会	中尾正和	救急隊, 医療関係者	2014年3月4日 大竹市消防署	広島西 MC 協議会	40人

健康管理センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
痛い・痛いの膝・腰・手首	長田恵美子	農業塾 OB	2013年4月13日 JA 広島市中筋支店	JA 広島市農業塾 OB 会, 指導販売課	23人
今日から姿勢美人～ちょこっと椅子でエクササイズ	東千穂	JA 組合員	2013年4月17日 JA 佐伯中央本店	JA 佐伯中央ふれあい課	77人
健診で早期発見, ちょこっとエクササイズ	碓井裕史 野村恵美	一般	2013年6月16日 さくらピア	当院地域医療連携室	506人
痛い・痛いの膝・腰・手首	長田恵美子	JA 組合員	2013年7月16日 JA 広島市青崎支店	JA 広島市ふれあい課	20人
いつでもどこでもロコモ予防	森川裕子	JA 組合員	2013年7月19日 JA 広島市横川支店	JA 広島市ふれあい課	5人
健診で早期発見, ちょこっとエクササイズ	碓井裕史 東千穂	永福学級受講者	2013年7月22日 地御前市民センター	地御前地区永福学級	70人
今日こそ燃やそう!! 体の脂肪	東千穂	JA 組合員	2013年9月13日 JA 広島市落合支店	JA 広島市ふれあい課	30人
からだすっきり健康体操	久保知子	一般	2013年11月27日 宮内市民センター	佐伯地区医師会	17人

地域活動

脳みそ活性化で楽しく認知症予防	長田恵美子	JA 組合員	2014年1月30日 JA 広島市矢野支店	JA 広島市ふれあい課	24人
転倒・骨折の予防	増本順子	JA 組合員	2014年2月14日 JA 佐伯中央別府支店	JA 佐伯中央ふれあい課	28人
若返りの秘訣！元気いきいきエクササイズ	東千穂	JA 組合員・福寿会	2014年2月20日 JA 広島市志屋店	JA 広島市ふれあい課	17人
今日こそ燃やそう!! 体の脂肪	東千穂	JA 組合員	2014年2月21日 JA 佐伯中央原支店	JA 佐伯中央ふれあい課	27人
健康長寿の秘訣	林直子	JA 組合員	2014年2月27日 JA 佐伯中央平良支店	JA 佐伯中央ふれあい課	22人
脂質異常予防講座, 運動実技	森川裕子	一般	2014年3月19日 串戸市民センター	串戸市民センター	33人
健康で農業を続けるために, 関節を大事にしよう	長田恵美子	農事研究会員	2014年3月25日 JA 広島市祇園支店	JA 広島市ふれあい課	30人
転倒・骨折の予防	増本順子	JA 組合員	2014年3月26日 JA 広島市原支店	JA 広島市ふれあい課	23人
転倒・骨折の予防	増本順子	JA 組合員	2014年3月26日 JA 広島市可部支店	JA 広島市ふれあい課	64人
元気はつらつ健康教室	野村恵美	JA 組合員	2014年3月28日 JA 広島市祇園支店	JA 広島市ふれあい課	50人

臨床研究検査科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第7回市民公開講座	嶋田恵美	一般市民	2013年6月16日 はつかいち文化ホール	JA 広島総合病院	506人

栄養科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
健康教室	上村真由美	佐伯中央農業協同組合コスモス会	2013年4月19日 宮内市民センター	佐伯中央農協コスモス会	26人
第7回 市民公開講座	八幡謙吾	一般市民	2013年6月16日 はつかいち文化ホール	JA 広島総合病院	506人
がんサロン 講師	要田裕子	がん患者・医療従事者	2013年10月28日 地域連携室	地域医療連携室がん相談支援センター	6人

感染防止対策室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
アマンリハビリテーション病院 研修会	今本紀生	メディカルスタッフ	2013年7月4日 アマンリハビリテーション病院	アマンリハビリテーション病院	70人
一陽会原田病院 研修会	今本紀生	メディカルスタッフ	2013年7月12日 一陽会原田病院	一陽会原田病院	90人
佐伯区医師会 MRM 講演会	今本紀生	メディカルスタッフ	2013年9月12日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	100人
アマンリハビリテーション病院 研修会	今本紀生	メディカルスタッフ	2013年9月26日 アマンリハビリテーション病院	アマンリハビリテーション病院	70人
山陽看護専門学校 院内感染対策 講義	今本紀生	看護学生	2013年10月21日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人
佐伯区医師会 MRM 講演会 講師	今本紀生	メディカルスタッフ	2013年10月22日 廿日市市商工保健会館交流プラザ	佐伯地区医師会	80人
廿日市市老人福祉施設連絡協議会 感染対策研修会	今本紀生	看護師, 介護士, 事務	2013年11月13日 広島県西部保健所	広島県西部保健所	30人
大野浦病院 研修会	今本紀生	メディカルスタッフ	2013年11月19日 大野浦病院	大野浦病院	70人

地域活動

広島グリーンヒル病院 研修会	今本紀生	メディカルスタッフ	2013年11月27日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	70人
佐伯区医師会 感染対策研修会	今本紀生	メディカルスタッフ	2014年1月9日 佐伯区民文化センター	佐伯区医師会	90人
「新型インフルエンザ等対策」研修	今本紀生	看護師	2014年1月22日 広島県看護協会	広島県看護協会 広島CDC	120人
JA 佐伯中央訪問介護事業所 介護ヘルパー「ノロウイルス」研修会	今本紀生	介護ヘルパー	2014年1月23日 JA 佐伯中央本店	JA 佐伯中央訪問介護事業所	25人
大野浦病院 研修会	今本紀生	メディカルスタッフ	2014年2月18日 大野浦病院	大野浦病院	70人
西区医師会 安全対策・院内感染対策研修会	今本紀生	メディカルスタッフ	2014年3月13日 西区地域福祉センター	広島市西区医師会	80人

緩和ケアチーム

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第5回 がんを診療する医師に対する緩和ケア研修会	小松弘尚 桐生浩司 益村科長 岡田恵美子 高原さおり 古本直子 吉川 正島忠貴	医師	2013年5月19日 JA 広島総合病院	小松弘尚	15人
緩和ケア研修会 看取りのケア	岡田恵美子 高原さおり 古本直子	院外医療従事者	2013年10月2日 JA 広島総合病院	高原さおり	32人
緩和ケア研修会 エンゼルケア	岡田恵美子 高原さおり 古本直子	院外医療従事者	2013年11月16日 JA 広島総合病院	岡田恵美子	51人
第5回 がんを診療する医師に対する緩和ケア研修会	小松弘尚 桐生浩司 香山茂平 近藤文博 益村科長 岡田恵美子 高原さおり 磯谷明彦	医師	2014年5月26日 JA 広島総合病院	小松弘尚	18人
緩和ケア研修会 疼痛緩和	岡田恵美子 高原さおり 古本直子	院外医療従事者	2014年9月4日 JA 広島総合病院	古本直子	22人

総合医療相談室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ちょっとひと息医療とふくしの相談室	佐藤澄香 桐山葉子	廿日市市住民	2013年6月27日 中央市民センター	廿日市市五師士会	10人
ちょっとひと息医療とふくしの相談室	益村勇子	廿日市市住民	2013年7月25日 中央市民センター	廿日市市五師士会	13人
ちょっとひと息医療とふくしの相談室	岡村良太	廿日市市住民	2013年9月5日 サロン・ド・四季が丘	廿日市市五師士会	25人
ちょっとひと息医療とふくしの相談室	三谷法子	廿日市市住民	2013年10月24日 佐方市民センター	廿日市市五師士会	15人
なんでも相談室	正島忠貴	廿日市市住民	2013年11月10日 あいプラザ	廿日市市五師士会	8人
なんでも相談室	林理恵	廿日市市住民	2014年1月23日 佐方市民センター	廿日市市五師士会	16人
広島市西部地区研修会・医療相談	小深田義勝 正島忠貴	広島県支部会員	2014年3月16日 JA 広島総合病院	日本オストミー協会	30人

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

糖尿病・代謝内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
石田和史	患者さんに寄り添う混合インスリンアナログ療法の実践～患者さんの日常に思いをはせたテーラーメイドなインスリン治療をめざして～	Lilly Web Conference（インターネット配信）	日本イーライリリー	2013年6月13日
石田和史		Pharma Medica（座談会）		2013年6月28日
石田和史	糖尿病医療連携について再考する	糖尿病診療マスター vol.11 NO.6（鼎談）	医学書院	2013年9月15日

消化器内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
徳毛宏則	最後の迎え方 胃瘻：気付き始めた「陰」の部分ー話し合い重ね適材適所でー	中国新聞朝刊	中国新聞社	2013年9月20日
徳毛宏則	「はつかいちねっとうおへく」	昼はまるごと!761	FMはつかいち	2013年11月4日

乳腺外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
川淵義治	腋窩リンパ節の取り扱いをめぐる最近の動向	佐伯地区医師会報	佐伯地区医師会報	2013年5月1日

呼吸器外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
渡正伸	COPD患者をなんとかしたい	渡正伸, ケアネット	ケアネット	インターネット配信

健康管理センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
東千穂	食事の順番を知ろう	こいぶみ	JA広島市	2013年4月号
林直子	便秘について	こいぶみ	JA広島市	2013年5月号
長田恵美子	こむらがえり	こいぶみ	JA広島市	2013年6月号
森川裕子	睡眠と健康の関係	こいぶみ	JA広島市	2013年7月号
森川裕子	暑い夏を乗り越えるコツ	こいぶみ	JA広島市	2013年8月号
増本順子	残暑の熱中症にも注意	こいぶみ	JA広島市	2013年9月号
東千穂	女性の健康づくり～がんについて～	こいぶみ	JA広島市	2013年10月号
林直子	骨粗鬆症を予防しよう	こいぶみ	JA広島市	2013年11月号
長田恵美子	ピロリ菌のはなし	こいぶみ	JA広島市	2013年12月号
森川裕子	お酒との上手なつきあい方	こいぶみ	JA広島市	2014年1月号
増本順子	冬はご注意ください！安全に入浴を	こいぶみ	JA広島市	2014年2月号
東千穂	肩こり解消エクササイズ	こいぶみ	JA広島市	2014年3月号
林直子	便秘予防のために生活習慣を改善しましょう！	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2013年4月号
長田恵美子	痛い！こむら返り	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2013年5月号
森川裕子	睡眠と健康について	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2013年6月号
森川裕子	暑い夏を乗り越えるコツ	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2013年7月号
増本順子	熱中症	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2013年8月号
東千穂	女性の健康づくり～がんについて～	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2013年9月号
林直子	骨粗鬆症を予防しよう！	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2013年10月号
長田恵美子	ピロリ菌のはなし	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2013年11月号
森川裕子	お酒との上手なつきあい方	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2013年12月号
増本順子	冬はご注意ください！安全に入浴を	さいきちゅうおう	JA佐伯中央	2014年1月号

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

東千穂	肩こり解消エクササイズ	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014年2月号
林直子	花粉症について	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014年3月号

地域救命救急センター

提供者	テーマ・タイトル	出演, 掲載物名	依頼社名	放送, 掲載日
竹野香織	認定看護師活動レポート	エマージェンシー・ケア		

臨床工学科

提供者	テーマ・タイトル	出演, 掲載物名	依頼社名	放送, 掲載日
荒田晋二	ユーザーレポート「HighFO ネプライザーの使用経緯」	雑誌「人工呼吸」		
田中恵子	在宅医療に強い味方「臨床工学技士が訪問活動」	中国新聞「くらし 医療・保健」	中国新聞	2013年6月12日

合同カンファレンス

糖尿病・代謝内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第15回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル	2013年4月10日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・MSD
第16回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル	2013年8月7日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・大塚製薬
第3回実践DMチーム医療勉強会 in 広島	石田和史	広島県糖尿病診療に関わるコメディカル	2013年10月12日 広島県情報プラザ(広島市中区)	実践DMチーム医療勉強会 in 広島・日本糖尿病協会広島県支部・日本イーライリリー
平成25年度生活習慣病・糖尿病マネジメントのためのワークショップ	石田和史(ディレクター)	全国各地の研修医・コメディカル(34名)	2013年10月18~20日 農村保健研修センター(長野県佐久市)	全国厚生農業協同組合連合会・日本成人病予防会

乳腺外科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島乳腺超音波診断カンファレンス	岡田守人	医師・医療従事者	2013年5月28日 県立広島病院	ひろしま乳腺超音波勉強会
広島乳腺超音波診断カンファレンス	岡田守人	医師・医療従事者	2013年7月27日 県立広島病院	ひろしま乳腺超音波勉強会
広島乳腺超音波診断カンファレンス	岡田守人	医師・医療従事者	2013年10月1日 県立広島病院	ひろしま乳腺超音波勉強会
広島乳腺超音波診断カンファレンス	岡田守人	医師・医療従事者	2013年11月26日 県立広島病院	ひろしま乳腺超音波勉強会
広島乳腺超音波診断カンファレンス	岡田守人	医師・医療従事者	2014年1月9日 県立広島病院	ひろしま乳腺超音波勉強会
広島乳腺超音波診断カンファレンス	岡田守人	医師・医療従事者	2014年3月25日 県立広島病院	ひろしま乳腺超音波勉強会

放射線治療科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
(医師を対象にした) 緩和ケア研修会	桐生浩司 小松弘尚	医師	2013年5月19日 26日 広島総合病院	広島総合病院
(医師を対象にした) 緩和ケア研修会	榎本和樹	医師	2013年7月20日 21日 三次ロイヤルホテル	市立三次中央病院
(医療従事者を対象にした) 放射線治療講習会	桐生浩司	医療従事者	2013年9月10日 広島総合病院	広島総合病院

麻酔科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
フェニックスセミナー		医療機器開発者、営業	2013年9月27日 日本光電 東中野事業所	日本光電

リハビリテーション科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島西部地区心疾患を有する患者のリハビリテーションを考える会	上野忠活	近隣病院職員	2013年9月20日 JA広島総合病院	大塚製薬株式会社

合同カンファレンス

感染防止対策室

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡正伸	連携施設 ICT(7 施設)	2013 年 5 月 16 日	広島総合病院
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡正伸	連携施設 ICT(7 施設)	2013 年 7 月 18 日	広島総合病院
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡正伸	連携施設 ICT(7 施設)	2013 年 9 月 5 日	広島総合病院
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡正伸	連携施設 ICT(7 施設)	2013 年 11 月 14 日	広島総合病院

緩和ケアチーム

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
緩和ケアカンファレンス	小松弘尚	緩和チーム	毎週木曜日 ルーム	

■ Annual Report 2013 2013年(平成25年)度 年報 ■

クラブ活動

華道部

華道部は現在生け花とブリザードフラワーの2種を行っており、生け花は「池坊」の渡辺先生をお呼びして稽古を行っています。主に自由花を生けていますが、たまには生花も生けています。自由なイメージでお花を花器に生けるのですが…時にすべての花を先生に抜かれることもあり、やはりセンスがと首をうなだれることもしばしばありますが、そこがまた楽しい活動となっています。

ブリザードフラワーは人数の関係で薬局グループと検査グループに分かれて行っています。先生は廿日市の今井花店のなおちゃん先生に来ていただき作成しています。作品はその月のイベント（クリスマスにはリースやツリー、お正月はしめ縄や松をあしらった置物、バレンタインデーにはチョコレートケーキなどバラやカーネーション、あじさい）など様々な花や葉っぱを使って個性豊かな作品を作っています。

6月は涼しい雰囲気にしてくれる観葉植物を使いこけ玉作りにもチャレンジしました。

日程については先生と参加者の都合を合わせながら決めています。場所は薬局グループは薬局で、検査グループは中棟3階の休憩室で行っています。お店で販売しているものよりゴージャスで安価なので贈り物やお部屋のインテリアには最適だと思います。

もし興味のある方はご一報いただければと思います。

ソフトバレー部

■クラブ概要

●チーム名：JA なっしーず

私たちソフトバレー部は10数年前から看護協会のソフトバレーボール大会に参加して以来JA主催の白竜湖のソフトバレーの大会に参加しています。しかし思うような結果が出ず毎年苦い思いをしていました。そこで、昨年同好会を結成し月1から2回の練習を開催しています。

バレーボール経験者が多く、ソフトバレーはボールが大きく、そして柔らかい。なかなか思うようにボールを扱うことができず、苦戦しています。白竜湖の大会で昨年は若者の協力で優勝することができました。少ない人数ですがわきあいあいと頑張っています。

■活動内容

活動日：毎月第2・4木曜日

場 所：金剛寺小体育館

時 間：19時30分から21時

野球部

JA 広島総合病院野球部は、健康維持や他部署・他施設との交流を目的に活動しています。医師・看護師・薬剤師・栄養士・臨床工学技士・臨床検査技師・事務職・MSW 等様々な職種から集まり、20 名以上が在籍して活動を行っています。活動場所としては、宮園野球場、阿品台野球場、昭北グラウンドを中心に練習や試合を行っています。練習日は不定期であり、試合の日程やその他のイベントに向けて練習を行っています。

前年度までは、活動する部員はいるものの要となる投手や捕手の経験者がほとんどおらず、対外試合が組めないという苦しい状況でした。練習は行うもののノック程度しかまともに行えない、という中で細々と活動を続けていました。しかし今年度ついに投手・捕手経験者が共に入部し、一気に活気づきました。今までなかなか組めなかった対外試合も組み、それに向けての練習も複数回行いました。練習は計 8 回開催することができ、今まではポジションも特に決まらず漫然と行っていた練習も、ある程度ポジション別に分かれ目的をもったものになりました。

試合に関しては春に 2 試合、秋に 1 試合ほど行い、1 勝 2 敗という成績でした。新戦力のバッテリーは安定した力を見せ、失点は少なくなったものの打撃に課題が残る結果となりました。

夏には毎年恒例の吉田総合病院野球部とのソフトボールでの交流戦が今年も行われ、今年度は広島総合病院側の主催で試合が行われました。快晴ということもあり、とても暑い中での試合でした。エラーを連発する人や、ぎっくり腰に苦しむ人なども見受けられましたが、女性バッテリーの活躍などもあり今年度の軍配は広島に上がりました。試合後も打ち上げやその後の 2 次会なども開かれ、交流を深めることができました。

秋の白竜湖のソフトボール大会では、野球部が主催で事前練習を企画しました。4 回ほど合同での練習を企画したところ多くの人数の参加があり、大会にむけてバッティングから守備までしっかりと準備

することができました。その甲斐あってか、当日は広島 A チームと B チームが揃って勝ち進み、決勝でお互いが顔をあわせるという展開になりました。決勝は接戦になりましたが、野球部主体でチームを構成していた A チームが意地を見せ優勝。最高の結果を残すことができました。

その他には、春から夏の間にかれる新人歓迎会や冬の新年会などの親睦会も開かれ、普段業務に関わることの少ない他部署の人や、違う年代の人との交流を深めることができます。今後も幅広く参加者を集め、この輪を広げていきたいと思っています。

また、新しいユニフォームの作成や、新たなイベントの企画をしています。JA 広島総合病院野球部は現在も新規部員を募集しております。入部だけでなく助っ人等も大歓迎ですので、野球をしてみたいくなった時などは是非近くの野球部員に声をかけてみてください。女性部員の方も複数人おられ、ソフトボールの際などにも活躍していただいていますので、女性の方で興味のあるかたも是非野球部をのぞいてみてください。また、練習試合の相手も随時募集していますので、相手を探しておられる方、もしくはそのような方を知っておられる方は是非声をかけていただければ幸いです。

来年度は練習試合勝ち越し、白竜湖ソフトボール大会連覇を目指してがんばります！



テニス部

広島総合病院テニス部は、医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・事務職・臨床心理士・社会福祉士等 28 名で活動しています。

活動場所は広島市佐伯区五日市町にある佐伯運動公園のテニスコートで、清しい汗をかいています。

時期は 3 月～ 11 月（寒い時期は休部）の第 2・4 週に出発します。（本年度の練習は 14 回、交流会 1 回開催）

競技レベルは、初級～中級で仲良くワイワイと楽しく練習および試合をしています。



■ 2013 年度活動

◎第 30 回広島医療メイト杯

平成 25 年 8 月 25 日（日）

びんご運動公園テニスコート（尾道市）

広島総合病院 A

広島総合病院 B エントリー

【結果】

雨天中止

◎第 27 回 厚生連親睦球技大会（テニスの部）

尾道総合病院 A・B、吉田総合病院、広島総合病院 A・B の 5 チームがエントリーし、白熱した試合で大いに盛り上がりました

平成 25 年 10 月 25 日（土）

白竜湖スポーツ村（三原市）

【結果】

	吉 田	尾道 A	尾道 B	広島 A	広島 B
吉 田	-	2-1	3-0	2-1	2-1
尾道 A	1-2	-	2-1	1-2	2-1
尾道 B	0-3	1-2	-	0-3	1-2
広島 A	1-2	2-1	3-0	-	2-1
広島 B	1-2	1-2	2-1	1-2	-

広島総合病院 A…2 位

広島総合病院 B…4 位

伯友会（ゴルフ同好会）

昭和45年4月に伯友会は発足しています。

設立趣旨は「広島総合病院職員間のコミュニケーションと親睦を目的とし、病院発展にすこしでも寄与できるように、ゴルフ同好会とする。」古いノートの1ページ目に記されています。（現在ノートは4冊目です）

第1回目は、光カントリーで8名の参加で開催されています。（昭和45年4月12日）

その中に、名誉院長の関口善孝先生の名前が見られます。

スコアは68、62、60です。（なんと1.5ラウンドプレーしています。）

関口先生の最近のスコアは100点前後ですので、かなり上手になったものです。（？）（拍手）

その後、伯友会の歴史は44年間、途絶えることなく、現在に至っています。

平成14年より、光山豊文先生に代わって小生（小深田）が世話人を務めて参りました。

基本的に、年4回（3、6、9、11月）開催しています。

また、OBの先生方にも参加してもらっています。

11月の伯友会は、忘年会も兼ねて、1泊2日で行われます。別称、地御前オープンです。地御前オープンは、プレゴルフコンペに始まり、夜の宴会（忘年会）、続いての本大会と盛りだくさんの1泊2日です。

例年40名前後の参加があります。とても楽しい会です。

H26 6/21 開催の伯友会が第163回になります。

H25 11/17開催の地御前オープンが第38回です。

さて、平成25年度の伯友会について、振り返ってみます。

なんとと言っても、整形外科の独壇場でした。

第158回（平成23年9月）から第162回（平成26年3月）まで、すべて優勝は整形外科医でした。

山田清貴先生にはじまり橋本貴志先生（3回優勝）、奥田晃章先生と5回連続、整形外科医が優勝しました。

当院の整形外科は、藤本吉範院長をはじめとして、全員激務をこなしております。ゴルフの練習など、する暇は決してないはずですが。

それなのに、ゴルフコンペで5回も連続優勝してしまいました。

考察するに、人間、仕事が忙しければ忙しいほど、休日、趣味（遊び？）に集中（没頭？）できるのではないかと愚考します。その結果が、好成績に繋がったと考えられます。

また、ちなみに高田治彦先生を筆頭に、かなりの飲んべーです。このことより、アルコール摂取量とゴルフスコアに関する論文がそのうち、整形外科雑誌に投稿されることと予測されます。

蛇足ですが、整形外科連覇の前後は泌尿器科医がちゃんと仕事（優勝）をしていました。

（第157回、丸山聡先生、第163回、宮本俊輔先生）

泌尿器科も決して暇な部署ではありません、念のため。

また最近の動向としては、薬剤部、看護部を中心に、女性部員（若い人も、若くない人も）が増えました。

これは、非常に喜ばしいことです。

もう少し、女性参加者がふえれば、正式な女子部としての活動もできるのではと、楽しみにしています。

ゴルフに興味のある人、またはなくてもやってみたい人、老若男女を問わずどんどんご連絡ください。

道具の世話から、ゴルフマナー、ゴルフファッション、スイング指導まで、親切丁寧に指導します。お待ちしております。

最後になりましたが、平成26年6月の大会から、世話人が交替しました。

渡正伸先生（呼吸器外科）丸山聡先生（泌尿器科）に代わりました。ご協力をよろしくお願いします。

至らない幹事でしたが、長い間、ご参加、ご協力ありがとうございました。

伯友会の末永いご盛況を祈念しております。

平成26年6月30日 伯友会幹事 小深田義勝

サッカー部



試合後のさわやかな風景

■クラブ概要

- 通称：広総ラツィオ
- 創設：19??年
- 部員数：約20名
- メンバー（職種）：
医師、歯科医師、研修医、臨床検査技師、
管理栄養士、臨床工学技士、理学療法士、事務など

■活動内容・報告

- 練習
毎月第2、水曜日 20:00～21:30
第4、水曜日 20:00～21:30
(場所：廿日市グリーンフィールド)



練習風景

- 練習試合（不定期開催）
廿日市市役所、佐伯中央農協、近隣病院などのサッカー部の方々と、不定期で練習試合を行っています。



試合に臨む選手たち

●エンジョイ8リーグ

廿日市サッカー協会主催の社会人リーグに参加しています。8人制（ハーフコート）で1試合15分3本を戦い、1年間の総勝点で順位を決定します。

●2013年度総括

エンジョイ8リーグでは、2012年度よりも順位を落としてしまい3位でシーズンを終了しました。2014年シーズンこそは優勝目指してがんばります。

2013年度は、呉共済病院や地域の社会人チームとの練習試合も行うことができました。今後もサッカーを通じて地域、同業の方々との交流を深めたいと考えています。

■クラブアピール

- サッカーが好きな人、やっていた人、やってみたい人、運動がしたい人、どんな方でも、いつでも大歓迎です。経験の有無は問いません。
一緒に楽しみましょう!!
- 不定期で交流会も開催し、団結を深めています。

■おまけ

- サッカー部では、ここ数年マネージャー（またの名を勝利の女神）が不在となっています。
試合時の飲み物の準備など、各選手が持ち回りで行っています。
選手をサポートして下さる方、一緒にサッカーを楽しめる方を大募集しています。



バスケットボール部

■クラブ概要

- ・チーム名：Commats
- ・部員数：20名
- ・メンバー（職種）：医師、看護師、放射線技師、臨床工学技士、社会福祉士、事務

■活動内容

- ・練習場所：阿品台中学校
- ・日時：毎週木曜日、第2・4火曜日



■クラブアピール

和気藹々とした雰囲気です。チームみんな仲良くバスケットボールを楽しんでいます。毎月の練習ではミニゲームをし、時には練習試合をしたり、大会にも出場しています。経験問わず、バスケットが好きな人、運動がしたい人、どんな方でも大歓迎です。一緒に楽しみましょう!!



■年間行事予定

- 7月：夏レク
 - 8月：3on3 大会出場
 - 10月：体育大会
 - 12月：忘年会
 - 1月：新年会
- 不定期で交流会を行っています。



■ Annual Report 2013 2013年(平成25年)度 年報 ■

資 料

診療科別外来患者数

平成 25 年度 月別外来患者数 (4~7月)

科 別	4月 (診療日数 21日)				5月 (診療日数 21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,433	631	6,064	288.8	5,138	662	5,800	276.2
(呼吸器内科)	634	94	728	34.7	679	113	792	37.7
(循環器内科)	1,203	150	1,353	64.4	1,112	151	1,263	60.1
(腎臓内科)	538	38	576	27.4	552	43	595	28.3
(糖尿病内科)	1,379	78	1,457	69.4	1,256	96	1,352	64.4
(消化器内科)	1,623	235	1,858	88.5	1,470	237	1,707	81.3
(神経内科)	30	5	35	1.7	44	4	48	2.3
(緩和ケア科)	19	0	19	0.9	14	1	15	0.7
(総合診療科)	7	31	38	1.8	11	17	28	1.3
精神科・心療内科	45	14	59	2.8	48	14	62	3.0
小 児 科	860	138	998	47.5	776	156	932	44.4
外 科	1,239	86	1,325	63.1	1,221	77	1,298	61.8
乳 腺 外 科	215	32	247	11.8	267	47	314	15.0
整 形 外 科	941	198	1,139	54.2	1,236	239	1,475	70.2
形 成 外 科	70	31	101	4.8	87	26	113	5.4
脳神経外科	1,316	180	1,496	71.2	1,441	182	1,623	77.3
呼 吸 器 外 科	215	15	230	11.0	202	30	232	11.0
心臓・血管外科	452	34	486	23.1	371	38	409	19.5
皮 膚 科	1,587	275	1,862	88.7	1,594	386	1,980	94.3
泌 尿 器 科	1,784	129	1,913	91.1	1,698	111	1,809	86.1
産 婦 人 科	1,009	136	1,145	54.5	1,043	132	1,175	56.0
眼 科	766	92	858	40.9	830	101	931	44.3
耳 鼻 咽 喉 科	835	234	1,069	50.9	806	242	1,048	49.9
放 射 線 治 療 科	877	22	899	42.8	700	41	741	35.3
麻 酔 科	155	338	493	23.5	219	391	610	29.0
救 急 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画 像 診 断 部	99	109	208	9.9	72	67	139	6.6
歯 科 口 腔 外 科	451	168	619	29.5	407	151	558	26.6
計	18,349	2,862	21,211	1,010.0	18,156	3,093	21,249	1,011.9
栗谷診療所	68	1	69	3.3	63	1	64	3.0
合 計	18,417	2,863	21,280	1,013.3	18,219	3,094	21,313	1,014.9

科 別	6月 (診療日数 20日)				7月 (診療日数 22日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,127	632	5,759	288.0	5,454	679	6,133	278.8
(呼吸器内科)	628	94	722	36.1	707	114	821	37.3
(循環器内科)	1,168	156	1,324	66.2	1,161	130	1,291	58.7
(腎臓内科)	546	37	583	29.2	617	39	656	29.8
(糖尿病内科)	1,270	105	1,375	68.8	1,297	96	1,393	63.3
(消化器内科)	1,454	212	1,666	83.3	1,580	259	1,839	83.6
(神経内科)	30	3	33	1.7	57	8	65	3.0
(緩和ケア科)	18	0	18	0.9	16	0	16	0.7
(総合診療科)	13	25	38	1.9	19	33	52	2.4
精神科・心療内科	44	13	57	2.9	45	27	72	3.3
小 児 科	693	105	798	39.9	787	126	913	41.5
外 科	1,273	128	1,401	70.1	1,320	95	1,415	64.3
乳 腺 外 科	240	61	301	15.1	308	55	363	16.5
整 形 外 科	1,189	209	1,398	69.9	1,313	251	1,564	71.1
形 成 外 科	114	23	137	6.9	134	33	167	7.6
脳神経外科	1,366	173	1,539	77.0	1,453	194	1,647	74.9
呼 吸 器 外 科	226	28	254	12.7	247	34	281	12.8
心臓・血管外科	370	37	407	20.4	403	44	447	20.3
皮 膚 科	1,434	338	1,772	88.6	1,723	329	2,052	93.3
泌 尿 器 科	1,679	110	1,789	89.5	1,899	135	2,034	92.5
産 婦 人 科	1,061	133	1,194	59.7	1,134	127	1,261	57.3
眼 科	808	98	906	45.3	925	106	1,031	46.9
耳 鼻 咽 喉 科	764	217	981	49.1	888	268	1,156	52.5
放 射 線 治 療 科	770	15	785	39.3	798	29	827	37.6
麻 酔 科	214	395	609	30.5	230	492	722	32.8
救 急 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画 像 診 断 部	89	57	146	7.3	104	73	177	8.0
歯 科 口 腔 外 科	380	162	542	27.1	485	171	656	29.8
計	17,841	2,934	20,775	1,038.8	19,650	3,268	22,918	1,041.7
栗谷診療所	59	2	61	3.1	62	1	63	2.9
合 計	17,900	2,936	20,836	1,041.8	19,712	3,269	22,981	1,044.6

資料

平成 25 年度 月別外来患者数 (8~11月)

科 別	8月 (診療日数 21日)				9月 (診療日数 19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,246	639	5,885	280.2	4,917	658	5,575	293.4
(呼吸器内科)	719	84	803	38.2	676	108	784	41.3
(循環器内科)	1,043	154	1,197	57.0	988	135	1,123	59.1
(腎臓内科)	561	48	609	29.0	583	20	603	31.7
(糖尿病内科)	1,372	84	1,456	69.3	1,240	93	1,333	70.2
(消化器内科)	1,479	234	1,713	81.6	1,338	272	1,610	84.7
(神経内科)	39	14	53	2.5	62	3	65	3.4
(緩和ケア科)	15	0	15	0.7	12	0	12	0.6
(総合診療科)	18	21	39	1.9	18	27	45	2.4
精神科・心療内科	51	14	65	3.1	41	9	50	2.6
小 児 科	919	137	1,056	50.3	768	131	899	47.3
外 科	1,099	63	1,162	55.3	1,266	98	1,364	71.8
乳 腺 外 科	282	45	327	15.6	324	48	372	19.6
整 形 外 科	1,219	185	1,404	66.9	1,128	218	1,346	70.8
形 成 外 科	139	12	151	7.2	102	18	120	6.3
脳神経外科	1,484	173	1,657	78.9	1,531	175	1,706	89.8
呼 吸 器 外 科	201	26	227	10.8	243	34	277	14.6
心臓・血管外科	376	52	428	20.4	372	44	416	21.9
皮 膚 科	1,600	309	1,909	90.9	1,479	276	1,755	92.4
泌 尿 器 科	1,719	153	1,872	89.1	1,789	134	1,923	101.2
産 婦 人 科	1,038	116	1,154	55.0	1,016	161	1,177	61.9
眼 科	837	96	933	44.4	855	103	958	50.4
耳 鼻 咽 喉 科	812	191	1,003	47.8	683	179	862	45.4
放 射 線 治 療 科	769	26	795	37.9	776	23	799	42.1
麻 酔 科	249	435	684	32.6	213	365	578	30.4
救 急 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画 像 診 断 部	52	54	106	5.0	45	46	91	4.8
歯 科 口 腔 外 科	437	162	599	28.5	470	154	624	32.8
計	18,529	2,888	21,417	1,019.9	18,018	2,874	20,892	1,099.6
栗谷診療所	63	3	66	3.1	62	0	62	3.3
合 計	18,592	2,891	21,483	1,023.0	18,080	2,874	20,954	1,102.8

科 別	10月 (診療日数 22日)				11月 (診療日数 20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,750	723	6,473	294.2	5,253	623	5,876	293.8
(呼吸器内科)	755	107	862	39.2	683	100	783	39.2
(循環器内科)	1,204	161	1,365	62.0	1,024	163	1,187	59.4
(腎臓内科)	627	46	673	30.6	613	39	652	32.6
(糖尿病内科)	1,523	90	1,613	73.3	1,295	59	1,354	67.7
(消化器内科)	1,553	290	1,843	83.8	1,579	238	1,817	90.9
(神経内科)	54	3	57	2.6	34	7	41	2.1
(緩和ケア科)	20	0	20	0.9	11	0	11	0.6
(総合診療科)	14	26	40	1.8	14	17	31	1.6
精神科・心療内科	38	13	51	2.3	22	23	45	2.3
小 児 科	906	119	1,025	46.6	819	122	941	47.1
外 科	1,239	85	1,324	60.2	1,077	66	1,143	57.2
乳 腺 外 科	356	66	422	19.2	315	91	406	20.3
整 形 外 科	1,446	230	1,676	76.2	1,037	181	1,218	60.9
形 成 外 科	123	24	147	6.7	123	24	147	7.4
脳神経外科	1,565	175	1,740	79.1	1,597	174	1,771	88.6
呼 吸 器 外 科	232	45	277	12.6	242	41	283	14.2
心臓・血管外科	385	24	409	18.6	367	35	402	20.1
皮 膚 科	1,683	292	1,975	89.8	1,472	239	1,711	85.6
泌 尿 器 科	1,961	154	2,115	96.1	1,712	101	1,813	90.7
産 婦 人 科	1,110	138	1,248	56.7	1,015	142	1,157	57.9
眼 科	869	96	965	43.9	787	95	882	44.1
耳 鼻 咽 喉 科	718	216	934	42.5	585	226	811	40.6
放 射 線 治 療 科	837	18	855	38.9	761	20	781	39.1
麻 酔 科	231	378	609	27.7	198	354	552	27.6
救 急 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画 像 診 断 部	86	50	136	6.2	79	47	126	6.3
歯 科 口 腔 外 科	487	138	625	28.4	474	150	624	31.2
計	20,022	2,984	23,006	1,045.7	17,935	2,754	20,689	1,034.5
栗谷診療所	54	1	55	2.5	59	4	63	3.2
合 計	20,076	2,985	23,061	1,048.2	17,994	2,758	20,752	1,037.6

平成 25 年度 月別外来患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数 19日)				1月(診療日数 19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,552	561	6,113	321.7	4,455	595	5,050	265.8
(呼吸器内科)	638	91	729	38.4	647	89	736	38.7
(循環器内科)	1,117	128	1,245	65.5	912	115	1,027	54.1
(腎臓内科)	689	33	722	38.0	345	44	389	20.5
(糖尿病内科)	1,395	72	1,467	77.2	1,190	66	1,256	66.1
(消化器内科)	1,619	223	1,842	96.9	1,251	254	1,505	79.2
(神経内科)	60	3	63	3.3	42	9	51	2.7
(緩和ケア科)	18	1	19	1.0	21	0	21	1.1
(総合診療科)	16	10	26	1.4	47	18	65	3.4
精神科・心療内科	17	25	42	2.2	29	13	42	2.2
小 児 科	879	101	980	51.6	626	122	748	39.4
外 科	1,294	82	1,376	72.4	969	167	1,136	59.8
乳 腺 外 科	304	74	378	19.9	240	106	346	18.2
整 形 外 科	1,152	207	1,359	71.5	1,170	190	1,360	71.6
形 成 外 科	120	25	145	7.6	99	37	136	7.2
脳神経外科	1,524	150	1,674	88.1	1,362	189	1,551	81.6
呼 吸 器 外 科	204	31	235	12.4	144	32	176	9.3
心臓・血管外科	350	40	390	20.5	390	37	427	22.5
皮 膚 科	1,488	191	1,679	88.4	1,408	190	1,598	84.1
泌 尿 器 科	1,926	100	2,026	106.6	1,364	99	1,463	77.0
産 婦 人 科	1,060	127	1,187	62.5	1,007	124	1,131	59.5
眼 科	847	78	925	48.7	747	85	832	43.8
耳 鼻 咽 喉 科	644	203	847	44.6	613	215	828	43.6
放 射 線 治 療 科	638	17	655	34.5	507	21	528	27.8
麻 酔 科	76	252	328	17.3	71	247	318	16.7
救 急 科	182	165	347	18.3	92	78	170	8.9
画 像 診 断 部	72	49	121	6.4	11	99	110	5.8
歯 科 口 腔 外 科	508	121	629	33.1	417	126	543	28.6
計	18,837	2,599	21,436	1,128.2	15,721	2,772	18,493	973.3
栗谷診療所	64	0	64	3.4	51	2	53	2.8
合 計	18,901	2,599	21,500	1,131.6	15,772	2,774	18,546	976.1

科 別	2月(診療日数 19日)				3月(診療日数 20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	4,743	588	5,331	280.6	4,847	626	5,473	273.7
(呼吸器内科)	560	71	631	33.2	610	96	706	35.3
(循環器内科)	995	136	1,131	59.5	993	163	1,156	57.8
(腎臓内科)	493	46	539	28.4	689	36	725	36.3
(糖尿病内科)	1,194	81	1,275	67.1	1,113	75	1,188	59.4
(消化器内科)	1,412	237	1,649	86.8	1,334	231	1,565	78.3
(神経内科)	58	1	59	3.1	74	0	74	3.7
(緩和ケア科)	13	0	13	0.7	22	0	22	1.1
(総合診療科)	18	16	34	1.8	12	25	37	1.9
精神科・心療内科	35	17	52	2.7	40	12	52	2.6
小 児 科	730	98	828	43.6	971	155	1,126	56.3
外 科	1,017	69	1,086	57.2	1,210	76	1,286	64.3
乳 腺 外 科	269	54	323	17.0	341	53	394	19.7
整 形 外 科	1,274	204	1,478	77.8	1,356	231	1,587	79.4
形 成 外 科	119	19	138	7.3	116	20	136	6.8
脳神経外科	1,528	172	1,700	89.5	1,364	176	1,540	77.0
呼 吸 器 外 科	172	33	205	10.8	186	29	215	10.8
心臓・血管外科	286	39	325	17.1	346	40	386	19.3
皮 膚 科	1,341	198	1,539	81.0	1,452	244	1,696	84.8
泌 尿 器 科	1,707	120	1,827	96.2	1,954	105	2,059	103.0
産 婦 人 科	1,037	126	1,163	61.2	1,137	122	1,259	63.0
眼 科	850	80	930	48.9	870	90	960	48.0
耳 鼻 咽 喉 科	647	210	857	45.1	680	231	911	45.6
放 射 線 治 療 科	783	18	801	42.2	752	31	783	39.2
麻 酔 科	86	269	355	18.7	93	300	393	19.7
救 急 科	60	54	114	6.0	70	70	140	7.0
画 像 診 断 部	19	103	122	6.4	13	123	136	6.8
歯 科 口 腔 外 科	400	134	534	28.1	437	148	585	29.3
計	17,103	2,605	19,708	1,037.3	18,235	2,882	21,117	1,055.9
栗谷診療所	55	2	57	3.0	54	0	54	2.7
合 計	17,158	2,607	19,765	1,040.3	18,289	2,882	21,171	1,058.6

資料

診療科別入院患者数

平成 25 年度 月別入院患者数 (4~7月)

科 別	4月(診療日数 30日)				5月(診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	262	318	4,665	155.5	275	299	4,570	147.4
(呼吸器内科)	43	68	895	29.8	49	55	703	22.7
(循環器内科)	60	78	973	32.4	72	70	944	30.5
(腎臓内科)	21	12	702	23.4	26	37	804	25.9
(糖尿病内科)	12	14	129	4.3	4	5	84	2.7
(消化器内科)	122	137	1,892	63.1	121	126	1,941	62.6
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	4	9	74	2.5	3	6	94	3.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	72	73	457	15.2	97	94	580	18.7
外 科	108	98	1,610	53.7	92	114	1,575	50.8
乳 腺 外 科	8	4	61	2.0	8	9	76	2.5
整 形 外 科	91	86	1,225	40.8	106	104	1,202	38.8
形 成 外 科	5	4	46	1.5	1	3	52	1.7
脳神経外科	59	61	1,394	46.5	50	57	1,321	42.6
呼吸器外科	19	19	339	11.3	18	24	267	8.6
心臓・血管外科	29	27	802	26.7	19	26	814	26.3
皮膚科	17	14	184	6.1	23	25	277	8.9
泌尿器科	73	78	710	23.7	63	69	630	20.3
産婦人科	97	81	640	21.3	105	100	806	26.0
眼 科	35	35	91	3.0	32	31	77	2.5
耳鼻咽喉科	42	43	594	19.8	47	47	622	20.1
放射線治療科	8	10	144	4.8	7	7	74	2.4
麻 酔 科	103	55	375	12.5	135	65	602	19.4
救 急 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	11	12	130	4.3	3	4	65	2.1
合 計	1,039	1,018	13,467	448.9	1,081	1,078	13,610	439.0

科 別	6月(診療日数 30日)				7月(診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	245	292	4,315	143.8	271	322	4,787	154.4
(呼吸器内科)	41	45	805	26.8	52	65	1,101	35.5
(循環器内科)	57	73	734	24.5	75	76	928	29.9
(腎臓内科)	15	20	574	19.1	16	21	634	20.5
(糖尿病内科)	11	11	90	3.0	16	20	215	6.9
(消化器内科)	121	141	2,061	68.7	112	139	1,856	59.9
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	2	51	1.7	0	1	53	1.7
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	66	67	493	16.4	88	94	593	19.1
外 科	87	88	1,532	51.1	101	103	1,592	51.4
乳 腺 外 科	15	15	99	3.3	18	14	153	4.9
整 形 外 科	92	96	1,312	43.7	128	134	1,600	51.6
形 成 外 科	5	4	18	0.6	3	3	28	0.9
脳神経外科	45	58	1,204	40.1	49	59	1,166	37.6
呼吸器外科	18	19	360	12.0	27	27	352	11.4
心臓・血管外科	20	21	675	22.5	25	28	708	22.8
皮膚科	16	18	215	7.2	19	15	189	6.1
泌尿器科	74	75	733	24.4	78	79	721	23.3
産婦人科	108	105	989	33.0	106	112	866	27.9
眼 科	40	42	100	3.3	46	42	104	3.4
耳鼻咽喉科	36	39	554	18.5	45	45	530	17.1
放射線治療科	7	4	142	4.7	6	5	196	6.3
麻 酔 科	149	70	639	21.3	176	89	646	20.8
救 急 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	9	7	100	3.3	9	7	175	5.6
合 計	1,032	1,020	13,480	449.3	1,195	1,178	14,406	464.7

資料

平成 25 年度 月別入院患者数 (8~11月)

科 別	8月 (診療日数 31日)				9月 (診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	255	305	4,712	152.0	240	295	4,458	148.6
(呼吸器内科)	44	57	1,082	34.9	42	56	1,039	34.6
(循環器内科)	72	84	908	29.3	67	70	946	31.5
(腎臓内科)	16	27	480	15.5	26	20	584	19.5
(糖尿病内科)	11	9	228	7.4	5	11	173	5.8
(消化器内科)	109	124	1,938	62.5	100	134	1,605	53.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	3	4	76	2.5	0	4	111	3.7
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	83	86	527	17.0	52	53	333	11.1
外 科	85	106	1,565	50.5	96	108	1,534	51.1
乳腺外科	16	21	104	3.4	15	15	65	2.2
整形外科	80	105	1,180	38.1	102	98	1,265	42.2
形成外科	5	3	24	0.8	5	5	48	1.6
脳神経外科	45	51	1,126	36.3	38	59	966	32.2
呼吸器外科	23	28	422	13.6	18	22	369	12.3
心臓・血管外科	25	22	657	21.2	28	30	812	27.1
皮膚科	17	16	261	8.4	16	19	289	9.6
泌尿器科	61	80	570	18.4	68	61	607	20.2
産婦人科	101	107	933	30.1	75	81	613	20.4
眼科	33	37	81	2.6	34	28	82	2.7
耳鼻咽喉科	41	39	631	20.4	43	52	511	17.0
放射線治療科	5	7	198	6.4	2	5	53	1.8
麻酔科	152	63	622	20.1	139	51	532	17.7
救急科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	8	13	84	2.7	11	6	110	3.7
合 計	1,035	1,089	13,697	441.8	982	988	12,647	421.6

科 別	10月 (診療日数 31日)				11月 (診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	272	299	4,554	146.9	305	346	4,829	161.0
(呼吸器内科)	42	65	1,110	35.8	56	58	1,179	39.3
(循環器内科)	64	64	869	28.0	74	87	889	29.6
(腎臓内科)	26	33	598	19.3	28	22	663	22.1
(糖尿病内科)	12	11	143	4.6	8	11	105	3.5
(消化器内科)	126	117	1,730	55.8	136	165	1,946	64.9
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	9	104	3.4	3	3	47	1.6
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	79	76	512	16.5	63	68	458	15.3
外 科	111	112	1,641	52.9	86	105	1,234	41.1
乳腺外科	16	15	76	2.5	13	16	66	2.2
整形外科	108	116	1,304	42.1	102	99	1,279	42.6
形成外科	3	4	10	0.3	3	3	25	0.8
脳神経外科	47	50	924	29.8	42	43	1,101	36.7
呼吸器外科	22	25	336	10.8	19	16	313	10.4
心臓・血管外科	17	29	724	23.4	18	19	677	22.6
皮膚科	19	21	242	7.8	14	15	188	6.3
泌尿器科	84	91	784	25.3	76	86	746	24.9
産婦人科	112	106	794	25.6	96	94	759	25.3
眼科	37	43	110	3.5	37	36	90	3.0
耳鼻咽喉科	45	47	444	14.3	33	35	351	11.7
放射線治療科	2	0	91	2.9	4	4	117	3.9
麻酔科	131	53	438	14.1	103	52	407	13.6
救急科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	6	11	94	3.0	9	7	71	2.4
合 計	1,111	1,098	13,078	421.9	1,023	1,044	12,711	423.7

資料

平成 25 年度 月別入院患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数31日)				1月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	256	342	4,697	151.5	218	229	4,618	149.0
(呼吸器内科)	32	66	958	30.9	38	50	946	30.5
(循環器内科)	62	74	803	25.9	57	48	861	27.8
(腎臓内科)	25	32	615	19.8	17	20	740	23.9
(糖尿病内科)	12	13	150	4.8	6	7	121	3.9
(消化器内科)	123	154	2,024	65.3	100	98	1,804	58.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	3	147	4.7	0	6	146	4.7
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	65	69	447	14.4	56	49	334	10.8
外 科	107	117	1,395	45.0	80	78	1,222	39.4
乳 腺 外 科	14	14	77	2.5	15	13	90	2.9
整 形 外 科	85	132	1,328	42.8	93	76	1,105	35.6
形 成 外 科	3	4	14	0.5	3	2	16	0.5
脳神経外科	46	54	1,138	36.7	53	52	1,304	42.1
呼吸器外科	19	25	375	12.1	22	19	345	11.1
心臓・血管外科	16	20	664	21.4	20	17	688	22.2
皮膚科	9	15	130	4.2	16	9	145	4.7
泌尿器科	68	79	618	19.9	69	59	631	20.4
産婦人科	100	105	978	31.5	85	81	818	26.4
眼 科	34	35	119	3.8	26	24	57	1.8
耳鼻咽喉科	27	38	348	11.2	45	35	419	13.5
放射線治療科	4	3	116	3.7	4	3	132	4.3
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	146	57	509	16.4	147	58	623	20.1
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	5	7	66	2.1	9	6	86	2.8
合 計	1,004	1,116	13,019	420.0	961	810	12,633	407.5

科 別	2月(診療日数28日)				3月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	258	301	4,288	153.1	247	291	4,689	151.3
(呼吸器内科)	44	59	946	33.8	53	64	1,194	38.5
(循環器内科)	63	72	890	31.8	64	67	962	31.0
(腎臓内科)	28	35	683	24.4	34	33	724	23.4
(糖尿病内科)	11	10	169	6.0	9	13	173	5.6
(消化器内科)	110	120	1,496	53.4	83	109	1,562	50.4
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	5	104	3.7	4	5	74	2.4
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	61	64	418	14.9	70	62	528	17.0
外 科	81	89	1,133	40.5	95	98	1,430	46.1
乳 腺 外 科	11	11	66	2.4	14	17	71	2.3
整 形 外 科	100	107	1,202	42.9	109	123	1,418	45.7
形 成 外 科	3	3	12	0.4	6	6	19	0.6
脳神経外科	46	50	1,195	42.7	61	78	1,475	47.6
呼吸器外科	23	18	432	15.4	18	28	421	13.6
心臓・血管外科	25	28	813	29.0	18	27	952	30.7
皮膚科	9	16	181	6.5	13	11	160	5.2
泌尿器科	75	70	774	27.6	93	91	909	29.3
産婦人科	83	89	763	27.3	92	87	824	26.6
眼 科	42	33	162	5.8	45	53	125	4.0
耳鼻咽喉科	27	33	380	13.6	42	39	462	14.9
放射線治療科	4	3	149	5.3	1	3	141	4.5
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	109	42	434	15.5	126	34	365	11.8
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	8	8	111	4.0	12	11	169	5.5
合 計	965	965	12,513	446.9	1,062	1,059	14,158	456.7

患者数の推移

年度別外来患者数

年 度	平成 22 年度 (診療日数 244 日)				平成 23 年度 (診療日数 244 日)				平成 24 年度 (診療日数 244 日)				平成 25 年度 (診療日数 243 日)			
科 別	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	65,594	7,724	73,318	300.5	52,920	7,513	60,433	247.7	59,736	7,752	67,488	276.6	61,915	7,617	69,532	286.1
精神科・心療内科	1,022	195	1,217	5.0	1,052	256	1,308	5.4	915	233	1,148	4.7	455	194	649	2.7
小 児 科	9,358	1,626	10,984	45.0	8,761	1,707	10,468	42.9	9,575	1,669	11,244	46.1	9,734	1,510	11,244	46.3
外科・乳腺外科	16,600	1,673	18,273	74.9	17,175	1,598	18,773	76.9	18,616	1,778	20,394	83.6	17,685	1,824	19,506	80.3
整 形 外 科	9,547	2,055	11,602	47.5	10,071	2,158	12,229	50.1	13,018	2,297	15,315	62.8	14,461	2,543	17,004	70.0
脳神経外科	13,058	1,975	15,033	61.6	14,645	2,109	16,754	68.7	15,369	2,061	17,430	71.4	17,531	2,113	19,644	80.8
呼吸器外科	2,227	242	2,469	10.1	2,523	222	2,745	11.3	2,589	326	2,915	11.9	2,514	378	2,892	11.9
心臓・血管外科	4,112	401	4,513	18.5	4,366	408	4,774	19.6	5,100	450	5,550	22.7	4,468	464	4,932	20.3
皮 膚 科	20,468	2,861	23,329	95.6	19,582	2,820	22,402	91.8	17,399	2,899	20,298	83.2	18,261	3,267	21,528	88.6
泌 尿 器 科	16,612	1,536	18,148	74.4	17,428	1,481	18,909	77.5	19,781	1,684	21,465	88.0	21,192	1,451	22,643	93.2
産 婦 人 科	12,991	1,845	14,836	60.8	12,300	1,583	13,883	56.9	11,833	1,562	13,395	54.9	12,667	1,584	14,251	58.6
眼 科	8,907	1,168	10,075	41.3	9,087	1,071	10,158	41.6	9,503	1,145	10,648	43.6	9,991	1,120	11,111	45.7
耳鼻咽喉科	8,429	2,607	11,036	45.2	8,777	2,652	11,429	46.8	9,169	2,700	11,869	48.6	8,675	2,632	11,307	46.5
放射線治療科	10,654	311	10,965	44.9	9,365	268	9,633	39.5	9,367	267	9,634	39.5	8,968	281	9,249	38.1
麻 酔 科	1,285	3,185	4,470	18.3	1,320	3,330	4,650	19.1	1,823	3,991	5,814	23.8	2,309	4,459	6,768	27.9
救 急 科													130	124	254	1.0
画像診断部	14,429	5,553	19,982	81.9	14,471	5,318	19,789	81.1	4,874	2,284	7,158	29.3	741	877	1,618	6.7
歯科口腔外科	3,019	1,666	4,685	19.2	4,360	1,641	6,001	24.6	4,535	1,681	6,216	25.5	5,353	1,785	7,138	29.4
形 成 外 科									779	250	1,029	4.2	1,346	292	1,638	6.7
計	218,312	36,623	254,935	1,044.8	208,203	36,135	244,338	1,001.4	213,981	35,029	249,010	1,020.5	218,396	34,515	252,911	1,040.8
栗谷診療所	949	16	965	4.0	915	23	938	3.8	866	23	889	3.6	714	17	731	3.0
合 計	219,261	36,639	255,900	1,048.8	209,118	36,158	245,276	1,005.2	214,847	35,052	249,899	1,024.2	219,110	34,532	253,642	1,043.8

資 料

年度別入院患者数

年 度	平成 22 年度 (診療日数 365 日)				平成 23 年度 (診療日数 365 日)				平成 24 年度 (診療日数 366 日)				平成 25 年度 (診療日数 365 日)			
科 別	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	3,527	3,465	54,391	149.0	3,493	3,562	53,293	145.6	3,258	3,577	52,978	144.7	3,104	3,639	55,182	151.2
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	888	880	5,708	15.6	915	913	5,854	16.0	867	872	5,688	15.5	852	855	5,680	15.6
外科・乳腺外科	1,366	1,428	20,458	56.0	1,299	1,390	20,334	55.6	1,313	1,400	20,638	56.4	1,292	1,380	18,467	50.6
整 形 外 科	998	1,023	15,243	41.8	1,012	1,063	15,598	42.6	1,159	1,230	16,895	46.2	1,196	1,276	15,424	42.3
形 成 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	45	47	245	0.7	45	44	312	0.9
脳神経外科	502	526	11,584	31.7	475	556	13,414	36.7	563	644	13,643	37.3	581	672	14,314	39.2
呼吸器外科	327	320	5,633	15.4	273	276	3,970	10.8	270	289	4,923	13.5	246	270	4,331	11.9
心臓・血管外科	309	331	9,894	27.1	317	337	8,721	23.8	336	362	8,430	23.0	260	294	8,986	24.6
皮 膚 科	182	187	2,101	5.8	199	208	2,319	6.3	162	173	2,236	6.1	188	194	2,461	6.7
泌 尿 器 科	723	726	5,947	16.3	808	833	6,558	17.9	872	917	7,912	21.6	882	918	8,433	23.1
産 婦 人 科	1,162	1,170	8,819	24.2	1,108	1,099	8,648	23.6	1,032	1,056	7,662	20.9	1,160	1,148	9,783	26.8
眼 科	450	446	1,340	3.7	481	485	1,326	3.6	480	481	1,256	3.4	441	439	1,198	3.3
耳鼻咽喉科	528	529	5,914	16.2	518	538	5,743	15.7	499	515	6,226	17.0	473	492	5,846	16.0
放射線治療科	72	82	2,164	5.9	54	60	1,410	3.9	70	72	1,926	5.3	54	54	1,553	4.3
麻 酔 科	304	220	2,578	7.1	988	633	6,371	17.4	1,293	557	4,472	12.2	1,381	613	5,389	14.8
救 急 科													235	76	799	2.2
画像診断部	3	3	28	0.1	3	3	30	0.1	1	1	8	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	111	109	1,730	4.7	101	105	1,333	3.6	105	103	1,377	3.8	100	99	1,261	3.5
合 計	11,452	11,445	153,532	420.6	12,044	12,061	154,922	423.3	12,325	12,296	156,515	428.8	12,490	12,463	159,419	436.8

平均在院日数

平成 25 年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科		15.6	15.2	15.8	16.0	16.6	16.0	14.8	14.6	15.8	20.3	15.1	16.8
小児科		6.3	6.1	7.5	6.5	6.3	6.3	6.6	7.0	6.7	6.4	6.7	8.0
外科		14.4	14.5	15.0	13.9	13.7	12.7	12.3	10.8	10.6	12.9	11.6	12.4
整形外科		14.0	11.4	14.0	12.7	12.9	12.8	11.5	12.8	12.5	13.7	11.7	12.3
形成外科		5.0	22.0	4.0	11.0	5.7	9.6	2.9	8.3	4.0	6.5	4.7	3.6
脳神経外科		22.6	24.1	22.1	19.3	22.7	18.8	19.4	25.5	22.9	25.2	24.5	21.0
産婦人科		8.2	9.3	11.0	9.3	10.8	9.2	8.2	9.1	11.1	12.1	10.3	10.2
皮膚科		12.3	11.5	12.6	10.8	13.9	16.4	11.8	12.9	10.8	11.6	15.4	13.4
泌尿器科		9.1	9.4	9.7	9.0	7.9	9.0	8.8	8.9	8.4	9.7	10.3	9.8
眼科		2.6	2.5	2.5	2.4	2.3	2.6	2.8	2.5	3.4	2.3	4.4	2.6
耳鼻咽喉科		11.6	10.3	11.6	9.5	12.5	9.7	9.7	10.3	10.8	10.5	12.7	11.4
歯科口腔外科		11.3	18.6	12.5	21.9	7.9	11.1	11.2	10.0	11.0	11.5	13.9	14.7
救急科・麻酔科		4.2	5.3	5.2	4.5	4.5	5.2	4.5	4.4	4.3	5.6	5.3	3.7
放射線治療科		16.0	10.6	25.8	35.6	33.2	8.0	91.0	29.3	33.1	43.3	34.6	70.5
画像診断部													
呼吸器外科		18.4	12.7	19.5	11.9	16.5	18.5	14.1	18.3	16.4	16.5	20.8	17.7
心臓血管外科		25.3	31.5	28.9	26.3	26.2	25.7	29.8	37.8	37.2	37.1	26.9	39.2
精神科・心療内科													
計		12.8	12.3	12.9	12.1	12.6	12.4	11.6	12.2	12.2	14.3	12.8	13.0

平成 25 年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	4 F	9.0	8.7	10.1	8.2	9.6	8.7	8.1	9.2	10.2	10.6	9.1	9.5
	5 F	13.3	11.9	13.9	12.9	12.9	12.2	11.5	13.0	12.2	12.8	11.9	12.1
	6 F	16.0	12.8	15.4	14.0	14.5	13.2	13.2	11.5	11.5	14.4	12.0	13.7
	7 F	14.7	17.8	16.5	14.0	14.9	12.7	13.5	13.2	14.8	18.1	12.6	15.0
	8 F	16.0	16.0	22.7	22.7	24.9	23.4	18.7	22.6	19.4	29.4	20.2	22.4
	3 F	15.4	11.1	17.2	15.0	12.7	19.7	13.5	11.6	15.2	12.5	21.0	21.7
救命		2.3	2.0	1.6	1.6	1.7	1.8	1.7	1.3	1.9	2.0	2.2	2.3
東 病 棟	3 F	15.3	15.4	13.3	13.6	13.9	16.2	16.9	14.1	14.6	19.9	15.7	17.6
	4 F	7.1	6.8	7.0	6.4	7.0	6.9	6.8	6.7	7.1	7.6	7.5	7.1
	5 F	22.4	22.5	20.2	18.0	19.3	17.6	16.9	21.4	19.4	26.1	24.3	22.9
	6 F	10.5	11.1	10.8	10.6	9.5	11.0	9.0	9.5	9.2	10.4	11.0	9.4
	7 F	14.8	14.5	17.7	13.9	17.1	17.9	14.9	15.4	18.7	18.4	17.0	17.4
8 F	29.3	22.4	19.0	24.7	20.8	19.0	18.8	25.6	19.9	35.3	22.7	20.5	
計		12.8	12.3	12.9	12.1	12.6	12.4	11.6	12.2	12.2	14.3	12.8	13.0

資料

地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

平成 25 年度
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	84.2%
5月	89.5%
6月	85.2%
7月	88.3%
8月	83.5%
9月	89.4%
10月	85.0%
11月	88.1%
12月	89.1%
1月	86.3%
2月	82.9%
3月	87.3%
合 計	86.6%

平成 25 年度
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

月別	逆紹介率
4月	63.9%
5月	56.8%
6月	58.2%
7月	58.8%
8月	54.9%
9月	57.7%
10月	59.8%
11月	59.9%
12月	61.1%
1月	50.3%
2月	62.0%
3月	64.9%
合 計	59.0%

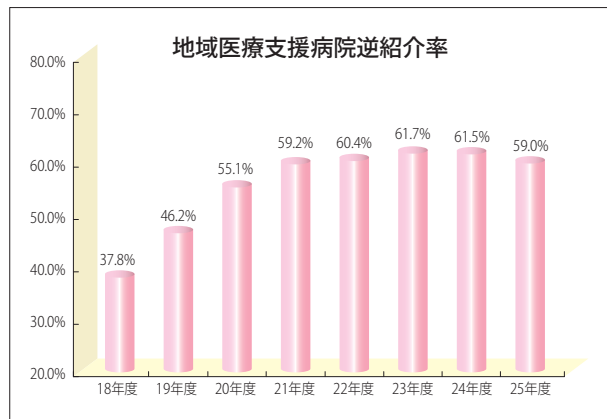
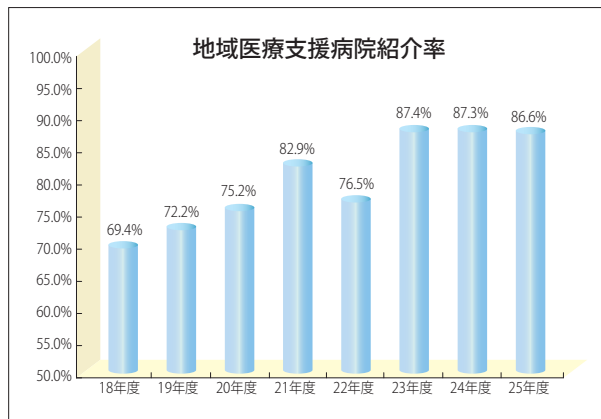
平成 25 年度
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科別	紹介率
内 科	95.5%
小 児 科	82.9%
外 科	95.3%
整 形 外 科	114.8%
脳 神 経 外 科	105.9%
産 婦 人 科	90.3%
皮 膚 科	78.1%
泌 尿 器 科	78.8%
眼 科	77.2%
耳 鼻 咽 喉 科	69.8%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	43.9%
麻 酔 科	80.1%
放 射 線 治 療 科	103.8%
画 像 診 断 部	100.6%
心 臓 ・ 血 管 外 科	109.7%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	129.2%
形 成 外 科	57.8%
合 計	86.6%

平成 25 年度
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

科別	逆紹介率
内 科	99.0%
小 児 科	9.1%
外 科	42.6%
整 形 外 科	100.2%
脳 神 経 外 科	81.2%
産 婦 人 科	22.3%
皮 膚 科	13.4%
泌 尿 器 科	25.2%
眼 科	67.8%
耳 鼻 咽 喉 科	11.1%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	63.5%
麻 酔 科	30.7%
放 射 線 治 療 科	45.3%
画 像 診 断 部	123.2%
心 臓 ・ 血 管 外 科	37.2%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	63.1%
形 成 外 科	17.4%
合 計	59.0%

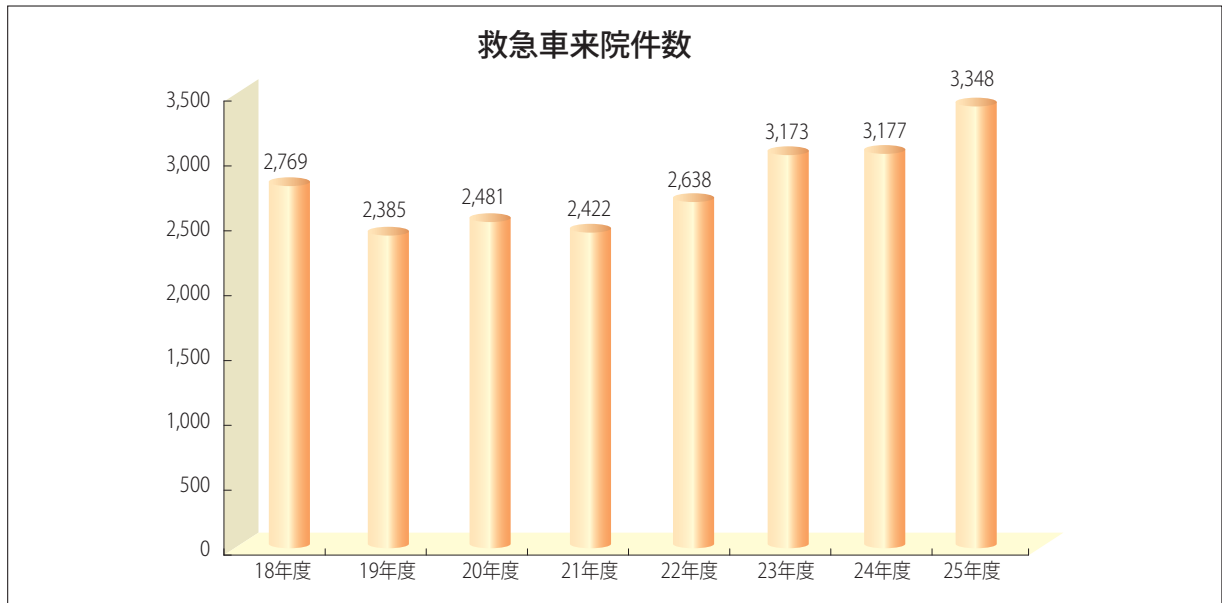
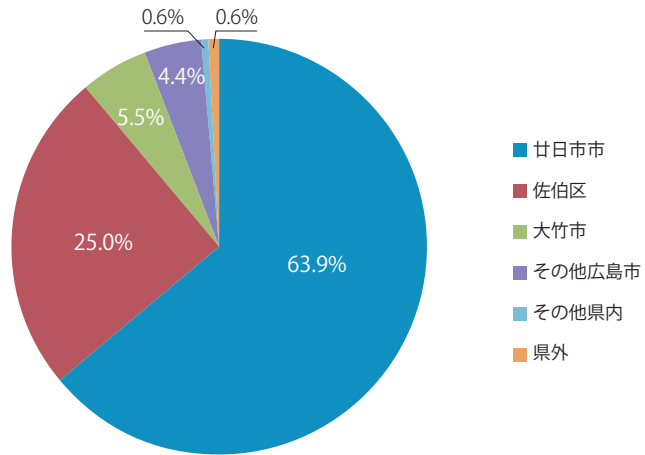
資 料



救急車来院件数

平成 25 年度
救急車来院件数 (管轄別)

平成 25 年度	
廿日市市	2,141
佐伯区	836
大竹市	183
その他広島市	148
その他県内	21
県外	19
合計	3,348



資料

医療行為統計表

平成 25 年度 医療行為統計表

【手術件数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
内 科	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
小 児 科	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
精神科心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	92	81	83	106	87	95	106	92	96	83	84	92	1,097
整形 外科	96	107	109	139	93	97	126	107	117	99	105	122	1,317
形成 外科	11	11	10	11	9	12	11	10	8	7	7	13	120
脳神経外科	14	12	17	18	11	7	12	7	7	17	12	16	150
産婦人科	36	45	47	41	47	35	47	45	45	40	38	39	505
眼 科	43	41	47	50	38	44	49	48	38	37	49	64	548
耳鼻咽喉科	22	16	16	16	21	23	23	15	18	15	12	19	216
皮膚科	20	24	22	33	26	23	26	25	19	30	22	20	290
泌尿器科	28	28	31	39	26	29	32	28	27	28	28	40	364
歯科口腔外科	7	3	7	8	8	8	4	7	8	6	4	7	77
救急科・麻酔科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	34	27	33	28	25	34	35	28	26	27	37	42	376
呼吸器外科	11	9	8	16	14	14	16	8	12	14	15	12	149
計	415	406	430	505	405	421	488	421	421	403	414	486	5,215
手術（外来件数）（再掲）	37	42	45	56	33	49	55	43	35	58	53	68	574
（ 口 腔 外 科 ）	(38)	(45)	(35)	(43)	(40)	(43)	(45)	(42)	(36)	38	(39)	(40)	(484)
アンギオ室手術	8	2	4	4	2	3	(3)	(5)	(3)	(3)	(4)	(1)	42
内視鏡下手術（VPP）	62	52	62	87	68	66	80	65	76	82	73	68	841
全身麻酔件数	291	254	277	319	270	273	302	264	266	245	253	263	3,277

【放射線業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一 般 撮 影	4,801	4,767	4,675	5,261	4,796	4,620	4,846	4,321	4,457	4,872	3,650	3,741	54,807
パ ン ト モ	125	115	103	122	121	105	121	103	85	107	40	115	1,262
骨 密 度 測 定	32	51	69	63	48	87	73	69	55	41	50	66	704
造 影 透 視 撮 影	211	262	262	256	206	189	244	234	196	129	183	120	2,492
上 部 消 化 管	142	150	168	196	174	161	172	162	129	25	55	59	1,593
注 腸	8	11	6	7	5	5	5	7	14	8	3	3	82
血 管 連 続 撮 影	24	16	21	25	16	16	18	19	12	10	20	17	214
心臓血管連続撮影	58	61	64	72	64	69	58	74	63	30	66	51	730
C T 各 科	578	574	559	657	595	531	642	547	601	677	1,458	1,516	8,935
C T 画 診	985	994	993	1,057	900	924	1,118	959	987	793	35	48	9,793
M R I	581	562	546	612	574	506	610	543	531	547	543	582	6,737
R I	96	82	87	93	78	82	94	86	72	67	83	146	1,066
リニアック（件数）	644	457	570	591	558	539	658	573	424	310	559	553	6,436
リニアック（門数）	2,735	1,852	2,497	2,186	2,125	1,902	2,304	2,030	1,731	919	2,037	2,148	24,466

【検査業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
心 電 図 検 査	2,126	2,118	2,096	2,293	2,106	2,028	2,190	2,082	1,967	1,715	1,716	1,687	24,124
ト レ ッ ド ミ ル	0	5	5	6	3	2	4	7	4	4	0	3	43
ホ ル タ ー 型	37	39	37	26	19	25	22	22	26	17	12	24	306
心 臓 エ コ ー	589	586	600	633	579	556	583	602	557	398	425	469	6,577
脳 電 波	50	32	43	53	67	43	46	31	68	34	39	54	560
肺 機 能 検 査	301	322	364	415	343	346	359	396	327	261	240	312	3,986
神 経 伝 達 速 度、電 流 知 覚 閾 値 測 定	215	184	162	152	176	153	200	165	176	140	152	179	2,054
重 心 動 揺 検 査	23	21	25	15	19	8	21	23	20	10	21	20	226
サ ー モ グ ラ フ ィ ー 検 査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脈 波 図・心 電 図・ポ リ グ ラ フ 検 査	251	216	233	247	257	231	251	211	198	153	249	239	2,736
体 液 量 測 定	211	182	160	150	173	154	199	156	179	140	133	170	2,007
病 理 組 織 検 査	1,126	1,104	1,182	1,246	1,063	1,111	1,308	1,187	1,157	997	1,078	1,093	13,652
解 剖 件 数	0	1	1	2	0	1	1	0	0	0	0	1	7

【薬剤業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
外 来	処 方 箋 枚 数	10,548	10,924	9,983	10,780	10,469	9,992	11,251	9,995	10,617	9,288	9,373	10,222	123,442
	剤 数 (件数)	32,121	32,743	30,179	31,826	31,519	29,831	34,180	30,341	32,944	27,434	27,658	30,254	371,030
	延 べ 剤 数	971,298	939,332	904,567	975,605	939,685	887,684	1,020,629	917,543	1,083,643	779,213	798,021	896,600	11,113,820
入 院	処 方 箋 枚 数	7,914	8,680	7,351	8,528	8,096	7,274	7,717	7,388	7,383	5,211	4,234	4,645	84,421
	剤 数 (件数)	14,645	16,714	13,876	15,851	15,156	13,654	14,037	13,997	13,429	10,221	8,927	10,043	160,550
	延 べ 剤 数	90,767	99,688	80,255	95,078	89,223	81,125	81,756	93,037	88,478	58,345	54,917	65,247	977,916
服 薬 指 導 件 数	1,090	1,168	1,053	1,223	1,084	979	1,045	986	880	674	817	857	11,856	

資 料

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	99	101	91	107	90	88	96	89	101	75	85	70	1,092
分娩	38	52	54	52	62	29	56	47	44	35	50	47	566
その他分娩	2	0	1	2	0	0	2	0	1	0	0	1	9
腎尿管結石破碎	7	11	12	16	19	7	13	10	4	3	7	6	115
化学療法件数(外来)	380	396	351	358	347	329	367	320	335	327	311	314	4,135
化学療法件数(入院)	218	189	155	170	150	150	123	138	140	141	141	148	1,863
(超音波内訳)													
内科	217	247	245	229	205	171	244	239	233	178	230	223	2,661
小児科	3	6	13	5	8	3	11	7	3	5	9	10	83
精神診療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	190	213	247	240	204	247	255	241	260	223	207	242	2,769
整形外科	0	1	2	1	0	0	0	0	1	18	13	14	50
脳神経外科	3	3	3	2	0	1	2	0	2	13	6	12	47
産婦人科	257	265	294	317	291	312	293	295	328	257	258	296	3,463
眼科	0	0	1	3	1	0	0	0	1	7	3	0	16
耳鼻咽喉科	29	22	30	31	27	23	22	25	27	29	35	43	343
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	5
泌尿器科	208	212	215	237	216	243	234	189	189	149	192	220	2,504
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
救急科・麻酔科	66	79	91	105	103	76	75	59	95	124	96	103	1,072
放射線治療科	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	8	2	1	2	0	1	2	0	0	12	16	13	57
呼吸器外科	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	1	2	8
健康管理課	162	223	216	279	254	233	281	261	226	204	236	158	2,733
超音波診断計	1,144	1,274	1,359	1,451	1,309	1,311	1,421	1,318	1,365	1,219	1,304	1,339	15,814

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	269	240	264	255	231	230	266	246	248	217	186	224	2,876
胃ファイバー検査 ドック	120	150	147	179	172	159	165	181	164	176	191	131	1,935
気管支ファイバー検査	7	8	6	11	7	5	6	9	3	3	8	11	84
大腸ファイバー検査	127	90	109	125	102	104	141	124	131	109	123	106	1,391
上部止血(消化管止血術)	11	11	7	13	13	14	12	17	11	9	2	8	128
EVL(食道静脈瘤血紮術)	6	1	2	1	3	3	3	3	5	1	0	0	28
PEG(胃瘻造設術)	6	3	10	4	7	8	4	5	9	6	7	5	74
上部EMR(粘膜切除)、ESD	1	5	8	8	9	7	7	10	6	6	1	1	69
下部ポリーブク(ポリーブク切除)	26	22	26	25	20	21	34	32	35	19	11	20	291
下部EMR(粘膜切除)	39	27	20	35	24	33	36	42	30	25	26	27	364
ERCP(膵胆管造影)、ERBD	26	39	38	29	29	30	24	28	32	14	23	17	329
EST(乳頭切開術)	20	16	23	15	17	10	11	12	13	7	12	8	164

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等(器具)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動リハビリテーション	355	376	398	414	334	281	401	339	718	357	417	493	4,883
脳血管疾患患 リハビリテーション	2,314	2,535	2,182	2,318	2,416	2,313	2,341	2,698	2,386	2,679	2,607	2,538	29,327
呼吸器疾患患 リハビリテーション	26	16	12	18	31	18	26	26	38	30	23	119	383
疾患対象外 心大血管疾患 患リハビリテーション	157	188	177	210	153	148	145	153	109	93	126	185	1,844
心大血管疾患 患リハビリテーション	371	363	272	336	330	343	378	362	295	316	311	398	4,075
A D L 加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早期リハ加算	2,308	2,361	1,887	2,233	2,179	2,202	2,291	2,522	2,271	2,171	2,370	2,510	27,305
リハビリテーション 総合実施計画書	34	46	32	44	25	28	22	26	33	22	19	29	360
退院時リハビリ指導	63	81	57	81	61	83	52	61	69	35	48	61	752

【給食業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食	5,089	5,398	4,710	6,004	6,022	4,606	5,308	5,070	5,004	5,636	6,170	5,715	64,732
全粥	12,518	12,098	12,399	13,826	12,527	12,228	12,598	12,573	11,263	8,334	8,032	9,133	137,529
五分	361	389	213	269	295	253	214	318	302	224	295	329	3,462
三分	282	330	220	330	310	176	272	224	218	133	228	130	2,853
重湯	583	469	427	516	511	354	269	361	468	136	291	461	4,846
特別食	15,294	15,388	15,317	14,867	14,040	14,161	14,088	13,506	15,533	18,500	17,913	21,341	189,948
計	34,127	34,072	33,286	35,812	33,705	31,778	32,749	32,052	32,788	32,963	32,929	37,109	403,370

【栄養指導業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導	184	168	184	200	202	166	209	185	157	150	186	187	2,178
入院栄養指導	61	55	55	59	62	50	56	55	57	38	54	68	670
集団栄養指導	11	8	15	16	4	15	16	11	8	10	16	14	144

医師科別人員／職員数の推移

平成 25 年度 医師科別人員

部署名	平成 25 年 4 月	備考
内科	呼吸器内科	4
	腎臓内科	4
	糖尿病代謝内科	4
	消化器内科	9
	循環器内科	7
合計	28	
小児科	5	常勤 4、非常勤 1
外科	13	
整形外科	7	
脳神経外科	4	
心臓血管外科	3	
産婦人科	6	
眼科	2	
耳鼻科	3	
皮膚科	4	常勤 3、非常勤 1
泌尿器科	3	
歯科	2	
放射線治療科	2	
画像診断部	2	
麻酔科	7	
救急・集中治療科	5	
精神科	0	
形成外科	1	
呼吸器外科	2	
健康管理課	1	
臨床研究検査科	1	非常勤
病理研究検査科	1	
臨床専門研修医	0	
臨床研修医 2 年次	9	
臨床研修医 1 年次	11	
合計	122	

職員数の推移

区 分	H24 年 4 月	H25 年 4 月
医師	98	100
歯科医師	3	2
臨床研修医	17	20
専修医	—	—
医師部門計	118	122
助産師	30	30
保健師	95	103
看護師	417	431
准看護師	7	7
看護部門計	549	571
薬剤師	29	32
放射線技師	26	26
臨床検査技師	40	43
臨床工学技士	11	13
理学療法士	11	11
マッサージ師	—	—
作業療法士	3	3
管理栄養士	10	11
歯科衛生士	2	2
歯科技工士	—	—
視能訓練士	3	3
言語聴覚士	3	3
臨床心理士	—	—
社会福祉士	4	4
介護福祉士	—	—
医療技術部門計	142	151
事務	47	47
事務部門計	47	47
ボイラ技師	2	2
電気技師	1	1
運転手	—	—
調理師	—	—
保清員	1	1
保育士	—	—
看護助手	2	32
介護員	—	—
技術助手	2	4
労務部門計	8	40
出 向	—	—
合計	864	931

学会施設認定

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度関連施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」
日本がん治療認定医機構認定研修施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設画像認定
日本高血圧学会専門医認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
日本呼吸学会教育関連病院
優良二日ドック施設
腹部ステントグラフト実施施設
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技術専門医修練施設B
日本消化器外科学会専門医修練施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設

資
料

編集後記

2013 年度の JA 広島総合病院 “Annual Report” が完成いたしましたのでお届けいたします。今回は従来の項目に加えて、裏方的存在ながら非常に重要な役割を担っている事務系部門の活動も加えました。普段気付くことの無い病院の一面が見られるのではと思います。

2013 年度は日銀の量的・質的金融緩和で幕を開け、デフレ脱却を合い言葉にして円安・株高が進み物価は上昇傾向に転じ雇用の数字も改善しました。消費税率上昇前の駆け込み需要と合わせて数字上は経済が好転し何となくではありますが街に活気が出た様を感じた年でした。2020 年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決定したことは久々の大きな良いニュースでしたし、三浦雄一郎さんの史上最高齢の 80 歳でエベレスト登頂に成功に大きな感動を覚えました。日本で最も有名で親しまれている富士山が「世界遺産」に登録され、富士登山をされる方が増える一方で維持管理費の問題も提起されました。スポーツ界に目を転じると、東北楽天ゴールデンイーグルスの初の日本一と田中将大投手の開幕 24 連勝は、東北大震災の傷がまだ癒えきっていない東北の方々にとって大きな励ましとなったと思います。イチロー選手の日米 4,000 本安打やバレンティン選手の本塁打 60 本の日本記録更新も大きな話題となりました。またソチオリンピックではフィギュアスケート男子の羽生結弦が金メダルを、スキージャンプ男子個人ラージヒルで 41 歳 254 日の葛西紀明が銀メダルを獲得しましたが、期待された浅田真央は残念な結果でした。宮崎駿氏の長編アニメからの引退、やなせたかし氏・川上哲治氏・島倉千代子さんの死去は一つの時代の終わりを感じさせました。医学界においても降圧薬に関する治験データに関する不正疑惑や、華々しく登場しながら結果として存在しなかった「STAP 細胞」など日本の研究データの信頼性を損なう出来事も多くありました。日々の地道な積み重ねが最も大切なことであると改めて考えさせられた気がします。我々も日々の地道な診療活動の継続を心にしたいと思います。

本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2015 年 3 月
年報編集委員長
辻山 修司

年報編集委員会

小林 平	坂尻 明美	高畑 明	砂田 朋子
佐藤 澄香	小松 浩基	上田 雅美	荒田 晋二
山根 保博	筒井 徹	飯田美智子	

JA広島総合病院 年報 2013年度

平成 27 年 3 月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院

広島県廿日市市地御前 1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープ rintメディア



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital

